

## 序

沖縄県立博物館・美術館は、2007年11月の開館以来、早くも5カ年を過ごしてきました。この間、年間利用者は45万～46万を維持し、まずまずの運営状況にあると考えています。2012（平成24）年2月には入館者200万人を達成いたしました。これもひとえに県民の皆様をはじめとする県内外関係各位のご協力と支援の賜物と感謝しております。

本報においては、2011（平成23）年度の活動と事業内容をご報告いたします。

通常より博物館では「海と島に生きる」をメインテーマに、沖縄の「海洋性」、「島嶼性」といった特徴の中で育まれてきた個性豊かな自然や歴史、文化を中心とした体系的な常設展示を行っています。

また、美術館では沖縄及び沖縄県にゆかりのある作家の近現代美術作品を中心として、日本及びアジア諸国、アメリカの現代美術作品のコレクション展示を行っています。

2011年度は博物館特別展として「宇宙～遙かなるロマンを求めて～」、企画展として「琉球と袋中上人－エイサーの起源をたどる－」、「新収蔵品展」、「大嶺薫コレクション展」を開催し、さらに共同企画展として沖縄県無形文化財工芸技術保持団体協議会設立10周年「工芸王国－受けつがれる琉球のわざと美」および第19回全国重要無形文化財保持団体秀作展「日本の伝統美と技の世界」の二つの展示会を同時開催いたしました。

美術館では企画展「東松照明と沖縄 太陽へのラブレター展」、「玉那覇正吉－彫刻と絵画の軌跡」を開催し、指定管理者主催の展示会として「國吉清尚－土と炎に生きた魂の軌跡」、「生誕100年記念 岡本太郎と沖縄－ここが世界の中心だ」、「印象派の誕生－フランス19世紀絵画の流れ」が開催され、外部団体主催を含めると年間に13本の展示会が開催されました。

その他にも教育普及活動として各種講座や体験学習教室、展示解説会をはじめとする様々な取り組みを行ってまいりました。宮古島市中央公民館と宮古島市総合博物館で行われた移動展では3日間の開催期間中に延べ6,231人余の入場者を集め、宮古地域の皆様に当館の資料をご覧いただきました。このような活動は、本県の特徴ある自然、歴史、文化、芸術等を県内外に発信するとともに、教育、学術、文化、生活福祉等の向上に資するものとして大きな役割を担っています。

博物館・美術館の活動には本県に関わりのある資料の収集や保管、展示、教育普及および調査研究があり、それらを集約した沖縄県立博物館・美術館は「県民の知的共有財産」であります。県民の皆様が楽しみながら学習することによって自らの来歴に自信と誇りを持ち、主体的に生きていく意識形成の拠点になりうるものと考えています。これからも現状に甘んじることなく常に進化する博物館・美術館を目指して職員一同微力を投入していこうと決意を新たにしています。

今後ともより一層のご指導ご支援を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

2013年（平成25）3月

沖縄県立博物館・美術館  
職務代理者  
副館長 千木良 芳範

# 目 次 (案)

## 序

概要	1
----	---

- I 沿革
- II 日誌抄
- III 施設・設備
- IV 組織
- V 沖縄県立博物館・美術館協議会
- VI 予算
- VII 収蔵資料現在高

利用統計	19
------	----

- I 入館者統計
  - 1. 総入館者集計
  - 2. 団体別入館者月別集計
  - 3. 展覧会別入館者集計
  - 4. 2011年度月間入館者数
  - 5. 年間入館者数の年次推移
  - 6. 減免申請集計
  - 7. 団体入館内訳
- II 施設利用者統計
  - 1. 月別施設利用集計
  - 2. 施設貸出内訳

博物館	43
-----	----

- I 調査研究等の活動
  - 1. 調査研究の概要
  - 2. 博物館総合調査－竹富島総合調査－
  - 3. 博物館共同研究事業－人類学調査－
  - 4. 調査・研究・講演・著作論文等
  - 5. 職員研修
- II 展示活動
  - 1. 展示活動概要
  - 2. 常設展
  - 3. 常設展展示替え
  - 4. 特別展「宇宙～遙かなるロマンを求めて～」
  - 5. 企画展「大嶺薫コレクション展」
  - 6. 企画展「新収蔵品展－平成22年度新収蔵品展－」
  - 7. 企画展「第19回全国重要無形文化財保持団体秀作展 日本の伝統美と技の世界」
  - 8. 企画展「沖縄県無形文化財工芸技術保持団体協議会設立10周年 工芸王国－受けつがれる琉球のわざと美」
  - 9. 企画展「琉球と袋中上人－エイサーの起源をたどる－」
- III 教育普及活動
  - 1. 博物館教育普及活動の概要
  - 2. 学校連携事業
  - 3. 博物館体験学習教室
  - 4. 博物館文化講座
  - 5. 学芸員講座
  - 6. 展示解説会
  - 7. バックヤード・ツアー
  - 8. 夏休み！博物館学芸員教室
  - 9. 博物館ボランティア活動
  - 10. ふれあい体験室
  - 11. 企画展関連事業
  - 12. 常設展に関する取り組み
  - 13. 沖縄県立博物館・美術館のフリーパス
  - 14. 職場研修受入
  - 15. 職場体験受入
  - 16. 普及資料の貸出
- IV 資料収集・保存管理
  - 1. 収蔵資料現在高
  - 2. 2011（平成23）年度新収蔵資料高
  - 3. 2011（平成23）年度新収蔵資料目録
  - 4. 所蔵指定文化財
  - 5. 修理事業
  - 6. 資料収集事業
  - 7. 資料貸出
  - 8. 写真貸出

美術館	95
-----	----

- I 調査研究等の活動
  - 1. 調査研究の概要
  - 2. 調査・研究・講演・著作論文等
- II 展示活動
  - 1. 展示活動概要
  - 2. コレクション展（常設展）
  - 3. 企画展1「東松照明と沖縄 太陽へのラブレター展」
  - 4. 企画展2「沖縄の美術シリーズ3 沖縄近代彫刻の礎 玉那覇正吉－彫刻と絵画の軌跡－」
- III 教育普及活動
  - 1. 美術館教育普及活動の概要
  - 2. 鑑賞活動支援
  - 3. バックヤード・ツアー
  - 4. 美術講座
  - 5. コレクション・企画展関連シンポジウム

- 6. ワークショップ
  - 7. 図工・美術担当教職員講座
  - 8. アウトリーチ（移動美術館）
  - 9. 移動展
  - 10. 美術館監視ボランティア／鑑賞ボランティア対象事前展示説明会
  - 11. 研修対応
- IV 資料収集・保存管理
- 1. 収蔵作品現在高
  - 2. 2011（平成23）年度新収蔵作品高
  - 3. 2011（平成23）年度新収蔵作品目録
  - 4. 作品収集事業
  - 5. 保存管理事業
  - 6. 作品貸出

文化の杜共同企業体（指定管理者） ..... 125

- I 文化の杜共同企業体概要
- II 運営方針
- III 組織
- IV 文化の杜共同企業体・美術館企画アドバイザー会議
- V 展示活動
  - 1. 展示活動概要（美術館企画展）
    - (1) 「國吉清尚一土と炎に生きた魂の軌跡」
    - (2) 生誕100年記念展「岡本太郎と沖縄—ここが世界の中心だ」
    - (3) 「印象派の誕生—フランス19世紀絵画の流れ」
- VI 教育・イベント活動
  - 1. ワークショップ・観察会等
  - 2. 展示会
  - 3. しまくとぅばプロジェクト
  - 4. その他
- VII 広報・交流事業活動
  - 1. 広報事業
  - 2. 地域イベントへの参加
- VIII 調査研究等の活動
  - 1. 調査・研究等
- IX その他
  - 1. 職員研修
  - 2. スタッフ研修
  - 3. 企画展・特別展研修
  - 4. 消防訓練等
  - 5. 職場体験の受け入れ
  - 6. 視察等（設備）の受け入れ

全館共同事業 ..... 151

- I 学芸員実習
  - 1. 博物館実習
  - 2. 美術館実習
- II 国際博物館の日
- III 移動展
- IV 燻蒸・消毒処理
- V 刊行物
- VI 展覧会一覧

その他の活動 ..... 159

- I 沖縄県博物館協会
- II 全国組織との関わり
  - 1. 日本博物館協会
  - 2. 全国科学博物館協議会
  - 3. 九州博物館協議会
  - 4. 美術館連絡協議会
- III 沖縄博物館友の会
- IV happ（美術館友の会）

関係法規抄録 ..... 165

- 博物館法
- 博物館法施行令
- 博物館法施行規則
- 博物館の登録に関する規則
- 沖縄県立教育機関組織規則
- 沖縄県立博物館・美術館の設置及び管理に関する条例
- 沖縄県立博物館・美術館管理規則
- 沖縄県立博物館・美術館館長職務規程
- 博物館・美術館学芸業務嘱託員設置規程
- 博物館・美術館教育普及業務嘱託員設置規程
- 美術品調査嘱託員設置規程
- 美術品保存修復嘱託員設置規程
- 沖縄県立博物館保管資料の利用に関する取り扱い要領



# 概 要

- I 沿革
- II 日誌抄
- III 施設・設備
- IV 組織
- V 沖縄県立博物館・美術館協議会
- VI 予算
- VII 収蔵資料現在高

# I. 沿革

## 【前史】

1936年(昭和11)沖縄県教育会附設として旧首里城北殿を利用して『郷土博物館』が創設されたが、沖縄戦により全焼した。終戦直後の1945年(昭和20)8月、米国海軍軍政府は石川市(現うるま市)東恩納の地に『沖縄陳列館』を設立した。また、有志により首里城周辺の廃墟の中から残欠文化財の収集が行われ、1946年(昭和21)3月頃、首里の汀良に『首里市立郷土博物館』が設立された。

## 【創設】

1946年(昭和21)4月24日、沖縄陳列館は沖縄民政府に移管され、『東恩納博物館』と改称して、新発足した。これが当館の創立にあたる。

## 【発展】

1953年(昭和28)東恩納博物館と首里の博物館が合併、1955年(昭和30)には『琉球政府立博物館』に改称した。また、1966年(昭和41)には首里大中町の旧中城御殿跡に新館を建設して移転した。1972年(昭和47)の日本への復帰に伴い名称を『沖縄県立博物館』と改め、1973年(昭和48)に2階を増築し展示スペースを拡充した。

1980年代末(昭和60年代)頃から建物の老朽化が顕著になり、新館建設・移転が具体的に計画される。2004年(平成16)に那覇市新都心に新館の建設を着工。首里在の博物館は、新館への移転準備のため2006年4月1日より休館。2007年(平成19)11月1日に那覇新都心(おもろまち)に美術館を併設した『沖縄県立博物館・美術館』として開館した。

## 【あゆみ】

- |            |     |   |
|------------|-----|---|
| 1946(昭和21) | 4月  | 沖縄陳列館を「東恩納博物館」と改称し、沖縄民政府の所管となる。(4月24日)  |
| 1947(昭和22) | 12月 | 前年3月に首里汀良町に設立された首里市立郷土博物館も同民政府に移管し「沖縄民政府立首里博物館」に改称する。                                 |
| 1953(昭和28) | 3月  | 東恩納博物館を首里博物館に移転合併する。  |
|            | 5月  | 首里博物館は汀良町から当蔵町に移り、龍潭池畔に瓦葺の本館が完成した。<br>米国民政府によりペルリ来琉百周年記念事業の一環として、ペルリ記念館を附設して落成、贈呈される。 |
| 1955(昭和30) | 9月  | 「首里博物館」の名称を「琉球政府立博物館」に改称する。   |
| 1965(昭和40) | 9月  | 大中町の旧尚家屋敷跡(中城御殿)を購入する。  |
| 1966(昭和41) | 10月 | クリート建の新館を新敷地に建設し移転する。   |
|            | 11月 | 開館する。   |
| 1972(昭和47) | 2月  | サントリイ美術館との共催で、『50年前の沖縄』写真展開催  |
|            | 5月  | 日本への復帰に伴い「沖縄県立博物館」に改称する。  |
| 1973(昭和48) | 2月  | 国庫補助により2階を増築し、展示室を3室増設する。   |
| 1976(昭和51) | 4月  | 創立30周年記念式典を行う。  |
|            | 12月 | 『博物館30年の歩み展』開催  |
| 1979(昭和54) | 6月  | 特別展『沖縄の洞穴と洞穴生物』開催   |
| 1980(昭和55) | 1月  | 特別展『日本の美-救世熱海美術館名品展-』及び『沖縄県立博物館名品展』開催   |
|            | 2月  | 「移動博物館」を久米島の具志川・仲里両村で開催する。以後、離島市町村で毎年実施する(2008年度からは「移動展」に改称)。                         |
|            | 8月  | 特別展『琉球のシダ植物』開催  |
|            | 11月 | 特別展『失われた生物たち-大恐竜展-』開催   |
| 1981(昭和56) | 3月  | 博物館法に基づき『登録博物館』として登録される。(3月30日付け)   |
|            | 10月 | 特別展『沖縄の美-日本民芸館蔵-』及び『戦前の沖縄写真展』開催   |
| 1982(昭和57) | 5月  | 新たに常設展として自然部門を設置  |
|            | 7月  | 企画展『沖縄の昆虫』開催  |
|            | 10月 | 特別展『熊本県・沖縄県交流展-熊本の歴史と文化-』開催   |
| 1983(昭和58) | 5月  | 企画展『琉球の漆工芸』開催   |
|            | 11月 | 特別展『沖縄県・熊本県交流展-沖縄の美風土と美術工芸-』を熊本県立美術館にて開催  |
| 1984(昭和59) | 6月  | 企画展『玉城朝薫生誕三百年記念展-琉球芸能の世紀-』開催  |
|            | 7月  | 企画展『沖縄のシダ・貝・昆虫標本展』開催  |
|            | 10月 | 企画展『今帰仁グスク展』開催  |
| 1985(昭和60) | 2月  | 企画展『紅型衣装と型紙展』開催   |
|            | 11月 | 特別展『グスク-グスクが語る古代琉球の歴史とロマン-』開催   |
| 1986(昭和61) | 2月  | 特別展『大嶺薫コレクション-美術工芸の美を求めて-』開催  |

- 1987 (昭和 62) 10 月 スポーツ芸術・特別展『沖縄の自然・歴史・文化』『沖縄近代の絵画―物故作家―』開催  
12 月 企画展『田名家収蔵品展―ある首里士族の 400 年―』開催  
企画展『現代沖縄の陶芸―天野鉄夫コレクション―』開催
- 1988 (昭和 63) 8 月 特別展『ヤンバルの自然』開催  
11 月 特別展『三線名器 100 挺展』開催
- 1989 (平成元) 11 月 特別展『インドネシア更紗展』開催  
12 月 企画展 真境名由康生誕 100 年記念『芸能資料展』開催
- 1990 (平成 2) 1 月 特別展『大アンデス文明展』開催  
8 月 企画展『沖縄の野鳥展』開催  
11 月 企画展『沖縄の祭り』開催
- 1991 (平成 3) 2 月 企画展『技と美―大城志津子の世界―』開催  
8 月 企画展『沖縄のチョウ展』開催  
9 月 企画展『壺屋陶工遺作展』開催  
10 月 特別展『アジアの祭りと芸能』開催
- 1992 (平成 4) 2 月 企画展『琉球の香り・あわもりの歴史と文化』開催  
6 月 特別展『古代メキシコ至宝展』開催  
8 月 特別展『沖縄の貝類展』開催  
10 月 復帰 20 周年記念特別展『琉球王国展』開催
- 1993 (平成 5) 1 月 特別展『尚家継承琉球王朝文化遺産展』開催  
2 月 企画展『謝花雲石展』開催  
7 月 企画展『芭蕉布と平良敏子』開催  
8 月 特別展『沖縄の川と生きもの』開催  
11 月 企画展『刻まれた歴史―沖縄の石碑と拓本―』開催
- 1994 (平成 6) 7 月 特別展『子どもの世界』開催
- 1995 (平成 7) 6 月 戦後 50 周年記念特別展『甦る沖縄・戦災文化財と戦後生活資料展』開催
- 1996 (平成 8) 7 月 特別展『大久米島展』開催  
12 月 企画展『沖縄県立博物館 50 年の歩み』開催、創立 50 周年式典を行う。
- 1997 (平成 9) 4 月 特別展『アルゼンチンの大恐竜展』開催
- 1998 (平成 10) 7 月 企画展『琉球王国時代の植物標本展』開催  
11 月 特別展『包むところ ふろしき展』開催
- 1999 (平成 11) 8 月 特別展『三線のひろがりと可能性展』開催  
10 月 企画展『日本の技―伝統のかたち―』開催  
(第 7 回全国重要無形文化財保持団体秀作展『日本の伝統美と技の世界』巡回展)
- 2000 (平成 12) 2 月 企画展『工芸王国―きらめく手わざの世界を沖縄から―』開催  
7 月 特別展サミット開催記念『大琉球展』開催  
11 月 特別展ハワイ移民 100 周年記念『日系移民 1 世紀展』開催
- 2001 (平成 13) 2 月 企画展『沖縄の繊維・染料植物展』開催  
3 月 企画展『工芸王国―人・技・心―』開催  
11 月 特別展『かざりとかたち展』開催
- 2002 (平成 14) 9 月 特別展『港川人展』開催  
10 月 企画展『沖縄の文化財展』開催
- 2003 (平成 15) 2 月 企画展『おきなわナースものがたり』開催  
7 月 企画展『旅する種子―運ばれるための巧妙なしかけ―』開催  
10 月 特別企画展『沖縄織物へのメッセージ―田中俊雄の研究―』開催
- 2004 (平成 16) 2 月 企画展『戦前・戦後の文化財保護―仲座久雄の活動をとおして―』開催  
8 月 企画展『沖縄歴史を綴る秘宝展』開催  
11 月 企画展『自然界のエイリアン―海をこえて持ちこまれた動物たち―』開催
- 2005 (平成 17) 2 月 特別展『いま・むかし、おもちゃ大博覧会―入江正彦児童文化史コレクション―』開催
- 2006 (平成 18) 2 月 閉館記念特別展『柳宗悦の心と眼―柳宗悦の民藝と巨匠たち展―』開催  
3 月 『ありがとう・さよなら』キャンペーン (3 月 22 日～3 月 31 日 無料入館)  
企画展『わたしの宝もの展』(博物館友の会主催) 開催  
閉館の集い実施 (31 日)  
4 月 1 日から博物館新館移転準備のため 2007 年 (平成 19) 10 月末まで休館する。
- 2007 (平成 19) 3 月 新館へ事務所移転(29 日)。首里在の沖縄県立博物館閉館式(30 日)を行い、沖縄県立博物館の全ての組織・機能等は教育庁文化施設建設室に、また首里の博物館敷地及び建物の管理は教育庁文化課にそれぞれ引き継ぐ(31 日)。  
4 月 新館での事務を開始する。(1 日)  
7 月 沖縄県立博物館・美術館の指定管理者として「文化の杜共同企業体」が指定を受ける。  
8 月 指定管理者・文化の杜共同企業体が閉館事前準備のため事務をはじめる。

- 2007 (平成 19) 11 月 那覇市おもろまちに沖縄県立博物館・美術館が開館する。同時に、博物館新館開館記念展『人類の旅ー港川人の来た道ー』と美術館開館記念展『沖縄文化の軌跡 1872-2007』を開催する。(1日)
- 2008 (平成 20) 2 月 博物館企画展『新収蔵品展ー平成 17・18 年度収蔵資料ー』開催  
3 月 指定管理者企画展『世界の現代アーティスト 50 人展』開催  
美術館常設展開会式 (25 日)  
5 月 博物館企画展『新収蔵品展ー平成 19 年度収蔵資料ー』開催  
指定管理者企画展『情熱と戦争の狭間でー無言館・沖縄・画家たちの表現ー』開催  
7 月 美術館企画展『新収蔵品展 ポリエドールへ沖縄・アジアの多様性へ』開催  
指定管理者特別展『恐竜ミュージアム 2008』開催  
9 月 指定管理者企画展『しまくうば』開催  
博物館企画展『ずしがめの世界』開催  
11 月 開館一周年記念博物館特別展『甦る琉球王国の輝き』開催  
美術館企画展『美術家たちの「南洋群島」』開催
- 2009 (平成 21) 1 月 博物館企画展『発掘された日本列島 2008』開催  
博物館企画展『沖縄考古学ニュース』開催  
美術館企画展『移動と表現ー変容する身体・言語・文化ー』開催  
4 月 指定管理者企画展『アトミックサンシャインの中へ in 沖縄』開催  
5 月 博物館企画展『新収蔵品展ー平成 20 年度資料ー』開催  
指定管理者企画展『王昭展』開催  
7 月 指定管理者企画展『豊潤の美を求めてー金城安太郎と高島華宵ー』開催  
指定管理者企画展『琉球絵画展』開催  
9 月 指定管理者企画展『オキナワデザインの現在』開催  
10 月 博物館特別展『琉球使節、江戸へ行く!』開催  
美術館企画展『名渡山愛順展ー名渡山愛順が見た沖縄』開催  
12 月 博物館企画展『大嶺コレクション展』開催
- 2010 (平成 22) 1 月 美術館企画展『タカエズトシコ展』開催  
2 月 博物館企画展『造礁サンゴ展-楽園をつくった偉大な建築家-』開催  
博物館企画展『ものづくり今昔』開催  
4 月 総務班が設置され、三班体制となる  
指定管理者企画展『いわさきちひろ』展開催  
指定管理者企画展『石川直樹写真展』開催  
5 月 博物館企画展『新収蔵品展ー平成 21 年度収蔵資料ー』開催  
指定管理者企画展『遠き道ーはて無き精進の道程ー』開催  
7 月 指定管理者企画展『沖縄マンガ』展開催  
9 月 指定管理者企画展『風土と建築』開催  
博物館特別展『海のクロスロード 八重山展』開催  
11 月 美術館企画展『母たちの神ー比嘉康雄』展開催  
12 月 博物館・指定管理者企画展『アイヌ〜美を求める心〜』開催
- 2011 (平成 23) 1 月 美術館企画展『安谷屋正義』展開催  
博物館企画展『琉球陶器の来た道』開催  
2 月 博物館企画展『骨の科学』開催  
3 月 博物館企画展平成 22 年度『大嶺薫コレクション展』開催  
4 月 博物館企画展平成 23 年度『大嶺薫コレクション展』開催  
指定管理者企画展『國吉清尚ー土と炎に生きた魂の軌跡』展開催  
5 月 博物館企画展『新収蔵品展ー平成 22 年度収蔵資料ー』開催  
指定管理者企画展『生誕 100 年記念展 岡本太郎と沖縄ーここが世界の中心だー』展開催  
7 月 指定管理者企画展『ロボット展』展開催  
指定管理者企画展『印象派の誕生』展開催  
9 月 美術館企画展『東松照明展<太陽へのラブレター>』展開催  
10 月 博物館企画展『第 19 回全国重要無形文化財保持団体秀作展「日本の伝統美と技の世界」』展開催  
博物館企画展『沖縄県無形文化財工芸技術保持団体協議会設立 10 周年記念「工芸王国ー受けつがれる琉球のわざと美」』開催  
11 月 博物館特別展『宇宙〜遙かなるロマンを求めて〜』開催
- 2012 (平成 24) 1 月 博物館企画展『檀王法林寺開創 400 年記念 琉球と袋中上人ーエイサーの起源をたどるー』展開催  
美術館企画展『沖縄の美術シリーズ 3 玉那覇正吉ー彫刻と絵画の軌跡』展開催

【歴代館長】

東恩納博物館

大嶺 薫 (1946年4月～1953年3月)

沖縄民政府立首里博物館

原田 貞吉 (1953年3月～1955年5月)

琉球政府立博物館

山里 永吉 (1955年5月～1958年8月)

大城 知善 (1962年2月～1969年11月)

沖縄県立博物館

外間 正幸 (1972年5月～1981年3月)

大城 立裕 (1983年4月～1986年3月)

宜保榮治郎 (1992年4月～1994年3月)

當間 一郎 (1996年4月～1999年3月)

平田 與進 (2000年4月～2002年3月)

名嘉 政修 (2005年4月～2006年3月)

新垣 隆雄 (2007年4月～2007年10月)

沖縄県立博物館・美術館

牧野 浩隆 (2007年11月～2011年3月)

首里博物館

豊平 良顕 (1947年12月～1948年3月)

原田 貞吉 (1948年8月～1953年3月)

金城増太郎 (1958年9月～1961年12月)

外間 正幸 (1969年12月～1972年4月)

大城徳次郎 (1981年4月～1983年3月)

大城 宗清 (1986年4月～1992年3月)

系数 兼治 (1994年4月～1996年3月)

大城 将保 (1999年4月～2000年3月)

當眞 嗣一 (2002年4月～2005年3月)

宮城 清志 (2006年4月～2007年3月)

白保 台一 (2011年4月～2013年2月)

※ 2013年2月死去

## Ⅱ. 日誌抄 (2011年4月1日～2012年3月31日)

2011年(平成23)

- 4月 1日 白保新館長辞令交付式(知事応接室)／知事部局辞令交付式(県庁4階講堂)  
教育委員会辞令交付式(県庁13階)
- 6日 平田文化観光スポーツ部長来館／退職教職員感謝状贈呈式(ロワジールホテル)  
沖縄タイムス社表敬訪問
- 7日 琉球放送、QAB、OTV、OCN、琉球新報、NHK各社表敬訪問
- 8日 情報通信関連産業団体連合会、沖縄コンベンションビューロー、中小企業団体中央会、  
沖縄県商工会連合会、沖縄県経営者協会、沖縄県工業連合会、沖縄県中小企業家同友会、  
各団体表敬訪問
- 11日 尚弘子氏来館
- 13日 沖縄県漁業協同組合連合会、沖縄県ハイヤータクシー協会、第一交通株式会社、沖縄県個人  
タクシー事業協同組合、沖縄県総合事務局、台北駐日経済文化代表処那覇分処、各団体表  
敬訪問  
博物館復帰40年記念特別展検討会議
- 14日 沖縄県バス協会、沖縄県都市モノレール、沖縄県レンタカー協会表敬訪問
- 19日 美術館企画展「國吉清尚展」開会式
- 20日 アメリカ総領事表敬訪問
- 21日 浦添美術館長就任挨拶で来館
- 23日 新情報センター安藤会長来館
- 5月 5日 民主党岡田幹事長視察対応
- 13日 ボランティア登録証交付式(博物館講座室)
- 18日 日本動物園水族館協会総会(美ら海水族館)  
博物館友の会総会
- 20日 沖縄県博物館協会春の総会・研修会(壺屋焼物博物館)
- 27日 博物館「新収藏品展」開会式及び感謝状贈呈式
- 30日 岡本太郎美術館村田館長来館
- 31日 美術館企画展「岡本太郎展」開会式
- 6月 9日 南風原文化センター訪問
- 13日 学芸員実習(前期)開講式
- 14日 日本博物館協会理事会・評議員会(於：東京、千木良副館長出席)
- 15日 全国博物館長会議(於：東京、千木良副館長出席)
- 16日 第1回全国科学系博物館協議会総会(於：国立科学博物館、千木良副館長出席)
- 22日 那覇市歴史博物館表敬
- 27日 全館燻蒸・消毒(～7月5日)  
ハワイ大学図書館職員来館
- 28日 美術館企画展「東松照明展」関連調整
- 7月 4日 消防訓練
- 7日 佐賀市議団対応、サンエー・コーポ訪問
- 8日 水曜会深谷氏来館
- 14日 事業棚卸し委員会
- 20日 韓国教育総連盟所属小学校教諭来館(21日、24日)
- 27日 美術館企画展「印象派展」開会式
- 28日 知念参事監表敬
- 29日 佐賀県議員団視察対応
- 8月 2日 台北駐日経済文化代表処那覇分処粘処長との昼食懇談(那覇テラス)
- 4日 台風9号で休館
- 15日 学芸員実習(後期)開講式／平田文化観光スポーツ部長表敬
- 16日 特別支援学校中等部総合文化祭開会式(博美講堂)
- 22日 臨時開館
- 29日 日生財団助成ガイドブック編集会議(於：大阪府千里文化財団、千木良副館長、濱口班長  
が出席)
- 9月 1日 JICA所長等来館
- 5日 臨時開館

- 9月 7日 沖縄県文化関係施策推進会議（県立芸大）  
15日 沖縄県博物館協会秋の研修会（ひめゆり平和祈念資料館）  
19日 アジア王宮関係博物館シンポジウム（於：韓国故宮博物院、千木良副館長が参加）  
22日 美術館企画展「東松照明展」開会式
- 10月 3日 消防訓練  
5日 9月議会常任委員会（千木良副館長が出席）  
6日 博物館企画展「工芸王国展」開会式  
仏民間大使久高氏来館  
中華民国双十節レセプション（ハーバービューホテル）  
12日 第5回世界のウチナーンチュ大会  
ハワイ大学グリーンウッド総長来館  
沖縄県文化関係施策推進会議（於：博物館・美術館）  
14日 カンボジア国立博物館職員来館  
15日 ハワイ州知事来館  
第1回国際ウチナーンチュ祖先シンポジウム（於：美術館講座室）  
24日 9月議会決算特別委員会（千木良副館長が出席）  
25日 中国文化大臣来館  
27日 宮古島移動博物館現地調整（於：宮古島市、千木良副館長、片桐学芸員が参加）
- 11月 1日 佐渡山氏琉球絵画寄贈記者会見  
2日 博物館特別展「宇宙展」開会式  
9日 九州博物館協議会秋季総会、研修会  
（於：鹿児島県立博物館、千木良副館長、瑞慶覧班長、幸地主査が参加）  
10日 中国第一歴史档案館職員来館  
15日 千代田区議会議員視察  
16日 大分県議（戸高氏）来館視察  
17日 大分県議会議員視察  
H24年博物館企画展「紅型展」調整会議  
（於：大阪市立美術館、千木良副館長、與那嶺学芸員が出席）  
19日 沖縄大学院大学創立式典  
30日 文化功労者表彰式典（県庁4F講堂）
- 12月 9日 松村宗棍資料打合せ  
尚弘子氏来館  
12日 第8回県議会常任委員会（千木良副館長が出席）（14日）  
16日 沖縄県文化関係施策推進会議（於：国立劇場おきなわ）  
19日 生涯学習推進センター所長来館
- 2012年（平成24）
- 1月 4日 新年挨拶廻り（マスコミ各社等）  
7日 山口参議院議員来館  
11日 美術館企画展「玉那覇正吉展」開会式  
22日 収蔵庫燻蒸・消毒（～24日）  
25日 博物館企画展袋中上人と琉球展開会式  
豊橋市議会視察対応、八戸市議会視察
- 2月 1日 沖縄県文化関係施策推進会議（於：公文書館）  
5日 宮古島市移動博物館  
8日 特別支援学校中等部役員が総合文化祭関係で表敬  
9日 佐賀市議対応  
13日 那覇地検来館事務調整  
14日 沖縄県立博物館・美術館協議会（於：博物館講座室）  
15日 産業医面談（県立芸大）  
21日 韓国国立博物館職員来館  
23日 定期監査  
第2回全国科学系博物館協議会総会・研究発表会（於：名古屋市科学館）  
来館200万人記念セレモニー（於：ロビー）
- 3月 6日 県立芸大とのキャンパスメイト調印式（於：応接室）  
8日 H24博物館特別展「復帰40年記念特別展」第1回展示検討委員会

- 3月 9日 国立博物館等出張（千木良副館長、濱口班長、瑞慶覧班長）  
 14日 予算特別委員会（千木良副館長出席）  
 15日 ニッセイ財団贈呈式（於：知事応接室）  
 大嶺薫コレクション関係者来館  
 19日 旅順博物館長夫妻来館  
 坂口總之輔氏来館  
 27日 沖縄県文化関係施策推進会議（於：県立芸大）  
 30日 美術館企画展「田中一村展」開会式

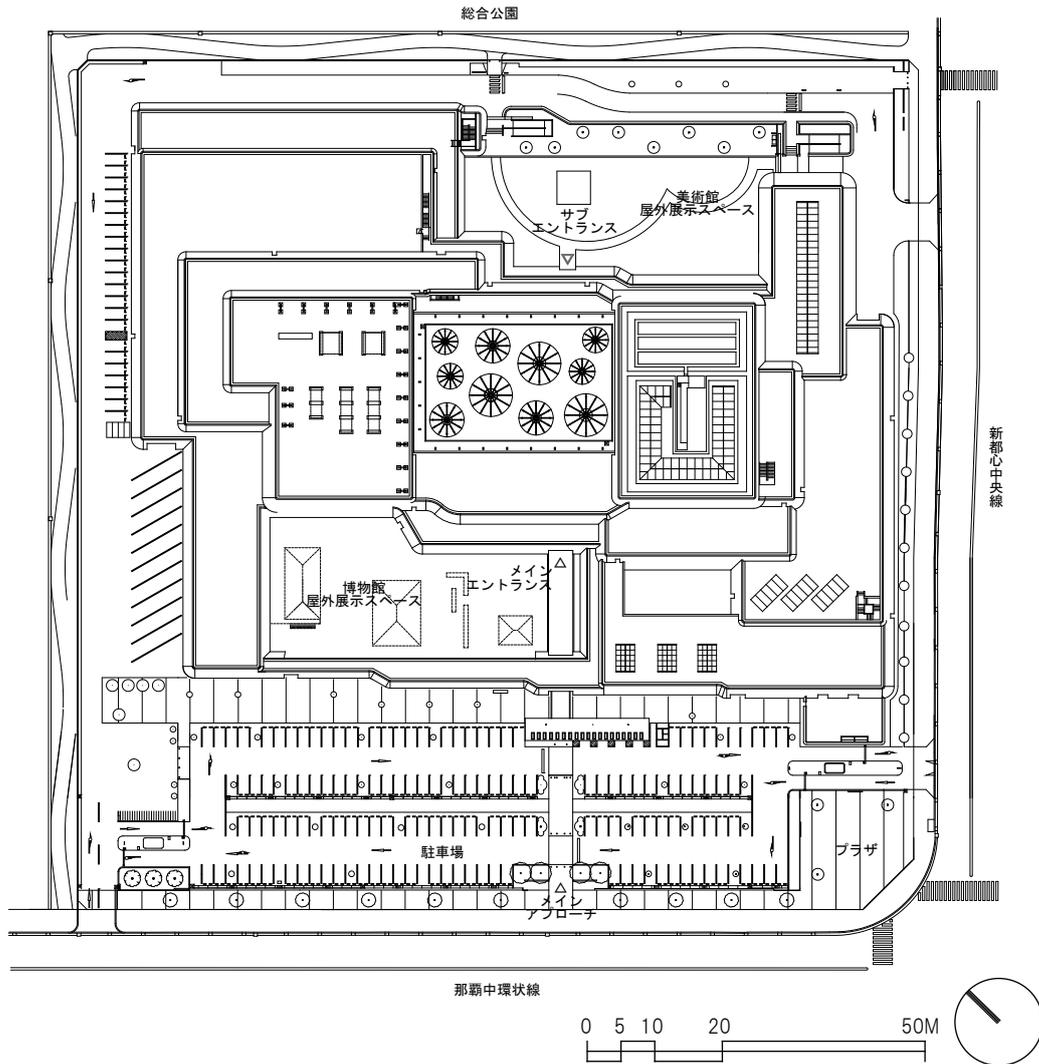


博物館特別展『宇宙～遙かなるロマンを求めて～』開会式



美術館企画展『東松照明と沖縄 太陽へのラブレター』開会式

### Ⅲ. 施設・設備



#### 建築概要

●敷地面積	31,287 m <sup>2</sup>
●建築面積	13,452 m <sup>2</sup>
●延床面積	23,721 m <sup>2</sup>
博物館専有面積	10,478 m <sup>2</sup>
美術館専有面積	7,537 m <sup>2</sup>
共有面積	5,708 m <sup>2</sup>
●高さ・最高高さ	GL+ 21.8m
●駐車場	
一般駐車場	140台
(うち身障者用4台)	
大型バス駐車場	10台
駐輪場	25台
関係者駐車場	22台

#### 供用施設

●エントランスホール	724 m <sup>2</sup>
●情報センター	217 m <sup>2</sup>
●講堂(212席)	349 m <sup>2</sup>

#### 博物館の主たる施設

●展示施設	
総合展示室	1,252 m <sup>2</sup>
部門展示室	1,344 m <sup>2</sup>
自然史部門	
考古部門	
美術工芸部門	
歴史部門	
民俗部門	
屋外展示場	1,425 m <sup>2</sup>
企画展示室	351 m <sup>2</sup>
特別展示室	459 m <sup>2</sup>
●教育普及施設	
ふれあい体験室	110 m <sup>2</sup>
博物館講座室	191 m <sup>2</sup>
実習室	108 m <sup>2</sup>

#### ●収蔵施設 (ダブルデッキ含む)

自然史収蔵庫	417 m <sup>2</sup>
化石収蔵庫	245 m <sup>2</sup>
考古・陶磁器収蔵庫	613 m <sup>2</sup>
特別収蔵庫	439 m <sup>2</sup>
民俗収蔵庫	668 m <sup>2</sup>
大型収蔵庫	358 m <sup>2</sup>
液浸標本室	97 m <sup>2</sup>
一時保管庫	119 m <sup>2</sup>

#### ●調査研究施設

研究室	176 m <sup>2</sup>
研究資料室	111 m <sup>2</sup>
会議室	72 m <sup>2</sup>

#### 美術館の主たる施設

#### ●展示施設

企画ギャラリー1	394 m <sup>2</sup>
企画ギャラリー2	490 m <sup>2</sup>
コレクションギャラリー1	164 m <sup>2</sup>
コレクションギャラリー2	284 m <sup>2</sup>
コレクションギャラリー3	370 m <sup>2</sup>
県民ギャラリー(1~3)	277 m <sup>2</sup>
県民ギャラリー(スタジオ)	111 m <sup>2</sup>
県民アトリエ	65 m <sup>2</sup>
こどもアトリエ	70 m <sup>2</sup>
屋外展示場	1,368 m <sup>2</sup>

#### ●教育普及施設

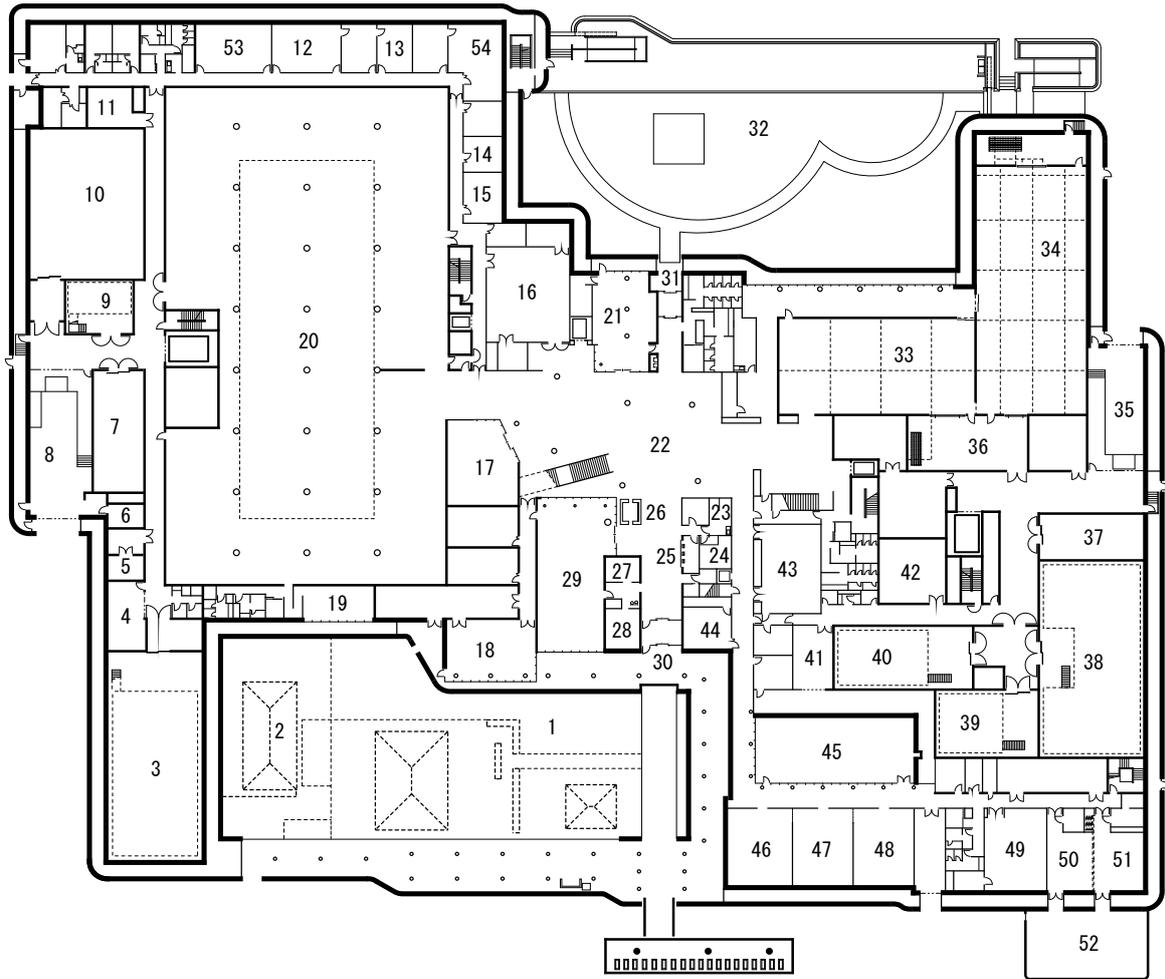
美術館講座室	109 m <sup>2</sup>
--------	--------------------

#### ●収蔵施設 (ダブルデッキ含む)

収蔵庫A	683 m <sup>2</sup>
収蔵庫B	248 m <sup>2</sup>
収蔵庫C	204 m <sup>2</sup>

#### ●調査研究施設

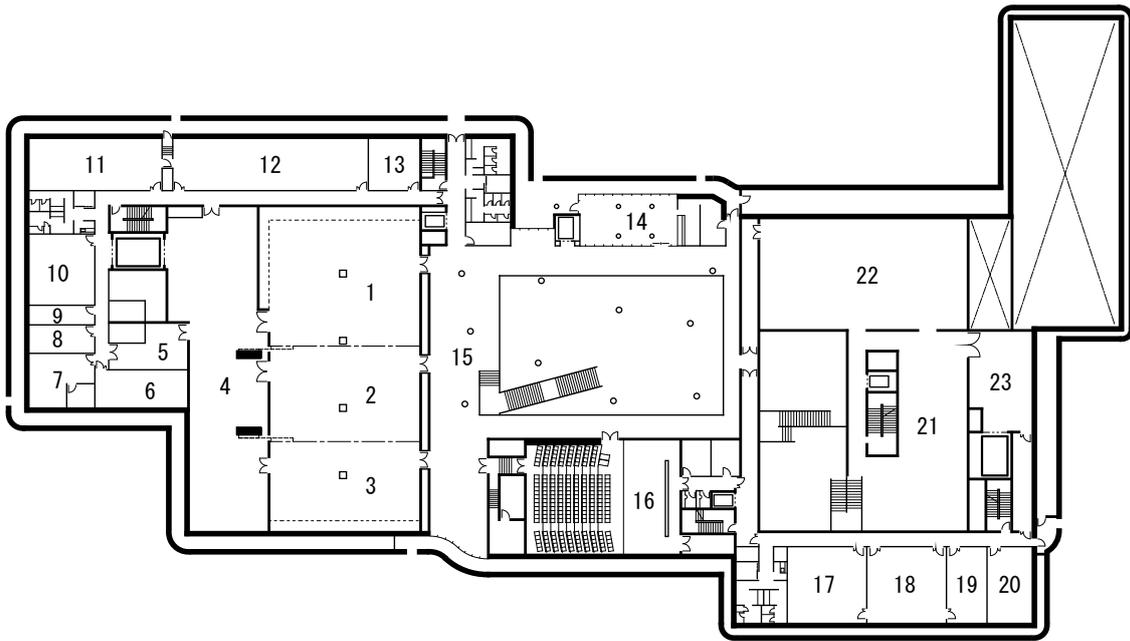
研究室	98 m <sup>2</sup>
研究資料室	98 m <sup>2</sup>
会議室	58 m <sup>2</sup>



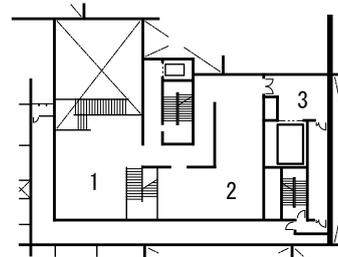
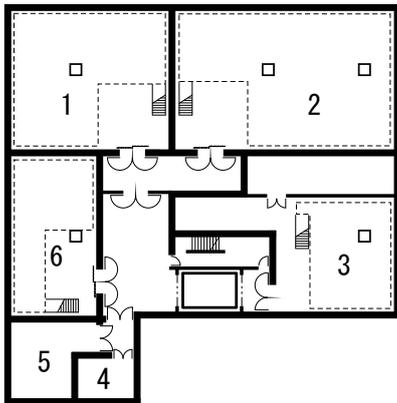
# 1階

## 1階

(博物館)	(共有)	(美術館)	(文化の社共同企業体・指定管理者)
1 博物館野外展示	21 ミュージアムショップ	32 美術館野外展示	53 会議室
2 湧田古窯	22 エントランスホール	33 美術館企画ギャラリー1	54 事務室
3 民俗収蔵庫	23 授乳室	34 美術館企画ギャラリー2	55 展示交流員控室
4 写真撮影室	24 託児室	35 トラックヤード	
5 冷凍庫	25 券売	36 展示準備室	
6 石工室	26 総合案内	37 一時保管庫	
7 一時保管庫	27 救護室	38 収蔵庫A	
8 トラックヤード	28 コインロッカー	39 収蔵庫B	
9 液浸標本室	29 情報センター	40 収蔵庫C	
10 大型収蔵庫	30 メインエントランス	41 保存修復室	
11 修理修復室	31 サブエントランス	42 工作室	
12 博物館・美術館庶務室		43 美術館講座室	
13 館長室		44 美術館ボランティア室	
14 支援会室		45 中庭	
15 博物館ボランティア室		46 県民ギャラリー1	
16 博物館講座室		47 県民ギャラリー2	
17 博物館ふれあい体験室		48 県民ギャラリー3	
18 博物館実習室		49 県民ギャラリー (スタジオ)	
19 博物館常設展示休憩室		50 県民アトリエ	
20 博物館常設展示室		51 こどもアトリエ	
		52 屋外活動スペース	



### 3階



### 2階

### 地階

#### 3階

(博物館)

- 1 企画展示室 2
- 2 企画展示室 1
- 3 特別展示室
- 4 展示準備室
- 5 工作室
- 6 自然史実験室
- 7 保存科学室
- 8 フィルム保管庫
- 9 映像編集室
- 10 学芸員会議室
- 11 研究資料室
- 12 学芸員研究室
- 13 研修室

(共有)

- 14 喫茶室
- 15 ホワイエ
- 16 講堂

(美術館)

- 17 研究資料室
- 18 学芸員研究室
- 19 情報処理室
- 20 学芸員会議室
- 21 コレクションギャラリー 2
- 22 コレクションギャラリー 3
- 23 展示準備室

#### 地階

(博物館)

- 1 特別収蔵庫
- 2 考古陶磁器収蔵庫
- 3 自然史収蔵庫
- 4 劣化フィルム収蔵庫
- 5 写真パネル収蔵庫
- 6 化石収蔵庫

#### 2階

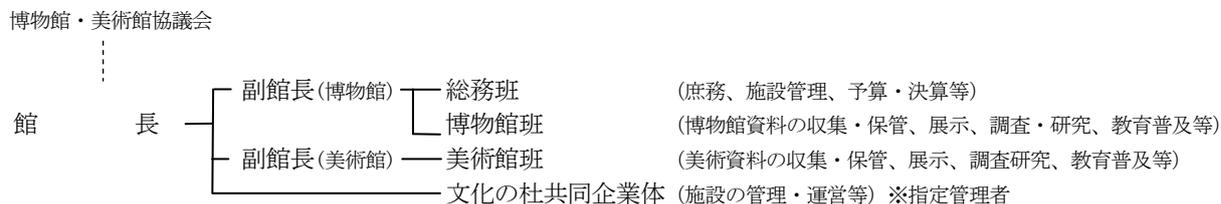
(美術館)

- 1 ホワイエ
- 2 コレクションギャラリー 1
- 3 展示準備室

## IV. 組織

### 【組織】

沖縄県立博物館・美術館は首里に在った博物館に新たに美術館を併設し、那覇市新都心地区に 2007 年（平成 19）11 月 1 日に移転・開館した。この新館開館を機に指定管理者制度も導入しているため、組織は以下のように「総務班」「博物館班」「美術館班」「文化の杜（指定管理者）」の 4 つにより構成されている（総務班は平成 22 年度設置）。なお、文化の杜共同企業体に関しては別項にて記述しているので参照頂きたい。



### 【職員構成】

2011 年 4 月 1 日 現在

職 名	氏 名	担 当 業 務
館 長	白保 台一	◎博物館・美術館業務の総括に関する事。
参 事 兼 博物館副館長	千木良芳範	◎博物館業務の統括に関する事。 ◎博物館・美術館の統括に関する事。
美術館副館長 兼 班 長	瑞慶山 昇	◎美術館業務の統括に関する事。

### (総務班)

班 長	瑞慶覧勝利	◎博物館・美術館の事務の総括に関する事。 ◎予算・執行の総括に関する事。 ◎文書管理の総括に関する事。 ◎指定管理者との調整に関する事。 ◎経営調整会議に関する事。 ◎博物館・美術館の連絡調整に関する事。 ◎九州博物館協議会に関する事。 ◎議会対応に関する事。 ◎視察対応に関する事。 ○広報宣伝に関する事。 ◎その他庶務事務に関する事。
主 査	幸地なつみ	◎博物館・美術館の庶務業務に関する事。 ◎出納業務に関する事。 ◎決算の資料作成に関する事。 ◎会計業務（負担行為、支出）に関する事。 ◎文書、公印、公用車の管理業務に関する事。 ◎職員の給与、福利、サービス及び研修業務に関する事。 ◎県債、建物及び使用料等歳入に関する事。 ◎博物館・美術館の連絡調整に関する事。 ◎その他庶務事務に関する事。
主 査	上原 善彦	◎施設・財産関連業務に関する事。 ◎予算の資料作成及び備品の登録業務に関する事。 ◎博物館・美術館広報宣伝に関する事。 ○視察対応に関する事。 ◎情報管理（ホームページ等）に関する事。 ◎博物館・美術館の連絡調整に関する事。 ○経営調整会議に関する事。 ◎その他庶務事務に関する事。
主 査	新里 勝	◎施設管理に関する事。 ◎施設管理にかかる指定管理者との調整業務に関する事。 ◎その他施設管理事務に関する事。
事 務 補 助 員	佐藤 麻穂	○文書受付に関する事。 ○業務補助に関する事。

(博物館班 学芸員)

<p>博物館班長</p>	<p>濱口 寿夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎博物館班の総括に関する事。</li> <li>◎博物館予算に関する事。</li> <li>◎沖縄県博物館協会に関する事。</li> <li>◎議会対応に関する事。</li> <li>◎視察対応に関する事。</li> <li>◎博物館資料の収集方針に関する事。</li> <li>◎博物館活動の計画に関する事。</li> <li>◎学芸員実習の受け入れに関する事。</li> <li>◎博物館特別展示室・企画展示室の運営・管理に関する事。</li> <li>◎指定管理者との調整に関する事。</li> <li>○博物館友の会に関する事。</li> <li>◎教職員研修の受け入れに関する事。</li> <li>◎博物館ガイドブックの編集に関する事。</li> <li>◎学芸資料・博物館学の調査研修に関する事。</li> <li>○H23 年度緊急雇用事業に関する事。</li> </ul>
<p>主幹 (美術工芸)</p>	<p>園原 謙</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎美術工芸資料（絵画・陶器・漆器）の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関する事。</li> <li>◎博物館総合・部門展示及び特別展・企画展に関する事。</li> <li>◎博物館資料収集事業（基金）に関する事。</li> <li>◎博物館資料修理事業等に関する事。</li> <li>◎保存環境調査（展示室・収蔵庫）に関する事。</li> <li>○IPM 及び博物館資料の燻蒸・消毒に関する事。</li> <li>○写真資料の貸出、博物館資料の撮影等に関する事。</li> <li>◎写真資料等の整理に関する事。</li> <li>◎H23 年度企画展「袋中展」に関する事。</li> </ul>
<p>主任学芸員 (美術工芸)</p>	<p>與那嶺一子</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎美術工芸資料（染色・書跡・彫刻）の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関する事。</li> <li>◎博物館総合・部門展示（美術工芸分野）及び特別展・企画展に関する事。</li> <li>○大嶺薫コレクション展に関する事。</li> <li>○博物館資料収集事業（基金）に関する事。</li> <li>○博物館資料修理事業に関する事。</li> <li>○ふれあい体験室の運営に関する事。</li> <li>◎班長の補佐に関する事。</li> <li>◎H23 年度企画展「工芸王国」「日本の伝統美と技の世界」に関する事。</li> </ul>
<p>主任学芸員 (自然史・生物)</p>	<p>田中 聡</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎生物資料の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関する事。</li> <li>◎博物館総合・部門展示（生物分野）に及び特別展・企画展に関する事。</li> <li>◎屋外展示（植生）に関する事。</li> <li>◎博物館総合調査に関する事。</li> <li>○博物館紀要の編集・発行に関する事。</li> <li>○学芸研究資料室の図書に関する事。</li> <li>○H23 年年度特別展「宇宙展」に関する事。</li> <li>◎IPM 及び博物館資料の保存環境、燻蒸・消毒に関する事。</li> </ul>
<p>主任学芸員 (自然史・地学)</p>	<p>仲里 健</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎地質・化石資料の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関する事。</li> <li>◎博物館総合・部門展示（地質化石等）及び特別展・企画展に関する事。</li> <li>◎化石資料整理事業に関する事。</li> <li>○沖縄県博物館協会に関する事。</li> <li>◎H23 年度特別展「宇宙展」に関する事。(主担当)</li> </ul>
<p>主任学芸員 (民俗)</p>	<p>岸本 敬</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎民俗資料の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関する事。</li> <li>◎博物館総合・部門展示（民俗分野）及び特別展・企画展に関する事。</li> <li>◎屋外展示（民家・高倉）に関する事。</li> <li>○収蔵品データの総括管理（収蔵品台帳）に関する事。</li> <li>○保存環境調査（展示室・収蔵庫）に関する事。(副担当2)</li> <li>○新収蔵品展に関する事。</li> <li>○文化財公開承認施設及び登録博物館に関する事。</li> <li>○沖縄県博物館協会に関する事。</li> <li>○H23 年度企画展「袋中展」に関する事。</li> </ul>

主任学芸員 (歴史)	岸本 弘人	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎歴史資料（近現代）の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関すること。</li> <li>◎博物館総合・部門展示（歴史分野）及び特別展・企画展に関すること。</li> <li>◎常設総合展示室に関すること。</li> <li>◎「国際博物館の日」関連事業に関すること。</li> <li>○『博物館・美術館年報』の編集・発行に関すること。</li> <li>○保存環境調査（展示室・収蔵庫）に関すること。</li> <li>◎復帰 40 周年記念事業に関すること。（主担当）</li> </ul>
主任 (考古)	片桐千亜紀	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎考古資料の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関すること。</li> <li>◎博物館総合・部門展示（考古分野）及び特別展・企画展に関すること。</li> <li>◎屋外展示（湧田窯）に関すること。</li> <li>◎考古資料の複製・修復に関すること。</li> <li>◎文化財公開承認施設及び登録博物館に関すること。</li> <li>◎移動展に関すること。</li> <li>○常設総合展示室に関すること。</li> <li>○情報センターの図書・データに関すること。</li> <li>○H23 年度企画展「袋中上人展」に関すること。</li> </ul>
主任 (人類)	藤田 祐樹	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎人類学資料の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関すること。</li> <li>◎博物館総合・部門展示（人類学分野）及び特別展・企画展に関すること。</li> <li>◎港川人骨の管理に関すること。</li> <li>◎収蔵品データの総括管理（収蔵品台帳）に関すること。</li> <li>◎新収蔵品展に関すること。</li> <li>◎博物館紀要の編集・発行に関すること。</li> <li>◎共同研究事業に関すること。</li> <li>○自然史部門展示に関すること。</li> <li>○博物館総合調査に関すること。</li> <li>○博物館ホームページに関すること。</li> <li>○H23 年度特別展「宇宙展」に関すること。</li> </ul>
主任 (人類)	山崎 真治	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎人類学資料の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関すること。</li> <li>◎博物館総合・部門展示（人類学分野）及び特別展・企画展に関すること。</li> <li>◎図書の入受・整理に関すること。</li> <li>◎博物館ホームページに関すること。</li> <li>○共同研究事業に関すること。</li> <li>○自然史部門展示に関すること。</li> <li>○港川人骨の管理に関すること。</li> <li>○移動展に関すること。（副担当 1）</li> <li>○H23 年度特別展「宇宙展」に関すること。</li> </ul>
臨時任用職員 (歴史)	早瀬 千明	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎歴史資料（古琉球・近世）の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関すること。</li> <li>◎博物館総合・部門展示及び特別展・企画展に関すること。</li> <li>◎資料収集事業に関すること。</li> <li>◎常設総合展示室に関すること。</li> <li>○「国際博物館の日」関連事業に関すること。</li> <li>○博物館資料修理事業に関すること。</li> <li>○収蔵品台帳に関すること。</li> <li>○沖縄県博物館協会に関すること。</li> <li>○H23 年度企画展「工芸王国」「日本の伝統美と技の世界」に関すること。</li> <li>○復帰 40 周年記念事業に関すること。</li> </ul>
嘱託員 (学芸)	宮平真由美	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎『博物館・美術館年報』の編集・発行に関すること。</li> <li>○写真資料等の整理に関すること。</li> <li>◎博物館資料の撮影等の受付に関すること。</li> <li>◎発送業務集約に関すること。</li> <li>◎展示公開事業の補佐に関すること。</li> <li>○学芸研究資料室の図書に関すること。</li> <li>◎学芸員の補佐に関すること。</li> <li>◎写真資料の貸出等に関すること。</li> </ul>

(博物館班 教育普及)

主任学芸員 (教育普及)	池原 盛浩	◎教育普及事業（ふれあい体験室、実習室、講座等）に関する事 ◎教育普及資料の収集・購入・受入・保管・整理に関する事 ◎博物館学習等の調査研究に関する事 ○視聴覚機器の整理・保管に関する事 ◎博物館友の会に関する事 ◎総合・部門展示の学習プログラムの策定・指導に関する事 ◎ボランティア活動事業に関する事 ◎体験学習教室の企画及び野外展示の活用に関する事 ◎学校連携事業に関する事。（大学含む） ◎文化講座の企画等に関する事 ○移動展に関する事 ◎ふれあい体験室の運営に関する事
嘱託員 (教育普及)	當眞妃奈子	○ふれあい体験室、実習室、講座等に関する事 ○教育資料の収集・購入・受入・保管・整理等に関する事 ○博物館学習等の調査研究に関する事 ◎視聴覚機器の整理・保管に関する事 ○文化講座の企画等に関する事 ○ふれあい体験室の運営に関する事 ◎ボランティア活動の連絡調整に関する事 ○総合・部門展示の学習プログラムの策定・指導に関する事 ◎博物館学習への各種照会事項対応の補助に関する事 ◎教育普及担当学芸員の補佐に関する事

(美術館班)

美術館副館長 兼美術館班長	瑞慶山 昇	◎美術館班総括に関する事 ◎美術館予算に関する事 ◎議会对応の総括に関する事 ◎視察対応の総括に関する事 ◎博物館・美術館協議会に関する事 ◎美術館活動の計画に関する事 ◎美術館の鍵の管理に関する事 ◎指定管理者との調整に関する事 ◎文化振興課との調整に関する事 ◎県芸術祭に関する事 ◎経営者調整会議に関する事 ◎常設展示室1に関する事 ○IPM 会議に関する事 ○美術館支援団体 happ に関する事 ○県企画展 2「玉那覇正吉展」に関する事
主任学芸員	仲里 安広	◎収蔵作品保存修復活動の総括に関する事 ◎県企画展 2「玉那覇正吉展」に関する事 ◎常設展示室 2 に関する事 ◎収蔵作品の貸出業務に関する事 ◎近現代彫刻の調査研究に関する事 ◎IPM 及び美術館資料の燻蒸・消毒に関する事 ○資料収集活動の総括に関する事
主任学芸員	新里 義和	◎展示公開活動の総括に関する事 ◎県企画展 1「東松照明展」に関する事 ◎常設展示室 2 に関する事 ◎写真、映像作品の調査研究に関する事 ◎県民スタジオの運営に関する事 ○収蔵作品保存修復活動の総括に関する事 ○パソコン機器等管理
主任学芸員	豊見山 愛	◎資料収集活動の総括に関する事 ◎常設展示室 2 に関する事 ◎常設展示室 3 に関する事 ◎沖縄美術第 1 期（戦前期）、沖縄のデザイン、工芸の調査研究に関する事 ◎資料収集委員会に関する事 ○調査研究の総括に関する事 ○寄贈者表彰に関する事

主任学芸員	大城 仁美	◎調査研究活動の総括に関する事。 ◎学芸員実習の受け入れに関する事。 ◎写真作品の調査研究に関する事。 ◎常設展示室1に関する事。 ◎美術館研究紀要に関する事。 ○県企画展1「東松照明展」に関する事。 ○美術館教育普及活動の総括に関する事。
主任学芸員	大城 直也	◎美術館教育普及活動の総括に関する事。 ◎学校見学対応に関する事。 ◎学校との連携に関する事。 ◎移動展に関する事。 ◎常設展示室1に関する事。 ◎ボランティアの指導育成に関する事。 ◎「国際博物館の日」関連事業に関する事。 ○展示公開活動の総括に関する事。 ○沖縄県博物館協会に関する事。 ○観賞学習支援教材貸出に関する事。 ○美術館支援団体 happ に関する事。 ○各種講座の企画・運営に関する事。 ○美術館広報に関する事。
嘱託員	吉田 祥子	◎作品の調査に関する事。 ◎収蔵品のデータベースに関する事。 ◎収蔵品の画像管理に関する事。 ◎作品画像貸出に関する事。 ○収集委員会資料作成に関する事。 ○情報センターのデータに関する事。 ○美術館ホームページに関する事。 ○展示会の補助に関する事。
嘱託員	仲村美奈子	◎展示室等の環境点検管理に関する事。 ◎収蔵庫の環境点検管理に関する事。 ◎作品の保存管理に関する事。 ◎作品の修復に関する事。 ○作品貸出に関する事。 ○IPMに関する事。 ○展示会の補助に関する事。
事務補助員	外間 敦子	◎文書の收受、発送に関する事。 ◎図書受付、整理に関する事。 ○業務補助に関する事。

※◎は主担当として行う業務、○は副担当として行う業務である。

【人事異動】

2011年4月1日 現在

	職名	氏名	摘要
転出	博物館班(総務) 班長 主査 博物館班(学芸) 主任 主任 美術館班(学芸) 主任学芸員	前田 直昭 大城 洋子 平川 信幸 羽方 誠 國吉 亮子	教育庁文化財課 沖縄県埋蔵文化財センター 南城市立佐敷中学校
転入	博物館班(総務) 班長 主査 事務補助員 博物館班(学芸) 主幹 主任 臨時任用職員 美術館班(学芸) 主任学芸員 主任学芸員 美術館班(学芸) 事務補助員	瑞慶覧勝利 幸地なつみ 佐藤 麻穂 園原 謙 片桐千亜紀 早瀬 千明 仲里 安広 大城 直也 外間 敦子	採用 沖縄県平和祈念資料館 沖縄県埋蔵文化財センター 採用 宜野湾高等学校 糸満市立潮平小学校 採用
昇任	美術館班(学芸) 美術館副館長	瑞慶山 昇	主任学芸員(昇任)
産休	博物館班(学芸) 主任	崎原 恭子	
退職	博物館班(総務) 事務補助員 美術館班(学芸) 美術館副館長 事務補助員	佐藤みゆき 翁長 直樹 上原 祐子	

## V. 沖縄県立博物館・美術館協議会

### 【第1回会議】

日 時：2011年10月25日（火） 14：00～16：00

場 所：博物館講座室

委嘱状交付式：委嘱状交付（新任の委員のみ）

会 議

館長あいさつ（白保台一館長）

報告事項

- ・2010年度事業実績報告
- ・2011年度事業説明

協議事項

- ・2012年度事業計画
- ・沖縄県立博物館・美術館運営要領

### 【第2回会議】

日 時：2012年2月14日（火） 10：00～12：00

場 所：博物館講座室

会 議

館長あいさつ（白保台一館長）

報告事項

- ・2011年度事業経過説明

協議事項

- ・2012年度事業計画

沖縄県立博物館・美術館協議会委員名簿（任期：平成22年2月15日～平成24年2月14日）

分野		氏名	所属	職名
学識経験者	自然史	○新城 和治	元琉球大学	元教授
	歴史	高良 倉吉	琉球大学法文学部	教授
	考古	當眞 嗣一	元沖縄県立博物館	元館長
	民俗	稲福みき子	沖縄国際大学	教授
	人類	土肥 直美	琉球大学医学部	准教授
	美術（画）	◎宮城 篤正	沖縄県立芸術大学	学長
	美術（立体）	西村 貞雄	元琉球大学	元教授
	美術（写真）	前原 基男	沖縄県写真連盟	会長
学校教育関係者	小学校教育	川村 和久	沖縄県小学校長会	総務部長
	中学校教育	金城 聡	沖縄県中学校長会	総務部長
	高校教育	前新 健	沖縄県高等学校長会	会長
社会教育関係者	社会教育	藏根 芳雄	沖縄県社会教育委員連絡協議会	会長
	P T A	棚原 勝	沖縄県高等学校PTA連合会	副会長

（◎会長、○副会長 2012年3月31日現在）

## VI. 予 算

2011 年度歳出状況(決算)

	博物館・美術館 管理運営費	博物館・美術館 指定管理費	博物館・美術館 費	博物館・美術館 支援事業 (緊急雇用)	合 計
報酬	6,078,760		7,487,100		13,565,860
共済費					0
賃金			3,067,649		3,067,649
報償費			336,400		336,400
旅費			8,955,247		8,955,247
需用費			11,784,425		11,784,425
役務費			2,546,343		2,546,343
委託料		295,427,000	58,795,205	38,709,187	392,931,392
使用料及び賃借料			1,920,703		1,920,703
備品購入費			23,973,850		23,973,850
負担金補助及び交付金			135,000		135,000
繰出金					0
公課費			60,000		60,000
合 計	6,078,760	295,427,000	119,061,922	38,709,187	459,276,869

2011 年度歳入状況

	収入金額	説 明
土地使用料	25,865	自動販売機土地使用料
建物使用料	5,350,736	喫茶室、ミュージアムショップの建物使用料
雑 入	1,344,612	電気料金、雇用保険料等
合 計	6,721,213	

## VII. 収蔵資料現在高

当館が所蔵する資料の件数は以下の通りである。詳しい内訳は博物館、美術館それぞれの章において詳しく記述しているのでその頁をご参照頂きたい。

2012 年 3 月 31 日現在

	分 類	件 数	小 計
博 物 館	自 然 史	55,884	90,723
	人 類	79	
	美 術 工 芸	10,184	
	歴 史	11,736	
	考 古	6,671	
	民 俗	6,169	
美 術 館	平 面	3,089	3,308
	立 体	123	
	映 像	24	
	そ の 他	72	
総 計			94,031

# 利用統計

- I 入館者統計
- II 施設利用者統計

# I. 入館者統計

## 1. 総入館者集計

月別総入館者

単位：人

年 月	博物館										美術館										全体				総入館者数	平均入館日数												
	常設展					企画展					特別展					全体					コレクション展		企画展				全体		展示室合計		展示以外(共有)							
	有料	無料	小計	有料	無料	小計	有料	無料	小計	有料	無料	小計	有料	無料	小計	有料	無料	小計	有料	無料	小計	有料	無料	小計			有料	無料	小計	有料	無料	小計	有料	無料	小計	有料	無料	小計
	数	数	数	数	数	数	数	数	数	数	数	数	数	数	数	数	数	数	数	数	数	数	数	数			数	数	数	数	数	数	数	数	数	数	数	数
4	3,782	1,736	5,518	35	876	911	0	0	0	3,817	2,612	6,429	1,337	392	1,729	1,009	304	1,313	2,246	696	3,042	6,163	3,308	9,471	604	27,329	26	1,051										
5	4,249	3,158	7,407	252	1,428	1,680	0	0	4,249	4,586	9,087	1,128	1,543	2,671	2,482	13,312	1,223	14,535	14,644	2,373	17,017	19,257	5,076	24,333	10,488	33,843	23	1,460										
6	3,724	1,863	5,587	889	840	1,729	0	0	4,601	2,703	7,316	1,329	1,150	2,479	2,108	2,180	125	2,305	3,500	913	4,413	6,591	3,440	10,031	42,323	50,961	22	2,316										
7	3,091	2,527	5,618	0	0	0	0	0	3,091	2,527	5,618	1,320	788	2,108	2,180	125	2,305	3,500	913	4,413	6,591	3,440	10,031	42,323	50,961	22	2,316											
8	4,425	3,544	7,969	0	0	0	0	0	4,425	3,544	7,969	3,457	1,380	4,837	17,896	982	18,847	21,352	23,684	25,127	26,489	4,205	30,694	19,231	48,921	27	1,812											
9	3,305	2,262	5,567	0	0	0	0	0	3,305	2,262	5,567	1,983	784	2,767	21,201	1,159	22,360	23,184	1,943	25,127	26,489	4,205	30,694	19,231	48,921	27	1,812											
10	5,362	4,624	9,986	1,919	705	2,624	0	0	7,281	5,329	12,610	1,140	1,579	2,719	1,243	347	1,590	2,283	1,926	4,309	9,664	7,255	16,919	20,862	36,854	26	1,417											
11	4,088	9,829	13,917	0	0	0	3,766	599	4,365	10,428	18,282	923	3,155	4,078	1,041	388	1,379	1,964	3,493	5,457	9,818	13,921	23,739	17,938	41,292	26	1,588											
12	5,640	3,373	9,013	0	0	0	4,675	876	5,551	10,315	4,249	14,564	1,122	828	1,950	0	0	1,122	828	1,950	11,437	5,077	16,514	17,521	33,240	24	1,385											
1	4,138	1,885	6,021	785	229	1,014	0	0	4,921	2,114	7,035	1,303	649	1,952	786	237	993	2,059	886	2,945	6,980	3,000	9,980	15,423	24,803	25	992											
2	3,556	4,611	8,167	1,948	395	2,343	0	0	5,504	5,006	10,510	1,272	1,162	2,434	1,122	405	1,527	2,894	1,567	3,961	7,898	6,573	14,471	18,320	31,370	25	1,255											
3	3,929	2,179	6,108	0	0	0	0	0	3,929	2,179	6,108	1,410	966	2,376	682	228	880	2,062	1,194	3,256	5,991	3,373	9,364	18,728	28,477	27	1,055											
合計	49,287	41,991	90,878	5,828	4,473	10,301	8,441	1,475	9,916	63,556	47,539	111,095	17,227	14,376	32,103	63,813	6,129	69,942	81,594	20,505	102,045	145,096	68,044	213,140	247,616	465,049	302	18,645										
目標	92,495			9,135			12,561		114,191			27,969			23,825			51,794				165,985																
達成率	53.29%			63.80%			67.20%		55.63%			63.38%			267.84%			157.43%				87.42%																

## 2. 団体入館者集計

年 月	県内										県外										全体				合計									
	特別支援校					その他					小計					特別支援					その他					小計								
	小中生	高校生	小計	団体数	人数	小中生	高校生	小計	団体数	人数	小中生	高校生	小計	団体数	人数	小中生	高校生	小計	団体数	人数	小中生	高校生	小計	団体数		人数	小中生	高校生	小計	団体数	人数			
	数	数	数	数	数	数	数	数	数	数	数	数	数	数	数	数	数	数	数	数	数	数	数	数		数	数	数	数	数	数	数		
4月	3	405	1	207	0	0	0	0	4	612	1	155	4	672	0	0	0	5	827	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	1,439	
5月	5	383	4	682	1	13	3	295	13	1,373	9	867	0	0	0	0	0	9	867	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	25	2,265	
6月	15	565	9	374	0	0	1	46	25	985	2	49	6	864	0	0	0	8	913	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	33	1,898	
7月	2	289	6	223	0	0	1	47	9	559	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	559		
8月	3	104	3	67	0	0	10	411	16	582	0	0	0	0	0	0	0	2	245	2	245	0	0	0	0	0	0	0	0	1	58	19	885	
9月	11	976	3	49	1	21	2	160	17	1,206	0	0	1	88	0	0	0	1	88	1	108	0	0	0	0	0	0	0	0	1	108	19	1,402	
10月	23	1,735	2	246	1	41	2	45	28	2,067	1	79	15	1,989	0	0	0	16	2,068	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	35	45	4,170	
11月	73	6,019	2	323	1	24	2	63	78	6,429	0	4	473	1	26	0	0	5	499	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	83	6,928
12月	26	2,053	6	348	2	20	3	96	37	2,517	1	183	15	2,563	0	0	0	16	2,716	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	53	5,233	
1月	4	473	4	118	0	0	0	0	8	591	1	82	4	542	0	0	0	5	624	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	1,215	
2月	34	3,365	2	71	4	36	1	18	41	3,490	1	89	1	20	0	0	0	2	109	1	91	1	24	0	0	0	0	0	0	2	115	45	3,714	
3月	10	536	2	23	1	10	2	119	15	688	0	0	2	246	0	0	0	2	246	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17	934	
合計	209	16,903	44	2,731	11	165	27	1,300	291	21,099	16	1,474	52	7,457	1	26	2	245	71	9,202	2	199	2	49	0	0	2	93	6	341	388	30,642		

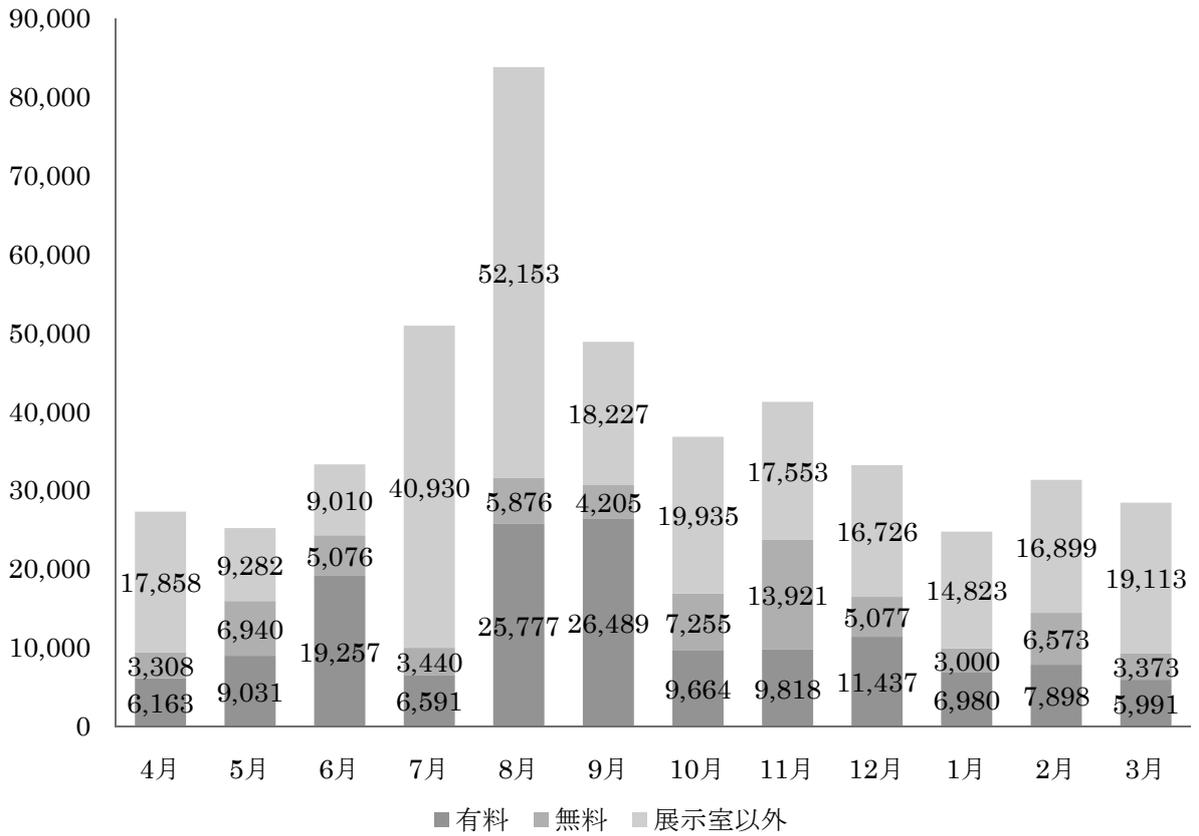
※その他に含まれる団体は幼稚園・保育園などの教育機関である。※数値は団体見学を事前予約し観覧した学校である。

### 3. 展覧会別入館者集計

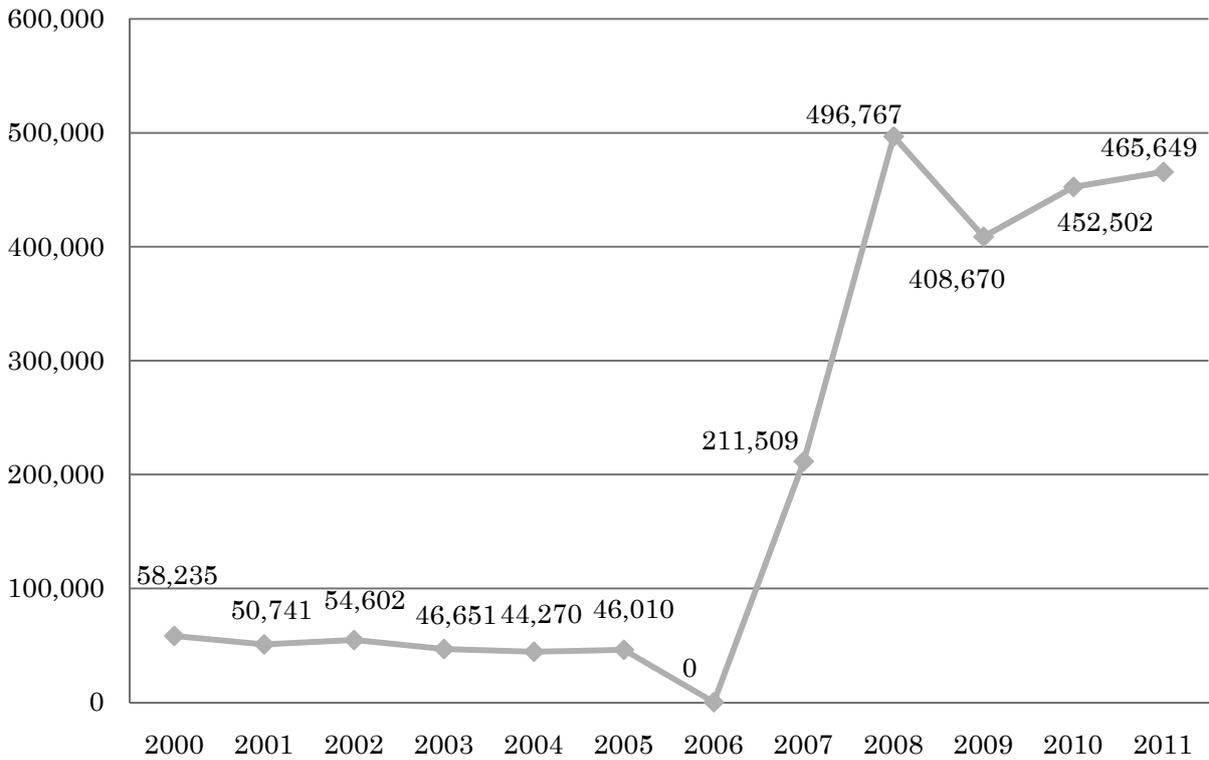
単位：人

観覧者区分	当日券	団体券	前売券	優待 (障害)	1日利用 券	年間パス	その他 割引	有料者 合計	無料者数	総合計	
博物館	企画展「新収蔵品展」	180	0	0	760	71	0	1,011	282	1,293	
	高・大学生	16	0	0	35	0	0	51	0	51	
	小・中学生	16	0	0	17	0	0	33	31	64	
	大嶺薫コレクション展	0	0	0	0	81	0	81	2,356	2,437	
	高・大学生	0	0	0	0	0	0	0	117	117	
	小・中学生	0	0	0	0	0	0	0	358	358	
	企画展 「工芸王国」日本の伝統美と技の世界」	1,088	50	0	506	85	0	1,729	651	2,380	
	高・大学生	56	0	0	59	0	0	115	0	115	
	小・中学生	23	44	0	8	0	0	75	54	129	
	企画展 「琉球と袋中上人－エイサーの起源をたどる－」	1,165	1	0	1,094	99	113	2,472	564	3,036	
	高・大学生	115	0	0	89	0	0	204	1	205	
	小・中学生	34	0	0	23	0	0	57	59	116	
美術館	特別展 「宇宙－遙かなるロマンを求めて－」	3,444	102	471	1,456	151	259	6,070	521	6,591	
	高・大学生	574	51	49	160	0	0	838	0	838	
	小・中学生	1,139	121	195	56	0	0	1,533	954	2,487	
	企画展 「東松照明と沖繩(太陽へのラブレター)展」	1,372	0	78	59	677	288	48	2,522	745	3,267
	高・大学生	132	0	3	0	94	0	229	0	229	
	小・中学生	31	0	3	2	5	0	41	77	118	
	企画展 「玉那覇正吉－彫刻と絵画の軌跡」	886	32	16	91	952	270	28	2,275	810	3,085
	高・大学生	55	60	0	2	110	0	227	0	227	
	小・中学生	21	0	0	0	7	0	0	28	60	88
	企画展 「國吉清尚－土と炎に生きた魂の軌跡」	2,760	1	78	110	679	204	156	3,988	920	4,908
	高・大学生	64	24	24	0	36	0	0	148	0	148
	小・中学生	64	0	3	0	7	0	0	74	114	188
指定管理者	企画展 「岡本太郎と沖繩－ここが世界の中心だ」	7,497	53	1,499	334	291	1,126	11,599	756	12,355	
	高・大学生	461	243	255	5	0	0	1,020	0	1,020	
	小・中学生	777	1	104	8	4	0	894	548	1,442	
	企画展 「印象派の誕生－フランス19世紀絵画の流れ」	16,098	16	7,835	940	3,978	551	5,860	35,278	904	36,182
	高・大学生	1,275	23	586	29	345	0	2,258	0	2,258	
	小・中学生	2,367	61	680	25	99	0	3,232	1,195	4,427	
	合計	34,490	255	9,977	1,721	10,901	2,091	7,590	67,025	8,509	75,534
	高・大学生	2,748	401	917	40	984	0	0	5,090	118	5,208
	小・中学生	4,472	227	985	57	226	0	0	5,967	3,450	9,417

### 2012 年度月間別入館者数



### 年間入館者数の年次推移



#### 4. 減免申請集計

(単位:人)

項目	学校関係 (下見)		旅行社関係(視 察・引率)		マスコ関係 (視察)		福祉関係 (引率)		博物館・美術館関 係者(視察)		その他		合計		
	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	
2011	4月	4	12	1	4	0	0	0	0	0	0	1	2	6	18
	5月	3	5	1	2	0	0	1	3	0	0	3	9	8	19
	6月	4	8	0	0	0	0	0	0	0	0	2	21	6	29
	7月	6	19	1	4	0	0	1	1	0	0	2	4	10	28
	8月	71	503	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	72	505
	9月	6	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	21
	10月	24	75	3	4	0	0	3	5	0	0	3	8	33	92
	11月	21	83	1	3	0	0	1	1	0	0	1	7	24	94
2012	12月	16	65	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	65
	1月	13	67	2	2	0	0	1	7	1	26	2	9	19	111
	2月	20	112	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	112
合計	8	20	1	2	0	0	0	0	0	0	2	123	11	145	
合計	196	990	11	23	0	0	7	17	1	26	16	183	231	1,239	

#### 5. 団体入館内訳

県内 小学校

のべ197校 15,610人

No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数
1	4	20	壺屋小学校	20	48	10	26	西原東小学校	76	95	11	17	久辺小学校	41
2			大山小学校	209	49			西原南小学校	62	96			恩納小学校	50
3	5	10	北谷小学校	103	50	27	津嘉山小学校	117	97			上間小学校	111	
4			多良間小学校	18	51	28	竹富小学校	11	98			天底小学校	33	
5		25	東小学校	85	52		仲泊小学校	82	99			コザ小学校	64	
6	6	26	西城小学校	20	53		古堅南小学校	109	100			美里小学校	142	
7		6	琉球大学教育学部附属小学校	39	54		砂川小学校	24	101			与那国小学校	16	
8			伊良部小学校	26	55		真喜良小学校	64	102			上原小学校	14	
9		3	北小学校	63	56	11	1	当山小学校	76	103			西崎小学校	148
10			久松小学校	47	57			勝連小学校	91	104			美原小学校	180
11			狩俣小学校	7	58			大岳小学校	32	105			大宮小学校	143
12			カトリック学園 海星小学校	17	59			嘉手納小学校	136	106			渡慶次小学校	79
13		8	下地小学校	28	60			具志川小学校	49	107			漢那小学校	28
14			南小学校	112	61			安富祖小学校	19	108			古見小学校	9
15		16	伊平屋小学校	18	62		2	中原小学校	120	106			渡慶次小学校	79
16			北大東小学校	19	63			松田小学校	16	107			漢那小学校	28
17			平良第一小学校	105	64			津波小学校	11	108			古見小学校	9
18			慶留間小学校	4	65			与那原東小学校	91	109			高江洲小学校	67
19			糸満市立小(海軍)とびろお教室	2	66			北谷小学校	128	110			米須小学校	27
20			池間小学校	16	67			船越小学校	52	111			久志小学校	17
21	8	21	(那覇市)若狭小学校 5年	62	68			百名小学校	36	112			嘉雲小学校	27
22		31	大名小学校	51	69			羽地小学校	58	113			清水小学校	28
23	9	9	稲田小学校	21	70			赤道小学校	129	114			安和小学校	16
24		13	東風平小学校	156	71			比屋根小学校	129	115			本那小学校	91
25		15	具志頭小学校	58	72			白保小学校	26	116			とよみ小学校	127
26			佐敷小学校	79	73		4	光洋小学校	106	117			糸満小学校	63
27		21	オキナワインターナショナルスクール	18	74			浦添小学校	108	118			星我地小学校	21
28			座安小学校・5年生	151	75			与那原小学校	120	119		24	小嶺小学校	64
29		27	座安小学校・3年生	138	76			宮城小学校	139	120		25	金城小学校	147
30		28	兼城小学校	124	77		8	宇栄原小学校	99	121			名護小学校	148
31		30	崎本那小学校	6	78			当山小学校	116	122			川崎小学校	66
32			富野小学校	6	79			港川小学校	161	123			上本那小学校	28
33	10	1	沖繩カトリック小学校	74	80		9	安慶田小学校	91	124			仲西小学校	128
34		4	喜瀬武原小学校	13	81			中の町小学校	87	125		28	城東小学校	128
35		5	翔南小学校	97	82			宜野湾小学校	162	126			城東小学校	108
36		14	東小学校	15	83			天妃小学校・5年生	88	127		1	仲里小学校	17
37			屋部小学校	77	84			天妃小学校・4年生	100	128		2	志真志小学校	125
38		19	長田小学校	95	85			与儀小学校	67	129			高原小学校	161
39		20	北美小学校	97	86			あげな小学校	76	130			喜如嘉小学校	20
40			津覇小学校	90	87			坂田小学校	166	131			室川小学校	62
41			開南小学校	47	88		11	仲井真小学校	123	132			辺土名小学校	33
42			兼原小学校	124	89		15	豊見城小学校	96	133			石垣小学校	73
43			田場小学校	152	90			阿波重小学校	90	134		3	大原小学校	12
44		21	城南小学校	81	91			銘苅小学校	91	135		6	真和志小学校	78
45			伊江小学校	20	92		16	真地小学校	92	136			越来小学校	48
46		25	石嶺小学校	139	93			城前小学校	83	137		7	小嶺南小学校	151
47		26	開南小学校	69	94			波照間小学校	10	138		8	西表小・白浜小・鳩間小学校	17

No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数
139	12	8	小祿南小学校	155	159			名護小学校	70	179			上間小学校	106
140		9	伊豆味小学校	24	160		8	内間小学校	122	180			安岡中学校	241
141			安謝小学校	123	161			名護小学校	65	181		22	松川小学校	70
142			兼次小学校	21	162		9	大名小学校	53	182			与儀小学校	82
143			久部良小学校	15	163			壺屋小学校	70	183		23	沢町小学校	130
144		13	大謝名小学校	130	164		10	前田小学校	88	184		24	宜野座小学校	35
145		15	城北小学校	136	165			真喜屋小学校	31	185			大道小学校	65
146		16	今帰仁小学校	44	166		14	松川小学校	91	186		26	豊明・阿嘉島・慶留間島中学校	130
147			美東小学校	172	167			安謝小学校	140	187		29	城西小学校	116
148			北玉小学校	88	168			垣花小学校	43	188	3	1	稲田小学校	22
149		20	識名小学校	139	169		15	城岳小学校	113	189		2	若狭小学校	54
150	1	8	仲井真小学校	39	170		16	宇栄原小学校	96	190			前島小学校	73
151		11	識名小学校	135	171		16	銘畑小学校	148	191			糸満小学校	55
152		19	石嶺小学校	153	172			真嘉比小学校	75	192		6	泊小学校	39
153		31	金城小学校	146	173			松島小学校	127	193		7	泊小学校	37
154	2	1	北谷小学校	109	174		17	東江小学校	124	194		8	泊小学校	37
155		2	伊平屋小学校	26	175			高江洲小学校	81	195		9	泊小学校	37
156			当山小学校	176	176			宮城小学校	133	196			開南小学校	52
157		3	城南小学校	89	177			長嶺小学校	73	197		16	宮城小学校	130
158		7	さつき小学校	103	178		21	潮平小学校	144					

県内 中学校

のべ12校 1,293人

No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数
1	4	26	南星中学校	176	5	8	9	名護中学校	25	9	11	11	具志頭中学校	113
2	5	6	大里中学校	157	6		20	小祿中学校・美術部	28	10		15	真和志中学校	132
3	7	7	長嶺中学校	207	7	9	29	昭和薬科大学附属中学校	219	11	12	6	兼城中学校	11
4			兼城中学校	82	8	11	9	山田中学校	53	12		8	兼城中学校	90

県内 高校

のべ28校 2,148人

No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数
1	4	22	石川高等学校	207	11	7	29	コザ高等学校	25	21	12	21	中部商業高校	27
2	5	6	宜野湾高等学校	214	12	8	10	宮古高等学校	5	22			豊見城南高校	36
3			コザ高等学校	420	13	9	5	沖繩クリスチャン学園	25	23	1	13	北部農林高校	44
4	6	4	開邦高等学校	30	14	22	22	美来工科高等学校	4	24		18	沖繩工業高校	12
5		9	美里工業高等学校	40	15	10	21	辺土名高等学校	161	25		27	北部農林高校	38
6		17	那覇工業高等学校服飾デザイン科	29	16			西原高等学校	85	26			高校(休とびこみ)	24
7		22	中部農林高等学校	10	17	11	15	真和志高等学校	15	27	3	2	泊高等学校夜間部	2
8	7	8	美来工科高等学校	42	18		22	前原高等学校	308	28		4	本部学校	21
9		15	浦添工業高等学校デザイン科	85	19	12	14	西原高等学校	201					
10		26	泊高等学校夜間部	4	20		21	浦添商業高校	34					

県内 専門学校・大学

のべ28校 583人

No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数
1	5	21	琉大ゼミ	25	7	6	25	琉球大学	25	13	12	6	那覇日経ビジネス学院	20
2		26	KBC 沖縄県観光専門学校	23	8	7	8	沖縄工業専門学校1号	24	14		10	琉球大学加藤ゼミ	30
3	6	4	沖繩キリスト教学院大学	68	9	12	12	琉球大学観光産業学科	43	15	2	11	県立芸大	46
4		15	沖繩国際大学社会文化学科	23	10	8	3	琉球大学留学センター	36	16		16	県立芸大	25
5		22	KBC 学園専修学校	47	11	10	10	KBC 学園IDA	26					
6		24	沖繩看護専門学校	102	12	9	4	とびこみ団体	20					

県内 特別支援学校

のべ11校 165人

No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数
1	5	6	鏡が丘特別支援学校・高等部 (浦添市)	13	5	12	8	城北中学校 若夏分校 (那覇市)	5	9	9	22	鏡が丘特別支援学校 (浦添市)	6
2	9	21	那覇特別支援学校・中学部 (那覇市)	21	6		14	当山小学校 特別支援学級 (浦添市)	15	10		23	沖繩県立沖繩ろう学校 (北中城)	7
3	10	19	大平特別支援学校 (浦添市)	41	7	2	9	大平特別支援学校高等部 久米島高校分教室(久米島町)	8	11	3	16	大名小学校若夏分校 (那覇市)	10
4	11	16	泡瀬特別支援学校 (沖繩市)	24	8		17	沖繩県立沖繩盲学校 (南風原町)	15					

県内 幼稚園・保育園・その他

のべ27団体 3人

No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数
1	5	10	城東幼稚園	104	10	8	17	学童塾 琉童	41	19	10	23	那覇市児童生徒課外交渉	21
2		17	天妃幼稚園	78	11		18	与那覇学童	27	20	11	1	第2モミル保育園	27
3	3	19	泊幼稚園	113	12		19	上山学童クラブ	36	21		9	与儀南保育園	36
4	6	22	あやめ保育園	46	13		23	西崎幼稚園	33	22	12	7	オキナワインターナショナルスクール	28
5	7	28	津嘉山学童クラブ	47	14		24	琉球ザウルス	37	23		14	すみれ保育園	25
6	8	11	与那覇保育園	54	15		25	東江区学童園	40	24		27	若狭児童クラブ	43
7			當間学童児童クラブ	45	16	9	11	金武町並里子ども会	132	25	2	22	みつわ保育園	18
8		16	おきなわキッズクラブ	69	17		24	壺屋児童クラブ	28	26	3	1	松島幼稚園	83
9		17	児童養護施設 青雲寮	29	18	10	19	村ナインターナショナルスクール	24	27		7	与儀南保育園	36

県外 小学校

のべ3校 212人

No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数
1	5	24	連合小学校(代表校兼久小学校) (鹿児島県)	44	2	10	25	和光鶴川小学校 (東京都)	79	3	2	8	横浜雙葉小学校 (神奈川県)	89

県外 中学校

のべ13校 1,262人

No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数
1	4	13	満濃中学校 (香川県)	155	6	5	18	明洋中学校 (和歌山県)	138	11	6	24	本宮中学校 (和歌山県)	29
2	5	11	多度中学校 (三重県)	54	7		21	玉寺中学校 (奈良県)	135	12	12	22	広島県立中央中学校 (広島県)	153
3			河合第一中学校 (奈良県)	69	8		25	東陽中学校 (和歌山県)	118	13	1	13	三次市立八次中学校 (広島県)	82
4			大森中学校 (秋田県)	57	9		29	へぐり中学校 (奈良県)	170					
5		17	鶴見橋中学校 (大坂府)	82	10	6	24	上芳養中学校 (和歌山県)	20					

県外 高校学校

のべ47校 7,147人

No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数
1	4	16	府中高等学校 (東京都)	230	17	10	14	聖隷クリストファー高等 学校 (静岡県)	67	33	12	8	川根高校 (静岡県)	67
2		28	国際基督教大学高等学校 (東京都)	262	18		19	横浜緑園総合高等学校 (神奈川県)	52	34			小山高等学校 (静岡県)	38
3	6	21	明法高等学校 (東京都)	155	19			ノートルダム清心高等学 校 (広島県)	194	35			保善高等学校 (東京都)	304
4		22	九州産業高等学校 (福岡県)	136	20			石川県立工業高等学校 (石川県)	39	36			富士宮東高校 (静岡県)	37
5		23	九州産業高等学校 (福岡県)	130	21		20	鎌倉女子大学高等学校 (神奈川県)	132	37		10	武蔵野北高等学校 (東京都)	251
6		24	九州産業高等学校 (福岡県)	160	22		27	横浜清風高等学校・1団 (神奈川県)	279	38		13	甲府第一高校 (山梨県)	293
7		25	九州産業高等学校 (福岡県)	140	23			横浜清風高等学校・2団 (神奈川県)	251	39			観音寺中央高校 (香川県)	203
8		26	九州産業高等学校 (福岡県)	143	24	11	6	船橋啓明高等学校 (千葉県)	82	40		14	塩山高等学校 (山梨県)	265
9	10	4	飯田長姫高等学校 (長野県)	39	25		8	屋代高等学校 (長野県)	168	41	1	13	府中東高等学校 (東京都)	321
10			土岐紅陵高等学校 (岐阜県)	115	26		18	大宮広陵高等学校 (埼玉県)	202	42		19	西成高等学校 (大坂府)	38
11		5	大藏高等学校 (神奈川県)	22	27	12	2	松伏高校1班 (埼玉県)	115	43			長久手高校 (愛知県)	23
12			浜松海の星高等学校 (静岡県)	29	28			松伏高校2班 (埼玉県)	119	44		22	小野田高等学校 (山口県)	160
13		6	長野吉田高等学校 (長野県)	292	29		3	宇都宮短期大学附属高校 (栃木県)	484	45	2	15	甲府工業高校 (山梨県)	20
14		7	金沢市立工業高等学校 B隊 (石川県)	117	30		4	宇都宮短期大学附属高校 (栃木県)	280	46	3	15	同志社国際高校 (京都府)	18
15			金沢市立工業高等学校 A隊 (石川県)	118	31		7	静岡西高等学校 (静岡県)	42	47		16	東京都立大学付属高校 (東京都)	228
16			旭高等学校 (神奈川県)	243	32			甲府西高等学校 (山梨県)	44					

県外 専門学校・大学

のべ5校 310人

No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数
1	4	17	昭和学院短期大学ヘルス ケア栄養学科 (千葉県)	90	3	9	7	福岡大学人文学部 歴史学科 (福岡県)	88	5	12	8	鹿児島大学法文学部 日本史教室 (鹿児島県)	21
2		21	自衛隊中央病院高等 看護学院(東京都)	90	4	11	9	京都造形芸術大学 (京都府)	21					

県外 特別支援学校

のべ1校 26人

No.	月	日	学校名	人数
1	11	11	中村養護学校 (高知県)	26

県外 幼稚園・保育園・その他

のべ2校 245人

No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数
1	8	3	ジュニアスタディーツア ー (福島県)	219	2	8	16	生品保育園 (群馬県)	26

県外 その他 (基地内含む)

のべ5団体 283人

No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数
1	5	6	Kubasaki High School	25	3	10	23	国立沖縄青少年交流の家 スリランカプロジェクト	35	5	2	3	キンザー小学校 (キャンピングカー)	91
2	9	30	りゅうきゅう中 学校 (嘉手納基地内)	108	4	2	2	In kyu(とびこみ)	24					

## Ⅱ 施設利用者統計

### 1. 月別施設利用集計

単位:件

項目	博物館				美術館							共有		その他			合計	
	特別展示室	企画展示室	博物館講座室	実習室	企画ギャラリー1	企画ギャラリー2	美術館講座室	県民アトリエ	子供アトリエ	スタジオ	県民ギャラリー	講堂	エントランス	3階回廊	屋外展示場	中庭		
2011	4月	0	0	12	6	1	1	23	1	2	2	5	11	0	0	2	0	66
	5月	0	0	10	9	0	0	21	3	1	6	5	9	0	0	0	0	64
	6月	1	0	17	12	0	0	26	14	1	6	5	9	0	0	0	0	91
	7月	1	1	20	23	0	0	26	7	5	8	5	11	3	0	1	0	111
	8月	1	1	15	9	0	0	25	5	3	5	4	14	2	0	0	0	84
	9月	0	0	23	9	0	0	20	2	2	0	8	12	0	0	0	0	76
	10月	0	0	21	11	0	0	29	2	2	16	9	11	9	7	3	0	120
	11月	0	0	27	11	1	1	27	10	4	14	8	21	0	0	3	0	127
2012	12月	0	0	16	7	2	2	21	11	5	9	9	19	0	0	0	0	101
	1月	0	0	19	10	0	0	19	8	2	11	7	8	3	0	0	0	87
	2月	0	0	22	11	0	0	28	12	10	15	6	19	0	1	0	0	124
合計	3	2	224	129	4	4	292	86	38	105	79	167	17	8	9	0	1,167	

### 2. 施設貸出内訳

【2011年4月】

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)
1	1~3	日~火	美術館企画ギャラリー1,2	茅原書藝展	14	9	土	講堂	シンポジウム恋人のように!!「東アジア」へ
2	1	金	美術館講座室	(有)レコ琉球 入社式	15	10	日	講堂	第19回森ピアノアカデミー発表会
3	2	土	美術館講座室	(株)KIO	16	12	火	博物館講座室	タマホーム 協力業者工程会議
4	2	土	講堂	茅原書藝会 講演会	17	12	火	美術館講座室	アザース(株) 講習会
5	3	日	美術館講座室	ミキワールド 食育会議	18	13	水	博物館実習室	ピオ倶楽部
6	5	火	美術館講座室	第17期経営計画発表会	19	13	水	美術館講座室	「相原滋弘のアジアビジネスセミナー～アジアビジネス成功のノウハウを会得する～」
7	6	水	美術館講座室	(有)レコ琉球 社員ミーティング	20	13~14	水~木	博物館講座室	システムウェアとオペレーティングシステム研究会
8	6~7	水~木	講堂	琉球ジャスコ 入社式リハーサル					
				琉球ジャスコ 入社式	21	14	木	美術館講座室	キックオフ会
9	7	木	美術館講座室	琉球ジャスコ 社内研修	22	15	金	博物館講座室	遺言の日記念事業「記念講演会」
10	8・23	金・土	博物館実習室	会社説明会及び勉強会	23	15	金	美術館講座室	遺言の日記念事業「無料法律相談会」
11	8~9	金~土	美術館講座室 博物館講座室	トリニティクラブ	24	16	土	博物館講座室	第32回沖縄建設マネジメントフォーラムセミナー
					25	16	土	県民アトリエ	(株)ギャラント事業説明会
12	9	土	美術館講座室	(株)サンパール 事業説明会	26	16	土	子供アトリエ	版画教室
13	9	土	美術館講座室	美術館のこれからのあり方を考える	27	16	土	美術館講座室	「生命の光」上映会

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)
28	16	土	スタジオ	水素と健康 講演会	40	22	金	美術館 講座室	コーヒーエネマご愛用者フォローアップ講習会
29	17	日	スタジオ		41	23	土	美術館 講座室	第39回日本血管外科学会相談コーナー
30	17	日	博物館 講座室	乳酸菌エキスの健康セミナー	42	23	土	講堂	第39回日本血管外科学会総会「市民公開講座」
31	17	日	美術館 講座室	沖縄県美術家連盟	43	24	日	博物館 講座室	保護者セミナー「スーパー記憶術」
32	19	火	博物館 実習室	山口啓メイクアップセミナー	44	24	日	講堂	ヤマハ音楽教育オリエンテーション
33	19	火	講堂		45	26	火	講堂	(株)沖縄ダイケン安全大会
34	19~20	火~水	美術館 屋外展示場 美術館 講座室	第39回日本血管外科学会総会	46	26~28	火~木	美術館 講座室	産学官地域連携グッジョブ事業地域 コーディネーター研修会
35	20	水	博物館 講座室					日本公文教育研究会 ゼミ	
36	21	木	博物館 講座室	りゅうせき商事 会社説明会				47	
37	21	木	美術館 講座室	キックオフ会	48	27	水	講堂	がんばろう とうほく「エクレールお菓子放浪記」緊急試写会
38	21・22	木・金	博物館 実習室	(株)サンパール 商品説明会	49	28	木	講堂	情報労連 2011 平和季観 4・28 平和行動
					50	29	金	博物館 講座室	県立美術館のありかたを考える
39	22	金	子供アトリエ	(株)サンリオ 面接	51	29	金	美術館 講座室	ミキワールド 食育会議

### 【2011年5月】

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)
1	4	水	美術館 講座室	琉球カイヤニ勉強会	17	15	日	博物館 実習室	アミノ酸についての勉強会
2	5	木	県民アトリエ	神色宇宙色～ひがわりアート～	18	15	日	講堂	DANTOTSU セミナー
3	6	金	博物館 実習室	プライムクラブ	19	17	火	博物館 実習室	紅型体験
4	6	金	博物館 実習室	アミノ酸についての勉強会	20	17	火	博物館 実習室	アミノ酸についての勉強会
5	6~7	金~土	美術館 講座室	トリニティクラブ	21	17	火	博物館 講座室	若手社員向けセミナー「新入社員の ためのビジネスマナーセミナー」
					22	17	火	美術館 講座室	タマホーム協力業者工程会議
6	7	土	美術館 講座室	琉球 Software(株) 採用試験会場	23	18	水	美術館 講座室	日本代協保険大学校セミナー
7	8	日	スタジオ	小澤氏講演会	24	18	水	講堂	博物館友の会 総会
8	8	日	美術館 講座室	ビューティシャン認定試験	25	19	木	博物館 実習室	久茂地公民館を語ろう
9	10	火	美術館 講座室	(株)EVER 講習会	26	19	木	博物館 講座室	フォローアップ倫理の集い
10	11	水	講堂	黒糖及び黒糖加工品の表示説明 会	27	19	木	美術館 講座室	キックオフ会
11	12	木	博物館 講座室	盛和塾 定例会	28	19	木	美術館 講座室	百沖実行委員会企画会議 #2
12	13	金	スタジオ	日建経営セミナー展示会	29	20	金	博物館 実習室	プライムクラブ
13	13	金	美術館 講座室	日建経営セミナー	30	20	金	博物館 講座室	エキスパートアライアンス(株)エー ジェント研修
14	14	土	博物館 実習室	事業説明会	31	20	金	美術館 講座室	コーヒーエネマご愛用者フォローア ップ講習会
15	14	土	スタジオ	芸術文化による地域創造連続講 座	32	20	金	講堂	5月理事長・勉強会「現代版躍奉行 ～平田大ーが目指す地平線」
16	14	土	県民アトリエ	琉球大学 会議	33	20	金	講堂	ジョイント20周年記念セミナー リハ ーサル

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)
34	21	土	スタジオ	「生命の光」上映会	45	25	水	スタジオ	タマホーム沖縄協力会 発足会
35	21	土	子供アトリエ	版画教室	46	26	木	博物館 講座室	琉球ガラスのブランド活動報告&メイドイン沖縄プロジェクト
36	21	土	講堂	シンポジウム:沖縄から環太平洋の環境文明史を考える	47	27	金	博物館 実習室	AIU 沖縄代理店会 総会
			博物館 講座室		48	27	金	博物館 講座室	平成年 23 度沖縄県文化協会定期総会
			美術館 講座室		49	27	金	美術館 講座室	沖縄県囲碁連盟 総会
37	21	土	美術館 講座室	世界の通信システムの未来・可能性	50	27	金	美術館 講座室	アミノ酸についての勉強会
38	22	日	博物館 講座室	環太平洋環境文明史研究会	51	28	土	スタジオ	東日本大震災県内避難者無料法律相談会
39	22	日	美術館 講座室	沖縄県美術家連盟 総会	52	28	土	県民アトリエ	年齢ミックス子供達のワークショップ
40	24	火	博物館 講座室	平成 23 年度産業廃棄物適正処理優良化研修	53	28	土	美術館 講座室	本田健教育講演会
41	24	火	美術館 講座室	ノボノルディスクファーマー 社内会議	54	28	土	講堂	happ 総会
42	24	火	美術館 講座室	すかいらく会議	55	29	日	講堂	講演会「じょうぶな子どもをつくる基本食」
43	24	火	講堂	ジョイント 20 周年記念セミナー	56	31	火	美術館 講座室	(株)ロアル 事業説明会
44	25	水	博物館 講座室	県立高等学校就業体験担当教諭向けビジネスマナー研修会					

### 【2011年6月】

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)
1	1・3・7・8・9・10・14・15・16・17・21・22・23・24		県民アトリエ	未就職卒業生就業体験授業	10	4	土	博物館 講座室	連合沖縄女性委員会 2011 学習会
					11	4	土	スタジオ	JOY 乳酸菌生産エキス講演会
					12	4	土	美術館 講座室	エンビジョニスト経営塾
					13	4	土	美術館 講座室	連合沖縄女性委員会 2011 学習会 託児室
2	1	水	博物館 講座室	平成 23 年度国保担当新任職員研修会	14	5	日	美術館 講座室	ミキ・ワールド
3	3・17・21		博物館 実習室	福利厚生サービス事業説明会	15	5	日	講堂	ドリームバンク 社長セミナー
					16	7	火	博物館 講座室	地デジ化等に関する研修会
					17	8	水	美術館 講座室	那覇第四民選委員・児童委員協議会 研修会
4	1	水	美術館 講座室	(有)レコ琉球 社員ミーティング	18	9	木	博物館 講座室	コーチングリーダーシップ
5	1	水	美術館 講座室	エキスパートグループ AG・代理店研修	19	9	木	美術館 講座室	キックオフ会
6	1	水	講堂	中川博迪 講演会	20	9	木	美術館 講座室	石川文明堂(株) 講演会および新製品説明会
7	2~3	木~金	博物館 講座室	(株)サンベール 事業説明会	21	9	木	美術館 講座室	阪急トラビックス国内旅行説明会
			美術館 講座室		23	10	金	博物館 実習室	アミノ酸についての勉強会
8	3	金	博物館 講座室	(株)ネットワーク 定例会議					
9	4	金	美術館 講座室	アミノ酸についての勉強会	24	10~11	金~土	美術館 講座室	トリニティクラブ説明会

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)
25	11	土	博物館 実習室	社内スタッフ研修及び会議	45	19	日	美術館 講座室	生活の発見会 学習会
26	12	日	博物館 講座室	アカデミックセミナー in 沖縄	46	19	日	美術館 講座室	世界の通信システムの未来・可能性
27	14	火	博物館 実習室	(株)サンク 事業説明会	47	20～24	月～金	博物館 特別展示室	第5回平和詩歌祭 2011 継承～ 海、空、花、記憶～
28	14	火	博物館 講座室	アミノ酸についての勉強会	48	21	火	博物館 講座室	平成24年度新営予算単価説明会
29	14	火	博物館 講座室	イオン琉球(株)採用選考試験	49	21	火	美術館 講座室	福働会総会・セミナー
30	14	火	美術館 講座室	タマホーム協力業者工程会議	50	22	水	講堂	米トレーサビリティ及び米の表示に 関する説明会
31	14～15	火～水	博物館 講座室 美術館 講座室	役職者テキスト研修会	51	22	水	博物館 講座室 講堂	新しい公共支援事業説明会
32	15・26	水・日	スタジオ	小沢氏講演会	52	23・26	木・日	博物館 実習室 博物館 実習室	アミノ酸についての勉強会
33	15	水	博物館 実習室	留学生との意見交換会					
34	15	水	博物館 講座室	「相原滋弘のアジアビジネスセ ミナー」～アジアビジネス成功のノ ウハウを会得する～	53	23	木	美術館 講座室	SWAI 社内会議
35	15	水	博物館 講座室	沖縄伝統音楽安富祖流伝承者 育成研修会	54	24	金	美術館 講座室	人事・賃金セミナー
36	15	水	美術館 講座室	サンパール講演会	55	24	金	講堂	劇艶おとな団旗揚げ公演リハーサ ル
37	15	水	美術館 講座室	沖縄少年会館を語る	56	24	金	講堂	明治安田生命沖縄支社 社員研修 会
38	16	木	美術館 講座室	(株)大城 マネージメント研究所 研修会	57	25	土	博物館 実習室	職員レク「漆喰シーサー作製」
					58	25	土	スタジオ	沖縄伝統木造規格化住宅開発検 討委員会
39	18	土	博物館 実習室	シナリー化粧品 ベーシックセ ミナー	59	25	土	美術館 講座室	メンタルヘルス講座
40	18	土	子供アトリエ	版画教室	60	25	土	美術館 講座室	(社)日本産業カウンセラー協会沖縄 支部 第8回通常支部総会
41	18	土	講堂	みずゞby ゆいー残さなければなら ないものがある伝えなければなら ないものがある	61	25	土	講堂	劇艶おとな団旗揚げ公演
42	19	日	博物館 実習室	スターシェアリング健康セミナー	62	26	日	博物館 講座室	トリムフーズ社員総会
43	19	日	博物館 講座室	秘書技能検定試験	63	26	日	スタジオ	メイクアップフォーラム
44	19	日	スタジオ	ロアル事業説明会	64	26	日	講堂	琉球フォトセッション 2011

【2011年7月】

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)
1	6	水	博物館 講座室	それぞれの企業におけるISOとの 上手なつきあい方	5	7	木	美術館 講座室	社員ミーティング
2	6	水	美術館 講座室	社員リーダー研修会	6	8	金	博物館 講座室	第3回定例研究協議会
3	6	水	講堂	デジタルコンテンツセミナー	7	8	金	美術館 講座室	トリニティクラブ
4	7	木	博物館 実習室	コーチングリーダーシップ	8	9	土	博物館 実習室	アミノ酸についての勉強会

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)
9	9	土	県民アトリエ	「沖縄から夢をかける 9 つの風船に願いをこめて」ワークショップ	32	17	日	博物館講座座室	ジョイ 勉強会
			子供アトリエ		33	17	日	講堂	ヒューマンバリューヘルスケア健康講演会
10	9	土	美術館講座室	加藤秀視氏 特別講演会	34	18	月	県民アトリエ	魔法のクリーム勉強会
11	9	土	講堂	おきなわ障がい者相談支援ネットワーク設立記念講演会	35	20	水	博物館講座室	「成果がでる 頭のいい営業の手順」セミナー
12	9～10	土～日	博物館講座室	琉球列島環境研究会	36	20	水	美術館講座室	平成 23 年度地域イメージ向上確立支援事業
			博物館講座室		37	20	水	講堂	レジェンドベンチャーコンベンション IN 沖縄
13	9～10	土～日	スタジオ	沖縄人材クラスタ研究会	38	21	木	美術館講座室	キックオフ会
14	10	日	県民アトリエ	(株)ロアル 勉強会	39	21	木	美術館講座室	社内会議
15	10	日	美術館講座室	ミキワールド 食育会議	40	21～22	木～金	博物館講座室	人事労務管理制度・企業メンター制度導入セミナー
16	10	日	講堂	枝廣淳子氏講演会『見直そう！私のライフスタイル』	41	22	金	美術館講座室	全国福利厚生共済会 説明会
17	12	火	博物館講座室	福利厚生共済会 勉強会	42	22	金	美術館講座室	第 3 回 沖縄区会総会
18	12	火	スタジオ	AIU 保険会社 オートセミナー	43	22	金	講堂	平成 23 年度消防職員安全衛生研修会 消防職員惨事ストレス研修会
19	12	火	美術館講座室	タマホーム協力業者工程会議	44	23	土	博物館講座室	平成 23 年度 沖縄工業高等専門学校 説明会
20	13	水	博物館講座室	バイオマス利用研究報告会—南西諸島でのバイオマス利用へ向けて	45	23	土	県民アトリエ	夏休みワークショップ「何でも材料、何でも作るう」
21	13	水	博物館講座室	エッセンシャル(ハーブ)オイル講演会				子供アトリエ	
22	14	木	博物館実習室	パッセジャータ・ヴォーキングレッスン	46	23	土	美術館講座室	国語会議
23	14	木	博物館講座室	日本代協 認定保険代理士 更新セミナー・更新試験	47	23	土	美術館講座室	アイリオ生命保険(株)わくわくセミナー
24	14	木	美術館講座室	イオン琉球(株)社内登用 M2 筆記試験	48	23	土	講堂	琉球舞踊発表会リハーサル
25	15	金	博物館実習室	合同就職説明会及び面接会	49	24	日	講堂	玉城流いずみ会おもろまち支部道場第 2 回学習発表会
			博物館講座室		50	24	日	県民アトリエ	琉球舞踊発表会 控室
			美術館講座室		51	24	日	スタジオ	アミノ酸についての勉強会
26	15	金	県民アトリエ	沖縄県委託事業グッジョブおきなわ推進事業 7 月度全体会議	52	24	日	美術館講座室	コーヒーエネマご愛用者フォローアップ講習会
			子供アトリエ		53	26	火	美術館講座室	(株)コメリ会社説明会・採用試験
27	15	金	講堂	平成 23 年度「沖縄企業人材活性化事業」説明会	54	26～27	火～水	スタジオ	タマホーム沖縄 勉強会
28	16	土	博物館実習室	サンベール 講演会	55	27	水	博物館実習室	アミノ酸についての勉強会
29	16	土	子供アトリエ	版画教室	56	27	水	博物館講座室	日本公文教育研究会 ゼミ
30	16	土	美術館講座室	家庭倫理の会沖縄中央	57	27	水	美術館講座室	e-ラーニング教育の未来
31	17	日	美術館屋外展示場	第 1 回デンサー節大会	58	28	木	博物館講座室	盛和塾沖縄 勉強会

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)
59	28	木	博物館 講座室	雇用助成金等の活用方法	65	29	金	美術館 講座室	犯罪被害者等支援市町村会議
60	28	木	美術館 講座室	世界の通信システムの未来・可能性	66	30	土	博物館 講座室	芸術文化による地域創造連続講座
61	28	木	美術館 講座室	タマホームパートナー説明会	67	30	土	スタジオ	放射性物質の危険性
62	29	金	博物館 講座室	平成 23 年度業務用ヒートポンプ給湯システム普及促進セミナー	68	30	土	講堂	市民公開講座:急増する「前立腺がん」～知っておきたい診断と治療～
63	29	金	スタジオ	平成 23 年度地域イメージ向上確立支援事業	69	30～31	土～日	美術館 講座室	AI メンバー会研修会
64	29	金	美術館 講座室	ミキグループ本社営業所会議	70	31	日	博物館 講座室	琉球大学亜熱帯生物圏研究センター

【2011年8月】

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)
1	2	火	美術館 講座室	那覇・浦添糖尿病科メディカル糖尿病セミナー	20	17	水	美術館 講座室	家庭倫理の会 研修会
2	3	水	美術館 講座室	クイーンズヘナ愛用者セミナー	21	17	水	博物館 講座室	「相原滋弘のアジアビジネスセミナー」～アジアビジネス成功のノウハウを会得する～
3	3	水	講堂	葉っぱビジネスから学ぶ若年者雇用のありかた「横石知二氏講演会」	22	17	水	博物館 実習室	全国福利厚生共済会 説明会
4	6	土	講堂	おもろまちの夜に音楽を	23	18	木	博物館 講座室	沖縄県軍用地転用促進基地問題協議会 幹事会
5	7	日	博物館 実習室	ピアノ倶楽部 勉強会	24	18	木	美術館 講座室	キックオフ会
6	7	日	美術館 講座室	ミキ・ワールド	25	18	木	美術館 講座室	国語会議
7	7	日	美術館 講座室	フリーベル天久新都心第2 管理組合 総会	26	18	木	講堂	平成 23 年度中央保健所ゲートキーパー養成研修会
8	9	火	博物館 講座室	教員向け夏季セミナー	27	19	金	博物館 実習室	(株)ロアル事業説明会
9	9	火	美術館 講座室	タマホーム 会議	28	19	金	県民アトリエ	アミノ酸についての勉強会
10	9	火	講堂	「Twitter×Facebook」ビジネス活用セミナー	29	19	金	博物館 講座室	親子で学ぶ楽しい囲碁入門教室
11	10	水	博物館 実習室	全国福利厚生共済会 説明会	30	19	金	美術館 講座室	研究開発者による商品説明会「美と健康への近道」
12	10	水	スタジオ	(株)サイプレスソリューションズ採用面接	31	20	土	博物館 講座室	博物館文化講座「工芸大国関連イベント」理事会
13	10	水	美術館 講座室	サンパール 講演会	32	20	土	美術館 講座室	沖縄少年会館を語る会 会議
14	10	水	美術館 講座室	沖縄少年会館を語る会 会議	33	20	土	美術館 講座室	冲通建労組第 23 回定期大会
15	10～11	水～木	博物館 講座室	人事労務管理制度・企業メンター制度導入セミナー	34	20～21	土～日	博物館 実習室	韓国美容協会 勉強会
16	11	木	美術館 講座室	盛和塾 勉強会				県民アトリエ	
17	11・25	木	美術館 講座室	平成 23 年度地域イメージ向上確立支援事業に係る講座	35	21	日	博物館 講座室	七田教育がよくわかるセミナー
18	12	金	博物館 講座室	沖縄県委託事業グッジョブおきなわ推進事業 8 月度全体会議	36	21	日	スタジオ	おきなわ水素研究会 健康講演会
19	16	火	講堂	沖縄県特別支援学校 中学部総合文化祭 表彰式	37	21・24	日・水	講堂	沖縄教育カレッジ 夏季特別講義
20	16	火	博物館 実習室	家庭倫理の会 研修会	38	23	火	スタジオ	ゲイングループ採用面接

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)
39	23	火	美術館 講座室	トリニティークラブの説明会	51	27	土	博物館 講座室	MVC 商品説明会
40	23	火	講堂	平成 23 年度中央保健所ゲートキーパー養成研修会	52	27	土	子供アトリエ	版画教室
41	24	水	美術館 講座室	キャリアパス人事賃金セミナー	53	27	土	美術館 講座室	芸術文化連続講座
42	24	水	美術館 講座室	第 4 回 沖縄区会 総会	54	27	土	講堂	真の家庭セミナー永遠の夫婦愛
43	25	木	スタジオ	(株)システムアドフォース採用面接	55	28	日	博物館 実習室	救急災害フォーラム
44	25	木	県民アトリエ	アミノ酸についての勉強会				博物館 講座室	
45	25	木	博物館 講座室	人事労務管理制度・企業メンター制度導入セミナー				講堂	
46	26	金	博物館 講座室	タマホーム沖縄(株) 業者研修	56	30	火	博物館 講座室	電力負荷平準化・省エネ社会実現に向けたヒートポンプ蓄熱システムセミナー
47	26	金	博物館 実習室	しんかぬちやくらぶ リーダー会議	57	30	火	美術館 講座室	第 35 期定期総会
48	26	金	スタジオ	沖縄農林水産関連企業環境対策協議会 総会	58	31	水	博物館 実習室	エイボンプロダクツ セミナー
49	26	金	美術館 講座室	世界の通信システムの未来・可能性	59	31	水	美術館 講座室	(有)レコ琉球 社員ミーティング
50	26	金	美術館 講座室						

【2011 年 9 月】

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)
1	1	木	美術館 講座室	エージェントの説明会	15	7	水	博物館 実習室	全国福利厚生共済会
2	2	金	博物館 実習室	キャンノンシステム会社 インターネット不動産	16	7	水	博物館 講座室	9.7 平和講演会
3	2	金	博物館 講座室	第 16 回就職・生活支援セミナー	17	7	水	博物館 講座室	植物工場 ICT 事業総括シンポジウム「地デジと ICT でつくるみんなのデータファーム」
4	2	金	美術館 講座室	ガイアの水 135 説明会	18	8	木	博物館 講座室	第 25 回 沖縄県トータルリビングショウ 説明会
5	2	金	講堂	元気プロジェクト事業説明会	19	8	木	美術館 講座室	(有)レコ琉球 社員ミーティング
6	3	土	博物館 実習室	かたかむな歴講座	20	9	金	博物館 講座室	沖縄建設マネジメントフォーラム
7	3	土	博物館 講座室	第 5 回 尚友会 定期総会	21	9	金	美術館 講座室	アイリオ生命保険(株)わくわくセミナー
8	3	土	博物館 講座室	超ミネラルがおきなわの健康を守る	22	9	金	美術館 講座室	トリニティークラブ
9	3	土	講堂	うつ病の市民公開講座	23	10	土	美術館 講座室	
10	4	日	博物館 講座室	くしの日 美ら姿 結い遊び	24	10	土	博物館 実習室	長期臨床実習指導者会議
11	4	日	県民アトリエ	アミノ酸についての勉強会	25	10	土	博物館 講座室	臨床実習指導者会議
12	4	日	美術館 講座室	(ミキ・ワールド(株))	26	10	土	博物館 講座室	琉球大学公開講座「市民ランナーのためのランニング講座」
13	4	日	講堂	がん代替療法実践セミナー2011	27	10	土	博物館 講座室	しんかぬちやくらぶ野中順治先生講演会
14	6	火	美術館 講座室	サンパール	28	10	土	美術館 講座室	ダイエツフォーラム

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)
29	10	土	講堂	上映会&シンポジウム「八月十五夜の茶屋」の変遷—小説から演劇、映画の受容まで	48	22	木	講堂	新しい公共支援事業説明会
30	13	火	博物館講座室	誰も教えてくれなかった資産運用のお話	49	23	金	子供アトリエ	版画教室
31	13	火	美術館講座室	(株)タマホーム沖縄 会議	50	23	金	美術館講座室	コーヒーエネまご愛者フォローアップ講習会
32	14	水	博物館講座室	第2回 情報セキュリティ普及・啓発セミナー	51	24	土	博物館実習室	(株)ロアル 事業説明会
33	14	水	講堂	ナチュラ琉球 リハーサル	52	24	土	美術館講座室	ポートフォリオレビュー
34	15	木	美術館講座室	イオン琉球(株) 社内登用筆記試験	53	25	日	博物館講座室	Creators night vol.4 「神風式lite-okinawa」
35	15	木	美術館講座室	(株)グローバル 美顔器商品説明会	54	25	日	講堂	沖縄子ども環境シンポジウム
36	15	木	博物館講座室	人事労務管理制度・企業メンター制度導入セミナー	55	27	火	美術館講座室	アミノ酸についての勉強会
37	16	金	博物館講座室		56	27	火	博物館講座室	若手社員向けセミナー 1日目
38	16	金	博物館実習室	exaアビィーフード 食育セミナー	57	27	火	講堂	省エネルギーセミナー
39	16	金	美術館講座室	アミノ酸についての勉強会	58	28	水	講堂	第13回防衛セミナー 東日本大震災 在沖自衛隊の活動
40	16	金	講堂	doTERRA ジャパン サポートプラン 2011	59	28	水	博物館講座室	若手社員向けセミナー 2日目
41	18	日	県民アトリエ	全国こども図画コンクール 表彰式	60	28	水	美術館講座室	次世代半導体事業説明会
42	18	日	子供アトリエ		61	29	木	美術館講座室	
43	19	月	博物館実習室	魔法のクリーム	62	29	木	博物館講座室	若手社員向けセミナー 3日目
44	19	月	博物館講座室	学びの会	63	30	金	博物館実習室	合同就職説明会及び面接会
45	21	水	博物館実習室	早川周作セミナー『学校では絶対教えてくれないお金の授業』	64	30	金	博物館講座室	
46	21	水	博物館講座室	アイリオ生命保険(株)代理店研修	65	30	金	美術館講座室	
47	21	水	美術館講座室	全国福利厚生共済会	66	30	金	講堂	

【2011年10月】

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)
1	1	土	美術館講座室	happ 理事会	8	6	木	美術館講座室	イオン琉球(株) 社内登用筆記試験J3
2	2・30	日	美術館講座室	食の勉強会	9	6	木	博物館講座室	(株)求人おきなわ 24年度 入社試験
3	4	火	博物館講座室	りゅうせき商事(株)ワントップサービスによる新しい住宅販売のご提案	10	6	木	美術館講座室	沖縄県委託事業グッジョブおきなわ推進事業全体会議
4	5	水	博物館講座室	日本公文教育研究会 ゼミ	11	6・8	木・土	博物館実習室	早川周作セミナー
5	5	水	美術館講座室	(有)レコ琉球 社員ミーティング	12	7・8・10	金・土・日	博物館実習室	アミノ酸についての勉強会
6	6・8・9・15・22・23	木・土・日	3階ホワイエ	日本の伝統美と技の世界				美術館講座室	
7	6	木	博物館講座室	イオン琉球(株) 社内登用筆記試験J3	13	7	金	博物館講座室	キャリアセンター—般求職者対象 就職ガイダンス『会社選びのいろは』

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)
14	7	金	博物館 講座室	「地域農産物に指向したソーシャルマーケティングと地域の健康再生・創造ネットワークの可能性」	37	14～21	金・土・日・月・火・水・木	エントランス ホール	緑化祭コンクールパネル展
15	7	金	美術館 講座室	第63回 日本皮膚科学会西部支部学術大会	38	15	土	美術館 講座室	第5回世界のウチナーンチュ大会
16	7	金	美術館 講座室	トリニティクラブ説明会	39	15・16	土・日	美術館 屋外展示場	アートde博・美まつり
17	7	金	講堂	外国人観光局着地型観光メニュー開発等支援事業	40	15・23・29	土・金・木	スタジオ	実践型セミナー
18	8	土	博物館 講座室	海に沈んだ歴史のカケラ～南西諸島の水中文化遺産の世界～				美術館 講座室	
19	8・9	土・日	スタジオ	那覇情報システム専門学校デジタルクリエイター科作品展	41	16・22・23・30	土・日	スタジオ	中脈ジャパン(株) 研修会
20	9	日	講堂	第63回 日本皮膚科学会西部支部学術大会	42	18	火	博物館 講座室	キャリアセンター ジョブチャンネル
21	9・21	日	美術館 講座室	役職者テキスト研修	43	19	水	講堂	平成23年度那覇市管理職研修
			博物館 講座室		44	19～21	水～金	美術館 講座室	ITOP 講座 第1回 OMMI Level2 Practitioners
22	10	月	博物館 講座室	MVC インターネット講習会				博物館 講座室	
23	10	月	県民アトリエ	(株)グローバル化粧品技術研修	45	20	木	美術館 講座室	アミノ酸についての勉強会
			子供アトリエ					博物館 実習室	
24	10	月	講堂	エーザイ(株)骨と関節の日 運動器の10年世界運動セミナー	46	20	木	スタジオ	全管協 新々委員会定例会
25	11	火	3階ホワイエ		47	20	木	美術館 講座室	キックオフ会
26	12	水	博物館 実習室	全国福利厚生会	48	20	木	講堂	第2回「21世紀を担う、沖縄の若者達へ」西村眞悟氏沖縄講演会
27	12	水	スタジオ	ファスティングマイスター研修	49	21	金	スタジオ	地域型 住宅づくり支援 検討委員会(キャンセル)
28	12	水	美術館 講座室	タマホーム沖縄(株)協力会工程会議	50	20・21	木・金	講堂	沖縄都市緑化祭in那覇
29	13	木	博物館 講座室	オイドン社 セミナー				博物館 講座室	
30	13	木	県民アトリエ	イオン琉球(株) 目標達成研修会	51	22	土	博物館 講座室	第47回全国糖尿病週間市民公開講座
31	13	木	美術館 講座室	盛和塾 沖縄 定例会	52	22	土	美術館 講座室	国語会議
32	13・14	木・金	スタジオ	琉球芸能の源流を探る Vol.3 中秋の演	53	22	土	美術館 講座室	AIメンバー会 沖縄ブロック研修会
			講堂		54	22	土	美術館 講座室	しんかぬちゃ〜クラブ一般セミナー
			エントランス ホール		55	23	日	博物館 講座室	七田教育がよくわかるセミナー考える力を身につける〜思考遊びと図形〜
33	13・14・25・26	木・金 火・水	博物館 講座室	グットライフ(株) 次世代半導体事業説明会	56	25	火	博物館 実習室	(株)カードワン 事業説明会
			美術館 講座室		57	25	火	スタジオ	(株)ロアル 事業説明会
34	14	金	博物館 実習室	JAIFA ソニー沖縄 秋の研修会	58	26	水	スタジオ	(株)カードワン 事業説明会
35	14	金	博物館 講座室	第5回世界のウチナーンチュ大会	59	27	木	博物館 実習室	不動産会社がネット集客で儲かり続ける方法
36	14	金	美術館 講座室	平成23年度アグリチャレンジ6次産業化支援事業講座	60	27	木	博物館 講座室	「島嶼学からみた琉球弧-日本・国際島嶼学発祥の地で考える-」

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)
61	27	木	スタジオ	阪急トラピックス 海外旅行説明会	66	29	土	スタジオ	ビジョントレーニング指導者集中講座
			美術館 講座室		67	29	土	子供アトリエ	版画講座
62	28	金	講堂	子どもの発達に役立つビジョントレーニング説明会	68	29	土	講堂	会計士が教える貯蓄と投資のセンスアップ
63	29	土	博物館 講座室	第7回 沖縄建設マネジメントフォーラムセミナー	69	30	日	博物館 実習室	スペースシリカ商品説明会
64	29	土	博物館 実習室	豊見城中央病院 Pink Ribbon Plus 2011	70	30	日	博物館 実習室	沖縄少年会館を活用を考える市民会議
			美術館 屋外展示場		71	30	日	博物館 講座室	エイボン ドリーム ミーティング
65	29	土	博物館 講座室	しんかぬちゃ〜クラブ野中順二博士講演	72	30	日	美術館 講座室	フリーバル天久新都管理組合 総会

【2011年11月】

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)
1	1・2	火・水	美術館 屋外展示場	日本臨床麻酔学会第31回大会	19	8	火	博物館 実習室	沖縄県損害保険代理業協会 会員向けオリエンテーション
			博物館 講座室		20	8	火	美術館 講座室	タマホーム沖縄(株)協力会工種会議
2	1	火	美術館 講座室	(有)レコ琉球 社員ミーティング	21	8・9・24	火・水・木	美術館 講座室	4DS 説明会
3	2	水	博物館 実習室	丸正印刷(株) ネット社会に対応するための新たな 宣伝商法の会議				博物館 講座室	
			講堂		22	9	水	講堂	平成 23 年度精神障害者リハビリテーションフォーラム
4	2	水	博物館 講座室	駐留軍用地跡地利用に関する市 町村支援事業情報交換会 第 2 回	23	9	水	博物館 実習室	(株)カードワン VISAカード事業説明 会
			24		10	木	博物館 実習室		
5	2	水	スタジオ	NHN Service Technology(株) 採用 試験会場	25	10	木	美術館 講座室	盛和塾 沖縄 キックオフ会
6	3・8・20	木・火・日	美術館 講座室	アミノ酸についての勉強会	26	11	金	博物館 実習室	ノボノルディスクファーマー(株) 社内 会議
			県民アトリエ		27	11	金	博物館 講座室	沖縄食品品質管理研究会 平成 23 年度 第 3 回研修会
7	3	木	美術館 講座室	「中高生向けの授業・人類学のテ ーマをどのように扱うか」	28	11	金	博物館 講座室	家庭倫理の会那覇市 役職者テキスト 研修
8	3	木	講堂	ヤマハ音楽教室新入生オリエン テーション	29	11	金	美術館 講座室	金城達也税理士事務所 TKC 経営 支援セミナー2011
9	3~6	木~日	博物館 実習室	第 65 回日本人類学会事務局 控 室	30	11	金	美術館 講座室	全管協 IT セミナー
10	3~6	木~日	講堂	第 65 回日本人類学会大会 A 会 場	31	11	金	講堂	温暖化対策に寄与する建築環境計画 の最近の取組み
11	4~6	金~日	博物館 講座室	第 65 回日本人類学会大会 B 会 場	32	11・12		美術館 講座室	リゾネット トリニティクラブ説明会
12	4~6	金~日	美術館 講座室	第 65 回日本人類学会大会 C 会 場	33	12	土	博物館 講座室	首里城文化講演会「琉球の漆工藝」を 語る
13	5	土	博物館 屋外展示場	第 65 回日本人類学会パーティー 会場	34	12	土	博物館 講座室	がん治療の鍵セミナー
14	5	土	県民アトリエ	(有)グローバル 面接会場	35	12	土	スタジオ	日本税法学会 九州・沖縄地区合同 研究会
15	6	日	県民アトリエ	おきなわ水素研究会 日本メロ ポリタン事業説明会	36	12	土	県民アトリエ	(有)グローバル 面接会場
16	6・26	日・土	スタジオ	中脈ジャパン(株) 研修会	37	12	土	子供アトリエ	(株)イーグルテクノジャパン 事業説 明会
17	8	火	博物館 講座室	沖縄弁護士会 無料法律相談会	38	12	土	講堂	第22回ピアノ発表会
18	8	火	講堂	沖縄弁護士会 講談で学ぶ成年 後見制度	39	13・27	日	スタジオ	みんなで考える支援のあり方

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)
40	15	火	博物館 講座室	税理士会 無料相談会	62	23	水	博物館 講座室	うないフェスティバル関連イベント ク&ドキュメンタリー映画上映会
41	15	火	講堂	税理士会 税にかんする講演会	63	24	木	博物館 講座室	職場の人事労務と安全衛生の基本
42	15	火	美術館 講座室	若手社員向けセミナー「内定者の ためのビジネスマナーセミナー」	64	24	木	美術館 講座室	日本損害保険代理業協会 保険大学 校セミナー
43	15	火	講堂	第8回 環境衛生シンポジウム	65	24	木	講堂	那覇市職員研修
44	15~20	火~日	スタジオ	ダイアナ3Dボディスキャナ体験イ ベント	65	24	木	講堂	那覇市職員研修
45	16	水	博物館 講座室	第2回 Job チャンネル	66	24	木	講堂	沖縄税理士会北那覇支部 年末調整 研修会
46	16・17	水・木	美術館 講座室	IJBS 様 「状況対応能力セミナー 」	67	25	金	博物館 実習室	合同就職説明会及び面接会
47	17	木	博物館 講座室	琉球銀行 医療介護経営セミナ ー				博物館 講座室	
48	17	木	講堂	いずみ病院 和泉会芸能研修会				美術館 講座室	
49	17	木	講堂	地域生活支援 講演会	68	25	金	スタジオ	サンパール講演会
50	18	金	博物館 講座室	九州地域国立学校財務部課長 会議	69	25	金	講堂	平成23年度犯罪被害者支援講演会
51	18	金	美術館 講座室	沖縄県委託事業グッジョブおきな わ推進事業全体会議	70	26	土	博物館 講座室	知らないで損するお金の話特別企画 講演
52	18	金	美術館 講座室	那覇地区推進委員会	71	26	土	講堂	平成23年度児童虐待防止推進講演 会
53	18	金	講堂	~べてるの家からの実践報告~	72	26	土	県民アトリエ	(株)ロアル 会議
54	18	金	博物館 講座室	The 12th symposium on chinese Dietary culture 設営	73	26	土	美術館 講座室	コーヒーエネマご愛者フォローアップ 講習会
	19	土		The 12th symposium on chinese Dietary culture 1日目	74	27	日	博物館 講座室	ミキグループ本社営業所会議
	20	日		The 12th symposium on chinese Dietary culture 2日目	75	27	日	美術館 講座室	(株)みたのクリエイティブ決算報告会
55	19	土	博物館 実習室	コンフィデンスセミナー	76	27	日	美術館 講座室	100万ドルクラブ第2回セミナー
56	19	土	県民アトリエ	happ 理事会	77	27	日	講堂	第3回オカリナの集いおとだまコンサ ート
57	19	土	県民アトリエ	(有)グローバル 面接会場	78	29	火	博物館 講座室	新しい中古住宅仲介サービスの全貌
58	19	土	子供アトリエ	版画講座	79	29	火	スタジオ	FXトレードの説明会
59	20	日	講堂	ドキュメンタリー映画「日本よ永遠 なれ」上映会	80	29	火	美術館 講座室	全管協 IT セミナー
60	22	火	美術館 講座室	日本損害保険代理業協会 保険 大学校セミナー	81	29	火	美術館 講座室	ライフバンテージ アンチエイジング
61	23	水	博物館 講座室	ISI 活用セミナー	82	30	水	博物館 講座室	(有)レコ琉球 社員ミーティング

【2011年12月】

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)
1	1	木	博物館 講座室	(株)カードワン カード説明会	7	4	日	博物館 講座室	NPO法人福祉総合機構 第7回 社 会法人会計簿記試験
2	1	木	美術館 講座室	(株)大城マネジメント研究所 人 事・賃金セミナー	8	4	日	講堂	(社)久米国鼎会 シンポジウム「冊封 使関係」
3	2	金	美術館 講座室	行政書士会 全国研修	9	6	火	博物館 実習室	(株)バイオリサーチ 健康食の説明会
4	3	土	博物館 講座室	芸術文化交流アジア協会 12・3 原発フォーラム・シンポジウ ム	10	6	火	美術館 講座室	タマホーム沖縄(株)協力会工種会議
			県民アトリエ		11	6	火	講堂	大瀧真三朗税理士事務所 経営者セ ミナー2011
			講堂		12	7	水	博物館 講座室	家庭倫理の会那覇市 心境向上会
5	3	土	子供アトリエ	グローバル 面接会場	13	7	水	県民アトリエ	写真展「眼の記憶」実行委員会 会議
6	3・10・24	土	スタジオ	中脈ジャパン 研修会	14	7	水	美術館 講座室	「NHK 沖縄放送会館 建物維持管理 業務」入札

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)
15	7	水	講堂	人権擁護委員制度 40 周年記念事業パネルディスカッション	46	15	木	博物館 講座室	阪急トラビックス海外旅行説明会
16	7	水	講堂	沖縄情報通信事務所懇談会 リハーサル	47	15	木	美術館 講座室	盛和塾 キックオフ会
17	7・17	水・土	美術館 講座室	フュージョンセミナー	48	15	木	美術館 講座室	(有)レコ琉球 社員ミーティング
18	8	木	博物館 講座室	第3回 Job チャンネル	49	16	金	美術館 講座室	エイズキャンペーン2011 人権フォーラム in 那覇 1
19	8	木	スタジオ	サンベール講演会				講堂	
20	8	木	県民アトリエ	沖縄ミロク会計人会「第4回役員会」	50	16~18	金~日	県民アトリエ	創元会 沖縄支部 実技研修会
21	8	木	美術館 講座室	(株)大城マネジメント研究所 人事・賃金セミナー				子供アトリエ	
22	8	木	講堂	再生可能エネルギーの固定価格買い取り制度説明会	51	17	土	博物館 実習室	人生いろいろ談笑会
23	8	木	講堂	シンポジウム「いま、沖縄の子どもは守られているか？」	52	17~18	土~日	博物館 講座室	育英義塾教員養成学院明星大学沖縄学習センター
24	8	木	講堂	沖縄デジタル映像祭りリハーサル	53	18	日	博物館 実習室	IPS コスメティック 説明会
25	8・9	木・金	博物館 講座室	第4回 支援機関指導員研修	54	18	日	美術館 講座室	第28回未来の科学の夢絵画展
26	9	金	美術館 講座室	沖縄県委託事業グッジョブおきなわ推進事業 12 月度全体会議	55	18	日	美術館 講座室	(株)SJ 福祉関係勉強会
27	9	金	講堂	沖縄デジタル映像祭 2011	56	20	火	博物館 実習室	(株)バイオリサーチ Dr 赤ひげこと加藤明氏びよる講演会
28	9	金	講堂	フルーツのメリークリスマス	57	20	火	博物館 講座室	ヨガに学ぶ心の強化法
29	10~19	土~月	美術館企画 ギャラリー	第3回 かりゆし美術展	58	20	火	県民アトリエ	(株)ロアル 勉強会
30	10	土	博物館 講座室	(有)ソーシャルアライアンス琉球南原竜樹講演会	59	20	火	美術館 講座室	アミノ酸についての勉強会
31	10	土	子供アトリエ	版画講座	60	20~21	火~水	スタジオ	ライフバンテージ アンチエイジングの勉強会
32	10	土	美術館 講座室	国語会議	61	21	水	博物館 実習室	「さい帯血」先進医療への取得セミナー
33	10	土	博物館 実習室	仙台・沖縄ブリッチ交流会/ブリッジ無料体験教室	62	21	水	博物館 講座室	沖縄建設マネジメントフォーラム
34	11	日	博物館 実習室		63	21	水	県民アトリエ	写真展「記憶の眼」実行委員会 写真の選定
35	11	日	博物館 講座室	七田教育がよくわかるセミナー「思いを伝える力」	64	21	水	美術館 講座室	NTT 労働組合分会役員会議
36	11	日	スタジオ	「どっとこむ」サイト勉強会	65	22	木	スタジオ	バ・ランス 事業説明会
37	11	日	美術館 講座室	クラブ対抗フォト合戦 決勝選	66	22	木	美術館 講座室	電子情報通信学会研究会
38	11	日	講堂	文教ミュージックサロン クリスマスコンサート	67	22	木	講堂	飲酒運転根絶講習会
39	13	火	県民アトリエ	写真展「記憶の眠」実行委員会写真選定作業	68	23	金	博物館 講座室	シンポジウム「言語接触から見た前近代の琉球社会」
40	13	火	美術館 講座室	TOUGEIOKINAWA「うざやあ」展覧会合同ミーティング	69	23	金	県民アトリエ	グローバル 面接会場
41	13~14	火~水	講堂	H23 かりゆし美術展	70	24	土	講堂	JIA 建築展講演会
42	14	水	博物館 講座室	沖縄ものづくり事業化支援プロジェクトビジネスプランオーディション	71	25	日	講堂	クリスマスコンサート
43	14	水	スタジオ	アミノ酸についての勉強会	72	27	火	県民アトリエ	happ 粘土アニメを作ろう
44	14	水	美術館 講座室	インテンションエネジー	73	27	火	美術館 講座室	アミノ酸についての勉強会
45	14~15	水~木	講堂	DFS Journey IV					

【2012年1月】

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)
1	6~7	金~土	県民アトリエ	ライフバンテージ アンチエイジングの勉強会	26	15	日	子供アトリエ	ピーズーアクセサリ講座
			スタジオ		27	17	火	スタジオ	インターネットの勉強会
2	7	土	博物館講座室	琉球大学国際研究所 琉球絵図研究セミナー	28	17	火	美術館講座室	インテンションエナジー
3	7	土	博物館講座室	電気自動車1日乗車体験 事前説明会1日目	29	18	水	博物館実習室	(株)アイエヌジーアットマーク沖縄 MMW九州勉強会in沖縄
4	7	土	県民アトリエ	(株)ヒューマン&アソシエイツ沖縄 藤井アカデミー	30	18	水	博物館講座室	沖縄税理士会北那覇支部 確定申告研修会
5	7~8	土~日	美術館講座室	(社)日本作業療法士協会認定作業療法士習得研修「研究法」	31	18	水	スタジオ	(株)ロアル 事業説明会
6	7~9	土~月	博物館実習室	美術教育ワークショップ	32	18	水	スタジオ	プラストオブ(株)後藤克夫先生も講演会
			博物館講座室		33	18	水	県民アトリエ	(株)カードワン VISA カードの説明会
			エントランス		34	18	水	美術館講座室	比嘉孝明税理士事務所 新春経営者セミナー
7	8・21		スタジオ	フュージョンセミナー	35	19	木	博物館講座室	全管協共済会 少額短期保険研修会
8	8	日	博物館講座室	チュチェ思想と世界の自主化に関するセミナー	36	19	木	スタジオ	(株)バイオリサーチ 加藤明博士による健康講座
9	9	月	美術館講座室	ミキ・ワールド沖縄 食の勉強会	37	19	木	県民アトリエ	ビオ倶頼部 アミノ酸について
10	11	水	博物館講座室	日本公文教育研究会 ゼミ	38	19	木	美術館講座室	特別講演「職場からメンタルヘルス不調者を出さないために」
11	11	水	美術館講座室	(株)エヌティエイチ クイーンズヘナ愛用者セミナー	39	19	木	美術館講座室	阪急交通社 海外旅行説明会
12	11	水	講堂	日本公文教育研究会 新春講座	40	19	木	講堂	那覇市役所 平成 23 年度監督者等特別研修
13	12	木	博物館講座室	イオン琉球(株) 2012 年度 方針発表会及び取締役会	41	20	金	博物館実習室	doTERA エssenシャルオイル講演会
			講堂		42	20	金	スタジオ	タマホーム沖縄 協力会社会議
14	12	木	博物館講座室	電気自動車 1 日乗車体験 事前説明会 2 日目	43	20	金	美術館講座室	福祉従事者、福祉関係者の為の臨床美術研修会
15	12	木	スタジオ	(株)エヌティエイチ チャレンジ研修	44	20	金	美術館講座室	未来文明人として生きる
16	12	木	美術館講座室	タマホーム沖縄協力会	45	21	土	博物館講座室	NPO 法人エクシード 沖縄建設マネジメントフォーラム
17	12	木	美術館講座室	盛和塾 キックオフ会	46	21	土	美術館講座室	沖縄の教育を考える会 「生命の光」上映会
18	13	金	博物館実習室	NTT 労組 第 6 回分会役員会議及び西本部総対話	47	21	土	美術館講座室	那覇市新都心通り会 芸術文化による地域創造連続講座
			博物館講座室		48	21	土	講堂	沖縄少年会館保存活用のシンポジウム
19	13	金	県民アトリエ	(株)沖縄ファミリーマート らしさワークショップ	49	22	日	博物館実習室	南部地区発達支援研究会 発達支援講演会および託児室
20	13	金	美術館講座室	沖縄県委託事業グッジョブおきなわ推進事業 1 月度全体会議				講堂	
21	14	土	博物館講座室	新学術領域 琉球列島先史・原始時代における環境と文化の変遷に関する実証的研究研究会	50	22	日	博物館講座室	(株)トリムフーズ 飲食業部 繁盛集会(総会)
22	14	土	博物館講座室	新沖縄子どもを守る会 設立総会	51	22	日	スタジオ	ライフバンテージ アンチエイジングの勉強会
23	14	土	県民アトリエ	フクシン建設 会社説明 作業員募集	52	22	木	美術館講座室	(株)ブルー・オーシャン・ジャパン コミュニケーションセミナー
24	14	土	美術館講座室	ビオ倶頼部 アミノ酸について	53	25	水	スタジオ	バ・ランスサイエンス(株) 勉強会
25	14・28	土	博物館実習室	沖縄語普及協議会講師養成講座	54	25	水	講堂	ビオ倶頼部(株) アミノ酸についての勉強会

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)
55	25~26	水~木	博物館 講座室	クオリサイトテクノロジーズ選考会	61	27	金	美術館 講座室	日本損害保険代理業協会保険大学 校 14 期セミナー
			博物館 講座室		62	27~28	金~土	県民アトリエ	第23回沖縄県高等学校文化連盟書 道展
56	26	木	博物館 講座室	盛和塾沖縄 総会	63	28	土	博物館 講座室	(財)沖縄県労働者福祉基金協会 事 例検討学習会
57	26	木	美術館 講座室	コーヒーエネマご愛好者フォロー アップ講習会	64	28	土	子供アトリエ	版画教室
58	26	木	講堂	地震,津波,原子力災害,災害医療 の講演会あなたはその時,家族を 助けられますか?	65	28	土	講堂	詩舞 親翠流緑翠会 おさらい会
59	27	金	博物館 実習室	政府米販売等業務ブロック会議	66	29	日	博物館 実習室	シリカ勉強会
60	27	金	博物館 講座室	全管協 原状回復実例研修会					

【2012年2月】

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)
1	1	水	博物館 実習室	沖縄県観光政策課 第3回沖縄 県観光審議会	20	7	火	美術館 講座室	プラストオブ(株) 後藤先生健康講演 会
2	1	水	博物館 講座室	日本公文研究会 Baby Kumon 説明会	21	8	水	講堂	【組踊の系譜】一組踊から沖縄芝居、 そして「人類館」へ
3	1	水	美術館 講座室	レコ琉球 社員ミーティング	22	9	木	博物館 実習室	カードワン VISAカードセミナー
4	2	木	博物館 講座室	「平成23年度沖縄人材活性化推 進事業モデル企業成果発表会」	23	9	木	博物館 講座室	盛和塾 定例会
5	2	木	講堂	「平成23年度沖縄人材活性化推 進事業モデル企業成果発表会」	24	9	木	博物館 講座室	建築士様向け[フラット35] Sエコの技 術基準説明会
6	2~3	木~金	美術館 講座室	沖縄県情報産業協会 <ITOP 講座>第2回 COPC Release5.0(CSP版)更新研修	25	9	木	美術館 講座室	(株)大城マネジメント研究所 労働問 題の現状とトラブル防止策
			博物館 講座室		26	9	木	美術館 講座室	沖縄TLO 第2回サポーティング産業 検討委員会
7	3	金	博物館 実習室	協同組合沖縄産業計画多様な陶 器生産システム構築事業 講演会	27	10	金	博物館 講座室	グッジョブ運動推進事業全体会議
8	3	金	美術館 講座室	第34回沖縄県工芸公募展表彰 式	28	10	金	美術館 講座室	公益財団法人みらいファンド沖縄 廃 校が人気美術館に変わる
9	3	金	美術館 講座室	サンワコムシスエンジニアリング (株) 現場代理人研修会	29	10	金	博物館 実習室	ドテラジャパン エssenシャルオイル 説明会 ミーティング
10	3~4	金~土	スタジオ	ライフバンテージ アンチエイジ ングの勉強会				講堂	
11	4	土	博物館 実習室	はたかちワークショップ&はたか ちフレンズ講習会	30	11	土	博物館 実習室	沖縄語普及協議会講師養成講座6
12	4	土	美術館 講座室	インテンションエネジーユニオン I.E. 2012 新春特別セミナー	31	11	土	博物館 講座室	国語会議
			講堂		32	11	土	美術館 講座室	(株)ブルー・オーシャン・ジャパン今、 私達に出来ること・・・震災から11ヶ月
13	4~5	土~日	講堂	第3回九州ハンドセラピィ研究 会 学術集会	33	12	日	博物館 実習室	那覇地方法務局「全国一斉!法務 局休日相談所」
14	5	日	スタジオ	(株)ノアインターナショナル 知ら ないと損をするお金の話	34	12	日	美術館 講座室	モア・プロジェクト
15	5	日	県民アトリエ	アミノ酸についての勉強会)	35	14	火	美術館 講座室	アミノ酸についての勉強会
16	5	日	子供アトリエ	(有)グローバル 面接会場	36	14	火	講堂	みはら保育園おゆうぎ会 リハーサル
17	5	日	美術館 講座室	日本秘書クラブ 秘書技能検定 試験	37	15	水	博物館 講座室	沖縄電力(株) 営業力パワーアップセ ミナー
18	7~12	火~日	県民アトリエ	福山商事 KAMIGAKARI2012 POKKE 104 ワークショップ	38	15	水	美術館 講座室	タマホーム沖縄 協力会工程会議
			子供アトリエ		39	15	水	美術館 講座室	(株)スペースシリカ 講演会
19	7	火	博物館 実習室	(株)PIX PIX 勉強会	40	15	水	講堂	那覇文化協会 袋中上人とおもろ復 元一講演と実演一

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)
41	15	水	博物館 講座室	家庭倫理の会那覇支部テキスト 研修	65	22	水	講堂	琉球大学国際沖縄研究所公開フォー ラム「沖縄の健康と医療を考える」
42	16	木	美術館 講座室	家庭倫理の会那覇支部子育てセ ミナー	66	23	木	博物館 講座室	(株)ユニヴェール 水素と健康—真の 健康とは—
43	16	木	博物館 講座室	盛和塾 キックオフ会	67	24	金	博物館 講座室	沖縄電力(株) 病院給食システム設 計セミナー
44	16	木	県民アトリエ	(株)MAX FX経済セミナー	68	24	金	スタジオ	NPO 蒸暑地域住まいの研究会「地域 型住宅づくり支援検討委員会」
45	16	木	美術館 講座室	バイオリサーチ 加藤明博士によ る健康講座	69	24	金	美術館 講座室	(株)ミロク情報サービス 平成 23 年度 消費税法改正セミナー
46	16	木	講堂	沖縄防衛局 第 15 回防衛セミナ ー	70	24~26	金~日	博物館 実習室	沖縄環境調査(株) 親子実践省エネ 教室
47	17	金	講堂	博物館友の会 ドキュメンタリー映 画「よみがえる琉球芸能 江戸上 り」	71	25	土	博物館 講座室	(株)学友館 第 2 回 田中博史先生の 授業実践フォーラム in 沖縄
			博物館 講座室		72	25	土	スタジオ	アロマセラピー研修会
48	17	金	美術館 講座室	介護労働安定センター 賛助会 員交流会	73	25	土	県民アトリエ	生活協同組沖縄県高齢者協同組合 会議
49	17~18	金~土	スタジオ	OCC グループ平成 23 年度新入社 員フォローアップ研修	74	25	土	県民アトリエ	(株)グローバル 面接会場
50	18	土	博物館 講座室	大塚製薬(株) 第 5 回 県民のた めのアレルギー勉強会	75	25	土	子供アトリエ	写真展「記憶の眼」実行委員会 写真 の選定
51	18	土	県民アトリエ	写真展「眼の記憶」実行委員会 写真選定	76	25	土	美術館 講座室	沖縄の教育を考える会 「生命の光」 上映会
52	18	土	子供アトリエ	(株)グローバル 面接会場	77	25	土	講堂	琉球大学皮膚科 沖縄県在宅褥瘡セ ミナー
53	18	土	美術館 講座室	沖縄建労組 第 24 回中央委員会	78	25	土	3階ホワイエ	沖縄県在宅褥瘡セミナー
54	19	日	博物館 講座室	沖縄県自然保護課 生物多様性 によるシンポジウム	79	25	土	講堂	ソーシャルネットワーク協議会 沖縄 Facebook の入門から活用まで
55	19	日	美術館 講座室	しんかぬちクラブ 野中博士講 演会	80	26	日	県民アトリエ	ライフバンテージ
56	19	日	講堂	トラムで未来を考える会 LRTで 考える豊かな未来	81	26	日	子供アトリエ	版画教室
57	19	日	講堂	真の家庭運動推進協議会 真の 家庭セミナー	82	26	日	講堂	エフビー(株) パーキンソン病医療講 演会
58	21	火	博物館 講座室	盛和塾沖縄 フィロソフィ勉強会	83	26	日	講堂	SARA 宇宙につながる音「長屋和哉 シンギングボウル・コンサート
59	21	火	美術館 講座室	レキオス倶楽部ビジネスネットワ ークセミナー	84	28	火	博物館 講座室	沖縄総合通信事務所 電波の安全に 関する勉強会
60	21	火	講堂	(株)ピーターカンパニー平成 23 年度エネルギー使用合理化セミ ナー	85	28	火	博物館 講座室	(株)沖縄ドリームファクトリー第5回FC 琉球の未来を考えるシンポジウム
61	22	水	博物館 講座室	沖縄県労政労力開発課 平成 23 年度 沖縄県労働大学講座	86	28	火	美術館 講座室	(株)スペースシリカ 講演会
62	22	水	美術館 講座室	日本社本郷税理士法人 平成 24 年度税制改正セミナー	87	28~29	火~水	スタジオ	総合学園ヒューマンアカデミー那覇校 第4回卒業・修了展示会
63	22	水	美術館 講座室	あいおいニッセイ同和労働組合 第5回沖縄区会総会	88	29	水	博物館 講座室	沖縄食品品質管理研究会 会員総会
64	22	水	講堂	日本公文教育研究会 社員講座					

【2012年3月】

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)
1	1~4	木~日	スタジオ	総合学園ヒューマンアカデミー那 覇校 第4回卒業・修了展示会	4	2	金	美術館 講座室	エマエンタープライズ 合同就職説 明会及び面接会
2	1・18	木・日	美術館 講座室	(有)海気コーポレーション 加藤 明医学博士による健康講座	5	2	金	講堂	(株)琉球ファクトリー 沖縄型BPO シ ンポジウム~沖縄型 BPO 業務の確立を 目指して~
3	2	金	博物館 講座室	バランスサイエンス マザーハート 財団について説明会	6	3	土	県民アトリエ	(株)グローバル 面接会場
4	2	金	博物館 実習室	エマエンタープライズ 合同就職 説明会及び面接会	7	3	土	美術館 講座室	白鳩会 講演会「あなたらしく輝いて」
			博物館 講座室		8	3	土	講堂	みはら保育園 おゆうぎ会

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)
9	3	土	講堂	沖縄県立総合精神保健福祉センター精神保健等関係者うつ病対応力研修	34	13	火	博物館実習室	(株)カードワン カードワン事業説明会
10	3・10・17・24・31	土	博物館実習室	沖縄語普及協議会講師養成講座	35	13	火	博物館講座室	バランスサイエンス(株) マザーハート財団について説明会
			美術館講座室		36	13	火	美術館講座室	福働会 研修会
11	4	日	博物館講座室	(社)日本耳鼻咽喉科学会沖縄県地方部会	37	13	火	講堂	新子どもを守る会
			講堂	耳の日講演会・耳の日相談会	38	14	水	博物館実習室	(株)PIX PIX 勉強会
12	4	日	県民アトリエ	ライフバンテージ 勉強会	39	14	水	博物館講座室	バランスサイエンス(株) マザーハート財団について説明会
13	4	日	美術館講座室	ミキ・ワールド沖縄 食の勉強会	40	14	水	県民アトリエ	ピオ倶楽部(株) アミノ酸についての勉強
14	6	火	美術館講座室	(株)エヌティエイチ クイーンズヘナ愛用者セミナー	41	14	水	美術館講座室	インテンションエネジー研修会
15	6	火	講堂	NPO 法人おきなわ CAP センター「親子が健やかに育つ虐待予防啓発モデル事業」報告会	42	14	水	講堂	沖縄広告(株) 第4回 沖縄感性・文化産業シンポジウム～コンテンツシンポジウム～
16	7	水	博物館講座室	公正取引委員会 業種別講習会	43	15	木	博物館講座室	外間経営労務管理事務所行政調査への対応方法(労務管理セミナー)
17	7	水	県民アトリエ	写真展「眼の記憶」実行委員会写真選定	44	15	木	博物館講座室	家庭倫理の会那覇市 役職者テキスト研修
18	8	木	博物館実習室	NTT 労組 沖縄総支部 NTT 労組分会役員会議	45	15	木	美術館講座室	タマホーム沖縄 協力会工程会議
19	8	木	博物館講座室	盛和塾沖縄 定例会	46	16	金	博物館講座室	福岡・沖縄老人福祉施設研究会福岡・沖縄老人福祉施設研究会 研修会
20	8	木	美術館講座室	ゆいま～る沖縄「工芸製品新ニーズモデル創出事業」報告会	47	16	金	講堂	博物館友の会 波照間永吉先生講演会
21	8	木	講堂	沖縄総合事務局財務部金融監督課 地域密着型金融に関するシンポジウム	48	17	土	博物館講座室	沖縄県青少年育成県民会議青少年の非行防止と立ち直り支援シンポジウム
22	9	金	スタジオ	ピオ倶楽部(株) アミノ酸についての勉強	49	17	土	県民アトリエ	happ 理事会
23	9	金	美術館講座室	沖縄県委託事業 グッジョブ運動推進事業 3月度全体会議	50	17	土	県民アトリエ	(株)IWC FX 経済セミナー
24	9～10	金～土	講堂	劇艶おとな団第2回講演	51	17	土	子供アトリエ	版の会 版画教室
25	10	土	博物館講座室	TOUGEIOKINAWA 実行委員会 TOUGEIOKINAWA 2012「うぎゃあ」シンポジウム	52	17	土	美術館講座室	NPO 法人ココネット カラーワークショップ
26	10～11	土～日	美術館講座室	琉球大学国際沖縄研究所土着の伝統における女性とジェンダー：記憶の再継承	53	18	日	博物館実習室	ライフバンテージ アンチエイジングの勉強会
27	11	日	博物館実習室	プラストオフ(株) 後藤先生の健康講演会	54	18	日	博物館講座室	那覇市身体者福祉協議会平成23年度那覇市障害者美術展表彰式
28	11	日	博物館講座室	沖縄県眼科医会 第109回 沖縄眼科集談会	55	18	日	美術館講座室	(株)石川クラブ IPS コスメティック
29	11	日	スタジオ	ミキ沖縄 勉強会	56	18	日	講堂	ピアノ教室「わ」「わ」ハッピーコンサート
30	11	日	県民アトリエ	Eriko ビーズアクセサリ ビーズアクセサリ講座	57	20	火	美術館講座室	コーヒーエネゴ愛好者フォローアップ講習会
31	11	日	講堂	「劇場と社会」～三間四方から額縁舞台へ、社会に拓かれる劇場とは？ 琉球大学	58	21・23	水・金	講堂	グロアツ★メンバーGRAT★物語 前代未聞のごちゃまぜタップ!!!なんと生オケ♪
32	11	日	講堂	大阪体育大学同好会沖縄支部スポーツ講演会「心走一鹿実駅伝」	59	22	木	博物館講座室	社会保労務士法人パーソネルマネジメントサポート セミナー
33	13～18	火～日	スタジオ	那覇市身体者福祉協議会平成23年度那覇市障害者美術展	60	22	木	美術館講座室	盛和塾沖縄 キックオフ会

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)
61	22	木	美術館 講座室	阪急交通社 海外旅行説明会	74	25	日	博物館 講座室	エッチ・ケー・ジェイ 野中博士講演会
62	22	木	講堂	沖縄税理士会北那覇支部 書面 添付研修会	75	25	日	美術館 講座室	日経フォーラム思考力がどんどんの び〜る春の脳トレパズル体験会
63	22	木	博物館 実習室	沖縄美術 in New York 写真撮 影	76	25	日	県民アトリエ	「眼の記憶」写真展実行委員会 写真 選定
64	23	金	博物館 講座室	沖縄県県民生活課 改正 NPO 法 説明会	77	25	日	講堂	楽の会 ピアノ発表会
65	23	金	美術館 講座室	日本建築家協会沖縄支部 第 15 回卒業設計作品選奨	78	27	火	美術館 講座室	ピオ倶楽部(株) アミノ酸についての 勉強会
66	24	土	博物館 講座室	(有)ソーシャル・アライアンス琉球 南原竜樹 講演会	79	27	火	講堂	(株)シーエーアドバンス 総会 リハー サル
67	24	土	博物館 講座室	公文教室 公文式英語音読発表 会	80	27	火	県民アトリエ	ローハスジャパン 環境浄化を高める 会
68	24	土	県民アトリエ	リカルド・フラメンコ&タンゴ・スタジ オアルゼンチンタンゴ&フラメンコ ワークショップ	81	29	木	講堂	(株)First Line 沖縄の産業と眠りとの 関わり・シンポジウム
69	24	土	美術館 講座室	沖縄の教育をよくする会 生命の 光	82	29	木	美術館 講座室	タマホーム沖縄電気業者 勉強会
70	24	土	美術館 講座室	AIU 保険社・沖縄コンタクトセンタ ー 会社説明会	83	30	金	講堂	(株)シーエー・アドバンス 総会
71	24	土	講堂	御冠船踊り研究会連続シンポジウ ム《御冠船踊り―近世琉球の自 己表象―》	84	31	土	博物館 講座室	万国津梁機構 講演会
72	24~25	土~日	美術館 講座室	モアプロジェクト 地球温暖化に ついて	85	31	土	スタジオ	宮城 美佐子 アロマ勉強会
73	25	日	博物館 講座室	日本臨床美術協会 沖縄県臨床 美術士交流会	86	31	土	県民アトリエ	(株)グローバル 面接会場

# 博物館

- I 調査研究等の活動
- II 展示活動
- III 教育普及活動
- IV 資料収集・保存管理

# 1. 調査研究等の活動

## 1. 調査研究の概要

博物館の機能は、調査研究、資料収集・保管、資料の展示、教育普及活動という4つの大きな柱によって構成されている。これらは互いに関連しているが、調査研究は他の機能の基礎となる重要な部分である。

当館における調査研究活動は、全学芸員が一地域を対象に実施する総合調査、他機関との共同研究、学芸員それぞれによる個別の調査研究がある。

総合調査では、離島において自然、歴史、民俗、考古、美術工芸の基礎資料の掘り起こしと収集を行ってきた。久米島（1993、1994年度）を皮切りに、波照間島（1996、1997年度）、西表島（1998～2000年度）、小浜島（2001～2003年度）、与那国島（2004～2008年度）を経て、2009～2011年度は竹富島で実施した。なお、八重山諸島における調査は、2010年度特別展「八重山」の開催として結実している。

共同研究事業としては、国立科学博物館、東京大学と共同で、南城市玉城のハナンダガマ遺跡（2006、2007年度）、南城市玉城おきなわワールド内の武芸洞（2007年～2010年度）において人類学分野の発掘調査を実施し、2011年度は武芸洞に加えて同じくおきなわワールド内に所在するサキタリ洞を調査対象とした。

学芸員個別の調査研究事業は、学芸員自身がテーマを設定し自主的に実施しているものや外部から依頼を受けて行うもの等様々である。その成果は論文の形で発表されるとともに、講演等の形で生かされている。

以下、2011年度における調査研究等の活動状況を報告する。

（濱口 寿夫）

## 2. 博物館総合調査－竹富島総合調査－

### 【趣旨】

沖縄県は多くの島嶼から成り立ち、それぞれの島には独自の自然とそれを背景としたくらしがあり、その中から生み出された独自の文化がみられる。このような、島々の多様な自然やくらし・文化については個々の分野の断片的な報告が散見されるものの、基礎的なデータはまだ十分とはいえない。

近年、県内各地で森林伐採・道路建設・土地改良等の開発が活発におこなわれている上、移入された外来種による攪乱の結果、自然環境は大きく変貌しつつある。さらに、地域住民の生活や伝統行事の形態などの文化的側面も大きく変わりつつある。このままでは、島々の自然・文化・社会等に関する貴重な資料が失われてしまうことは想像に難くない。

そこで、本事業は県内各地離島の自然・歴史・文化について調査・研究し、その成果を記録・報告するとともに、当館の展示会等をとおして島々の自然や文化の現状を伝えることによって、自然環境の保全や文化的資料の保存に対する理解の浸透（重要性を再確認すること）を目的とする。2009年度から3年計画で竹富島を対象とした調査を実施し、報告書を刊行した。

### 【予算額】

1,024,000円

### 【組織】

本調査組織は2009年度から2011年度に沖縄県立博物館・美術館（博物館班）に在籍した各分野の学芸員により構成される。

### 【調査方法】

学芸員が独自のテーマを設定し、調査は個別に実施した。2009年度から2010年度までは現地調査を実施し、2011年度は若干の補足調査を実施するとともに、報告書を刊行した。

### 【平成23年度調査実績】

仲里 健	（平成24年3月6～7日）	早瀬 千明	（平成23年11月16～18日）
片桐千亜紀	（平成24年3月6～7日）	岸本 敬	（平成23年11月21～22日）
岸本 弘人	（平成23年11月16～18日、12月24日）		

## 【竹富島総合調査報告書 目次】

仲里 健	竹富島の地質と岩石の利用
田中 聡	竹富島産ヤエヤマサソリの繁殖について
片桐千亜紀・羽方 誠	竹富島で採集した考古資料
岸本弘人・崎原恭子・早瀬千明	竹富島における石碑・記念碑等の調査報告
與那嶺一子	竹富島のうちくいー竹富喜宝院収蔵品よりー
岸本 敬	竹富島における「龕」の使用について

(田中 聡)

## 3. 博物館共同研究事業ー人類学調査ー

### 【趣旨】

東アジア地域や日本列島へ新人が到達したのは、5万～3万年前ごろと考えられている。日本列島の人類史を解明するためにはこの時代の人類化石が不可欠であるが、発見例はさきわめて少ない。沖縄県からは、3万2千～1万年前と推測される複数の人類化石が発見されており、とりわけ、八重瀬町港川フィッシャー遺跡からは、1万8千年前とされる成人4体の人骨化石（港川人）が発見されている。しかし、同遺跡からは生活の痕跡は発見されず、多くの謎が残されている。

そこで、本事業では、沖縄県立博物館・美術館、国立科学博物館、東京大学等との共同研究として、港川人をはじめとした沖縄出土の更新世人類化石の研究を推進するとともに、新たな人類化石や生活の痕跡の発見を目指した発掘を推進している。

### 【組織】

本事業に関わる研究組織は、沖縄県立博物館・美術館の専門員、東京大学および国立科学博物館の研究者、沖縄県内の研究者により構成される。

### 【事業概要】

沖縄県南城市のサキタリ洞で、前年度に試掘していた2か所の試掘ピットを拡張して発掘調査を実施した（I区、II区）。I区では、小動物骨やマイマイ、カニ爪、炭化材など豊かな自然遺物を含む良好な堆積層を確認しており、この堆積層の年代が更新世にまでさかのぼることを、炭化材やカワニナの年代測定によって明らかにした。今回、拡張した範囲からは、年代未確定ながら石器の可能性のある石英片や海の貝など、現地には自然では存在しない複数の遺物とともに、ヒトの乳歯1点を発見した。この堆積層の形成に、ヒトの活動が何らかの形で関与している可能性も高まったため、今後、これらの遺物包含層の年代を特定するとともに、さらに下層の調査を進める必要がある。

サキタリ洞のII区からは、グスク時代とみられる埋葬人骨と、その下層から縄文土器の小破片を発見していたが、拡張して発掘した結果、下層に縄文時代前期の土器や獣骨、海の貝などを含む地層が確認された。さらに下層には、古い時代の堆積層があると期待される。

また、事業の一環として昨年度から関係諸機関と共同で港川フィッシャー遺跡の1968～74年にかけての発掘調査の情報整理を続けているが、その成果の一部を日本人類学会の発行するAnthropological Science (Japanese Series)に発表した。

(藤田 祐樹・山崎 真治)



サキタリ洞I区の調査風景



サキタリ洞II区の調査風景

## 4. 調査・研究・講演・著作論文等

濱口 寿夫 (博物館班班長)

### ○調査・研究等

- ・天然記念物制度の研究 (2011年10月～2012年1月)
- ・コウダカカラマツガイ (貝類) 生態調査 (2011年4月～2012年3月)

### ○講演等

- ・名称: 日本貝類学会口頭発表「沖縄島におけるコウダカカラマツガイの産卵周期」 (九州大学箱崎キャンパス)  
期 日: 2011年4月17日  
学会名: 日本貝類学会
- ・名称: 琉球大学教育学部生活科実習「博物館活動と沖縄県立博物館・美術館の概要について」  
期 日: 2011年6月25日  
依頼機関: 琉球大学教育学部
- ・名称: 夏休み学芸員教室「海辺の生物の観察方法教えます!」  
期 日: 2011年8月16日
- ・名称: 学芸員講座「笠貝～家に帰る貝のくらし」  
期 日: 2011年11月26日
- ・名称: 琉球大学教育学部生活科実習「博物館活動と沖縄県立博物館・美術館の概要について」  
期 日: 2011年12月10日  
依頼機関: 琉球大学教育学部
- ・名称: 生涯学習センター県民カレッジ「天然記念物保護の歴史」  
期 日: 2012年1月14日  
依頼機関: 県教育庁生涯学習推進課生涯学習センター
- ・名称: 社会教育主事講習「県立博物館・美術館の概要」  
期 日: 2012年2月16日  
依頼機関: 県教育庁生涯学習推進課生涯学習センター

### ○著作論文

- ・「ジュゴンの天然記念物指定について」『沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要』第5号 2012年3月

園原 謙 (主幹)

### ○調査・研究等

- ・国頭村史編さん事業「国頭村制施行100年記念事業 国頭村近代100年のあゆみ(仮)」(2011年4月～2012年3月) 依頼者: 国頭村役場
- ・袋中展の資料調査 (2011年5月18日～20日) 調査地: 京都国立博物館、袋中庵、檀王法林寺、黒主山保存会
- ・草の根技術協力事業(地域提案型)「沖縄・カンボジア『平和博物館』協力」終了時評価に係る専門家派遣について (2012年2月27日～3月13日) 調査地: カンボジア王国  
依頼者: 独立行政法人国際協力機構沖縄国際センター

### ○講演等

- ・名称: 学芸員講座「三線文化の世界」  
期 日: 2011年5月28日
- ・名称: 平和教育に係わる講演  
期 日: 2011年6月21日  
依頼機関: 国頭村立奥間小学校
- ・名称: EFA グローバルモニタリングレポートシンポジウム2011—教育と紛争—  
基調講演「沖縄の戦中・戦後体験から考える平和創造の取り組み—カンボジアの生きたるべき」

方から学ぶ」

期 日：2011年7月16日

依頼機関：独立行政法人国際協力機構（JICA）

- ・名称：「沖縄・カンボジア『平和博物館』協力」事業の講義

期 日：2011年10月14日

依頼機関：沖縄県平和祈念資料館

- ・名称：企画展「琉球と袋中上人展」関連催事講演会「エイサーの過去・現在・未来」

期 日：2011年11月13日

依頼機関：九州国立博物館

- ・名称：「沖縄・カンボジア『平和博物館』協力」事業の評価及び展示指導

期 日：2012年2月27日～3月13日

依頼機関：JICA 沖縄国際センター

○著作論文等

- ・「沖縄の戦中・戦後体験から考える平和創造の取り組みーカンポークヌクサーの生き方から学ぶー」『GMR シンポジウム報告書』 独立行政法人国際協力機構（JICA）、2011年
- ・「エイサーの起源をたどるー記録・記事から」『琉球と袋中上人』展図録、九州国立博物館、2011年11月
- ・「プレゼンスとしての琉球産漆芸品について」『沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要』第5号 2012年3月

與那嶺 一子（主任学芸員 美術工芸）

○調査・研究等

- ・北中城の神衣裳等調査（北中城村教育委員会）（2011年5月10日）
- ・波濤飛龍図前掛の調査（京都国立博物館）（2011年5月18日～19日）
- ・紅型調査（愛知県名古屋／松坂屋）（2011年8月25日～27日）
- ・紅型型紙調査（沖縄県立芸術大学）（2012年2月13日）
- ・無形文化財（工芸技術）「読谷山花織」「八重山上布」に関する調査（2011年2月10日・22日・29日）  
依頼機関：文化庁文化財部伝統文化課

○講演等

- ・名称：学芸員講座「織物のデザイン画「御絵図」を探る～博物館所蔵品から～」  
期 日：2011年4月23日
- ・名称：東京に遺された尚家衣裳について  
期 日：2011年11月9日  
依頼機関：那覇市市民文化部博物館（那覇市歴史博物館）

○著作論文等

- ・「芹沢銈介と沖縄作品展」『別冊太陽 日本のこころ 185 染色の挑戦 芹沢銈介』平凡社 2011年7月
- ・「資料紹介 染織資料VI ー繻子地浮織物（繻珍）・綾地浮織物（蜀江文錦）ー」『沖縄県立博物館・美術館紀要 5号』 2012年3月（小林彩子と共著）
- ・「竹富島のうちくー竹富島喜宝院収蔵品よりー」『竹富島総合調査報告書』 2012年3月

田中 聡（主任学芸員 自然史）

○調査・研究等

- ・沖縄島中部における両生類の生態ならびに保全に関する研究（2011年4月1日～2012年3月31日）
- ・外来種シロアゴガエルの生態ならびに防除に関する研究（2011年4月1日～2012年3月31日）
- ・沖縄島北部におけるカエル類の音声モニタリング（2011年4月1日～2012年3月31日）
- ・平成25年度特別展「生物多様性ホットスポット JAPAN」に関わる資料調査（群馬・山梨・東京）（2012年3月20日～23日）

○講演等

- ・名 称：八重瀬町自然環境及び観光資源保全審議会  
期 日：2011年5月20日  
依頼機関：八重瀬町
  - ・名 称：「外来種シロアゴガエルの生活史戦略、ならびに泡巣除去による防除効果について」沖縄生物学会  
第48回大会、琉球大学  
期 日：2011年6月4日
  - ・名 称：自然史展示解説  
期 日：2011年6月15日  
依頼機関：沖縄国際大学
  - ・名 称：自然史展示解説  
期 日：2011年7月8日  
依頼機関：沖縄工業高等専門学校
  - ・名 称：平成23年度天然記念物緊急調査（キシノウエトカゲ）第1回調査会  
期 日：2011年9月1日  
依頼機関：沖縄県教育委員会
  - ・名 称：沖縄科学グランプリ参加生徒向け講演「沖縄の自然－陸生動物を中心に－」  
期 日：2011年11月13日  
依頼機関：沖縄県教育委員会
  - ・名 称：移動展関連講座「宮古の自然は、沖縄の宝です！」  
期 日：2012年2月4日  
依頼機関：宮古島市総合博物館
  - ・名 称：学芸員講座「小さなエイリアン シロアゴガエルー驚くべき生きざまとその防除について－」  
期 日：2012年2月25日
- 著作論文等
- ・「沖縄島における外来種シロアゴガエルの産卵時期と泡巣形成場所について」『沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要』第5号 2012年3月
  - ・「竹富島産ヤエヤマサソリの繁殖について」『竹富島総合調査報告書』 2012年3月

仲里 健（主任学芸員 化石）

○調査・研究等

- ・竹富島総合調査（竹富町）（2012年3月6日～7日）

○講演等

- ・名 称：琉球大学公開講座「やんばるジオツアー 景観の観察から地球環境システムを考える」  
期 日：2011年5月7日  
依頼機関：琉球大学
- ・名 称：夏休み！博物館学芸員教室  
期 日：2011年8月3日
- ・名 称：学芸員講座『隕石から始まる宇宙の探求』  
期 日：2011年10月15日
- ・名 称：常設展示室 展示解説会  
期 日：2011年11月17日
- ・名 称：ボランティア講座  
期 日：2012年2月10日

○著作論文等

- ・「胎土分析から見た下田原式土器」『沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要』第5号 2012年3月（山崎真治・仲座久宜と連名）

岸本 敬（主任学芸員 民俗）

○調査・研究等

- ・企画展「琉球と袋中上人 エイサーの起源をたどる」にかかる資料調査（那覇市国場）（2011年8月13日）
- ・企画展「琉球と袋中上人 エイサーの起源をたどる」にかかる資料調査（セルラースタジアム那覇）（2011年9月3日）
- ・ホテルちょうちん調査（竹富町）（2011年10月11日）
- ・西表島祖内・干立集落「節祭」調査（竹富町）（2011年10月12～13日）
- ・ホテルちょうちん調査（宮古島市）（2011年11月10～11日）
- ・竹富島総合調査（竹富町）（2011年11月21～22日）
- ・企画展「琉球と袋中上人 エイサーの起源をたどる」にかかる展示資料返却作業立ち合い（京都府）（2012年2月21～23日）
- ・平成23年度「沖縄の葬制に関する総合調査事業」実地補足調査（石垣市・竹富町）（2012年3月7～8日）  
依頼機関：沖縄県教育委員会
- ・平成23年度「沖縄の葬制に関する総合調査事業」実地補足調査（石垣市・竹富町）（2012年3月14～15日）  
依頼機関：沖縄県教育委員会

○講演等

- ・名称：学芸員講座「子どもの人生儀礼と遊び ―ホテルちょうちん作り―」  
期 日：2011年7月23日

○著作論文等

- ・「沖縄における「ホテル」を利用した遊びについて」『沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要』第5号 2012年3月
- ・「竹富島における「龕」の使用について」『竹富島総合調査報告書』沖縄県立博物館・美術館 2012年3月

岸本 弘人（主任学芸員 歴史：近現代）

○調査・研究等

- ・竹富島総合調査（竹富町）（2011年11月16日～18日、12月24日）
- ・2012年度特別展「Okinawa から沖縄へ」関連資料調査（さわの屋（名護市）、諸見民芸館（沖縄市）、沖縄県平和祈念資料館（糸満市）、沖縄県公文書館（南風原町）、宮古島市総合博物館、石川歴史民俗資料館、読谷村歴史民俗資料館、読谷村史編集課、南風原文化センター、関西沖縄文庫、大阪人権博物館、沖縄県人会、兵庫県本部、日本科学未来館、昭和館、JICA 横浜海外移住資料館、ハワイ大学マノア校図書館、ハワイ日本文化センター、ホノルル美術館、ビショップ博物館（2011年6月3日～2012年3月30日）
- ・島袋静氏聞き取り（北谷町）（2011年10月5日）
- ・福地曠昭氏聞き取り（恩納村）（2011年11月4日）
- ・津留健二氏聞き取り（沖縄女子短期大学）（2011年12月13日）

○講演等

- ・名称：学芸員講座「初心者のための琉球・沖縄史」  
期 日：2011年6月25日

○著作論文等

- ・「戦後アメリカ統治下の沖縄における出入域管理について ―渡航制限を中心に―」『沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要』第5号 2012年3月
- ・「竹富島における石碑・記念碑等の調査報告」『竹富島総合調査報告書』2012年3月（崎原恭子・早瀬千明・島仲彌喜と連名）

片桐 千亜紀（主任 考古）

○調査・研究等

- ・名護市・今帰仁村沿岸遺跡分布調査（名護市・今帰仁村）（2011年4月13日）

- ・久米島水中文化遺産調査研究1（久米島町）（2011年5月11・12日）
- ・白保竿根田原洞穴遺跡発掘調査に伴う資料調査1（石垣市）（2011年6月2・3日）
- ・北海道道南海域水中文化遺産調査1（函館市・北斗市・木古内町・江差町・上ノ国町）（2011年6月18～21日）
- ・宜名真沖海底遺跡調査（国頭村）（2011年6月10～12日）
- ・「海の文化遺産総合プロジェクト」研究会1（福岡県）（2011年6月25～27日）
- ・久米島水中文化遺産調査2（久米島町）（2011年7月17～19日）
- ・糸満市喜屋武海岸分布調査（糸満市）（2011年7月21日）
- ・南城市サキタリ洞発掘調査（南城市）（2011年7月25日～8月7日）
- ・南城市グスク調査（南城市）（2011年8月11日）
- ・沖縄島洞穴調査（本部町・宜野座村・うるま市・南城市・八重瀬町）（2011年8月19～21日）
- ・白保竿根田原洞穴遺跡発掘調査に伴う資料調査2（石垣市）（2011年8月22・23日）
- ・今帰仁村水中文化遺産調査（今帰仁村）（2011年8月31・9月1日）
- ・北海道道南海域水中文化遺産調査2（北斗市・江差町・森町）（2011年9月3～6日）
- ・久米島水中文化遺産調査3及び見学会の実施（久米島町）（2011年9月8～11日）
- ・デンブン分析調査方法検討（広島県）（2011年9月17・18日）
- ・糸満市喜屋武海岸人骨調査（糸満市）（2011年9月27～29日）
- ・南城市グスク調査（南城市）（2011年10月26日）
- ・太平洋海域水中文化遺産調査（神奈川県・静岡県）（2011年11月19～22日）
- ・日本旧石器学会・アジア旧石器学会合同シンポジウム（東京国立博物館）（2011年11月26日～12月1日）
- ・白保竿根田原洞穴遺跡発掘調査に伴う資料調査3（石垣市）（2011年12月15・16日）
- ・台湾・蘭嶼人類学調査（台湾）（2011年12月16～21日）
- ・久米島水中文化遺産調査4（久米島町）（2012年1月27・28日）
- ・「海の文化遺産総合プロジェクト」研究会2（東京）（2012年2月14～16日）
- ・波照間島毛原遺跡確認調査（竹富町）（2012年2月20～24日）
- ・竹富島総合調査（竹富町）（2012年3月6・7日）
- ・東京海洋大学水中文化遺産資料調査1（東京）（2012年3月13～16日）
- ・東京海洋大学水中文化遺産資料調査2（東京）（2012年3月23・24）
- ・復帰40年特別展に伴う資料調査（ハワイ）（2012年3月25～30日）

○講演等

- ・名 称：「白保竿根田原洞穴遺跡の発掘調査概要－更新世末から完新世初頭における洞穴利用形態の復元に  
向けて－」  
期 日：2011年5月29日  
学 会 名：日本考古学協会第77回総会（山崎真治・藤田祐樹・米田穰・小林紘一と共同発表）
- ・名 称：宜名真沖海底遺跡学習会「宜名真沖海底遺跡の概要」  
期 日：2011年6月11日  
依頼機関：南西諸島水中文化遺産見学会
- ・名 称：「白保竿根田原洞穴遺跡の発掘調査概要」  
期 日：2011年6月17日  
学 会 名：沖縄考古学会6月定例会（山崎真治・藤田祐樹・米田穰・土肥直美と共同発表）
- ・名 称：「南西諸島の水中文化遺産データベースについて」  
期 日：2011年6月25日  
依頼機関：アジア水中考古学研究所
- ・名 称：沖縄県立埋蔵文化財センター第46回文化講座 発掘調査速報2011 その1「白保竿根田原洞穴遺  
跡発掘調査」  
期 日：2011年7月23日  
依頼機関：沖縄県立埋蔵文化財センター

- ・名 称：公開シンポジウム 港川人の時代－世界と沖縄－「石垣島からの更新世人骨発見－白保竿根田原洞穴調査概要－」  
期 日：2011年7月30日  
依頼機関：八重瀬町教育委員会
- ・名 称：「沖縄の文化・史跡」  
期 日：2011年8月15日  
依頼機関：琉球大学
- ・名 称：学芸員講座「水中文化遺産への招待」  
期 日：2011年9月24日
- ・名 称：海に沈んだ歴史のカケラ～南西諸島の水中文化遺産の世界～「南西諸島の水中文化遺産について」  
期 日：2011年10月8日  
依頼機関：アジア水中考古学研究所
- ・名 称：「白保竿根田原洞穴遺跡における人骨の産状と洞穴利用」  
期 日：平成23年11月5、6日  
学 会 名：第65回日本人類学会大会（山崎真治・藤田祐樹・米田穰・土肥直美と共同発表）
- ・名 称：「沖縄における骨考古学の実践」  
期 日：平成23年11月5、6日  
学 会 名：第65回日本人類学会大会（徳嶺里江・土肥直美と共同発表）
- ・名 称：Preliminary excavation report of the Late Pleistocene human burials at Shiraho-Saonetabaru Cave site in Ishigaki-jima island, Okinawa  
期 日：2011年11月26日～12月1日  
学 会 名：MHB poster session, Dual Symposia, Symposium on Emergence and Diversity of Modern Human Behavior in Palaeolithic Asia and Fourth Annual Meeting of the Asian Palaeolithic Association (APA)（山崎真治・藤田祐樹・徳嶺里江・波木基真・大堀皓平・赤嶺信哉・菅原広史・土肥直美・小林紘一・米田穰と共同発表）
- ・名 称：公開シンポジウム 海のタイムカプセルー水中考古学からのおくりものー 「沖縄県久米島で実施した水中文化遺産見学会の様子ー海底遺跡ミュージアム構想の実践」  
期 日：2012年2月25日  
依頼機関：アジア水中考古学研究所

○著作論文等

- ・「日本における更新世人骨研究の現状と課題ー沖縄県白保竿根田原洞穴遺跡の発掘調査からー」『日本旧石器学会ニューズレター』第17号 日本旧石器学会 2011年6月（山崎真治・藤田祐樹・土肥直美・米田穰と連名）
- ・「久米島の水中文化遺産見学会報告～海底遺跡ミュージアム構想の実践～」『沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要』第5号 2012年3月（山田浩久・崎原恒寿・中島徹也・宮城弘樹・渡辺芳郎との連名）
- ・「竹富島で表採された考古資料」『竹富島総合調査報告書』2012年3月（羽方誠との連名）
- ・「白保竿根田原洞穴遺跡の発掘調査概要」『八重山博物館紀要』第21号 八重山博物館 2012年3月（山崎真治・藤田祐樹との連名）
- ・沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第64集『具志川島遺跡群』沖縄県立埋蔵文化財センター 2012年3月（中山晋・大堀皓平・土肥直美・黒住耐二・樋泉岳二・上田圭一・橋本真紀男・矢作謙二・神谷厚昭と連名）

藤田 祐樹（主任 人類）

○調査研究等

- ・名護市・今帰仁村沿岸遺跡分布調査（2011年4月13日）
- ・南城市玉城百名古墓調査（2011年5月14日）
- ・更新世獣骨調査（東京大学総合研究博物館）（2011年5月30～6月2日）
- ・更新世獣骨調査（東京大学総合研究博物館）（2011年7月13～15日）

- ・糸満市喜屋武海岸分布調査 (2011年7月21日)
- ・南城市サキタリ洞発掘調査 (2011年7月25日～8月7日)
- ・糸満市喜屋武海岸人骨調査 (2011年9月27日～29日)
- ・「日本旧石器学会・アジア旧石器学会合同シンポジウム」東京・国立科学博物館 (2011年11月26日～12月2日)
- ・台湾・蘭嶼人類学調査 (2011年12月16日～21日)
- ・波照間島長毛遺跡調査 (2012年2月20～25日)
- ・更新世獣骨調査(東京大学総合研究博物館) (2012年3月13～14日)

○講演等

- ・名称: Recent findings on the Pleistocene Homo sapiens in the Ryukyu Archipelago  
期日: 2012年3月29～31日  
学会名: 2012 International Symposium 'Remembering 40 Years Since Reversion'
- ・名称: 沖縄県立博物館・美術館学芸員講座「骨を楽しむ会」  
期日: 2012年3月24日
- ・名称: Foraging behavior of the diving bird: little grebes change their chasing behavior according to the prey (郡司芽久・樋口広芳と共同発表)  
期日: 2012年3月17～21日  
学会名: The 5th EAFES International Congress in conjunction with the 59th Annual Meeting of Ecological Society of JAPAN
- ・名称: Biostratigraphy in the Late Pleistocene of the Okinawa island and its implication for the chronology of early modern humans from Minatogawa (山崎真治・大城逸朗と共同発表)  
期日: 2011年11月26日～12月1日  
学会名: MHB poster session, Dual Symposia, Symposium on Emergence and Diversity of Modern Human Behavior in Palaeolithic Asia and Fourth Annual Meeting of the Asian Palaeolithic Association (APA)
- ・名称: 沖縄島南部における2万～3万年前の主要な動物相の変化について(山崎真治・大城逸朗と共同発表)  
期日: 2011年11月4～6日  
学会名: 第65回日本人類学会大会 シンポジウム1「琉球列島3万年: ヒトと文化」
- ・名称: カイツブリの水中における首振り行動の特徴 (郡司芽久・樋口広芳と共同発表)  
期日: 2011年9月17～19日  
学会名: 日本鳥学会2011年度大会
- ・名称: 水中におけるカイツブリの首振り行動の機能 (郡司芽久・樋口広芳と共同発表)  
期日: 2011年9月8～11日  
学会名: Animal 2011: 日本動物心理学会(第71回)・日本動物行動学会(第30回)・応用動物行動学会/日本家畜管理学会(2011年度)合同大会
- ・名称: 沖縄県南城市ハナダガマから出土した更新世シカ類のメゾウェア分析(久保麦野・大城逸朗・諏訪元と共同発表)  
期日: 2011年7月1～4日  
学会名: 日本古生物学会2011年年会・総会
- ・名称: 白保竿根田原洞穴遺跡出土の大型・中型動物遺存体について(菅原広史・波木基真と共同発表)  
期日: 2011年5月28～29日  
学会名: 日本考古学協会2011年度総会、セッション4「沖縄県石垣市白保竿根田原洞穴から出土した後期更新世人骨: 考古学と骨考古学の協働」

○著作論文等

- ・「比較解剖学習教材『骨スーツ』を用いた出前キットの開発」『沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要』第5号 2012年3月 (具志堅梢・幸喜亜優・池原盛浩・當眞妃奈子と共著)
- ・「日本列島の更新世人骨」『季刊考古学』No. 118 (株)雄山閣 2012年1月 (山崎真治・片桐千亜紀と共著)

山崎 真治 (主任 人類)

○調査研究等

- ・名護市・今帰仁村沿岸遺跡分布調査 (2011年4月13日)
- ・南城市玉城百古墓調査 (2011年5月14日)
- ・石垣市白保竿根田原洞穴地質調査 (2011年6月2日～3日)
- ・糸満市喜屋武海岸分布調査 (2011年7月21日)
- ・南城市サキタリ洞発掘調査 (2011年7月25日～8月7日)
- ・九州南部の土器資料調査 (鹿児島市・宮崎市・志布志市・鹿児島国際大学) (2011年8月22日～28日)
- ・読谷村立歴史民俗資料館資料調査 (2011年8月19日)
- ・サキタリ洞補足調査 (2011年8月31日)
- ・糸満市喜屋武海岸人骨調査 (2011年9月27日～29日)
- ・日本旧石器学会・アジア旧石器学会合同シンポジウム (東京・国立科学博物館) (2011年11月26日～12月2日)
- ・台湾・蘭嶼人類学調査 (2011年12月16日～21日)

○講演等

- ・名称：更新世末から完新世初頭の沖縄における人類文化を探る —6,000BP以前の沖縄に人類文化は存在したか?— (片桐千亜紀・大堀皓平・横尾昌樹・仲里健と連名)  
期 日：2011年5月29日  
学 会 名：日本考古学協会第77回総会
- ・名称：土器胎土から見た先史沖縄人の資源開発 (仲里健・伊藤圭・横尾昌樹・金城達と連名)  
期 日：平成23年11月5、6日  
学 会 名：第65回日本人類学会大会
- ・名称：島嶼考古学から見た曾畑文化の渡来・適応・変容：琉球列島における事例研究  
期 日：2012年1月14日  
学 会 名：第6回琉球環境文化史研究会 国際研究者集会
- ・名称：学芸員講座「発掘！沖縄3万年の人類史」  
期 日：2012年1月28日

○著作論文等

- ・「2009年度沖縄県の動向」『日本考古学協会年報』62 2009年度版 日本考古学協会 2011年5月
- ・「日本における更新世人骨研究の現状と課題—沖縄県石垣市白保竿根田原洞穴遺跡の発掘調査から—」『日本旧石器学会ニューズレター』第17号 日本旧石器学会 2011年6月 (片桐千亜紀・藤田祐樹・土肥直美・米田穰と連名)
- ・「縄文後期の広域圏と異系統土器の動態—縁帯文土器の場合」『異系統土器の出会い』同成社 2011年11月
- ・「胎土分析から見た下田原式土器」『沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要』第5号 2012年3月 (仲里健・仲座久宜と連名)
- ・「当博物館における図書業務について」『沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要』第5号 2012年3月

早瀬 千明 (臨時任用学芸員 歴史：古琉球・近世)

○調査・研究等

- ・北中城の神衣裳等調査 (北中城村教育委員会) (2011年5月10日)
- ・竹富島総合調査 (石垣市・竹富島) (2011年11月16日～18日)
- ・沖縄のガラス・玉等製品調査 (県立図書館・琉球大学等) (2011年4月～8月)
- ・南城市新垣氏所蔵資料調査 (2012年2月8日)
- ・平成24年度特別展開関連調査 (ハワイ大学・ハワイ沖縄センター他) (2012年3月25日～30日)

○講演等

- ・名称：学芸員講座「沖縄県の指定文化財について～歴史・美術工芸品を中心に～」  
日 時：2011年12月10日
- ・名称：移動展講演会「沖縄の玉製品調査の概要報告」  
日 時：2012年2月5日

依頼機関：宮古島市総合博物館

○著作論文等

- ・「近世琉球の肖像画とその背景についての試論」『沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要』第5号 2012年3月
- ・「竹富島における石碑・記念碑等の調査報告」『竹富島総合調査報告書』2012年3月（岸本弘人・崎原恭子・島仲彌喜と共著）

池原 盛浩（主任学芸員 教育普及）

○調査・研究等

- ・平成 23 年度動物愛護図画コンクール「絵画審査員」（沖縄県環境生活部自然保護課・沖縄レインボーホテル）（2011年8月15日）
- ・平成 23 年度「私たちの文化財」絵画審査（沖縄県教育庁文化財課・沖縄県立武道館）（2011年10月7日）
- ・平成 23 年度沖縄県全島緑化県民運動ポスター原画審査（沖縄県農林水産部森林緑地課・南部合同庁舎）（2011年10月14日）
- ・平成 24 年度水難事故防止ポスター・標語中央審査会（沖縄県警察本部生活安全課・県警本部講堂）（2012年3月15日）

○著作論文等

- ・「博物館ボランティア活動の見直し」『沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要』第5号 2012年3月
- ・「比較解剖学習教材『骨スーツ』を用いた出前キットの開発」『沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要』第5号 2012年3月（藤田祐樹・具志堅梢・幸喜亜優・當眞妃奈子と共著）

宮平 真由美（嘱託員 学芸）

○著作論文等

- ・「綱曳～沖縄県西原町我謝の綱曳～」『沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要』第5号 2012年3月

當眞 妃奈子（嘱託員 教育普及）

○著作論文等

- ・「比較解剖学習教材『骨スーツ』を用いた出前キットの開発」『沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要』第5号 2012年3月（藤田祐樹・具志堅梢・幸喜亜優・池原盛浩と共著）

#### 4. 職員研修

博物館法第4条の4は「学芸員は、博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項をつかさどる」と規定しており、学芸員は学問的専門性を要求されている。また、博物館が独自の展示会や教育普及活動を行うためには、学芸員は自身が独自の調査研究を行い新たな知見を得ていく必要がある。そのため、学芸員は適宜研修を受講するとともに平成23年度からは毎週セミナーを開催し、互いの研究について情報共有するとともに意見を交換している。

##### 【九州博物館協議会】

○総会・研修会

- 日 時：2011年11月10日（木）13:00～16:15（研修会）、11日（金）8:25～12:30（現地研修）
- 場 所：鹿児島県歴史資料センター黎明館（研修会）、桜島ビジネスセンター及び桜島（現地研修）
- 参 加 者：千木良芳範、濱口寿夫、瑞慶覧勝利、幸地なつみ

##### 【沖縄県博物館協会研修会】

○総会・春の研修会・現地研修

- 日 時：2011年5月20日（金）13:00～17:15（総会・研修会）、21日（土）9:30～12:30（現地研修）
- 場 所：壺屋町民会館（総会・春の研修会）、壺屋焼物博物館及び壺屋地域（現地研修）
- 参 加 者：白保台一、千木良芳範、濱口寿夫、岸本敬、仲里健、池原盛浩、與那嶺一子、岸本弘人、片桐千亜紀、早瀬千明、藤田祐樹、山崎真治、宮平妃奈子、宮平真由美、瑞慶山昇、新里義和、大城仁美、仲里安広、大城直也、吉田祥子、仲村美奈子、瑞慶覧勝利、幸地なつみ、上原善彦、佐藤麻穂

○秋の研修会

日 時：2011年9月15日（金） 13:30～17:30（研修会）、16日（土） 9:00～12:30（現地研修）  
 場 所：ひめゆり平和祈念資料館（研修）、同館、伊原第一外科壕、荒崎海岸等（現地研修）  
 参 加 者：千木良芳範、濱口寿夫、仲里健、岸本敬、池原盛浩、岸本弘人、片桐千亜紀、早瀬千明、山崎真治、  
 當眞妃奈子、宮平真由美、仲里安広、大城直也、吉田祥子、瑞慶覧勝利、新里勝、上原善彦

【2011年度 博物館ゼミ】 以下「回、期日、担当者、テーマ名」の順に記す。

回次	期日（曜日）	担当者	テーマ名
第1回	5月16日（月）	藤田 祐樹	「イリオモテヤマネコの化石は見つかっているか？」
第2回	5月23日（月）	仲里 健	「岩石薄片作成編～岩石の同定は難しい～」
第3回	5月30日（月）	田中 聡	「外来種シロアゴガエルの生活史戦略をふまえた防除について」
第4回	6月6日（月）	山崎 真治	「土器胎土から見た先史沖縄人の資源開発」
第5回	6月13日（月）	濱口 寿夫	「カサガイの何が面白いのか？」
第6回	6月20日（月）	與那嶺 一子	「採織道具 考えたこと・気がついたこと あれこれ」
第7回	6月27日（月）	千木良 芳範	「恩納村の森から～明日のために・その1編～」
第8回	7月5日（火）	園原 謙	「三線名器の音とは？—当館所蔵の三線指定文化財の音響学的アプローチ」
第9回	7月11日（月）	岸本 弘人	「真栄城・牧野・高良による本土復帰後25年の沖縄評価」
第10回	7月25日（月）	片桐 千亜紀	「宜名真沖海底に沈没した異国船の実態に迫る」
第11回	8月1日（月）	岸本 敬	「人生儀礼における「誕生（出産）の儀礼」について」
第12回	8月8日（月）	池原 盛浩	「博物館ボランティアの改革」
第13回	8月15日（月）	藤田 祐樹	「リュウキュウジカはどのような動物だったか？」
第14回	8月22日（月）	仲里 健	「PART I 『隕石から始まる宇宙の探求』」
第15回	8月29日（月）	早瀬 千明	「沖縄のガラス・玉調査報告」
第16回	9月5日（月）	宮平 真由美	「綱引きあれこれ」
第17回	9月12日（月）	田中 聡	「キノボリトカゲがそこにいるワケ—サキシマキノボリトカゲのとまり場の高さ選択」
第18回	9月26日（月）	山崎 真治	「南城市サキタリ洞における過去3万年間の人類史復元に向けて」
第19回	10月11日（火）	濱口 寿夫	「「天然記念物」の英訳は「Natural Monument」か？」
第20回	10月17日（月）	與那嶺 一子	「波濤飛龍図前掛の謎を解く」
第21回	10月24日（月）	園原 謙	「カンボジアの現代史—ポル・ポト政権下の国民大虐殺」
第22回	10月31日（月）	岸本 弘人	「ウチナーンチュは何時から島外旅行ができるようになったのか？—アメリカ統治下における出入域管理—」
第23回	11月7日（月）	岸本 敬	「石垣市登野城の結願祭について」
第24回	11月14日（月）	片桐 千亜紀	「『元寇』を見る！—鷹島海底遺跡の発掘成果—」
第25回	11月21日（月）	池原 盛浩	「博物館ボランティア活動の見直し」
第26回	11月28日（月）	早瀬 千明	「琉球絵画の中の肖像画について～八重山島の肖像画2点～」
第27回	12月5日（月）	當眞 妃奈子	「学校対応プログラムに関する実践研究」
第28回	12月12日（月）	藤田 祐樹	「日本列島人の形成史」
第29回	12月19日（月）	仲里 健	「竹富島総合調査 中間報告（地質）」
第30回	12月26日（月）	田中 聡	「ヤンバルオオフトミミズによるリターマウンドの形成」
第31回	2012年	富永 千尋・伊良部 誠也	「沖縄県生物多様性地域戦略の策定について」（自然保護課）
第32回	1月10日（月）	伊良部 誠也	
第33回	1月16日（月）	山崎 真治	「沖縄の先土器文化に関する新たな知見」
第34回	1月30日（月）		平成24年度総合調査計画（その1）
第35回	2月6日（月）	濱口 寿夫	「ジュゴンは戦前天然記念物だったか？」
第36回	2月13日（月）	千木良 芳範	「恩納村の森から—ツシマトリノフンダマシの生態編—」
第37回	2月20日（月）	與那嶺 一子	「「うちくい」あれこれ」
第38回	2月27日（月）	岸本 弘人	「平成24年度博物館特別展 復帰40年『Okinawa から沖縄へ（仮称）』」
第39回			について
第40回	3月5日（月）	岸本 敬	「竹富島における「竈」の使用について」
第41回	3月12日（月）		平成24年度総合調査計画（その2）
第42回	3月19日（月）	片桐 千亜紀	「久米島水中文化遺産見学会—海底遺跡ミュージアム構想の実践」
第43回	3月26日（月）	Anya Davis	「ニューメキシコ州立博物館の運営、文化財修復について」（沖縄大学院大学）

## Ⅱ. 展示活動

### 1. 展示活動概要

年間の展示活動としては、常設展示を中心に、特別展1本、企画展2本、大嶺薫コレクション展及び新収蔵品展を開催することを基本としている。また、旧博物館において実施してきた「移動博物館」については、「移動展」として2008年度からは美術館と共同で開催している。

海洋性、島嶼性の地理的要因により、沖縄には豊かな自然環境が形成されるとともに、海を介して行われた日本本土や中国をはじめとするアジア諸国との交流により独自の歴史、文化が形成されてきた。常設展示では「海と島に生きる—豊かさ、美しさ、平和を求めて—」をテーマとし、沖縄の自然・歴史・文化に係る総合的かつ体系的な展示を行っている。

2011年度は特別展「宇宙～遙かなるロマンを求めて」を開催した。企画展は「工芸王国—受けつがれる琉球のわざと美」「第19回全国重要無形文化財保持団体秀作展日本の伝統美と技の世界」を同時開催し、九州国立博物館との巡回展として「琉球と袋中上人展 エイサーの起源をたどる」を実施した。

### 2. 常設展

#### 【総合展示】

常設展は、総合展示と部門展示からなり、沖縄の自然・歴史・文化を「海洋性」と「島嶼性」という二つの側面から読み解いている。古来より、沖縄の島々は海によって互いに隔てられると同時に、海によってアジア、太平洋地域と深く結びつけられてきた。島には固有の自然があり、人々の営みがあり、その一つひとつが沖縄県の特徴ある自然・歴史・文化を形成している。島に息づく豊かな自然と、島をとりまく海を媒介とした人々の営みを紹介するとともに、ト（唐：中国）とヤマト（日本）との間で花開いた琉球王朝文化、そして目まぐるしい世替わりを体験してきた沖縄の近代史と戦中・戦後史を射程に入れ、常設展のメインテーマを「海と島に生きる—豊かさ、美しさ、平和を求めて—」とした。

常設展へのアプローチでは、イノー（ラグーン）に広がる珊瑚礁を足元に見ながら、あたかも島に上陸するような感覚を体験することができる。また、展示室中央に設けられた「シマの自然とくらし」のコーナーには、鹿児島から台湾まで東西1,000キロ、南北400キロの海域に散在する琉球列島の大小の島々を壮観できる大型ジオラマを配置し、島々の特徴ある自然・歴史・文化を情報端末機を用いて紹介している。また、人工衛星によって撮影された画像を用いて、島々を観察することができる。

#### ○海で結ばれた人々～サークルホールの展示～

「化石の宝庫」沖縄から発見された様々な化石を展示している。クジラやアンモナイトなど、原始の海にくらした生き物をはじめ、日本人のルーツとされる1万8,000年前の「港川人」や、その頃に生きていたリュウキュウジカ、ヤンバルクイナなどの化石がステージ上に展開している。また、正面のスクリーンでは、古生代から現在に至るまでの琉球列島の地史を映像で概観し、沖縄の自然・歴史・文化の旅へと誘う。

#### ○貝塚のムラから琉球王国へ

グスク時代、それぞれの地域に有力者が登場すると、防御などを目的とした様々なグスクが造られるようになる。また、有力者たちは中国への朝貢を通して文化の移入や交易に努め、富を築いた。各地の勢力は、やがて北山・中山・南山の3つに収斂し、激しい抗争を繰り返した。しかし、15世紀はじめころに、これらの3つの勢力は尚巴志によって統一され、琉球王国が築かれた。ここからおよそ500年の長きにわたり、首里を拠点とする王国の歴史が始まる。

#### ○王国の繁栄（古琉球）

尚巴志によって統一された琉球王国は国家として成立したが、国内の権力基盤は不安定な状態であった。そのため、第一尚氏から第二尚氏へ王統の交代が起きた。一方で、中国との冊封・進貢貿易によって富を蓄えた琉球王国は、中国・日本・東南アジアをつなぐ中継貿易を盛んに行った。東アジアの大海原の架け橋として船を操り、国際色豊かな産物が国中にあふれるさまを謳った旧首里城正殿鐘の銘文は、往時を偲ぶ貴重な資料である。この時代、琉球は東アジア有数の貿易国家として繁栄し、より強固な国家体制を造りあげていった。

#### ○薩摩の琉球支配と王国（近世琉球期）

1609年薩摩島津氏による琉球侵攻後、琉球王国は江戸幕府の影響下に置かれるようになる。しかし、中国との冊封・進貢関係は維持され、他方で江戸への謝恩・慶賀使の派遣が義務づけられた。

近世琉球期は、王国の危機を向かえて、羽地朝秀・蔡温などの強力な政治家による王国の経営が行われ、琉球独自の文化が花開く時代でもある。江戸文化の影響をうけ、組踊などの芸能が確立し、『中山世鑑』『球陽』等の歴史書が編纂され、首里王府内に多くの役職が確立した。さらに貝摺奉行所を中心に琉球漆器・紅型など

の様々な工芸品が数多く製作された。

#### ○王国の衰亡

19世紀頃には、欧米諸国の船舶がアジア進出を目指して琉球近海に頻繁に来航し、首里王府にも開国をせまってきた。一方で、中国・日本との関係を保ちながら体制を維持してきた琉球王国だが、農村の疲弊や災害などが原因で、王府の財政難は顕著となっていった。

#### ○沖縄の近代

江戸幕府が崩壊し、明治政府が発足すると日本と琉球との関係性も変化した。1879年に明治政府は琉球藩を廃し、沖縄県を設置した(琉球処分)。琉球王国は消滅し、近代日本国家の一部としての沖縄県が誕生した。

政府は旧慣温存政策を実施したが、その結果沖縄県の土地所有権の確立や国政参加は大きく遅れ、教育制度の確立も大正期になってようやく整った。しかし、日本は次第に領土拡大と戦争へと突入していき、沖縄も戦争体制に組み込まれていった。1945年、沖縄では住民を巻き込んだ日米両軍による地上戦が展開され、24万人余りの尊い命が失われた。焦土と化した沖縄では、多くの貴重な文化財も焼失し、破壊された。

#### ○戦後の沖縄

沖縄戦によって大きな戦禍をこうむった沖縄。住民たちの生活はゼロからの出発であった。沖縄の施政権は日本からアメリカに移譲され、27年間のアメリカ統治下に置かれた。アメリカは東アジアの戦略基地として沖縄を重要視し、基地の機能強化を進めた。軍事優先の政策は、住民の生活を侵害し、米軍関係の事件・事故が多発したため、日本への復帰を望む運動が高まっていった。その結果、1972年に沖縄の施政権は日本に返還されたが、多くの基地が残されるなど未解決の問題が山積したままである。

#### ○沖縄の今、そして未来へ

復帰後、沖縄では大規模な公共事業のほか、沖縄国際海洋博覧会の開催を契機にリゾート開発が各地で始まった。豊かな社会の実現を目指して開発が進められたが、同時に環境の悪化も問題化した。2000年には九州・沖縄サミットが名護市で開催され注目を集めた。同年には「琉球王国のグスク及び関連遺産群」が世界遺産に登録されるなど、沖縄文化の優位性が広く認知されてきている。今日では観光客や移住者の大幅増加とともに沖縄は新たな時代を迎えている。

エピソードの「沖縄の現代生活」は、開館時に募集した写真作品で構成され、まさに「現代生活」のドキュメント資料である。

### 【部門展示】

総合展示室の周囲には、自然史、考古、美術工芸、歴史、民俗の5つの部門展示室を設け、沖縄の自然・文化・歴史・民俗の特徴をより深く理解していただくために、それぞれのテーマをより特化した形で展示している。部門展示で扱うテーマには可変性を持たせ、頻繁に展示替えを行っている。

#### ○自然史部門展示 「生物が語る沖縄2億年」

琉球列島の成り立ちや、島の環境に適応して独自の進化をとげた生き物の世界を展示するとともに、沖縄が世界に誇る化石人類である港川人の最新の研究成果を紹介している。またジオラマ展示では、ヤンバル(沖縄島北部)、宮古島、西表島、マングローブについて自然の成り立ちを重視した展示を行っている。

#### ○考古部門展示 「沖縄考古学の世界」

発掘調査によって出土した実物資料を用いて、人々の暮らしぶりや地域的な特徴、時代の変化などをわかりやすく紹介している。

#### ○美術工芸部門展示 「琉球の美」

島々に生きた先人たちは、自分たちの生活・文化に海外との交流によってもたらされた「モノ」や「文化」を取り入れることによって、琉球の美術工芸品を生み出した。ここでは王国時代の人々の美意識を伝えながら、現代に生きる私たちにとって、より親しみやすい形で、年に数回テーマを決めて展示替えを行いながら、琉球の美を紹介する。

#### ○歴史部門展示 「モノから読む歴史」

沖縄は、独立した国家であった琉球王国の歴史に加え、近代以降、日本やアメリカなど国際社会の動向の中で、何度も世替わりを経験した。ここでは年に数回のテーマ展示を通して、沖縄をはじめ各地の様々なモノから歴史をひもとくとき、歴史の醍醐味や楽しさを紹介する。

#### ○民俗部門展示 「沖縄の伝統と暮らし」

沖縄の島々に伝わる生活文化について紹介している。村落の成り立ち、信仰と祭り、人の一生、農耕と漁労、衣食住、職人の技、変容する民俗などのテーマを設けて、「観る」、「聴く」、「触る」、「調べる」といった体験的な要素を加えた展示を行っている。

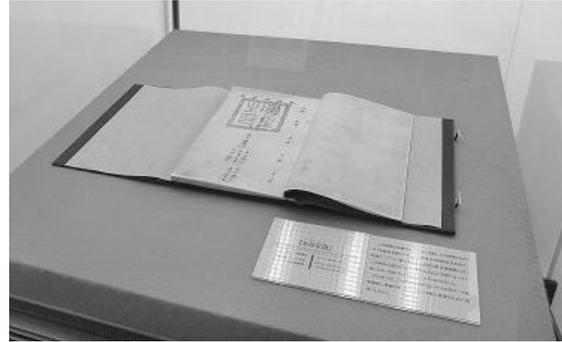
### 3. 常設展示展示替え

#### 【総合展示室】

○ハワイ大学所蔵「毛姓家譜（内間家家譜「毛姓世系図」）～海を渡った家譜～」初公開

ハワイ大学所蔵「毛姓家譜」は沖縄戦を生き残り、戦後に遠く沖縄を離れてハワイに渡り、内間家の人々の手で大切に保管されてきた。沖縄とハワイ移民社会をつなぐ貴重な資料のひとつである。この家譜は2010年11月にハワイ大学に寄贈され、2011年6月に修理のために沖縄に里帰りした。

ハワイ大学のご厚意により、沖縄県立博物館・美術館の博物館常設展示室入口にて10月4日（火）～16日（日）まで修理完了報告の特別展示を行いました。



#### 【自然史地学部門】

○岩石洗浄活動（野外展示） 平成23年6月27日（月）

○展示パネルの訂正・交換 平成24年3月19日（月）

平成21年に、地質時代における第四紀更新世の開始年代が、約180万年前から約260万年前に改訂になった。それに伴い、古地理図に使用している地質時代も改訂が必要になった。また、古地理図に一部間違いがあったため、訂正の必要があり、古地理図のパネル6枚を新しく作成し、地質年表の一部修正を行った。

又、サークルホールにおけるパネルの修正も同時に行った。人類においては「沖縄の人類化石」のパネルについて、遺跡の追加や分布地図の修正を行った。

#### 【美術工芸展示室】

美術工芸部門展示室では、湿潤亜熱帯の気候風土にあり、中国、朝鮮半島、日本、東南アジアの中継地点に位置し、独立した王国を営んできた沖縄で生まれた琉球の美を、下記の展示替えを行い紹介した。

○「こどもの世界」

主旨：いつの時代も変わらないのは子どもの成長を願う親の気持ち。込められた親の想いを子どもの衣装や人形、道具などから探ってみた。

江戸立ちのなかで元服前の楽童子達（少年）には大きな役割があった。絵画に描かれた楽童子達や衣装、楽童子達が揮毫した書跡などを展示しながら、士族の子弟として学芸を身につけた彼らの姿を紹介した。

展示資料：楽童子の図・舞楽の図・鍾馗の図・馬文英の書・毛維藩の書・赤絵碗・菊花皿・魚文皿・密陀絵丸盆  
木綿白地飛鳥に流水蛇籠葵菖蒲文様衣装・絹木綿浅地手縞子供着・芭蕉木綿経緯縞織子供着他

展示期間：2011年4月29日～8月21日（日）



### ○「文様と形」

主 旨：美術工芸の各分野における文様や形（フォルムやスタイル）をそれぞれの切り口で紹介した。絵画では中国から影響を受けた琉球のスタイルを、書跡では隸書・楷書・行書・草書のスタイルから近世琉球の書を紹介した。また、沖縄陶器の器型、いろいろな琉服や着装の様子を紹介することで形の面白さを示した。漆器では独特の器型とともに文様のモチーフにもスポットをあててみた。

展示資料：孫億「花鳥図」・殷元良「花鳥図」・林麟焔書扁額「凌雲」・鄭嘉訓の書「七言対句」・宜湾朝保和歌・線彫抱瓶・白釉三巴紋入嘉瓶・木綿朱地手縞袴胴衣・繡珍青地龍文唐フーター・苧麻浅地松竹梅散文様衣装・朱漆巴紋牡丹沈金大御供飯

展示期間：2011年9月1日（木）～12月25日（日）



### ○「龍と招福」

主 旨：2012（平成 24）年が辰年であること、また初春であることにちなみ、飛躍の年になるように願い「龍と招福」をテーマとした作品を選び、展示した。

展示資料：孫億「松鶴図」・山田真山「龍頭観音図」・伝自了「寿老人」・黒塗瑞雲双龍螺鈿椀・龍漆絵印籠・三線「盛鳴開鐘」・龍文透彫三足香炉・赤絵雲竜文からから・釘彫抱瓶・周煌「福」・鄭徳潤「龍」・渡嘉敷兼副「寿」・円覚寺龍淵殿板戸鳳凰透彫・円覚寺龍淵殿板戸龍透彫・円覚寺仏殿欄間浮彫獅子・紺地獅子牡丹模様紅型幕・金茶地龍瑞雲模様繡珍衣衣装・読谷山花織着物他

展示期間：2012年1月1日（日）～3月18日（日）



### ○「うりずん（芽ぶき）」

主 旨：草花な鳥虫など生き物の成長や生育などをモチーフに初夏（うりずん）の季節を各分野の作品で表現した。

展示資料：菜園鳥虫図・佐渡山安健「花鳥図」・孫億「牡丹小禽図」・黒塗薔薇堆錦椀・堆錦爬龍船文大盆・黒漆芭蕉蘭堆錦大硯屏・赤絵竹梅文茶家・金城次郎「線彫花文水滴」・鄭嘉訓「王安石五言絶句」・向傑書「五言絶句」・宜湾朝保和歌「新樹風」・苧麻紺地波に鶴文様幕・芭蕉桐板経緯緋着物・芭蕉浅地格子に緋上衣他

展示期間：2012年3月23日（金）～7月16日（日）

（與那嶺 一子・園原 謙）



## 【歴史部門展示室】

歴史部門展示室では、様々な資料から歴史を紐解いていくことを志し、「モノから読む歴史」という大テーマを設定している。ここでは、様々なテーマに沿った年に数回の展示替えやトピック的な展示を行っている。

歴史部門は、「那覇港～往来する人とモノ～」というテーマで通年展示を行っている。さらに2011年度は「大正・昭和初期の沖縄－坂口總一郎撮影写真－」「刻まれた歴史－石碑・拓本－」「島尻郡民に慕われた佐賀県人 第11代 齋藤用之助」の展示を部分的に行った。

以下に、それぞれの概要を紹介する。

### ○「那覇港～往来する人とモノ～」

主 旨：琉球王国から国内外への玄関口として機能し、様々な人やモノが行き交った那覇港の歴史のなかでも、17～19世紀を中心に取り上げ、3つのテーマに分けて紹介する。「1 王国の港・那覇港」では、琉球王国の王都であり政治の中心地であった「首里」と、海上交通の要所であった「那覇」の強い結びつきを示し、「2 往来する人・モノ」では、王国の玄関口である那覇港から行き来した様々な人やモノを紹介する。「3 那覇のマチ」では、歴史読史地図を手がかりとして、「那覇四町」とよばれる地域と隣接する久米村や辻・渡地・仲島という遊郭地区、女性によるマチ（市場）の様子など、港をとりまく人々の姿を示す。

展示資料：首里那覇港図屏風（複製）、琉球国惣絵図（間切集成図）（真和志間切他）（複製）、「琉球国全図」（琉球列島並三十六島之図）他

展示期間：通年展示

### ○「大正・昭和初期の沖縄 坂口總一郎撮影写真」

主 旨：坂口總一郎氏（1887～1965年、和歌山県生）は、1920～25年まで沖縄県立第一中学校に赴任し、沖縄の動植物を研究した。また、持参したガラス乾板写真機で沖縄の風景や生物などを撮影し、その成果の一部は『沖縄写真帖』第一・二輯（1925年刊）に掲載された。ここでは、2005年に坂口氏の遺族から寄贈されたガラス乾板192枚の中から未公開写真を60点展示した。

展示資料：坂口總一郎撮影ガラス乾板写真

展示期間：2011年6月7日（火）～9月4日（日）

### ○「島尻郡民に慕われた佐賀県人 第11代 齋藤用之助」

主 旨：齋藤用之助氏（1859～1933：安政6～昭和8年、佐賀県生）は、1898（明治31）年～1915（大正4）年まで島尻郡長を勤めた。当時は廃藩置県後の旧慣温存策が転換され、沖縄が中央集権的国家体制に組み込まれていく時期にあたる。そのなかで、数々の大きな業績を残し、島尻郡民から慕われた齋藤氏の業績を紹介した。

展示資料：与那原街道新旧道路図、間切時代の沖縄県地図、辞令、履歴書他

展示期間：2011年9月7日（水）～2012年1月9日（月）

### ○「刻まれた歴史－石碑・拓本－」（首里城とその周辺）

主 旨：琉球王国時代の沖縄では、記念碑、墓碑、国王の業績を讃える碑、伝来や由来記、名所碑など、石を素材とした多くの記念碑がつくられた。それらに刻まれた文字から王国時代の歴史や人々の考え方、書の文化など様々なことを知ることができる。しかし沖縄戦によって、数多くの石碑が破壊・亡失してしまった。刻まれた文字や模様を写し取った拓本で補完し、石碑に刻まれた琉球・沖縄の歴史を紹介した。

展示資料：「中山第一」（拓本）、「国王頌徳碑」（拓本）、「真珠湊碑文」（拓本）、「重修天女橋碑記」（拓本）、「源遠流長」（拓本）、「霊脈流芬」（拓本）、「たまおとんのひのもの」（拓本）等

展示期間：2011年6月21日（火）～2012年9月5日（月）

（岸本 弘人・早瀬 千明）



那覇港の展示風景



石碑拓本の展示風景



坂口撮影写真の展示風景



第11代齋藤用之助の展示風景

【民俗展示室】

○「ユッカヌヒー」

主 旨：ユッカヌヒーに向け、展示室の民家の中に、チンピン・ポーポー、ヤカジの展示を行った。ユッカヌヒーとは、旧暦5月4日（平成23年度は6月5日）で、豊漁祈願、海上安全祈願のハーリーが各地の港町や漁村で盛大に行われる。

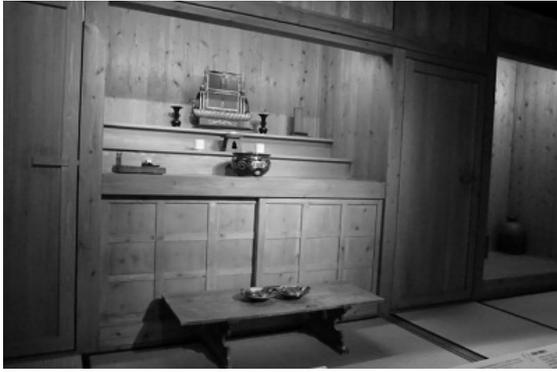
展示期間：2011年4月26日～6月中旬



○「十五夜（ジューグヤー）」

主 旨：中秋の名月とも言われるように旧暦の8月15日（平成23年度は9月12日）は、一年中で月が一番美しい日。各家庭で、小豆をまぶしたフチャギムチ（吹上餅）を仏壇や火の神（ヒヌカン）に供えた後、家族で月見をしながら盆に盛ったフチャギムチを食べて楽しむという行事。

展示期間：2011年9月6日（火）～11月中旬



#### 4. 特別展「宇宙～遙かなるロマンを求めて～」

会 期：2011年11月3日（木）～12月28日（水）

会 場：博物館企画展示室・特別展示室1・2

観覧料：一般800円、高校・大学生500円、小・中学生300円

観覧者数：9,916人

予算額：16,439,710円

##### 【開催形式】

主 催：沖縄県立博物館・美術館

共 催：国立天文台

後 援：沖縄県総合事務局国営沖縄記念公園事務所／財団法人海洋博覧会記念公園管理財団／財団法人沖縄こども未来ゾーン運営財団／沖縄県高等学校地学教育研究会／NHK 沖縄放送局／琉球放送／沖縄テレビ放送／琉球朝日放送／沖縄ケーブルネットワーク／沖縄タイムス社／琉球新報／ラジオ沖縄／エフエム沖縄／FMレキオ／タイフーン f m

協 力：国立科学博物館／国立極地研究所／JAXA／沖縄県立総合教育センター／沖縄県立那覇高等学校／那覇市牧志駅前ほしぞら公民館

##### 【開催趣旨】

現代における科学技術の進歩は著しく、その中でも宇宙に関する内容は日進月歩で変化している。その研究や開発は世界的な規模で行われている。日本においても隕石の研究をはじめ、小惑星、惑星、太陽や銀河、宇宙の構造まで幅広く研究が進められている。直近では、小惑星探査機「はやぶさ」が大きな成果を残している。沖縄県においても、VERA 石垣島観測局の電波望遠鏡で、高校生が新しいメーザー天体を発見するなど、貴重な取り組みがなされている。

本展示会では、宇宙に対する国内における研究の取り組みと成果を多くの人に知ってもらい、宇宙に対する意識を新たに捉えなおす機会とする。

##### 【展示内容】

はじまり ～沖縄の生活と天体～

沖縄県では、天体に関する内容の民謡や童話などが多く存在する。石垣島や竹富島では、星を観測した「星見石」が残っている。久米島では太陽を観測した「太陽石」がある。ここでは、星見石や太陽石を写真で紹介するとともに、民謡の「ていんさぐぬ花」に出てくる「ていんぬむりぶし」や「にぬふあぶし」など、写真を付けて紹介した。昔から天体観測が行われており、天体そのものが生活に密着していたものであることを示した。

## I 宇宙からの贈り物

宇宙空間にある物質のなかで、地球上で見ることができるものの代表は隕石である。ここでは、月や火星の隕石をはじめ、小惑星帯から飛来したコンドライトや隕鉄などを展示した。また、隕石から分かってきた地球の内部構造や、惑星の構造などを紹介した。

さらに、太陽系天体の紹介や、天体望遠鏡で撮影した天体の動画を紹介し、最近の研究成果などを示した。

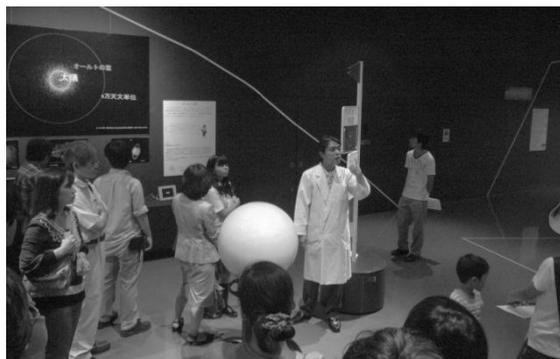
## II 地球から飛び出そう！

銀河系内の天体である星間ガスや散光星雲や、銀河系外にある銀河、宇宙の大規模構造などの写真画像を100枚以上にわたって紹介した。また、宇宙観測の簡単な原理や恒星の分類などもパネル展示した。

中心にプラネタリウムを置き、展示空間全体が宇宙全体をイメージするようにした他、フォトフレームを使用し、宇宙の誕生や銀河の形成など、コンピュータグラフィックによる動画を展示した。



隕石の展示



太陽系の展示

## III 宇宙研究の歴史

地球の自転を初めて科学的に証明したフーコーや、惑星の楕円軌道を発見したケプラーなど、宇宙研究の歴史上重要な人物を紹介した。また、人間が作り出してきた天文図や天球儀、遠眼鏡、現代の観測に使用される電波望遠鏡模型などを展示した。

## IV 宇宙への探求

宇宙や地球を観測するために、人間が作り出した人工衛星のエンジニアリングモデルや模型、H II-A ロケットの模型などを展示した。また、現在も宇宙ステーション計画の中枢を担っているソユーズの、実物大帰還カプセルや宇宙服、そしてロシアの宇宙開発の歴史を、年表や写真などで紹介した。また、実際に使用された宇宙食などを展示し、宇宙ステーションでの生活の様子も紹介した。展示室入り口には、9m×7mのソユーズ帰還カプセルの実物大タペストリを展示した。



ソユーズ帰還カプセルの展示

また、国立天文台の石垣島天文台で撮影された天体画像や、「はやぶさ」が帰還したときの動画、天体望遠鏡生誕400年などを紹介した。

最後には、国立天文台が開発した「Mitaka」をPCコンテンツで紹介し、学校や家庭でも、宇宙の様子が楽しめることを紹介した。

## 【関連事業】

[博物館文化講座]

演 題：「『はやぶさ』から貰ったもの」

期 日：2011年6月4日（土） 14：00～16：00  
 講 師：細田 聡史（JAXA 月・惑星探査プログラム  
 グループ開発員）  
 小野瀬 直美（JAXA 研究開発部 スペース  
 デブリユニット研究員）  
 会 場：沖縄県立博物館・美術館 講堂

演 題：「沖縄の星と石垣島」  
 期 日：2011年11月19日（土） 14：00～16：00  
 講 師：宮地 竹史（国立天文台 石垣島観測所 副所  
 長）  
 会 場：沖縄県立博物館・美術館 講堂

〔学芸員講座〕

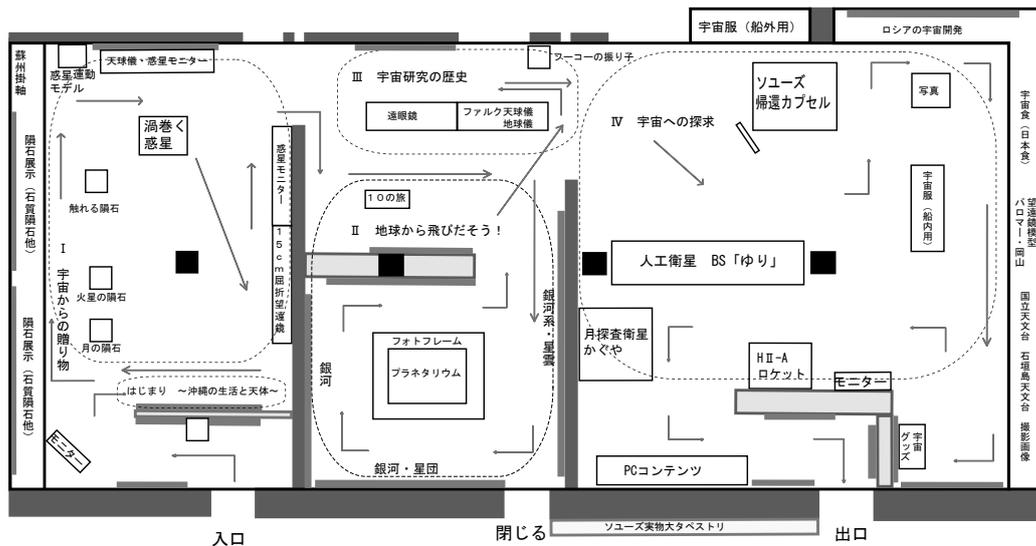
演 題：「隕石から始まる宇宙の探求」  
 期 日：2011年10月15日（土） 14：00～16：00  
 講 師：仲里健（沖縄県立博物館・美術館 学芸員）  
 会 場：沖縄県立博物館・美術館 博物館講座室

〔展示解説会〕

講 師：仲里健（沖縄県立博物館・美術館 学芸員）  
 期 日：展示期間の毎週日曜日（11:00～子ども対象、14:00～一般対象）計16回  
 会 場：宇宙展展示会場

【展示平面図】

展示配置図



特別展示室	面積	230	m <sup>2</sup> × 2
企画展示室	面積	351	m <sup>2</sup>
合計		810	m <sup>2</sup>

(仲里 健)



## 5. 企画展「大嶺薫コレクション」

会 期：2011年4月19日（火）～6月12日（日）

会 場：博物館特別展示室2

### 【開催趣旨】

1985年（昭和60）3月に沖縄県立博物館に寄贈された大嶺薫美術館所蔵〔大嶺薫（1905－1970）が収集したコレクション〕の資料を紹介する。

### 【展示内容】

大嶺薫コレクションは故大嶺薫氏（1905－1970）が戦前・戦後を通して収集した資料である。大嶺の没後、その遺志を引き継いだ遺族によって、1971年に那覇市に沖縄初の私立の大嶺美術館が設立され、沖縄の美術工芸文化に貢献してきたが、1985年の閉館に伴い、3,550点の美術工芸資料が沖縄県立博物館へ寄贈された。

同コレクションは美術工芸、歴史、考古、民俗の各分野にわたり、その収集範囲も沖縄を中心に、日本や中国、南方諸国はもとより、ヨーロッパやアメリカまで及んでいる。戦後、沖縄の多くの文化遺産が焼失あるいは海外へ散逸してしまった。大嶺はその文化財の流失を憂慮し、収集しており、その業績は高く評価されるものである。本展では、同氏の業績を顕彰するとともに、大嶺が求めた美の概要を紹介した。

### 【展示資料】

○絵 画：白澤之図、三国志高傑図、水天龍神図、美女之図、富士之図、四季花之図

○漆 器：箔絵宝づくし山水八角三段重、黒漆唐人模様螺鈿花台、朱漆桜花模様沈金蓋物、朱漆菊唐草模様堆錦手箱、黒漆楼閣人物模様螺鈿文箱、朱漆山水遊舟模様箔絵硯屏、黒漆牡丹鳳凰模様螺鈿硯箱

○陶 器：なまこ釉からから、盛付赤絵酒チュウカー、白釉に家紋入嘉瓶、飴に緑釉流碗、灰釉碗、コバルト釉酒チュウカー、古我知焼銭壺、飴釉碗、パナリ焼壺、シャム南蛮甕、牡丹唐草盛付壺

○歴史資料：「法式」、「地頭御方ニ難渋有之候 一件」、「書簡案文集」、「いろは歌」、伝聞得大君勾玉、緑玉勾玉、緑玉勾玉（大）、青磁色勾玉、青色勾玉、緑玉勾玉、薄緑玉勾玉、紫玉子持勾玉、薄青玉勾玉、薄緑玉勾玉、緑玉勾玉（小）、水晶勾玉、今帰仁阿庇理屋恵の玉草履の欠片、明刀銭2点、長身方足布、方肩方足布、尖足布、崇寧重宝4点、三鏹、開元通宝、五銖6点、元豊通宝、古銭100点  
（園原 謙）

## 6. 企画展「新収蔵品展—平成22年度収蔵資料—」

会 期：2011年5月27日（金）～6月19日（日）

会 場：博物館企画展示室

### 【開催趣旨】

「新収蔵品展」は、博物館が過年度に寄贈・購入・移管等で受け入れた資料を一堂に展示・公開するとともに、今後の博物館活動の充実と発展をめざして開催するものである。

### 【事業内容】

2010年度に寄贈・購入・収集された諸資料を自然、歴史、美工、民俗、考古、地学の各分野に分類し、博物館3階企画展示室で展示・公開した。

初日の開会式では、白保台一館長より寄贈者の皆様12名へ感謝状が贈呈され、これに続いて、寄贈者4名と白保台一館長によるテープカットが行われた。式典終了後、参観者は会場内を観覧し、約50点の展示品を興味深く鑑賞する姿が見られた。

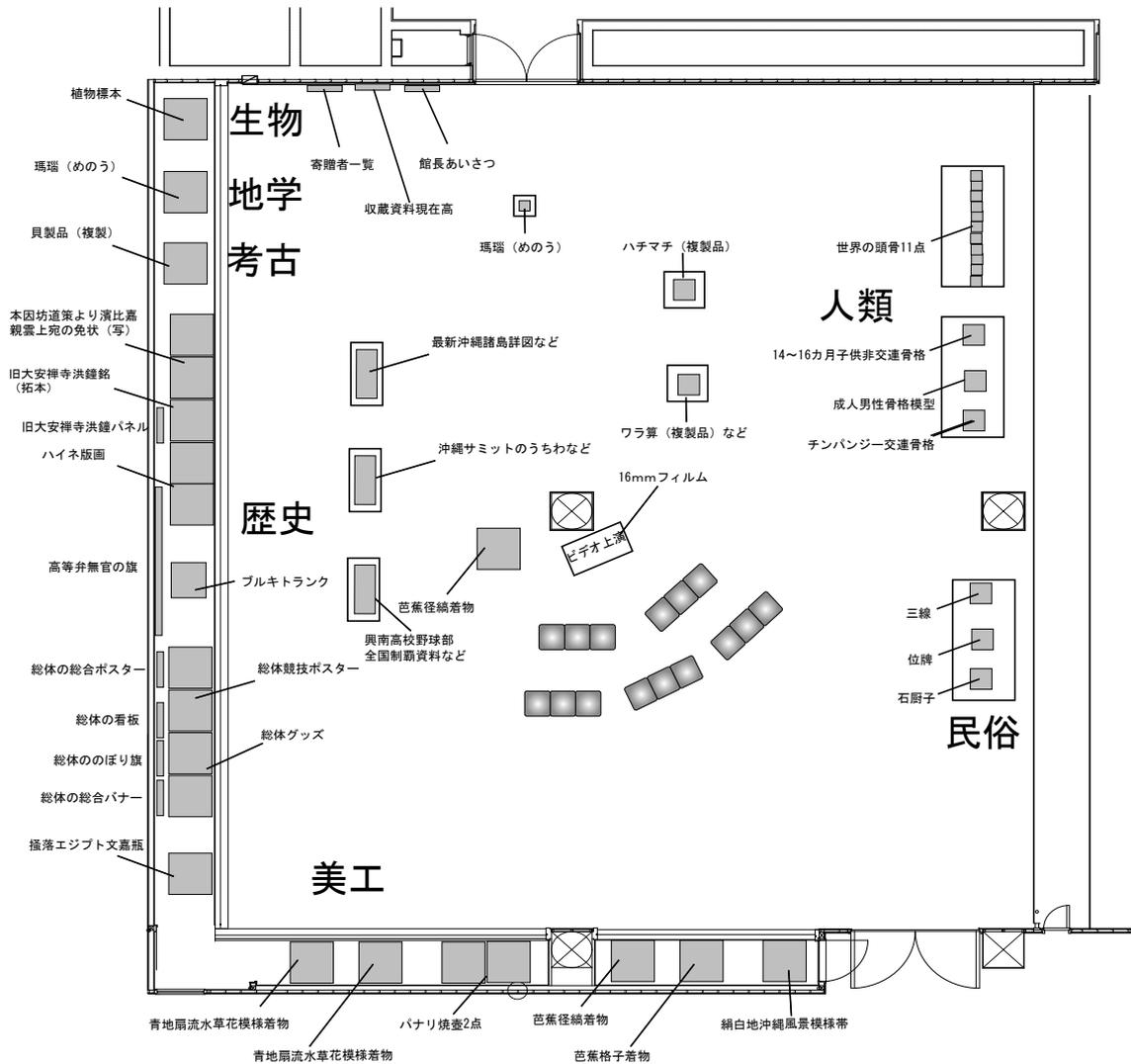
【展示内容】

2010年度は、国内の個人や機関等から多数の貴重な資料をご寄贈いただき、収集、購入したものと合わせて527点の資料を収蔵した。

主だったものとしては、自然史分野では瑪瑙（めのう）、民俗分野では石厨子、歴史分野では、1853年にペリー提督とともに琉球を訪れた画家ウィリアム＝ハイネのスケッチ原画をもとにした版画などがあげられる。また、美術工芸分野では、日本の戦後ファッション界の草分け的存在である鯨岡氏のコレクションの一部などを収蔵した。



【展示平面図】



博物館企画展「新収蔵品展—平成22年度収蔵資料—」展示配置図

(岸本 敬)

## 7. 企画展 第19回全国重要無形文化財保持団体秀作展「日本の伝統美と技の世界」

会 期：2011年10月6日（木）～23日（日） ※16日間

会 場：沖縄県立博物館・美術館 博物館企画展示室

観 覧 料：一般：500（400）円 高校・大学生：300（240）円 小・中学生：200（160）円

※（ ）内は、20名以上の団体料金

観覧者数：2,624人（164人/日）※「工芸王国展」を含む

予 算 額：1,686,000円 ※「工芸王国展」を含む

### 【開催形式】

主 催：沖縄県立博物館・美術館／全国重要無形文化財保持団体協議会

共 催：全国重要無形文化財保持団体協議会大宜味大会実行委員会  
大宜味村／大宜味村教育委員会

後 援：文化庁／沖縄県／沖縄県教育委員会／沖縄タイムス社／琉球新報社／NHK沖縄放送局  
沖縄テレビ放送／琉球朝日放送／琉球放送／ラジオ沖縄／FM沖縄／FMレキオ／タイフーン fm

### 【開催主旨】

我が国には、ながく受け継がれてきた工芸の技がたくさんある。それらの中で、国から重要無形文化財保持団体として認定を受けている14団体により、全国重要無形文化財保持団体協議会が組織され20年になる。協議会では、毎年、総会と各団体の美と技の素晴らしさを広く紹介する展覧会を開催しており、第19回になる今年度は、喜如嘉の芭蕉布保存会とその所在自治体である大宜味村が中心となって、大宜味大会実行委員会を組織して開催することになった。

日本本土とは海を隔てた地にある沖縄では、日本の伝統の技を目にする機会は少ない。今回、大宜味大会実行委員会と共同主催し、保持団体の秀作を一堂に会し、当館で紹介することで、伝統工芸の普及を図る。

### 【展示内容】

重要無形文化財保持団体の作品と団体概要及び製作工程のパネル

〈柿右衛門（濁手）〉 柿右衛門製陶技術保存会 4件12点

濁手梅花地文六角壺／濁手陽刻牡丹文輪花形深皿／濁手陽刻桃柘榴文方形小鉢／濁手牡丹唐草文透かし彫り香炉

〈色鍋島〉 色鍋島今右衛門技術保存会 5件9点

色鍋島草花更紗文花瓶／色鍋島兎文皿／色鍋島草花文額皿／色鍋島花模様菓子器／色鍋島絵変りぐい呑揃  
※製作工程見本皿9点

〈小鹿田焼〉 小鹿田焼技術保存会 5件5点

睡蓮鉢／一斗茶壺／五升壺／ピッチャー／八升雲助

〈越後上布・小千谷縮布〉 越後上布・小千谷縮布技術保存会 3件3点

小千谷縮道の辺「和」／越後上布生成地多色縞／越後上布 炭茶地片糸縞囀十字縞文様

〈本場結城紬〉 本場結城紬技術保存会 4件5点

無地男物（着物・羽織）／縞柄涼夏女物／100亀甲飛柄円華文女物／100亀甲細工雪輪模様女物  
※タガ糊付け後の経糸と緯糸

〈久留米緋〉 重要無形文化財久留米緋技術保存会 5件5点

溪涼風／亀甲文／華／新緑／野菊

〈喜如嘉の芭蕉布〉 喜如嘉の芭蕉布保存会 5件6点

芭蕉布夏袴「片筋グバン」／芭蕉布八寸帯地「花織づくし」／芭蕉布着物「ヒキザキートゥイグワー」／  
芭蕉布着物「ムチリーくずし」／煮綴芭蕉布 茶地琉装仕立着物「ヤシラミー花織」

〈宮古上布〉 宮古上布保持団体 5件5点

藍十字緋／天の架け橋／紺地手縞着尺／アイランドシンフォニー着物／天の川

※経糸と緯糸 緋製作の図案

〈久米島紬〉 久米島紬保持団体 5件5点

久米島紬着尺地「十字ヒチサギー」／久米島紬着尺地「ヒチサギー・格子」／久米島紬着尺地「クヂリゴ  
ーシ・ミズ」／久米島紬着尺地「十字・井緋・トリ」／久米島紬着尺地「クヂリゴシ・ヒチサギー三玉」

〈伊勢型紙〉 伊勢型紙技術保存会 5件10点

貝に海草／変り縞／青海波／青海波／変り縞

〈輪島塗〉 輪島塗技術保存会 5件9点

乾漆菓子盆雪月花／あすなる蒔絵茶箱／日月蕃麦文沈金椀／ぼかし塗色紙箱／ぼかし塗短冊箱

※製作工程見本

〈石州半紙〉 石州半紙技術者会 5件

石州半紙稀 200枚入／石州半紙稀四ツ判／石州半紙稀二三判／石州草木染め和紙／  
石州透かし和紙

〈本美濃紙〉 本美濃紙保存会 5件

本美濃紙／薄美濃紙／本美濃紙美濃判／巻紙／和帳 ※原料（那須楮の晒しを加えたもの）

〈細川紙〉 細川紙技術者協会 5件

細川紙／細川紙薄口／細川巻紙／細川書簡箋・封筒／和帳

## 【関連事業】

### 〔博物館文化講座〕

「漆の美ー琉球のわざ・日本のわざー」

期 日：2011年10月8日（土） 14:00～16:00

講 師：室瀬和美（漆芸家 重要無形文化財保持者）

会 場：沖縄県立博物館・美術館講堂

### 〔実演とワークショップ〕

「紙漉きー石州半紙」

期 日：2011年10月8日（土） 10:00～

2011年10月9日（日） 10:00～

講 師：石州半紙技術者会（平川正男・久保田彰）

会 場：博物館実習室前スペース

「型彫りー伊勢型紙」

期 日：2011年10月22日（土） 14:00～16:00

2011年10月23日（日） 12:00～14:00

講 師：伊勢型紙技術保存会（六谷泰英・兼子吉生）

会 場：博物館実習室

「糸づくりワークショップ」

期 日：2011年10月16日（日） 10:00～12:00

講 師：喜如嘉の芭蕉布保存会（平良美恵子）

会 場：博物館実習室前スペース

### 〔展示解説〕

期 日：2011年10月10日（月） 15:00～16:00



「日本の伝統美と技の世界」「工芸王国」同時開会式の



展示解説会

2011年10月15日(日) 12:00~13:00

2011年10月23日(日) 10:30~11:30

解説者：與那嶺一子・早瀬千明・平川信幸(県教育庁専門員)

## 8. 企画展 沖縄県無形文化財工芸技術保持団体協議会設立10周年記念 「工芸王国—受けつがれる琉球のわざと美」展

会期：2011年10月6日(木)~23日(日) ※16日間

会場：沖縄県立博物館・美術館 博物館特別展示室I・II

観覧料：一般：500(400)円 高校・大学生：300(240)円 小・中学生：200(160)円

※( )内は、20名以上の団体料金

観覧者数：2,624人(164人/日) ※「日本の伝統美と技の世界」を含む

予算額：1,686,000円 ※「日本の伝統美と技の世界」も含む

### 【開催形式】

主催：沖縄県立博物館・美術館/沖縄県無形文化財工芸技術保持団体協議会

後援：那覇市教育委員会/読谷村教育委員会/本部町教育委員会/大宜味村教育委員会

石垣市教育委員会/久米島町教育委員会/宮古島市教育委員会/南風原町教育委員会

沖縄タイムス社/琉球新報社/NHK沖縄放送局/沖縄テレビ放送/琉球朝日放送/琉球放送

ラジオ沖縄/FM沖縄/FMレキオ/タイフーンfm

### 【開催主旨】

沖縄県の工芸は、そのルーツを王国時代に求められ、陶芸、漆芸、染織と多くのジャンルにわたり、有形、無形の文化財として国、県、市町村の指定を受けるなど高い評価を受けている。

これら文化財の保持者や団体が連携し、工芸振興を図るために沖縄県無形文化財工芸技術保持団体協議会(保持団体)が発足して10年を迎えました。それを記念し沖縄の工芸の美を一堂に集め紹介する展覧会を共同で開催する。

保持者及び団体の作品を通して、沖縄県における工芸の多様さと奥深さを紹介しながら、保持団協のこれまでの活動成果を報告することで、工芸の振興を図る。

### 【展示内容】

保持団体協加盟団体の作品と団体概要及び製作工程のパネル

〈沖縄県指定無形文化財 びん型〉

沖縄伝統びん型保存会

保持者 両面染紅型着物「遊波」(城間榮順)/斜格子に団扇・鞠・桜文様(知念積元)/着尺小花唐草文様(玉那覇道子)/朧型水色地楓に水車・雁・水草紋様紅型着物(西平幸子)/磯に小鳥(金城昌太郎)/絹地藍色地ゆうな成屋蘭蝶文着物(喜友名盛蔵)/絹白地流水に鳥松菊模様着物(藤村玲子)/藍型菖蒲模様着物(城間榮喜・故)/白地団扇檜扇葉文紗綾型着物(知念積弘・故)

伝承者 紅型着物「イナズマ ガンガゼ」(城間榮市)/さがりばな(金城恵)/帯雪輪にデンフェアレ文様(堀下優子)/葡萄栗鼠文様帯地(喜友名速)

〈沖縄県指定無形文化財 本場首里の織物〉

沖縄伝統本場首里織物保存会

保持者 満天(祝嶺恭子)/花倉織着物(多和田淑子)/藍地綾中「ひらり」(ルバース・ミヤヒラ吟子)/手縞(大城志津子・故)

伝承者 「涼」(古屋英子)/絹ベージュ手花帯「珊瑚」(島袋幸恵)/ムルドウッチリ(野原園子)/ロートン織帯(玉木由香)/うららか(宮城ゆかり)/温(今帰仁桃子)

〈沖縄県指定無形文化財 読谷山花織〉

読谷山花織保存会

保持者 読谷山花織(島袋秀)/読谷山花織(比嘉恵美子)/読谷山花織(池原ケイ子)/読谷山花織(比

嘉マサ子・故)

伝承者 読谷山花織(島袋明美) / 読谷山花織(比嘉昌子) / 帯(ぐうしばな)(山田恵利子)

〈沖縄県指定無形文化財 八重山上布〉 八重山上布保存会

保持者 八重山上布「ムイフム柄」(中村澄子) / 八重山上布打掛「クヂリ格子」(新垣幸子) / 八重山上布着物(大浜千代・故) / 八重山上布「竹ノ葉」(宮良ハル・故) / 八重山上布(石垣英富・故)

伝承者 八重山上布「カサヌバナ」(上地克江) / 八重山上布帯地(湊 和美)

〈沖縄県指定無形文化財 琉球漆器〉 琉球漆器保存会

保持者 朱漆沈金彫牡丹唐草東道盆(金城唯喜) / 螺鈿鉢「潮騒」(前田孝允) / 朱漆鳳凰牡丹唐草箔絵漆絵大平椀(嘉手納憑勇・故)

伝承者 黒漆牡丹七宝繫沈金重箱(国吉亮子) / 沈金角皿「散步道」(赤嶺貴子) / 魚紋螺鈿琉球梨子地盆(宮良千亜紀) / 螺鈿四葉紋硯箱(前田栄)

〈南風原町指定無形文化財 琉球絣と南風原花織〉 琉球絣と南風原花織保存会

琉球絣着物 ヒチサギー、十二玉(大城カメ・故) / 琉球絣着尺 ゴーマーイー十字、六玉、藍染(大城廣四郎・故) / 南風原花織着物 花柄ヤシラミー(野原カメ・故) / 諸絣琉球絣着物 シチガーラー、四玉(大城清栄・故) / 琉球絣着物 ムチリー、五玉(中村孫吉) / 琉球絣着物 チョウバン八十八(嘉手苺カメ子)

〈那覇市指定無形文化財 壺屋焼〉 壺屋焼保存会

絵魚紋皿(小橋川明史) / 水指(西平守正・池野幸雄) / 抱瓶(上江州茂生) / カラカラ(新垣勲) 三彩嘉瓶(玉城望) / 白土焼締這型獅子(一對)(小橋川昇) / 線彫り大タラフ(小橋川卓史)

〈重文 紅型〉 草花模様両面染紅型着物 玉那覇有公

〈重文 首里の織物〉 絹白茶地緯絣手花花織衣裳 宮平初子

〈(重文) 読谷山花織〉 読谷山花織着物 與那嶺貞(故)

〈重文 芭蕉布〉 芭蕉朱地経縞衣裳 平良敏子

〈(重文) 琉球陶器〉 緑釉線彫魚文徳利 金城次郎(故)

〈選定保存技術 琉球藍製造〉 伊野波盛正・琉球藍製造技術保存会

〈選定保存技術 苧麻糸手績み〉 宮古苧麻績み保存会

〈選定保存技術 手機製作〉 大城義政

## 【関連事業】

〔博物館文化講座〕 ※プレイベントとして開催

「ISSEY MIYAKE・伝統的テキスタイルとパリ・コレクションデザイン」

期 日：2011年8月20日(土) 14:00～16:00

講 師：藤原大 (ISSEY MIYAKE クリエイティブ・ディレクター)

会 場：沖縄県立博物館・美術館講堂

〔実演とワークショップ〕 ※全重協と共同で開催

「糸づくりワークショップ ― 紬・苧麻・芭蕉 ―」

期 日：2011年10月23日(日) 14:30～16:30

講 師：宮古苧麻績み保存会・喜如嘉の芭蕉布保存会・久米島紬保持団体

会 場：博物館実習室前スペース

〔展示解説会〕

期 日：2011年10月9日(日) 14:00～15:00

八重山上布(新垣幸子)・壺屋焼(池野幸雄)

2011年10月10日(月) 14:00～15:00

本場首里の織物(ルバース吟子)・

読谷山花織(比嘉恵美子)

2011年10月16日(日) 14:00～15:00

琉球絣と南風原花織(大城哲)・

選定保存技術（早瀬千明）

2011年10月22日（土）11:00～12:00

琉球漆器（前田孝允）・びん型（城間栄市）

会場：展示会場

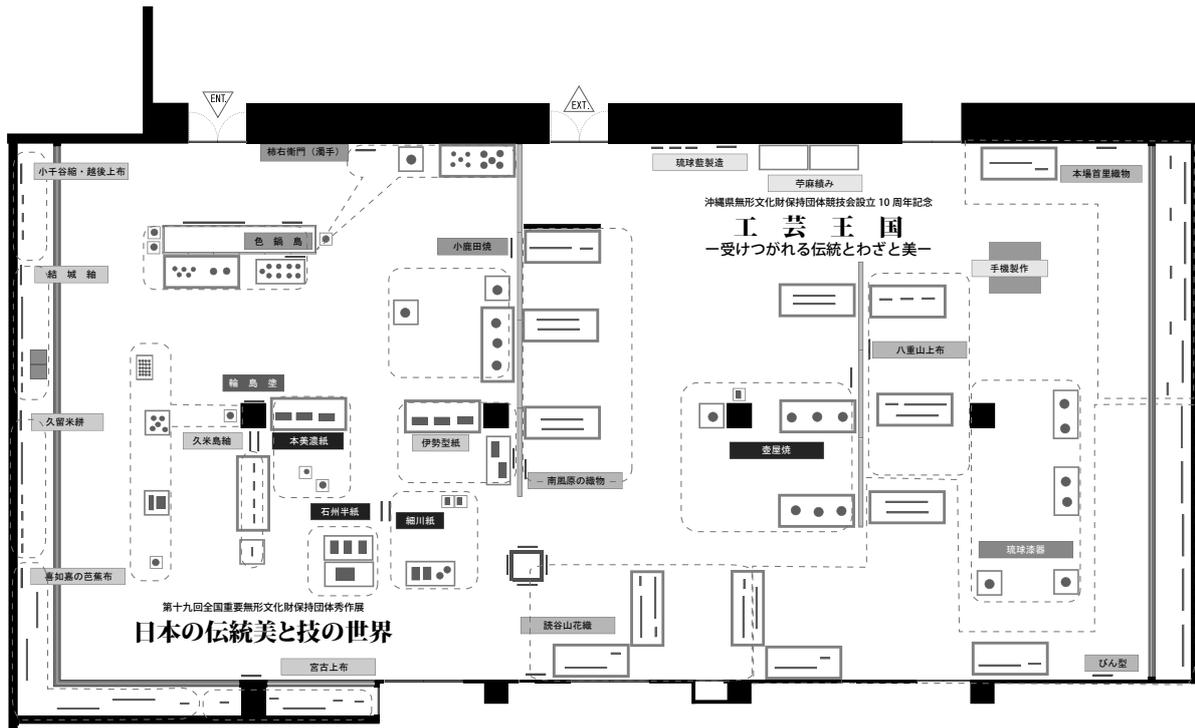
〔映画上映会〕

「技と美を観る」（びん型・本場首里の織物・八重山上布・喜如嘉の芭蕉布・琉球藍・琉球漆器―堆錦・読谷山花織・久米島紬など）

期 日：2011年10月16日（日）10時～18時

場 所：沖縄県立博物館・美術館講堂前

【展示平面図】



（與那嶺 一子）

## 9. 企画展 「琉球と袋中上人—エイサーの起源をたどる—」

会 期：2012年1月25日～2月19日

会 場：博物館企画展示室

### 【開催主旨】

袋中上人(1552～1639)が京都に檀王法林寺を開創したのは、琉球から帰国後5年を経た慶長16年(1611)のことで、2011年は同寺の開創400年にあたる。袋中上人は仏教研究のため中国・明に渡ろうと試みたが、豊臣秀吉の朝鮮侵略後間もない時期であったため、これを果たすことができなかった。そこで、上人はルソンを経て琉球に上陸し、3年間の月日を過ごした。その間、上人は琉球で浄土念仏の教化につとめ、尚寧王の帰依を受け、帰国後は『琉球神道記』『琉球往来』などを著した。今日その著作は、古琉球の宗教世界や当時の風俗習慣などの文化を知る上で貴重な資料である。本展では、檀王法林寺開創400年を記念し、はじめて琉球に浄土念仏を広め、エイサーを伝えたといわれる袋中上人の事蹟をたどる。また、この展示会は九州国立博物館との初の共同企画展として開催された。

### 【展示内容】

展示構成は袋中上人のプロフィールを袋中上人絵詞伝で紹介し、尚寧王よりいただいた貴重な資料の数々を展示した。また、「袋中上人ふれあいコーナー」を設けて、上人に親しむコーナーを設けた。この展示は、『五重略釈』に記される袋中上人の手形を計測し、当館が所蔵する絵画資料としての袋中上人の実物大の大きさを再現して、凹型の手形と合わせて、展示したところ、好評であった。本展のサブタイトルに「エイサーの起源をたどる」を付したが、エイサーが袋中上人による移入説に対して、王府時代の文献資料や近代の新聞資料、エイサーのことばの起源などについて言及し、今日の沖縄の民俗に係るエイサーの状況について、パネルと映像で紹介した。

また、袋中上人との直接的関係はないが、京都東福寺が所蔵する新たに発見された琉球漆器を初公開した。この漆器は、琉球漆器の移動経路が明確にわかる3ヶ所の箱書きがあるので、貴重であることから別コーナーを設けて展示した。

### 【展示資料】

○袋中上人絵詞伝（上下巻）

（所有者：京都・袋中菴、京都国立博物館寄託資料）

○袋中上人絵詞伝上巻

（所有者：鶯龍寺、京都府立山城郷土資料館寄託資料）

○クバ団扇



京都府指定文化財「袋中上人像」（尚寧王画賛）  
京都・檀王法林寺蔵



京都府指定文化財「黒漆塗人物図飾棚」  
京都・檀王法林寺蔵



開会式の様相

- (京都府指定文化財 所有者：京都・檀王法林寺)
- 波濤飛龍図前掛 (重要民俗文化財 所有者：財団法人黒主山保存会、京都国立博物館寄託資料)
  - 黒漆塗楼閣人物飾棚 (京都府指定文化財 所有者：京都・檀王法林寺)
  - 司馬温公家訓螺鈿掛板 (京都府指定文化財 所有者：京都・檀王法林寺、京都国立博物館寄託資料)
  - 朱漆垣松螺鈿卓 (京都府指定文化財 所有者：京都・檀王法林寺、京都国立博物館寄託資料)
  - 絹本著色袋中良定像 尚寧王自画賛  
(京都府指定文化財 所有者：京都・檀王法林寺、京都国立博物館寄託資料)
  - 払子 (京都府指定文化財 所有者：京都・檀王法林寺)
  - 琉球神道記 袋中良定筆 (重要文化財 所有者：京都・袋中庵、京都国立博物館寄託資料)
  - 寤寐集 自筆 (京都府指定文化財 所有者：京都・檀王法林寺)
  - 鶴蓮華文七宝面盆 (京都府指定文化財 所有者：京都・檀王法林寺、京都国立博物館寄託資料)
  - 鑄銅鼎形香炉 (京都府指定文化財 所有者：京都・檀王法林寺)
  - 宝塔形舍利容器 (京都府指定文化財 所有者：京都・檀王法林寺)
  - 五重略釈 (内題・浄土五重相伝次第抄) 自筆 (京都府指定文化財 所有者：京都・檀王法林寺)
  - 南無阿弥陀仏名号札 袋中筆・木版 (所有者：京都・檀王法林寺)
  - 六字名号 袋中筆 (所有者：京都・檀王法林寺)
  - 朱漆山水模様箔絵盆并食籠 (所有者：京都・東福寺)
  - 絹本著色袋中良定像 (当館)
  - 袋中上人行化碑 (拓本) (所有者：那覇市歴史博物館)
  - エイサー関係パネル類、エイサー紹介の映像 (DVD)

#### 【関連事業】

[エイサー実演・ワークショップ]

日 時：平成24年2月25日(日) 午後2時～3時  
 場 所：当館美術館屋外展示スペース  
 出 演 者：うるま市無形民俗文化財「平敷屋エイサー」  
 保存会 (32名)

[文化講座]

「琉球と袋中上人」

日 時：平成24年2月11日(土) 14:00～15:30  
 講 師：知名定寛 (神戸女子大学文学部史学科教授)  
 会 場：沖縄県立博物館・美術館講堂



平敷屋エイサー保存会の方の指導による  
 ワークショップ

(園原 謙)

### Ⅲ 教育普及活動

#### 1 博物館教育普及活動の概要

博物館は資料をわかりやすく展示し、多くの人々に観覧していただくことを大きな使命としている。同時に、来館者の知的文化的な好奇心を充実させる、地域の中軸施設であることも求められている。近年博物館を訪れる来館者のニーズは多様化し、利用者はそれぞれが様々な目的をもって来館する。このような来館者の要求に、より多くこたえていくため、当館では今年度も多くの教育普及活動を実施してきた。

博物館の教育普及活動では、首里の博物館時代から取組んできた活動を発展させながら、新館ならではの事業に取り組むことの2本柱で推進してきた。学校連携事業では、学校団体受入の充実した態勢を図るため、ボランティアを活用した学校団体に対する支援体制の強化を推進し、サービスの向上を図ってきた。また、文化講座及び展示会関連講座は「ゲノムで見るアジアの中の琉球人」を皮切りに総数13回実施し、県民の皆様にも多くの参加をいただき好評を得ることができた。その他にも、体験学習教室では「チンビン・ポーポーづくり」をはじめとする3種の体験学習教室の開催や12回の学芸員講座と常設展展示解説会、13回のバックヤードツアーを開催した。

運営面では、指定管理者制度のもと、事業の計画を県職員が立案し事業の実施を指定管理者が行っている。博物館が行う各種事業の中でも、県と指定管理者双方の連携が求められる分野の一つである。博物館教育普及事業の実施に際しては、指定管理者と定例の連絡会議を持ち、運営の方法を協議し事業を推進してきた。

予 算：2011年度の教育普及事業予算総額 2,500,000円

参加者：2011年度における教育普及事業への参加総数：16,299名(自由見学の学校団体は含まない)

(池原 盛浩)

県内学校団体の博物館来館目的(教科内容・自由学習など)とボランティア支援

項 目	小学校	中学校	高等学校	特別支援	大学	合計
下見(学習プログラム作成打合せ)	43	0	0	0	1	44
ボランティア等 による学習 支援含む	民具体験(小学校3・4年社会科)	41	0	0	0	41
	教科(社会科、理科など)	1	0	0	0	2
	領域(道徳、特活、総学の時間)	1	0	0	0	1
ボランティア等 支援無し	修学旅行など	64	0	0	0	64
	博物館活用学習(自由見学)	33	5	11	7	58
その他	2	0	0	0	0	2
合計	185	5	11	7	3	211

#### 2. 学校連携事業

学校連携事業は、大きく二つの事業を実施した。一つは、教育課程の一環として博物館を学習の場として利用する学校団体への学習支援で、館から提供できる支援内容の調整を行った。学校の規模や授業の進度、生徒の実態等を含めた学校からの要望と博物館の施設・職員・ボランティアの支援体制を考慮し、学校と博物館が連携していく学習プログラムを作成した。

二つめに、前年度に引き続き、特別支援学校向けの貸出しキット稼働に向けた調査を実施した。これは、諸事情で来館が困難な児童生徒を抱える学校に対し、館の資料を持ち出し、学校に居ながら博物館学習を伝えるようにした新たな学習支援の形態である。検証授業受諾の学校へ担当者が向向き、完成した体験キット「ちむドンドン」の検証授業を展開した。2012年度の実施(予定)に向けて各種データを収集することが出来た。

##### 【学校団体受入れ】

毎年9月頃より2月にかけて、近隣の小学校から民具体験学習のために3・4年生が数多く来館する。これまで、ボランティアや博物館側のリードでこの体験学習を進めていたが、昨年度より民具体験学習では、平成21年度に

行われていたプログラムに一部変更を加え、教師が生徒の実態に合わせて体験メニューを選択し、学習プログラムを組み立てることが出来るようにした。

学習プログラムの変更に伴い、緊急雇用者をボランティア員の指導支援者に当てた。特に体験学習当日のボランティア員全体の動きを見ることが出来る位置に配置し、学習プログラムに対し、きめ細やかな対応が出来るように心がけた。

【貸出しキット『けんぱくキット』の調査研究】

博物館には多くの学校団体が来館し、博物館を利用した各種学習を行っている。その中には、特別支援学校も数校含まれており、教師・児童が共に楽しく観覧している様子がみられる。しかし、特別支援学校の多くが、時間や距離の問題、さらには子どもの安全管理上来館を見合わせているという現実もある。博物館としては、より多くの子ども達に来館してもらい、沖縄の自然・文化・歴史について感じ、学ぶ場になればと考える。そこで、支援を要する子ども達（諸事情で来館が不可能な子）に対し、博物館より体験キットを持ち出し、子ども達に博物館学習の機会を与えることができないかと考えた。

2011年度は、前年度の調査研究を受けて完成した「ちむドンドン」（貸出し用体験キット）を利用し、この体験キットの学習の場での有効性を検証することとした。緊急雇用者を学校現場に派遣し、検証授業をとおした先生方の意見収集を行うとともに、既存の貸出し資料を含めた「けんぱくキット」のパンフレット作成までを委託した。

(池原 盛浩)



完成した「ちむドンドン」



小学校1年生と特別支援学校での検証授業の様子



移動展（石垣）で披露

### 3. 博物館体験学習教室

沖縄の自然や歴史、文化と結びつけた体験的な活動を通して、郷土について関心を持ち、先人の知恵等を学ぶ機会としている。博物館の各分野（自然史、人類、考古、歴史、美術工芸、民俗）の展示と関連する体験を実施し、総合博物館としての豊かな学びの場を提供している。今年度の総参加者数は、119名であった。

『チンビン・ポーポーを作ろう』



『昆虫標本を作ろう』  
2011.7.29-30 親子12組



『台所でできる草木染』  
2012.1.14.(土)親子12組



## 4. 博物館文化講座

博物館文化講座は、博物館の展示内容と関連する自然史、人類、考古、歴史、美術工芸、民俗の各分野について分かりやすい内容で楽しく学習が出来ることを目的に 1974 年から始まった事業である。講演、展示解説、実技指導、現地研修などを通して、県民各層が楽しく有意義に学べる講座を実施している。今年度の総受講者数は、1,893 名であった。

(池原 盛浩)

### 【文化講座一覧】

回	期日	演題 講師名	場所	参加者
407	2011. 4. 16(土) 14:00～16:00	「ゲノムでみるアジアの中の琉球人」 【講師】木村亮介(琉球大学亜熱帯島嶼科学超域研究 推進機構 特命准教授)	沖縄県立博物館・美術館 講堂	105
ゲノムとはDNAから成る生物の遺伝情報を示す言葉であり、その解析の最新研究の分野から人類の進化の過程を解き明かそうとする講話だった。三次元画像解析からの顔復元の研究成果や、アジア地域の遺伝的特徴、さらに琉球人の起源に迫っていった。				
408	2011. 5. 14(土) 14:00～16:00	「時間って何だろう！ ナマコを眺めながら考えたこと」 【講師】本川 達雄(東京工業大学大学院 生命理工学研究科教授：歌う生物学者)	沖縄県立博物館・美術館 講堂	140
日本人の生活感覚でとらえられていた時間の概念の中に、西洋人のとらえる時間の概念が入ってきたことで、時間に対する意識が狭くなってしまった。講師自らが作詞作曲した歌を織り交ぜながら、今の私たちの生き方をふり返らせてくれる講演であった。				
409	2011. 6. 4 (土) 14:00～16:00	「はやぶさから貰ったもの」 【講師】細田 聡史(JAXA 月・惑星探査プログラ ムグループ 開発員/小野瀬 直美(JAXA 研究開発 部 未踏技術研究センター スペースデブリユニット 研 究員)	沖縄県立博物館・美術館 講堂	200
小惑星からのサンプルリターンの目的を達成した“はやぶさ”。日本のロケット開発の歴史から“はやぶさ”についてのミッションプログラムの数々が紹介された。次の世代(子ども達)に、この成果を伝えることの大切さを“はやぶさ”から貰った。				
410	2011. 7. 16(土) 14:00～16:00	「沖縄の祖先祭祀 -年中行事を通して-」 【講師】崎原 恒新	沖縄県立博物館・美術館 講堂	235
社会の変化とともに沖縄の年中行事の一部が消えたり、簡略化している。年中行事の真の目的が忘れ去れ、目的を知らないまま祭祀を行っている。伝統行事の崩壊寸前の状態で、形骸化が進んでいる。個々の年中行事の目的を再確認していく講座となった。				
411	2011. 8. 20(土) 14:00～16:00	「ISSEY MIYAKE・伝統的テキスタイルと パリ・コレクション」 【講師】藤原 大(ISSEY クリエイティブアドバイザー、 株式会社・DAIFUJIWARA 代表)	沖縄県立博物館・美術館 講堂	260
5年間にわたりミヤケイッセイのクリエイティブアドバイザーとしてデザインチームをリードしてきた様子が、映像と共に紹介された。伝統的テキスタイルとの融合の提案例は、沖縄における伝統文化について考えていく機会を与えてくれる講演であった。				
412	2011. 9. 17(土) 14:00～16:00	「古琉球辞令書の世界」 【講師】高良 倉吉(琉球大学教授)	沖縄県立博物館・美術館 講堂	175
本館に寄贈された家譜に記された「北谷掟宛辞令書」という辞令書を読み解きながら、古琉球時代の世界を考えていく講演であった。辞令書についての説明をはじめ、当時の人々の生活を彷彿させる講師の解説は、聴衆を引きつける魅力あるものであった。				

413	2011. 10. 8(土) 14:00~16:00	「漆の美 -琉球のわざ・日本のわざ-」 【講師】室瀬 和美(重要無形文化財〈蒔絵〉保持者)	沖縄県立博物館・美術館 講堂	95
人間国宝である講師が携わってきた、国内各地での漆工芸文化財の修復や復元に関わる話と、琉球の漆工芸のわざの数々が解説された。現在琉球漆器が危機に瀕している。今こそ当時の漆工芸の復元を通して、技術の研究を行うことが必要である。				
414	2011. 10. 22 (土) 14:00~16:00	「沖縄の鉄道の歴史」 【講師】金城 功	沖縄県立博物館・美術館 講堂	135
世界基準の軌間より狭い鉄道が、明治43年の「軽便鉄道法」の制定により1914年に那覇と与那原間9.7Kmの鉄道が開通した。当時の歴史的背景と聴き取りやフィールド調査にもとづく解説が熱く語られた。				
415	2011. 11. 19 (土) 14:00~16:00	「沖縄の星と石垣島」 【講師】宮地 竹史(国立天文台、石垣島天文台副所長)	沖縄県立博物館・美術館 講堂	135
「宇宙展」の関連催事として位置づけられた講座。石垣島の自然条件のすばらしさに基づく観察環境の良さと、古くから星や月など天文にかかわる文化をもつ八重山の人々の、星と人間にまつわる話の数々が解説された。				
416	2011. 12. 17 (土) 14:00~16:00	「博物館収蔵秘話」 【講師】宮城 篤正	沖縄県立博物館・美術館 講堂	43
戦後の復興に取り組む中、かつての文化を取り戻すべく廃墟の中から文化財の収集作業が始まった。現在の博物館までに至る経緯とともに、歴代学芸員による作品収集にまつわる思い出の数々は、これからの文化財収集の在り方に示唆を与えた。				
特別	2012. 2. 11(土) 14:00~15:30	一企画展関連催事「琉球と袋中上人」 【講師】知名 定寛(神戸女子大学 文学部教授)	沖縄県立博物館・美術館 講堂	235
歴史学の観点から、先行研究や古文書、各種資料にもとづく分析と解説で、エイサーと袋中上人の関係が解説された。エイサーはいつ、誰が、どこから始めたのか、呼び名はいつ頃からなのか。エイサーの起源を考える機会となった。				
417	2012. 2. 18(土) 14:00~16:00	「琉球料理と食育」 【講師】松本 嘉代子(松本料理学院 学院長)	沖縄県立博物館・美術館 講堂	98
先人の培ってきた沖縄の食文化全般にわたって解説があった。中国をはじめ日本の影響を受けながら独自の食文化が形成されてきたが、過去の文献資料等が無く、現在食文化の混乱を招いている。子どもたちへの、沖縄の食文化継承を訴えた。				
418	2012. 3. 17(土) 9:00~17:30	「グスクめぐり」 【講師】當間 嗣一(沖縄考古学会 副会長)	名護城跡、今帰仁城跡	42
沖縄本島北部の名護城跡(名護市)と、世界遺産に指定されている今帰仁城跡(本部町)を巡検した。講師からは、城跡の築城の解説や琉球の歴史の中での位置づけなどの解説があった。				



『ISSEYMIYAKE・伝統的テキスタイルデザインとパリ・コレクション』



『はやぶさから貰ったもの』



『グスクめぐり(北部地区)』

## 5. 学芸員講座

学芸員講座は、本館の学芸員が研究成果や収蔵品の調査成果等を報告すると共に、館を訪れる人々に博物館内部の紹介をする良い機会となっている。各分野の充実した講話は博物館をより身近に捉え、参観者の層を拡大する大切な役割を果たしている。総受講者数は、673名だった。

	日程	分野	講師名	演題内容	定員	参加者
1	2011. 4. 23(土) 14:00~16:00	美術工芸	與那嶺一子	<b>織物のデザイン「御絵図」を探る</b> 琉球王朝時代の「御絵図」の研究成果として、それが果たした役割や文様の特徴等が画像と共に紹介された。仕様書とカタログの両方の役目を果たす「御絵図」の魅力について理解を深めた。	80	92
2	2011. 5. 28(土) 14:00~16:00	美術工芸	園原 謙	<b>文化財を美味しく味わおうー「三線文化の世界」ー</b> 琉球王朝時代から現代にわたる三線関連の略歴の解説があった。三線を文化財指定した沖縄の人々の思いや世界観を考えていった。 後半は展示室の三線を実際に鑑賞する場が設けられた。	80	63
3	2011. 6. 25(土) 14:00~16:00	歴史	岸本弘人	<b>初心者のための琉球・沖縄史〜これであなたも県博マニア〜</b> 沖縄の歴史を二時間で紹介する初心者向けの講座として、学生を含め大勢の参加者でいっぱいになった。旧石器時代を代表する港川人から、本土復帰を迎えた現代までの時代の変遷の数々が解説された。	80	130
4	2011. 7. 23(土) 10:00~12:00	民俗	岸本敬	<b>子どもの人生儀礼とあそび〜木の実でホタルちょうちん作り〜</b> 前半は、沖縄の古くからの子どもに関する儀式の数々、なかでも出産と満一歳を祝う行事の紹介があった。後半は、ホタルちょうちんを実際に制作し、当時の子ども達の遊びを追体験できる講座であった。	32	15組 28
5	2011. 8. 6(土) 14:00~16:00	教育普及	池原盛浩	<b>「学芸員のお仕事ってなに」</b> 知っているようで知らなかった博物館についての紹介と、学芸員のお仕事について、画像も見ながら分かりやすく解説。備品台帳の記入について疑似体験を親子で楽しむ姿が展示室のあちこちで見られた。	20	7
6	2011. 9. 24(土) 14:00~16:00	考古	片桐千亜紀	<b>水中文化遺産への招待</b> はじめに水中文化遺産についての定義から、その調査研究の目的が説明された。沖縄の海底には数多くの遺跡が存在すると考えられ、今後詳細な調査を実施していきたい。水中文化遺産に関心を持つ機会となった。	80	95
7	2011. 10. 15(土) 14:00~16:00	自然史 (地学)	仲里 健	<b>隕石から始まる宇宙を探求</b> 隕石の構成成分の分析から、地球の内部構造をはじめ、宇宙誕生のなぞを解き明かしていくことができることなど、隕石の価値とその重要性が説明された。	80	50
8	2011. 11. 26(土) 14:00~16:00	自然史 (生物)	濱口寿夫	<b>笠貝(かたがい)〜家に帰る貝のくらし〜</b> 沖縄の海岸の何処にでもいるけど、誰も気にしない貝、笠貝。野外調査研究の成果から見える笠貝の生態の紹介と、実際に貝に触れる観察会もおこなわれた。	30	26
10	2011. 12. 10(土) 14:00~16:00	歴史	早瀬千明	<b>沖縄県の指定文化財について〜歴史・美術工芸品を中心に〜</b> 文化財とは、後世に語り伝えていくべき文化・歴史、そしてアイデンティティそのものである。普段の生活とは縁遠いと考えられていた文化財について、自身のこととして考える機会となった。	80	44
11	2012. 1. 28(土) 14:00~16:00	人類	山崎真治	<b>発掘！沖縄3万年の人類史</b> 発掘調査の最新の情報はじめ、人類考古学の研究成果を交えながら解説がすすんだ。次年度冬季に開催される。港川人発見者『大山盛保生誕100年記念展』へいざなう講座となった。	80	78

12	2012. 2. 25(土) 14:00~16:00	自然史 (生物)	田中 聡	<p>小さなエイリアン シロアゴガエル ～驚くべき生きざまとその駆除について～</p> <p>在来生物減少の一因となっている外来生物の問題がを確認し、シロアゴガエルを例に、その生態と市民でできる駆除方法が紹介された。</p>	80	30
13	2012. 3. 24(土) 14:00~15:30	人類	藤田祐樹	<p>骨を楽しむ 骨スーツで遊ぼう!</p> <p>前半は、骨にまつわる解説が子どもにも理解できるようにやさしくおこなわれた。後半参加者が「骨スーツ」を身に付け、直接見ることでできない骨について、遊びながら学習していった。</p>	80	30



『文化財を美味しく味わう～三線文化の世界～』展示室での三線の解説



『初心者のための琉球・沖縄史～これであなとも県博マニア～』満席の講座室



『骨を楽しむ 骨スーツで遊ぼう!』骨スーツを着用する親子

(池原 盛浩)

## 6. 展示解説会

常設展の展示解説会は、展示資料を前に、学芸員がパネル文だけでは補いきれない「博物館ならではの最新の調査報告や情報」を踏まえた内容を紹介している。参加者の内訳は、博物館ボランティアが半数を占め、その他年間パスポートや友の会会員等のリピーターの参加が定着している。

常設展の展示解説会は各学芸員が1回ずつ担当し、全12回170名(定員15名、平均参加人数14名)の参加を集めた。

また、企画展・特別展の展示解説会も行った。「新収蔵品展」で1回、「宇宙一遙かなるロマンを求めて」で16回(416名)、「工芸王国一受け継がれる琉球のわざと美/日本の伝統美と技の世界」で7回(134名)、「琉球と袋中上人-エイサーの起源をたどる」で2回(63名)実施した。いずれも、各展示担当学芸員が、展示会の裏話なども交えながら丁寧に解説した。

両方の展示解説会として、全37回783名の参加があった。

	日程	講師名・分野	参加者人数		日程	講師名・分野	参加者人数
1	2011/4/21	園原謙(美術工芸)	21	7	2011/10/13	早瀬千明(歴史)	19
2	2011/5/19	岸本弘人(歴史)	14	8	2011/11/17	仲里健(地学)	19
3	2011/6/16	與那嶺一子(美術工芸)	18	9	2011/12/15	山崎真治(人類)	16
4	2011/7/21	片桐千亜妃(考古)	15	10	2012/1/12	濱口寿夫(生物)	10
5	2011/8/18	岸本敬(民俗)	7	11	2012/2/16	池原盛浩(教育普及)	4
6	2011/9/15	田中聡(生物)	16	12	2012/3/15	藤田裕樹(人類)	11

(大瀨 萌子・中村 愛)

## 7. バックヤード・ツアー

より専門性を生かした内容を目指し、各学芸員が月毎に交替して実施した。安全管理面を考慮し、常に学芸員と

文化の杜スタッフとの2名体制で臨んだ。

学芸員研究室～研究資料室（書庫）～自然史実験室～トラックヤード～写真撮影室～冷凍室～収蔵庫～工作室を基本コースとしたが、収蔵庫は各専門分野を中心に案内することにより、資料に関する質問にも的確に対応することができた。

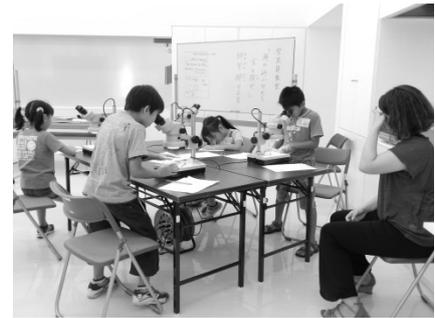
普段は公開していない博物館の裏側を見学できるという特別感もあり、県外からの観光客を含め、毎回定員を越す希望者を集めた。全13回、138名(定員12名、平均参加人数11名)の参加者があった。公平性を保つため、1人の申込者につき、最大4名の申込みとした。また、各学芸員が月毎に交替して実施することにより、リピーターにも対応できる内容となった。

(大瀨 萌子・中村 愛)

## 8. 夏休み！博物館学芸員教室

ここ数年の来館者の応募・参加状況をふまえ、昨年度まで実施していた「夏休み子ども相談週間」の内容を改め、受け身の形から発信型の企画を立案、実施に至った。学芸員が、夏休みの課題に取り組む子供たちに向けて、テーマの設定の仕方や検証のための実験方法、観察の仕方や着眼点、準備段階からデータのまとめ方までの情報を提供する場とした。身近な所から課題を見つけ自分の力で取組める、子ども向けの良い教室となった。8名の学芸員がそれぞれ90分の教室を開校。1日3教室のべ3日間。親子68組が参加した。

(當眞 妃奈子)



仲里学芸員(地学)  
『海砂の中から宝を探せ』

## 9. 博物館ボランティア活動

当館では、県民の自己啓発や学習の発表する場の提供、また、博物館支援活動を目的として「博物館ボランティア」を導入している。この活動は、多様化する来館者のニーズに対し、よりきめ細かなサービスへの寄与と自己学習の場となることを目指している。

2011年5月13日に認証状交付式を行い、継続の博物館ボランティア87名が正式登録となった。ボランティア活動の内容は①展示解説ガイド、②体験学習サポート、③資料整理活動を行っている。

今年度は、新規ボランティアの募集を休止し、登録ボランティアの資質向上を目的に2つの柱で取り組んだ。一つは、先の①～③の活動を詳細に分類し、それぞれの活動の在り方について協議をかさねる場を設けた。ボランティア員との意見交換を通して、活動の改善に取り組むことができた。もう一つは、外部より講師を2名招聘し、マナー研修2回、コーチング研修4回の実施を行った。いずれも、来館者のためのボランティア活動であるという目的を再確認できた。

本年度の博物館ボランティアの総活動人数は約1,760人だった。

(池原 盛浩)

## 10. ふれあい体験室

「ふれあい体験室」は、ハンズ・オン展示の資料を通して来館者同士、来館者とスタッフ、また、ここで展示されている“おきなわ”との「ふれあい空間」創りをめざしている部屋である。この部屋は、常設展示として、総合展示、部門展示と補完しあい、また、実習室や野外体験プログラムと連携し、効果的に運用できる機能を併せもっている。

さらに、この部屋は館内における教育普及活動の拠点施設となり、来館者に発見や感動の喜びを提供する場として、教育のさらなる向上に寄与する展示・プログラムの開発を行う場ともなる。

### (1) 利用者状況

今年度のふれあい体験室の来場者は、45,384人(1日平均151名)。昨年度より4,818人増加した理由としては、以下、3点の「リピーターづくり」があげられる。

1つめは、学校団体が見学プログラムのなかで、ふれあい体験室を利用するようになったことで、放課後や、週末に再度、家族や友達と来館する姿が見られるようになった。2つめは昨年度から実施している、ふれあい体験室ワークショップ「ぼく、わたしのてづくりおもちゃ」【毎週土曜日】の参加者が来場すること。3つめは、昨年度完成した「ふれたいシート」の活用である。こうして定着した「リピーターづくり」が来場者の増加に繋がった。

また、10月は、県内で「世界のウチナンチュ大会」が開催され、当館も招待施設として参加した。世界からの来館者を受け入れる体制として、「外国人対応シート」の活用がはじまった。来館者とのコミュニケーションが重要なふれあい体験室には、その後も、欠かせないものとなっている。

ふれあい体験室は開設から、4年が経過した。開館当時、小学3年生だった児童は、中学1年生になり、年下のこども達を連れ、訪れている。このことに象徴されるように、ふれあい体験室は、「自らもすすんでやってみたい」と思わせる体験キットを、人（ふれあいスタッフ、ボランティアスタッフ、親子、友達、他人）が関わることにより、受身ではなく能動的に学ぶことができる環境が保たれる。今後も、地域に根ざした、ふれあい体験室を目指し、来館者との「ふれあい」を大切に運営していきたい。

## (2) ふれあい体験室体験のてびき「ふれたいシート」の活用

### (平成22-23年度博物館教育力向上支援事業)

「ふれたいシート」は、当初、ふれあい体験室の案内パンフレットを作成する目的で、そこにワークシートの要素を盛り込んだものが出来上がった。「ふれたいシート」の内側は室内の鳥瞰図がイラストで描かれており、キットの配置場所が示された配置図と、分野別に出題された、ワークシートになっている。外側は、体験チェックリストになっており、体験者は分野毎にチェックが全て埋まると、スタッフからスタンプを押してもらえる。その結果、稼働率が低い「体験キット」がなくなった。また、首から下げられるよう紐通しの穴をあけたり、ミシン目を入れたマスコット（ふれあいスタッフちゃん人形）をつける等、遊びの要素も取り入れ、より楽しく学ぶことのできるしかけをとり入れた。体験をクリアするまで繰り返し、来館して使えるよう、「預け箱」を設置した。現在、337人分のふれたいシートが箱の中に預けられている。

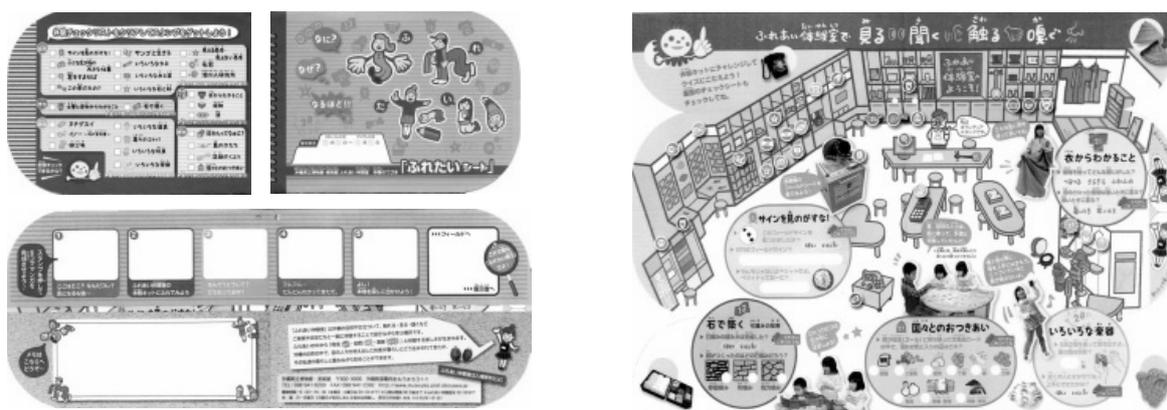
7月から室内のみで配布がはじまり、現在では約1,800部が来館者に利用されている。

【配布期間】2011年7月から部数がなくなり次第終了（5,000部）

【配布場所】ふれあい体験室

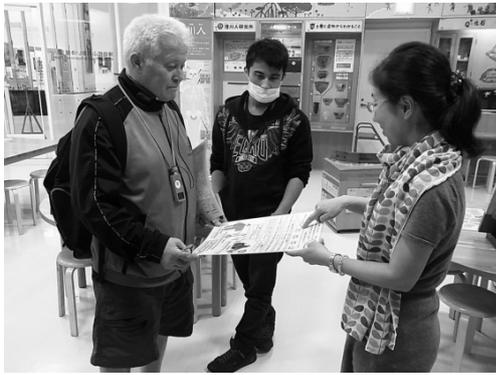
【対象】一般のふれあい体験室利用者（全てにふりがな）

【料金】無料



## (3) ふれあい体験室「外国人対応シート」の活用（2011年度博物館教育力向上支援事業）

「外国人対応シート」は英語、スペイン語、中国語、韓国語の4ヶ国語を用意した。指差し方式になっており、外国語に苦手意識をもっていたボランティアスタッフも、外国人来館者とのコミュニケーションが気軽に取れようになった。



#### (4) 博物館企画展—関連体験展示

「工芸王国—受けつがれる琉球のわざと美」「日本の伝統美と技の世界」展—関連体験展示 ～触ってみよう・嗅いでみよう～ 沖縄を含む日本の伝統工芸品にふれる体験として、会期中、特設展示コーナーを設けた。

【開催期間】2011年10月6日(木)～23日(日) 9:00～18:00

【場 所】ふれあい体験室内

【体験料】無料

～触ってみよう、くらべてみよう～

< 裂地 >

- ・ 宮古上布 (沖縄県)
- ・ 喜如嘉の芭蕉布 (沖縄県)
- ・ 久米島紬 (沖縄県)
- ・ 越後上布 (新潟県)
- ・ 小千谷縮 (新潟県)

< 焼物 >

- ・ 色鍋島 (佐賀県)

< 紙 >

- ・ 石州半紙 (島根県)
- ・ 本美濃紙 (岐阜県)
- ・ 細川紙 (和歌山県)

～嗅いでみよう～

< 染料 >

- ・ 原料に琉球藍を使用した泥藍 (沖縄県)



#### (5) 「ふれあい体験室」におけるボランティア活動のてびき作成

今年度、ふれあい体験室はボランティアスタッフの活動内容の見直しと、整備を図った。ボランティアスタッフの中から有志を募り、意見交換会議を2度開催した。1度目の会議では、現状と問題点の確認を行った。ふれあい体験室における活動の意義や意識を共通理解できていないこと、配置人数や活動の曜日、時間帯について様々な意見があることなどが問題点としてあげられた。2度目の会議では、問題点の改善策をボランティアが所属する各曜日に協議を図り、取りまとめ、暫定版として作成したてびきの内容確認・修正会議を行った。7月20日に、配布に際した説明会を開催し、「2011年度版『ふれあい体験室』におけるボランティア活動のてびき」が完成した。マニュアルの改訂は、教育普及担当学芸員とふれあいスタッフが協力して行った。

(渡部 貴子)

## 11. 企画展関連事業

特別展「宇宙—遙かなるロマンを求めて」をより楽しみながら理解してもらう手助けとして、小学校低学年でも解くことのできるワークシートを作成した。(配布枚数：3,300枚、全入館者の1/3が参加)従来のワークシートのように学習的要素の強いものではなく、展示の見どころを印象づけ、親子の会話を想定する内容とした。展示室には、ワークシートに登場するキャラクターのシールをはり、子どもたちの誘導もはかった。また、図録の販売がなかったため、資料に関する解説も随所に取り入れた。参加者には、天球儀のペーパークラフト(JAXA協力)をプレゼントし、大いに喜ばれた。

企画展「工芸王国—受け継がれる琉球のわざと美/日本の伝統美と技の世界」として、ワークショップを全6回84名(定員15名)、映画上映会1回、実演1回実施した。事前申し込み制のワークショップに関しては、定員以上の応募者が集まり、「技を体感する」という企画展の趣旨を多くの県民に伝えることができた。また、会場はフリースペースである正面玄関や屋外展示に設け、限られた参加者だけではなく、多くの来館者がその技を目にする機会を提供した。

(中村 愛)

## 12. 常設展に関する取り組み

博物館常設展の見学の手助けとして、学芸員の協力のもと見どころマップ「ここだけは見逃すな!」を作成した。常設展入口のラックに配置し、16,000枚を配布した。また、10月に開催した「第5回世界のウチナーンチュ大会」に合わせ、英語版「ここだけは見逃すな!」も作成し、1,200枚を配布した。

夏休み期間中には、小中学生を対象にワークシートを常設展入口に設置した。「ウチナー探検 博物館ワークシート」をもとに、学芸員のコメントやヒントなどを追加し、一人でも取り組みやすいよう工夫を加えた。夏休みの宿題として、親子で取り組む姿が見られた。

正月には「龍展」を開催した。8人の学芸員が、博物館常設展内において、新年の干支にちなみ「龍」に関係した資料を紹介。解説文(400~600文字程度)を展示した。新年の干支である「龍」を取り上げることで、違った視点で展示を楽しんでもらうことを目的とした。期間中、案内マップ1,000枚を配布した。  
解説内容：竜佩形装飾/片桐千亜紀、聞得大君御殿雲龍黄金簪/早瀬千明、首里城正殿の龍柱/岸本弘人、ヤンバルクイナ・シロハラクイナの骨格標本の「竜骨突起」/田中聡、恐竜/仲里健、「龍と招福」展/園原謙、金茶地龍瑞雲模様繡珍衣裳/與那嶺一子、ティンゲー(天蓋)/岸本敬

- ① 博物館常設展見どころマップ「ここだけは見逃すな!」 配布枚数：16,000枚
- ② 博物館常設展見どころマップ「ここだけは見逃すな! (英語版)」 配布枚数：1,200枚
- ③ 夏休み企画「博物館を調査せよ」【8月1日(日)~9月11日(日)】 配布枚数5,500枚(全7種)
- ④ 正月企画「龍展」【1月1日(日)~29日(日)】 配布枚数：1,000枚

(中村 愛)

## 13. 沖縄県立博物館・美術館のフリーパス

沖縄県立博物館・美術館では、県内の小中学生が博物館・美術館を知る機会とし、また、同館を身近に感じてもらい、何度も足を運んで欲しいとする目的で、「沖縄県立博物館・美術館フリーパス」を作成し、HPに掲載。小・中学校へダウンロードと印刷・作成を呼びかけている。「沖縄県立博物館・美術館フリーパス」は、学校で印刷・作成し、裏面に校長印を押印します(サンプル：博物館・美術館作成)。表紙は、沖縄の自然、歴史、文化に関する図案を基本としますが、自らデザインした図柄でもよく、裏面にはマス目があり、来館の際にスタンプが押印出来る形になっている。利用の対象は、県内の小・中学生で、学校の授業の一環、または個人での来館の際に持参して利用します。スタンプの押印数については、遠隔地や離島などの学校の生徒にはスタンプの数を調整するなどとして、配慮を行っている。

昨年度から新たな試みとし、ゴールした児童生徒には、情報センターにおいて名前入りの「フリーパス終了証」と記念品(オリジナルクリアファイルと消しゴムなど)をプレゼントしている。

## 14. 職場研修受入

学校の校内研修をはじめとする、博物館の教育普及と関連のある団体の職場研修依頼を受け入れ、学芸員のミニ講座やバックヤードツアー、学校受け入れの概要説明などを行った。学校連携事業の中での学校団体観覧については、博物館を利用した学び、学習プログラムを組み立てるといった学習プログラムの流れを説明した。また、フリーパスやIPMなどの博物館が取り組んでいる内容の周知を図った。

### 【実施団体】

- ・ 宜野湾市立普天間中学校職員研修 8月2日 21名

上記の教育普及担当の対応以外にも、県から直接依頼のあった研修（県民カレッジなど）に、班長をはじめ、各分野の専門学芸員が研修等に当たっている。

## 15. 職場体験受入

博物館では、平成15年度から、学校の計画する就業体験学習を受け入れている。（平成18・19年度は新館移転準備のため、休止）。今年度からは、文化の杜が問い合わせと対応の窓口となり、指定管理者が担う総合案内や展示交流員など、主に来館者サービスに従事する業務を体験した。体験内容として、総合案内・展示交流員・もぎり・情報センター・ふれあい体験室・ミュージアムショップ・美装班・警備班などが挙げられる。

### 【受け入れ校】

① 山口県立宇部商業高等学校(3名) 6月22日(1日間)	② 浦添工業高等学校(5名) 7月7日～8日(2日間)
③ 仲西中学校(5名) 7月7日～8日(2日間)	④ 専修学校インターナショナルデザインアカデミー高等課程(3名) 7月26日～28日(3日間)
⑤ 鏡原中学校(5名) 9月6日～8日(3日間)	⑥ 大宮中学校(1名) 10月26日～28日(3日間)
⑦ 神森小学校(1名) 11月15日(1日間)	⑧ なはグッジョブ連携協議会「ジョブシャドウイング(若狭小学校6学年)」(6名) 12月6日午前のみ

※1 沖縄県キャリアセンタージョブシャドウイング事業の受け入れを行った。「ジョブシャドウイング」は米国で定着している職業教育の一つであり、中学生や高校生が半日程度、企業に赴いて従業員に密着し、職場での仕事ぶりを観察する、というものである。今回は、6名の児童が、それぞれ博物館、美術館、文化の杜の職員に割り振られ、来館者対応や会議の場に同席した。

## 16. 普及資料の貸出

博物館の教育普及資料を貸出している。貸出可能な資料は、黒糖づくり、豆腐づくり、民具等。教育普及資料の活用について、学芸員及びボランティアが支援する（資料活用の際の出前講座は特に行っていない）。事前（1ヶ月前）に申請等の手続きが必要となり、貸出期間は一週間となる。

民具に関しては、今年度も昨年度に引き続き、主に民具体験プログラムを申込した学校団体に対して、当館にてボランティアのサポートによるプログラム実施の中で使用。

名護の桜野特別支援学校や鏡が丘特別支援学校浦添分校へは、昨年度「けんぱくキット」の開発の協力へのお披露目を兼ねて出前教室を実施した。

「けんぱくキット」を含め、普及資料の貸出には、「資料利用申請書（教育普及資料の借用）」を提出後、「資料利用許可書（教育普及資料等の貸出）」を発行するまでの手続き等があり、貸出希望日から1ヶ月前には申請してもらう。（資料借用、返却の際の資料の運搬は、借主の責任となります。）

【今年度の外部への貸出】

団体名：デイサービス ViVi まわし

行事名：昔懐かし豆腐作り

(回想法：眠っていた記憶を呼び覚ます)

貸出期間：平成 23 年 10 月 4 日 (火) ～10 月 7 日 (金)

貸出資料：石臼、アジマー、トーフウーキ、豆腐箱、  
シンメーナービ、カマンタ、その他 以上を 2 セット

団体名：鏡が丘特別支援学校 浦添分校

行事名：豆腐を作ろう …スイッチ教材を使って…

貸出期間：平成 23 年 2 月 16 日 (水) ～2 月 24 日 (木)

貸出資料：石臼、アジマー、トーフウーキ、豆腐箱、  
シンメーナービ、カマンタ、その他 以上を 1 セット



(當眞 妃奈子)

# I. 資料の収集・保存管理

## 1. 収蔵資料現在高

2012年3月31日現在

分類	購入	寄贈	収集	移管	小計	総計	
自然史	地質	612	26,483	3,048	1	30,144	55,884
	動物	1,506	18,654	518	141	20,819	
	植物	202	4,716	0	0	4,918	
	菌類	3	0	0	0	3	
人類資料	54	19	6	0	79	79	
美術工芸	絵画	97	549	2	4	652	10,184
	書跡	180	451	49	6	686	
	彫刻	6	115	136	7	264	
	陶磁器	431	3,364	465	538	4,798	
	漆器	231	244	195	19	689	
	染織	1,289	1,713	51	27	3,080	
	その他	13	2	0	0	15	
歴史資料	2,850	7,913	518	455	11,736	11,736	
考古資料	301	3,549	2,821	0	6,671	6,671	
民俗資料	623	4,337	1,072	137	6,169	6,169	
総計	8,398	72,109	8,881	1,335	90,723	90,723	

## 2. 2011（平成23）年度新収蔵資料高

2011年4月1日～2012年3月31日

分類	購入	寄贈	収集	移管	小計	総計	
自然史	地質	1	0	0	0	1	32
	動物	0	25	6	0	31	
	植物	0	0	0	0	0	
	菌類	0	0	0	0	0	
人類資料	0	0	0	0	0	0	
美術工芸	絵画	0	1	0	0	1	16
	書跡	0	0	0	0	0	
	彫刻	0	0	0	0	0	
	陶磁器	0	0	0	0	0	
	漆器	0	11	0	0	11	
	染織	0	4	0	0	4	
	その他	0	0	0	0	0	
歴史資料	10	20	40	0	70	70	
考古資料	0	1	0	0	1	1	
民俗資料	0	2	0	0	2	2	
総計	11	64	46	0	121	121	

## 3. 2011（平成23）年度新収蔵資料目録

【購入】

分類	資料名	数量	提供者・所在地
地質	ギベオン隕石	1	
歴史	毛姓家譜（複製）	1	石川堂 うるま市
	高等弁務官の旗（紋章入り）（小）	1	琉米歴史研究会
	高等弁務官の紋章（プレート）	1	琉米歴史研究会
	米軍の沖縄上陸作戦文書	1	琉米歴史研究会
	高等弁務官贈答のメダル	1	琉米歴史研究会
	紋章入り皿（大・中・小）	3	琉米歴史研究会
	高等弁務官に贈られた復帰記念メダル	1	琉米歴史研究会
	復帰前日のスタンプが押された封筒	1	琉米歴史研究会

## 【寄 贈】

分 類	資 料 名	数量	提供者名・所在地	
生 物	シメ	1	眞榮平康広	宮古島
	シマアカモズ	1	眞榮平康広	宮古島
	オオクイナ	1	眞榮平康広	宮古島
	アマサギ	1	金城道男	国頭村
	ハシボソミズナギドリ	1	ながみね動物クリニック	うるま市
	オサハシブトガラス	1		
	チョウゲンボウ	1		嘉手納町
	クロアジサシ	1		嘉手納町
	セイタカシギ	1		金武町
	ズグロミゾゴイ	1	平良市総合博物館	池間島
	ノゴマ	1	平良市総合博物館	下地町
	エゾセンニュウ	1	ながみね動物クリニック	宜野湾市
	ハイロミズナギドリ	1	ながみね動物クリニック	与那原町
	ハシビロガモ	1	ながみね動物クリニック	金武町
	シロフクロウ	1	岐阜大学獣医学部	
	キョウジョシギ	1		沖縄市
	カイツブリ	1	ながみね動物クリニック	うるま市
	ハクセキレイ	1	ながみね動物クリニック	うるま市
	アカハラダカ	1	ながみね動物クリニック	久米島
	ツクシガモ	1	大城亀信	糸満市
	カンムリワシ	1	崎山陽一郎	石垣島
	コゲラ	1	ながみね動物クリニック	恩納村
	イソシギ	1	ながみね動物クリニック	名護市
	アカハラ	1	宮古島市総合博物館	
	ヒメクロウミツバメ	1	宮古島市総合博物館	
	バン	1	NPO どうぶつたちの病院	うるま市
	ミフウズラ	1	NPO どうぶつたちの病院	宮古島
	ワタセジネズミ	1		中城村
	ミサゴ	1	NPO どうぶつたちの病院	
	ヒメクイナ	1	NPO どうぶつたちの病院	
カワセミ	1	NPO どうぶつたちの病院		
考 古	漢式銅鏃	1	クリス・マジェスキー	八重瀬町 新里洞穴遺跡
歴 史	『蔡姓家譜』（蔡姓世系図）	1	安次嶺悟	大阪府
	脇差（名護市源河上の屋）	1	島袋博文	那覇市
	結び指輪	2	宮良友子	那覇市
	復帰前の自動車運転免許証	1	屋良朝徳	中城村
	第80回記念センバツ高校野球大会 沖縄尚学高等学校 祝優勝全国制覇V2記念ボール	1	新村千鶴子	東京都杉並区
	沖縄国際海洋博覧会チューリップハット	1	早瀬絹枝	那覇市
	据え置き型千枚通し	1	仲嶺寿子	那覇市
	ペプシコーラ・ミリンダ ブリキ看板	4	運天克也	豊見城市
	産婆道具セット一式	1	外間政明	那覇市
	米軍毛布	1	外間政明	那覇市
	蚊帳	1	外間政明	那覇市
	人力車	1	クリス・マジェスキー	那覇市
	英文タイプライター（under wood 製）	1	上地兼恵	読谷村
	語学センタープレート	1	波照間永吉	那覇市
	叙位証書（正六位）	1	第14代齋藤用之助	佐賀市
	万能随感録	1	第14代齋藤用之助	佐賀市

分類	資料名	数量	提供者名・所在地		
美術工芸	漆器	黒漆松竹梅模様堆錦椀	10	儀間夏子	那覇市
		変漆山水楼閣堆錦棚	1	野々村孝男	那覇市
	染織	紙本墨彩 馬の図「別名 仲田青毛之図」	1	佐渡山安彦	神奈川県
		絹紺地浮織着物	1	野々村孝男	那覇市
		麻地型染裂	1	野々村孝男	那覇市
		麻地型染肌掛	1	野々村孝男	那覇市
民俗	メジロ籠	1	宮城宏友	那覇市	
	ジュラルミン製ピンセット	1	稲嶺成祚	那覇市	

【収集】

分類	資料名	数量	提供者・所在地	
歴史	第5回世界のウチナーンチュ大会資料	24	第5回世界のウチナーンチュ大会実行委員会事務局	那覇市
	NEC製パソコン (本体・キーボード各2、ディスプレイ1)	2	千木良芳範	うるま市
	浦添看護学校スタンド付き校旗	1	浦添看護学校	浦添市
	浦添看護学校校旗(大)	2	浦添看護学校	浦添市
	浦添看護学校校旗(小)	1	浦添看護学校	浦添市
	浦添看護学校校章レプリカ	2	浦添看護学校	浦添市
	浦添看護学校感謝状	3	浦添看護学校	浦添市
	浦添看護学校証書受け	2	浦添看護学校	浦添市
	沖縄県立浦添看護学校木製看板	1	浦添看護学校	浦添市
	沖縄県医療福祉センター金属製看板	1	浦添看護学校	浦添市
財団法人沖縄県医療福祉センター木製看板	1	浦添看護学校	浦添市	

#### 4. 所蔵指定文化財

【国指定文化財(重要文化財)】

2012年3月31日 現在

種別	名称	員数	指定年月日	所有者
典籍	おもろさうし	22冊	昭48. 6. 6	沖縄県
〃	混効験集	2冊	〃	〃
工芸品	銅鐘(旧首里城正殿鐘)	1口	昭53. 6. 15	〃
〃	梵鐘(旧円覚寺殿前鐘)	〃	〃	〃
〃	梵鐘(旧円覚寺殿中鐘)	〃	〃	〃
〃	梵鐘(旧円覚寺楼鐘)	〃	〃	〃
歴史資料	明孝宗勅諭 琉球国中山王尚真宛	1巻	平11. 6. 7	〃

【県指定文化財(有形文化財)】

2012年3月31日 現在

種別	名称	員数	指定年月日	所有者
絵画	絹本着色花鳥図(殷元良筆)	1幅	昭54. 4. 9	沖縄県
〃	紙本着色雪中雉子の図(殷元良筆)	〃	〃	〃
〃	紙本墨画竹の図(殷元良筆)	〃	昭57. 3. 4	〃
〃	紙本着色奉使琉球図(朱雀年筆)	1巻	〃	〃
〃	紙本着色冊封使行列図	〃	平15. 7. 11	〃
彫刻	木彫円覚寺白象並びに趣意書木札	1軀1枚	昭31. 12. 14	〃
〃	世持橋勾欄羽目	1括	〃	〃
〃	旧円覚寺関係木彫資料	35点	平15. 7. 11	〃
工芸品	三線江戸与那	1丁	昭31. 12. 14	〃
〃	聞得大君御殿雲龍黄金簪	1本	〃	〃
〃	黒塗螺鈿遊雁絵大文庫	1合	〃	〃

種別	名称	員数	指定年月日	所有者
工芸品	黒塗堆錦山水絵大文庫	1合	〃	沖縄県
〃	黒塗螺鈿雲龍文内金箔蓋付椀	1口	〃	〃
〃	枝梅竹文赤絵椀	〃	昭54. 9. 3	〃
〃	線彫染付魚文皿	〃	〃	〃
〃	色象嵌粟絵菊花皿	〃	〃	〃
〃	象嵌色差面取砲瓶	〃	〃	〃
〃	梵鐘(旧霊応寺鐘)	〃	昭60. 6. 18	〃
〃	梵鐘(旧普門禪寺鐘)	〃	〃	〃
〃	梵鐘(旧天竜精舎鐘)	〃	〃	〃
〃	銅鐘(旧天尊殿鐘)	〃	〃	〃
〃	銅鐘(旧天妃宮鐘)	〃	〃	〃
〃	銅鐘(旧一品権現鐘)	〃	〃	〃
〃	梵鐘(旧大安禪寺鐘)	〃	昭63. 1. 12	〃
〃	黒漆薔薇堆錦軸盆	1枚	平2. 2. 6	〃
〃	黒漆山水楼閣人物螺鈿机	1基	〃	〃
〃	朱漆山水楼閣人物箔絵丸型東道盆	1具	〃	〃
〃	朱漆巴紋牡丹沈金大御供飯	〃	〃	〃
〃	白密陀山水楼閣人物漆絵箔絵角盆	1枚	〃	〃
〃	梵鐘(旧永福寺鐘)	1口	〃	〃
〃	三線盛嶋開鐘附胴	1丁	平6. 3. 15	〃
書跡	程順則の書	1巻	昭42. 4. 11	〃
〃	扁額「徳高」 鄭元偉書	1面	平元 9. 29	〃
〃	扁額「凌雲」 林麟焔書	1面	〃	〃
古文書	宮古島下地の首里大屋子への辞令書	1幅	昭31. 12. 14	〃
〃	伊平屋島仲田の首里大屋子への辞令書	1通	昭53. 4. 1	〃
〃	羽地間切の屋我のろへの辞令書	1幅	昭56. 3. 20	〃
典籍	評定所格護定本 中山世鑑	6冊	昭31. 12. 14	〃
〃	評定所格護定本 中山世譜	19冊	〃	〃
歴史資料	銅鐘残欠(旧波上官朝鮮鐘)	1口	昭60. 6. 18	〃
〃	安国山樹花木記碑	1基	平元 9. 29	〃

## 5. 修理事業

### (1) 美術工芸・歴史

戦後、沖縄戦を経て収集された博物館資料は、戦禍をくぐってき希少な資料である。とりわけ、琉球王国時代の美術工芸資料は少なく、唯一無二の資料が多くある。また、寄贈、収集、購入した資料は、適正な温湿度管理のもと収蔵庫で大切に保存しているが、永年の経年による変化や収蔵時点においてすでに劣化している資料も少なくない。

当館では、展示公開の頻度や効果の高い資料をはじめ、沖縄の歴史・文化史上不可欠な資料などの優先順位をつけて、限られた予算の範囲で展示公開等の必要な資料の修理事業を実施した。博物館活動のひとつである資料の保存活用を推進するための修理事業についての一層の理解を促すために、次年度の新収蔵品展で修理コーナーを設けて、これら修理した資料の展示公開を予定することにした。

#### 【事業内容】

1) 修理件数：10件（漆器資料4件、歴史資料2件、絵画資料4件）

2) 修理資料名：

【美術工芸（漆器）】

朱漆山水楼閣人物堆錦椀  
朱漆七宝繫牡丹唐草沈金飯椀  
朱漆松竹梅に鶴亀模様箔絵捌箱  
朱漆樹下群仙人螺鈿堆錦六角筥

#### 【歴史】

東姓家譜支流（11丁）  
眞珠湊碑文拓本

#### 【美術工芸（絵画）】

毛長禱 仲田青毛之図  
殷元良 山水図  
田名宗経 龍下図



仲田青毛之図



朱漆松竹梅鶴亀箔絵捌箱

#### 3) 修理内容：

漆器資料に関しては、経年の汚れ、乾燥による木地の収縮、内部や外部の漆塗膜の亀裂、剥離、劣化や損傷が多く見られる状況にある。修理の記録を残すように心がけ、修理期間を平成23年11月7日～24年3月30日の間で行った。具体的な作業工程は、修復前写真撮影、調査、クリーニング、漆固め、塗膜調整、塗膜接着、刻苧、防錆、摺漆、修理後写真撮影・報告書を作成した。

絵画資料の修理期間は平成23年10月26日～平成24年3月30日まで実施。絵画資料の場合、本紙の素材は、絹や和紙などが用いられるが、経年による汚れ、横折れ、亀裂、欠損などがあり、その改善を修理方針とした。具体的な修理は、修復前の写真撮影、墨・朱印の剥落止め、表具解体（本紙はがし）、旧肌裏紙の除去、汚れの除去、欠損・亀裂箇所の補絹（紙）、本紙の肌裏打ち、新調の表装裂、折れ伏せの補紙、中裏打ち作業、宇陀紙総裏打ち、鑑、軸首、上軸、中軸、掛け紐、桐太巻、桐印籠箱の新調を行った。

歴史資料の修理は、部分的な汚れの除去、表装裂、軸首、鑑、上軸、中軸、掛け紐や収納箱の新調を行った。また、系図の冊子本の修理は、本紙の欠損箇所に補修用の紙で補修し、本紙に縁紙をつけ回し本紙の法量を一定にし、冊子保護箱を新調した。

4) 修理業者： 美術工芸（漆器） 琉球漆工藝舎、 歴史・美術工芸（絵画） 石川堂

5) 予算執行額：2,262,000円

（園原 謙）

## (2) 考古

考古収蔵庫に保管している金属製品2点について、今後の劣化要因を取り除き、良好な状態を保たせるための保存処理を実施した。

1) 保存処理件数：2件（金属製品）

2) 保存処理試料：和製銅鏡1点、漢式三角銅鏃1点

#### ○和製銅鏡

室町時代の日本で製作され、グスク時代の沖縄にもたられたと考えられる。西原町から採集。銅。鏡面がブロンズ病に侵され、ほぼ全面に緑錆が見られた。

#### ○漢式三角銅鏃

中国漢王朝時代に中国で製作され、貝塚時代後期の沖縄にもたらされたと考えられる。八重瀬町新里洞穴から出土。銅と鉄の複合品。保存状態は良好で、比較的安定していた。

3) 保存処理概要：保存処理は以下の工程で実施。

- ①処理前撮影・X線撮影・観察表作成      ②洗浄・錆取り      ③脱塩処理      ④自然乾燥  
⑤樹脂含浸（3回）      ⑥樹脂塗布      ⑦処理後撮影

○撮影～脱塩処理

X線撮影の結果、2点の遺物は錆で覆われているものの、原型は損なわずに良好な状態で残存していることが確認できた。処理前の状態は観察のうえ台帳に記録し、写真撮影を行った。有機溶剤（エタノール40%・キシレン40%・酢酸エチル20%の混合液）でクリーニングを行い、余分な土砂や油脂分を除去した。グラインダーやメス・ニッパ等で錆や固い土砂を落とした。BTA1%エタノール溶液に約3日間浸漬して錆の安定化処理を行い、エタノールに1日間浸漬して脱水作業を完了した。

○自然乾燥～樹脂塗布

強化・防錆処理のためにアクリル系樹脂（パラロイドNAD-10）40%ナフサ溶液に遺物を浸漬し、真空デシケータ内に設置して減圧含浸を行った。効果を万全にするために樹脂含浸作業は3度繰り返し行った。最終的につや消し剤（無水ケイ酸）を添加したアクリル系樹脂をナフサでさらに50%に薄め、遺物表面に塗布して防錆効果の強化と樹脂光沢の抑制を行い、作業を終了した。

4) 今後の保管：

急激な温湿度の変化を避けるために容器内に密閉保存することが望ましい。長期的に劣化を抑えるためにはシリカゲルの同梱は避け、外気との接触を避けることに留意すべきである。

5) 保存処理業者：株式会社 文化財サービス

6) 業務委託金額：136,500円

7) 保存処理後写真：



写真1 和製銅鏡（室町時代）



漢式三角銅鏃（中国漢王朝）

（片桐 千亜紀）

## 6. 資料収集事業

### （1）資料収集

資料収集事業は、文化財の収集活動によって沖縄の遺産を保存管理し、調査研究を踏まえた展示を通して、本県の教育文化の振興・向上をめざした事業である。常設展示において魅力ある展示を構成する上で、資料収集事業は不可欠である。本事業では、沖縄における文化及び歴史的価値の高い資料を計画的に収集し、展示や研究を深め、教育文化の振興や向上に資する事業を行っている。

2011年度は、高等弁務官関係の資料7点を購入した。

高等弁務官とは、琉球列島高等弁務官の略称で、1950年に設置されたアメリカ側の統治機関である琉球

列島米国民政府（USCAR）のトップとして、1957年に設けられた役職である。高等弁務官は琉球政府の行政主席を任命する権利や、琉球政府の立法院で議決された法案に対する拒否権の権限を持つなど、沖縄の住民にとって強大な権力の象徴であった。1957年7月に初代の高等弁務官ムーア中將が就任し、1969年1月に就任したランパートまで6代にわたる高等弁務官が歴任した。

当資料は、6代目にあたるランパートが沖縄の日本復帰（1972年）によって離職したのち、沖縄の米軍基地内にあった沖縄軍隊博物館に、その子息から譲られた高等弁務官資料群の一部である。高等弁務官に直接関係する資料はこれまで博物館で収蔵しておらず、またほかに購入することのできない貴重な資料である。

資料名：

- ・高等弁務官の旗（紋章入り）（小）
- ・高等弁務官の紋章（プレート）
- ・『Joint Amphibious Force –Tenth Army : Information Bulletin-Beaches, Terrain Inland, Weather and Navigation HAGUSHI Landing Area』  
（第10軍陸海混成軍：情報告示―渡具知上陸地点の海岸、島の地形、天候と航海について）
- ・高等弁務官のメダル
- ・高等弁務官の紋章入り皿（大・中・小）
- ・日本政府より高等弁務官に贈られた復帰記念メダル
- ・復帰前日のスタンプが押された封筒



高等弁務官の旗（紋章入り）（小）



高等弁務官の紋章（プレート）

## （2）基金

### 【事業概要】

沖縄県立博物館・美術館の収蔵資料は、沖縄の歴史・文化史を語るため後世に伝えるべき資料である。特に先の大戦で戦火を免れた琉球王国時代の資料は、文化的には勿論のこと歴史的な意味においても価値の高いものであり、当館ではこのような資料を収集し常設展や企画展を活性化させることにより、県民の資質の向上と先人の知恵を学ぶ場を提供し、豊かな沖縄の創造を目指している。

資料購入活動の一つである、沖縄県美術品等取得基金（以下「基金」という）は、貴重な琉球資料を購入し、流失させないことを目的の一つとしており、当館では、琉球史研究や展示の充実を図るために、沖縄の歴史文化の高さと豊かさをあらゆる琉球資料を、基金により継続的に収集している。なお、収集にあたり外部の有識者による収集委員会を招集し、意見を求め、購入の可否を判断している。

### 【進捗状況】

2011年度は、当館の所管が文化観光スポーツ部へ移ったことに伴い、基金取扱い業務が沖縄県教育庁文化財課から文化観光スポーツ部の文化振興課へと変わった。今年度は、2009年度に購入した資料の整理および基金への資金補填期間とし、美術品取得のための収集委員会を招集しなかったが、今後、購入予定資料の所有者との調整、購入条件をみたま資料の情報収集を行った。今年度、基金により取得した資料は24件である。

## 7. 資料貸出

- 事業名：危険生物ハブクラゲ被害防止のための普及啓発  
主 催：沖縄県衛生環境研究所  
会 場：沖縄県衛生環境研究所 入口  
貸出期間：2011年4月11日(月)～2012年3月31日(土)  
貸出資料：ハブクラゲ模型(1件1点)
  
- 事業名：宜野湾市立博物館夏休み企画展「人類の足あと展」  
主 催：宜野湾市立博物館  
会 場：宜野湾市立博物館 企画展示室  
貸出期間：2011年7月13日(金)～8月28日(火)  
貸出資料：リュウキュウムカシキョン(雄)レプリカ・アジア人男性頭骨レプリカ他(63件)
  
- 事業名：地域文化が育んだ美術館・博物館の名品展  
主 催：石川県立美術館  
会 場：石川県立美術館  
貸出期間：2011年9月1日～11月10日  
貸出資料：呉須線彫魚文皿・金城次郎作「魚文皿(線彫双魚文皿)」他(24件25点)
  
- 事業名：平成23年度 第12回特別企画展「アメリカ世(ユー)の沖縄ー逞しくしたたかに生きてきたウチナーンチュー」  
主 催：沖縄県平和祈念資料館  
会 場：沖縄県平和祈念資料館企画展示室  
貸出期間：2011年9月22日(木)～12月22日(木)  
貸出資料：戦争で破壊された仏具・「沖縄民政府」看板(英字)他(16件16点)
  
- 事業名：国宝指定5周年記念展「琉球王国尚家の人々～海を渡った宝物～」  
主 催：那覇市博物館  
会 場：那覇市歴史博物館  
貸出期間：2011年9月28日(水)～12月9日(金)  
貸出資料：黒漆左三ッ巴桜花螺鈿文庫・独楽型茶入(尚順男爵旧蔵)他(15件15点)
  
- 事業名：第5回世界のウチナーンチュ大会・移民資料展  
主 催：第5回世界のウチナーンチュ大会実行委員会  
会 場：沖縄県立博物館・美術館 県民ギャラリー123  
貸出期間：2011年10月8日(土)～10月17日(月)  
貸出資料：戦前の沖縄の風景パネル(坂本万七遺作写真集)・ブリキトランク他(53件55点)
  
- 事業名：市制施行90周年・国宝指定5周年記念展「琉球国王尚家の人々～海を渡った宝物～」  
主 催：那覇市歴史博物館  
会 場：那覇市歴史博物館  
貸出期間：2011年10月1日(土)～11月30日(水)  
貸出資料：朱漆鳳凰瑞雲箔絵小櫃、漆左三ッ巴桜花螺鈿文庫他(7件7点)
  
- 事業名：笑う魚 金城次郎生誕100年  
主 催：那覇市立壺屋焼物博物館

会 場：那覇市立壺屋焼物博物館  
貸出期間：2012年1月6日（金）～2月29日（水）  
貸出資料：亀甲文嘉瓶、線彫魚文大皿他（9件9点）

○事業名：宮古島市総合博物館第20回企画展「宮古の三線展」  
主 催：宮古島市総合博物館  
会 場：宮古島市総合博物館  
貸出期間：2012年2月17日～3月27日  
貸出資料：三線「江戸与那」（県指定文化財）・三線「健堅与那」他（7件7点）

○事業名：インカ帝国展 マチュピチュ「発見」100年  
主 催：独立行政法人国立科学博物館  
会 場：国立科学博物館、仙台市博物館、山梨県立考古博物館、静岡県立美術館、富山県民会館、京都文化博物館、福岡市博物館、鹿児島県歴史資料センター黎明館、沖縄県立博物館・美術館  
貸出期間：2012年3月5日～2014年2月26日  
貸出資料：藁算 栗田コレクション甲6-2（1件1点）

○事業名：宜野座村立博物館常設展示（赤羽刀の常設展示）  
主 催：宜野座村立博物館  
会 場：宜野座村立博物館第1展示室  
貸出期間：2012年4月1日～2015年3月31日  
貸出資料：赤羽刀（1件8点）

○事業名：危険生物ハブクラゲ被害防止のための普及啓発  
主 催：沖縄県衛生環境研究所  
会 場：沖縄県衛生環境研究所 入口  
貸出期間：2012年4月1日（日）～2013年3月31日（日）  
貸出資料：ハブクラゲ模型（1件1点）

## 8. 写真貸出

博物館・美術館では、県民の財産である収蔵資料の普及的活用の一環として、写真画像等の貸出も行っている。毎年多くの写真借用・資料撮影関連の依頼があり、2011年度は博物館班に190件の依頼があった。その利用目的の主なものは、書籍・冊子等の出版物への掲載としてで、次いでテレビ放映であった。借用希望が多かった資料は、「首里城正殿鐘」「進貢船図」「首里那覇港図屏風」であった。

（宮平 真由美）

# 美術館

- I 調査研究等の活動
- II 展示活動
- III 教育普及活動
- IV 資料収集・保存管理

# I. 調査研究等の活動

## 1. 調査研究の概要

調査研究は美術館活動の、重要な柱の一つである。これまで本美術館では、収集作品調査及び、企画展開催に伴う調査研究に重点的に取り組んできた。2011年度は、本美術館活動のさらなる充実を目指し、各学芸員が調査研究に取り組んだ。調査研究の内容は、県内外の作家及び作品に関する調査研究、作品の保存修復に関する調査研究等で、成果についてはコレクション展及び企画展等で公開した他、研究紀要にまとめた。

以下、2011年度（平成23年度）に当館及び学芸員が行った調査研究活動の状況を報告する。

### 【調査研究内容】

- ① 美術品の収集に関する調査研究
- ② 美術品の保存科学に関する調査研究
- ③ 美術品の修復に関する調査研究
- ④ 展示技術に関する調査研究
- ⑤ 教育普及に関する調査研究
- ⑥ 美術情報提供システムの活用に関する調査研究
- ⑦ ボランティア育成支援に関する調査研究
- ⑧ 美術館の振興に関する調査研究

### 【調査研究体制】

調査研究活動は学芸員及び嘱託員で実施。画像を含む調査によって得られたデータは研究用データベースに保存し、展示企画及び各研究に活用している。

（大城 仁美）

## 2. 調査・研究・講演・著作論文等

瑞慶山 昇（美術館副館長）

### ○調査・研究

- ・コレクション展「平田善吉展」のための作品、及び二次資料等の研究（2011年4月～2012年3月）  
調査先：南城市、豊見城市、那覇市
- ・企画展「玉那覇正吉展」作家年譜作成のための資料調査（2011年4月～同年11月）調査先：県内各地
- ・企画展「玉那覇正吉展」展示作品「のぞみの像（彫刻）」修復に関する調査（2011年10月～同年12月）  
調査先：名護市、糸満市、南城市
- ・東京美術学校で学んだ県出身者の調査（2011年11月～同年12月）  
調査先：国立国会図書館（東京都）、那覇市
- ・版画家平塚運一作品調査（2012年3月27日～同年3月29日）調査先：ロサンゼルス（米国）

### ○著作論文等

- ・「東京美術学校で学んだ平田善吉」『沖縄県立博物館・美術館 美術館研究紀要 第2号』  
沖縄県立博物館・美術館 2012年3月

仲里 安広（主任学芸員）

### ○調査・研究

- ・企画展「玉那覇正吉展」作品調査（2011年6月21・22日）調査先：宜野湾市
- ・企画展「玉那覇正吉展」に関する聞き取り調査（2011年9月15日）調査先：宮城哲雄宅（宜野湾市）
- ・画家「下地明増」に関する調査（2012年2月5日）調査先：宮古島市
- ・画家「大城皓也」作品調査（2012年2月16日）調査先：那覇市

### ○講演等

- ・玉那覇正吉展関連シンポジウム「玉那覇彫刻と沖縄の彫刻」（コーディネーター）2012年2月12日

○著作論文等

- ・「沖縄近代彫刻の礎 玉那覇正吉 玉那覇彫刻の起源と絵画の変遷について」  
『沖縄県立博物館・美術館 美術館研究紀要 第2号』沖縄県立博物館・美術館 2012年3月

新里 義和（主任学芸員）

○調査・研究

- ・企画展「東松照明展」に関する研究（2011年4月－2012年3月）調査先：東松照明事務所（那覇市）
- ・名古屋市美術館「東松照明展」に関する調査（2011年6月8日－6月10日）調査先：名古屋市
- ・コレクション展「森山大道展」のための作品調査（2011年7月7日－7月8日）  
調査先：株式会社大和プレス（広島）
- ・東松照明の宮古島での写真活動に関する調査（2011年11月17日－11月18日）  
調査先：宮古島市立博物館等
- ・コレクション展「森山大道展」のための作品調査（2011年12月26日－12月27日）  
調査先：森山大道写真財団、タカ・イシイギャラリー（東京）

○講演等

- ・ライアン・ガンダー展関連シンポジウム「現代美術って何？」（コーディネーター）2011年4月8日
- ・東松照明展関連シンポジウム「今、挑発は有効か」（コーディネーター）2011年10月30日
- ・第1回ふるさとづくり図画コンクール審査 2011年10月31日  
依頼機関：一般社団法人沖縄しまたて協会
- ・「CURATORS TV プロジェクト」東松照明展キュレータートーク 2011年11月5日  
依頼機関：大阪市立大学都市研究プラザ
- ・沖縄県立博物館・美術館コレクションギャラリー2「森山大道 何かへの旅」展関連催事  
「森山大道トークショー」（聞き手） 2012年1月27日
- ・第4回おきでん「ひかりの風景」デジタル写真コンテスト審査 2011年11月～2012年2月  
依頼機関：沖縄電力株式会社

○著作論文等

- ・「子どもの感性に再接近」ライアン・ガンダー展に寄せて 沖縄タイムス 2011年4月7日
- ・「見たいイメージ」と写真の強度 『東松照明と沖縄 太陽へのラブレター』沖縄県立博物館・美術館  
2011年9月23日
- ・「森山大道 何かへの旅」に寄せて 琉球新報 2012年1月25日
- ・「東松照明展報告」『ミュージアム・ミュージアム』九州藝術学会誌『デアルテ』28号
- ・「対談録 『東松照明と沖縄 太陽へのラブレター』展関連シンポジウムⅠ」『沖縄県立博物館・美術館 美術館研究紀要 第2号』沖縄県立博物館・美術館 2012年3月

大城 直也（主任学芸員）

○調査・研究

- ・ティーチャーズキット活用状況調査（2011年7月～10月）  
調査先：高江洲小学校（うるま市）、伊良波中学校（豊見城市）
- ・美術館教育普及事業調査（2012年3月7日～9日）  
調査先：静岡県立美術館（静岡市）、栃木県立美術館（宇都宮市）、埼玉近代美術館（さいたま市）、群馬県立近代美術館（高崎市）

○講演等

- ・教師向け講座「トントンゴギコ図工の時間 上映会&トークショー」（聞き手）2011年10月1日

○著作論文等

- ・「ガラス絵に命の力」沖縄タイムス 2011年11月18日
- ・「平成23年度 ティーチャーズキットを活用した授業の実際」『沖縄県立博物館・美術館研究紀要 第2号』

沖縄県立博物館・美術館 2012年3月

・『平成23年度 沖縄県立博物館・美術館 美術館教育普及報告書』 2012年3月

豊見山 愛 (主任学芸員)

○調査・研究

・美術館職員の調査研究助成採択事業『沖縄女性美術を出発点とした近現代アジア女性美術家の調査研究』  
(公益財団法人ポーラ美術振興財団)による下記の研究(2011年4月～2012年3月)

- ① 沖縄の女性美術家への聞き取り調査【県内】(久場とよ、山元文子へ12回)
- ② 物故者の関係者への聞き取り調査【県内】(大城志津子、名渡山愛順関係者など数十箇所)
- ③ 金沢21世紀美術館展示調査及び作家調査【県外】(“InnerVoices”展にて、イー・イラン、呉夏枝、等)
- ④ アジア女性アーティストの調査【海外】(台北、高雄、台中 2012年2月29日～3月4日)

調査先：国立臺北藝術大学關渡美術館(館長：曲德益、学芸員：呉達坤)、国立臺灣藝術大学(頼瑛瑛教授)、IT PARK(陳慧嶠)、VT ART SALON、高雄市立美術館(学芸員：曾媚珍、張雅晴)、呉瑪俐、侯淑姿(Lulu Shur-tzy Hou)、王德瑜など。(共同調査・三重県立美術館原舞子学芸員)

・収集対象作家及び所蔵作家の調査

- ① 藤田嗣治『孫』(油彩・1938年)に関する調査【県内】、南風原朝光遺族・仲本逸子氏への聞き取り(共同調査・板橋区美術館弘中智子学芸員)
- ② 戦前に来沖した画家の調査【県外】(東京国立文化財研究所、ほか)

○講演等

・基調講演「戦争・女性・沖縄—表現の位相」(シンポジウム：沖縄から女性美術を考える2「なぜ、女性たちは織に向かったのか」 2011年10月15日 沖縄県立博物館・美術館主催・琉球大学国際沖縄研究所共催)

○著作論文等

・「客体から主体へ—沖縄女性美術研究(1)」『沖縄県立博物館・美術館 美術館研究紀要 第2号』  
沖縄県立博物館・美術館 2012年3月

大城 仁美 (主任学芸員)

○調査・研究

・収集候補作家及び作品調査(2011年7月12日～7月13日)東京都

- ① 読谷山朝典『古城の跡(中城)』『竹富島』『まぶこの海』『牧場(仮題)』、ご遺族への聞き取り
- ② 田辺竹次『沖縄(絶筆)』、ご遺族への聞き取り

・津野力男写真展のための作家及び資料調査

- ① 山田實氏への聞き取り(2011年11月25日)那覇市
- ② 前原基男氏への聞き取り(2011年12月20日)那覇市
- ③ 津野藤子氏への聞き取り、資料調査(2012年1月4日)那覇市

・内間安理作品熟覧(2012年1月13日)東京国立近代美術館

・収集候補作品調査(2012年1月20日)群馬県

大嶺政寛作品(作品名不明)、所有者への聞き取り

・収蔵作家の作品及び展示調査(石川真生)(2012年2月8日～2月9日)

横浜美術館、新宿ニコンサロン、Photographer's Gallery、禪 Photo Gallery

○著作論文等

・「平成23年度内間安理作品等調査報告」『沖縄県立博物館・美術館 美術館研究紀要 第2号』  
沖縄県立博物館・美術館 2012年3月

仲村 美奈子 (嘱託員)

○調査・研究

・大城皓也絵画作品状態調査(2月20日～3月1日)調査先：浦添市

○著作論文等

- ・コラム 沖縄タイムス『唐獅子』2011年1月～6月隔週
- ・「平成22・23年度美術作品修復報告」『沖縄県立博物館・美術館 美術館研究紀要 第2号』  
沖縄県立博物館・美術館 2012年3月

吉田 祥子（囑託員）

○調査・研究

- ・企画展「玉那覇正吉展」のための作品調査（2011年8月～10月）調査先：当館内
- ・企画展「東松照明展」のための作品状態点検（2011年9月1日）調査先：那覇市
- ・「大城皓也」作品調査（2011年10月7日）調査先：那覇市
- ・「森山大道」作品調査（2011年12月29日）調査先：当館内

○著作論文等

- ・「平成23年度 大城皓也作品調査報告」『沖縄県立博物館・美術館 美術館研究紀要 第2号』  
沖縄県立博物館・美術館 2012年3月

### 3. 職員研修

大城 仁美（主任学芸員）

- ・平成23年度 第1回ミュージアムエデュケーター研修（文化庁主催）  
前期／2011年9月26日～9月28日 東京国立博物館、後期／2012年2月6日～7日 国立新美術館

## II. 展示活動

### 1. 展示活動概要

美術館の展示活動においては、研究成果に基づいた学芸員のオリジナルな企画を重視し、「企画し成長する美術館」を実践していくこととする。展示は、館独自のコレクションに基づいて企画される常設展示、収集理念に準じた内容を基本方針に沖縄やアジアの地域性に焦点をあてた、年間2本の自主企画展示等の活動を行う。

コレクション展では、収蔵作品を年間3期に分けて展示公開し、コレクションギャラリー1（217.94㎡）にて比較的小品の写真、版画、水彩画等の紙もの類、コレクションギャラリー2（286.26㎡）にて絵画、彫刻等の大型作品、コレクションギャラリー3（372.23㎡）において沖縄の戦後美術を系統的に展示する。

2011年度は個人研究の成果が生かされた郷土の画家「平田善吉展」【絵画】や「佐田勝展」【ガラス絵】、「津野力男展」【写真】、テーマ性の高い「サイト・シーイング沖縄美術をめぐる旅～島嶼性と異化」、「ニシムイ以降の美術家たち」【絵画・彫刻】などの沖縄関連の展示の他、寄託作品の研究成果を元にした「大和コレクションⅢ・日本の若手アーティスト展」【現代美術】、「森山大道 何かへの旅 展」【写真】等日本を代表する作品の展示を行い、幅広い領域の展示で好評を博した。また、企画展示に於いて、戦後日本を代表する写真家東松照明と沖縄の関係に焦点をあてた「東松照明と沖縄 太陽へのラブレッター展」、沖縄の近代彫刻の礎として多くの後進を育てた「玉那覇正吉展」の2本の展示が行われた。いずれも、本美術館の核になるコレクションであり、研究成果を県民に広く公開するものであった。

（新里 義和）

## 2. コレクション展（常設展）

### 【コレクションギャラリー1】

○タイトル：「東京美術学校で学んだ県人—平田善吉展」

会 期：2011年5月14日（土）～9月4日（日）

担 当：瑞慶山 昇

内 容：平田善吉（ひらた ぜんきち）1901—1986は、戦前に東京美術学校（現・東京藝術大学）の図画師範科で学び、岐阜県多治見高等女学校や、沖縄県師範学校美術科教師を勤めた。戦後は辺土名高校初代校長、知念連合区教育長等を歴任しながら、沖縄造形教育連盟初代会長を務めるなど、長年に渡り県高校教育や造形教育に力を注いだ。戦前に描かれた作品は沖縄戦において消失してしまったが、戦後描かれた作品や資料等から平田善吉を紹介した。

○タイトル：「池袋モンパルナスの画家—佐田勝展」

会 期：2011年9月11日（土）～2012年1月23日（日）

担 当：大城 直也

内 容：佐田 勝（さた かつ）1914～1993は、佐田勝は1939年に「美術文化協会」を創立メンバーとして活動し、その後芝浦工業専門学校建築家教授を10年務めた。また、ガラス絵協会の会長に就任、ガラス絵の普及活動も行った。佐田勝は熊谷守一の隣にアトリエ設け、「池袋モンパルナス」が都市の発展とともに消える中で最後までそこで活動をしている。今回、沖縄に関して制作したガラス絵を34点展示した。

○タイトル：「津野力男写真展」

会 期：前期 2012年1月21日（土）～3月11日（日）

後期 2012年3月13日（火）～5月6日（日）

担 当：大城 仁美

内 容：津野力男（つの りきお）は、戦後の沖縄でいち早く写真活動を始め、のちに沖縄写真連盟や沖縄県写真協会の会長を歴任するなど、戦後復興期に沖縄写真界の裾野を支えた人物の一人である。本展の前期では、与那城町照間（現うるま市与那城照間）のビーグ農家を1983～85年にかけて取材したシリーズ「ビーグの里」30点を展示。後期には唯一写真集へと結実したシリーズ「陰翳礼讃」25点を紹介した。

### 【コレクションギャラリー2】

○タイトル：「ニシムイ以降の美術家たち」

会 期：2011年5月14日（土）～9月4日（日）

担 当：仲里 安広

内 容：ニシムイ美術村の美術家を始め、その後活躍した美術家たちに焦点を当て、1950年代、1960年代の美術家を紹介。戦後の具象絵画から50年代後半の抽象絵画への変容、そして、視線の先にあった沖縄の特殊性、「風景」を美術家はどのように捉え、咀嚼していったのか。グループ展の流れも辿りながらその変遷を通観する。

○タイトル：「大和コレクションⅢ・日本の若手アーティスト展」

会 期：2011年9月11日（土）～2012年1月23日（日）

担 当：豊見山 愛

内 容：寄託作品のなかで（大和コレクション）、雄川愛・金氏徹平・苅谷昌江・田中功起・中川トラヲ・政田武史・森千裕・村上隆・照屋勇賢ら、現代を標榜する若手作家を取り上げて、時代の空気を反芻し、あるいは未来への指南として読み取れる作品を選定した。金氏徹平のインスタレーション作品は、ひ

とつの素材や表現形態にこだわらない新たな試みとして、トークショーも企画した。金氏による作品設置には、沖縄芸大出身の若手アーティストにもボランティアで参加してもらい、交流をはかった。

○タイトル：「森山大道 何かへの旅 展」

会 期：前期 2012年1月21日（土）～3月11日（日）

後期 2012年3月13日（火）～5月6日（日）

担 当：新里 義和

内 容：森山大道（もりやま だいどう）は、1938年大阪府池田町に生まれる。「アレ・ブレ・ボケ」と称される激しい映像により、60年代後半から日本の写真界に絶大な影響力を発揮し、戦後写真の意味や機能を拡張させた。本展では、個人として国内最大のコレクションを有する大和コレクションより、初期の代表作から近作まで、前期と後期合わせて113点をセレクトし、写真家・森山大道の軌跡とその写真思想に迫るものであった。

【コレクションギャラリー3】

○タイトル：「サイト・シーイング沖縄美術をめぐる旅～島嶼性と異化」

会 期：2011年5月14日（土）～2012年5月6日（日）

担 当：豊見山 愛

内 容：1930年代から現在までの沖縄美術を紹介する同展では、芸術表現による「旅」をテーマにした構成である。風景画は必ずしも事実をうつしとるものではなく、既成の文化的事象からイメージを拝借し、そこにアーティストの解釈を加えるなどの意味を変容させた作品50点を選んで展示した。沖縄の豊かな島嶼性文化の追究とともに、あらたな発見を目指した。

### 3. 企画展1 「東松照明と沖縄 太陽へのラブレター展」

会 期 平成23年9月23日（金）～11月20日（日）（開催日数51日）

会 場 沖縄県立博物館・美術館 企画展示室1,2

観 覧 料 一般 1,000円(800円)、高校・大学生 700円(560円)

小・中学生 300円(240円) ※（ ）内は前売り・20名以上の団体料金

観覧者数 3,614人

予 算 額 14,188,102円

【開催趣旨】

戦後日本の写真史に数々の重要な足跡を残し、「写真の巨人」と評される東松照明（とうまつしょうめい 1930-）は、日本の戦後史の特徴をアメリカニゼーション（米国化）と捉え、1950年代後半より全国の米軍基地周辺を取材する。そして占領シリーズの最後の地として1969年に初めて沖縄を訪れ＜OKINAWA 沖縄 OKINA WA＞（1969年）を制作した。しかし、沖縄の島々を取材する中で、アメリカニゼーションを拒む強靱で良質な文化と遭遇し、その強烈なカルチャーショックが、のちに名作＜太陽の鉛筆＞（1975年）へと結実する。以来、東松は現在まで42年間にわたり沖縄を見続け、戦後日本の写真界、とりわけ沖縄の写真家に大きな影響を与えてきた。本展覧会では、沖縄に関する重要な写真シリーズから、2011年に撮影された最新作まで240点を一堂に展示し、その写真思想に迫るものである。

【開催形式】

主 催：沖縄県立博物館・美術館

後 援：沖縄県写真協会／沖縄写真連盟／公益社団法人日本写真協会／公益社団法人日本写真家協会／財団法人沖縄観光コンベンションビューロー／NHK 沖縄放送局／沖縄テレビ放送株式会社／琉球放送株式会社

社／琉球朝日放送株式会社／株式会社エフエム沖縄／株式会社ラジオ沖縄／沖縄タイムス社／琉球  
新報社／タイフーンFM

プリント協力：キヤノンマーケティングジャパン株式会社／Hahnemuhle／ジェットグラフ株式会社

協 賛：株式会社東洋企画印刷／株式会社大和プレス

## 【展示内容】

- I 章 敗戦日本の原風景  
＜チューインガムとチョコレート＞1959-67
- II 章 占領シリーズ最後の地「沖縄」  
＜OKINAWA 沖縄 OKINAWA＞1969
- III 章 「さびしさを思想化せよ。」  
＜太陽の鉛筆＞1969-1973
- IV 章 カラーへの転換  
＜南島＞＜光る風＞1973 - 1979
- V 章 写真はイメージで綴るラブレター  
＜琉球ちゃんぷるう＞ - 2011

出品総数	
モノクロプリント	128 点
大型カラープリント	112 点
合計	240 点

## 【関連催事】

### ■ギャラリー・トーク

- ①9月24日（土） 山田實氏（写真家）
- ②10月1日（土） 宮良信男氏（写真家）
- ③10月8日（土） 大城弘明氏（写真家）
- ④10月15日（土） 翁長直樹氏（美術評論家）
- ⑤10月29日（土） 石川直樹氏（写真家）
- ⑥11月19日（土） 仲里効氏（批評家）

### ■キュレーター・トーク

- ①10月22日（土） 新里義和（学芸員）
- ②11月5日（土） 新里義和（学芸員）

### ■シンポジウム

- ①10月2日（日）

第1部 対談：東松照明氏、下地恵子氏（展覧会作家関係者）

第2部 基調講演：飯沢耕太郎氏（写真評論家）

第3部 パネルディスカッション：飯沢耕太郎氏・大城弘明氏・金平茂紀氏（TBS キャスター）  
・下地恵子氏 ・コーディネーター／仲里効氏（批評家）

- ②10月30日（日）

第1部 対談：吉増剛造氏（詩人）※東松照明氏は体調不良により参加できず、聞き手に新里義和

第2部 パネルディスカッション：石川直樹氏（写真家）・宮良信男氏（写真家）・タイラジュン氏（LP 編集者）  
・今郁義氏（北谷町生涯学習プラザ館長）・根間智子氏（美術家）  
・コーディネーター／新里義和（本展担当学芸員）

### ■東松照明展デジタルワークショップ

期 間：8月27日、9月3・10・17・18日（全5回） 講師：東松照明デジタルワークショップ卒業生

### ■東松照明展デジタルワークショップ展覧会

会 期：9月27日（火）～10月2日（日） 会場：県民ギャラリー2・3、県民ギャラリースタジオ



シンポジウム① 第1部対談：東松照明氏、下地恵子氏

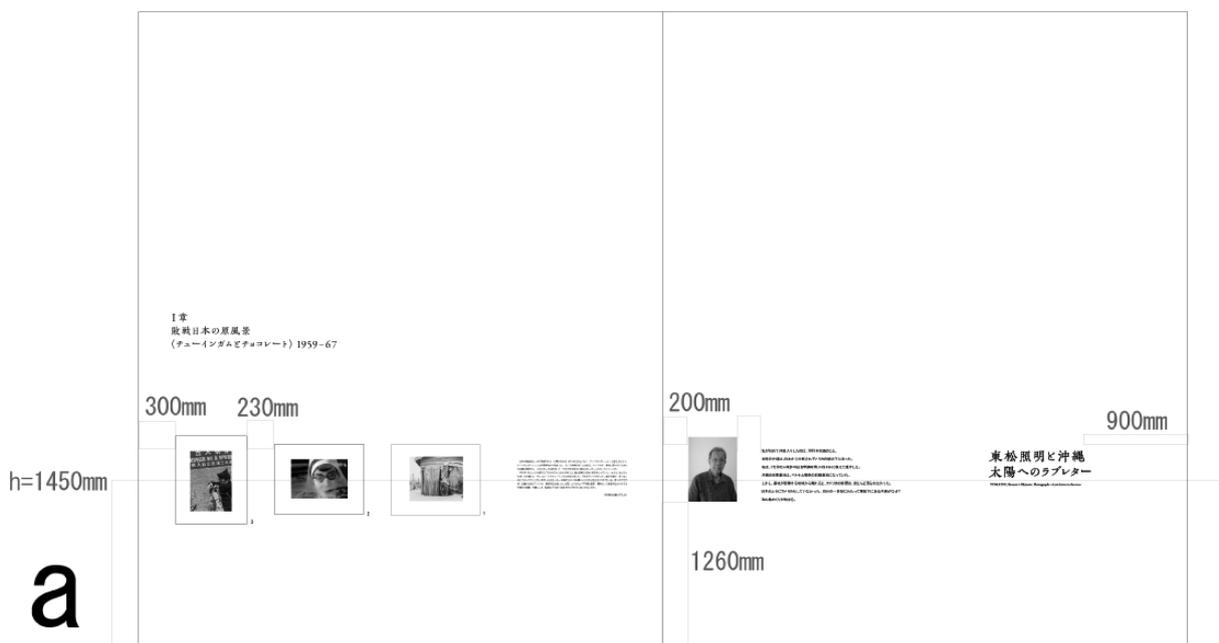


開会式及び内覧会

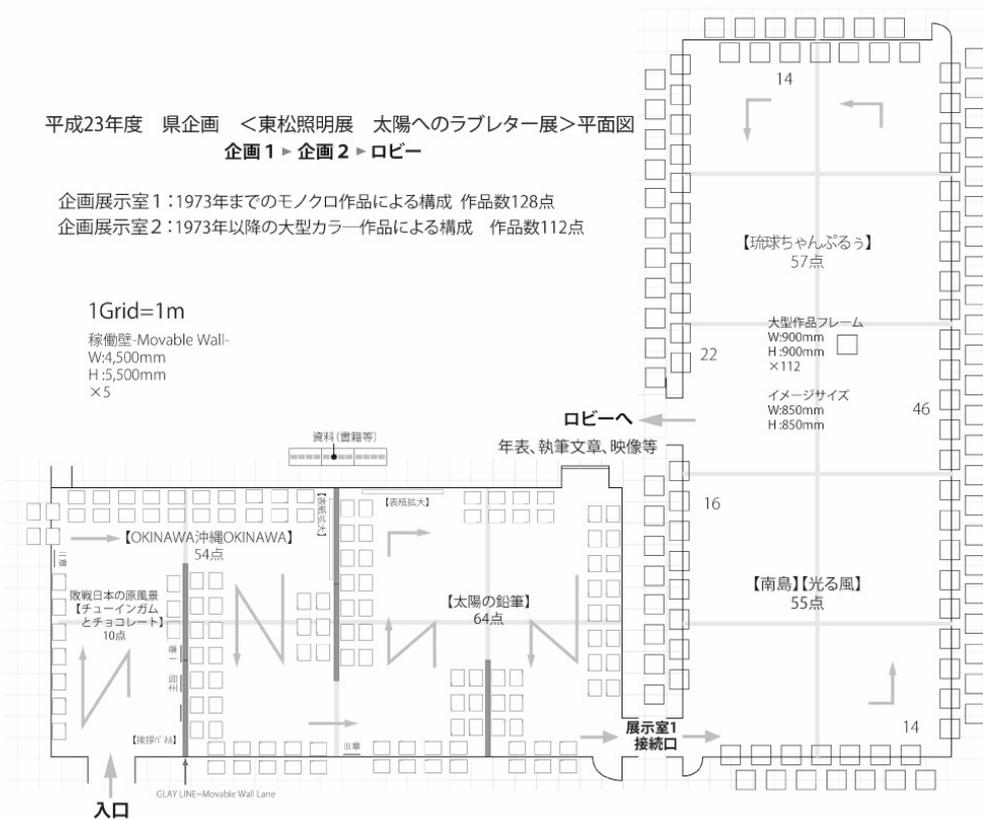
山田實氏と東松氏

【展示立面図】

平成23年度 県企画 <東松照明展 太陽へのラブレター展> 立面図 a



## 【展示平面図】



## 4. 企画展 2 沖縄の美術シリーズ 3

### 沖縄近代彫刻の礎 玉那覇正吉 —彫刻と絵画の軌跡—

会 期：2012年1月11日（水）～3月11日（日）（52日）

会 場：美術館企画ギャラリー1・2

観 覧 料：大人 800 円、高校生・大学生 500 円、小・中学生 300 円

観覧者数：3,328 名

#### 【開催趣旨】

県立美術館では、郷土出身作家の企画展を開催し、その足跡をたどるとともにそれぞれの作家の、芸術の精華を展望する「沖縄の美術シリーズ」を開催している。3回目は沖縄に近代彫刻を広めた玉那覇正吉を取り上げた。沖縄戦後美術の復興を語る上で玉那覇正吉の存在は大きい。東京美術学校彫刻科を卒業した玉那覇は、戦後の彫刻のみならず、絵画においても大きな功績を残した。戦後間もないころのニシムイ美術村ではアトリエを構え画家としての活動を始めており、風景画や肖像画を残している。また、琉球大学開学後は教官として美術教育にも大きく貢献した。団体展やグループ展においても美術界を先導した。とりわけ、戦後沖縄の彫刻分野の指導者としての功績は大きい。また、ラジオ番組にも出演し、芸術論について語るなど、深い理念を持っており哲学的であったと言う。

本展示会では、そのような玉那覇の全貌を紹介すると共に、彫刻や絵画の活動を辿りながら、玉那覇芸術を掘り下げていく。戦後沖縄、ニシムイ生活での苦悩や葛藤を経験し、沖展創設後の活動、「5人展」、「創斗展」等のグループ展へも積極的に活動し戦後沖縄の美術を開拓していった。また、琉球大学就任後は後進の指導にも携わり戦後沖縄美術の中心的な役割を担った。そのような玉那覇が語り継いだ芸術論について紹介する。

玉那覇の活動は 1954 年、院展の彫刻部門での「みどりの像」で入選を果たすと共に、春陽会での絵画活動をおして中央の息吹を沖縄に吹き込んだ。戦後沖縄に新たな展開のきっかけを作ったという意味においてもその役割は大きい。それは同時に、沖縄人としてのアイデンティティーを提示させる契機になったのだろう。このような状況の中で玉那覇が描いた精神世界が彫刻や絵画の中でどのように反映されたのか。戦後を生きた玉那覇が追求した沖縄の形、厨子甕とランプが隠喩する影と光に込められたものが意味するものは……。表現活動の中で問いかける芸術の深化について理解を深めるとともに、沖縄の美術を理解していただく機会とする。

#### 【開催形式】

主 催：沖縄県立博物館・美術館、沖縄県文化観光スポーツ部  
後 援：沖縄県美術家連盟／沖縄県文化協会／株式会社沖縄タイムス社／琉球新報社／NHK 沖縄放送局／沖縄テレビ放送株式会社／琉球放送株式会社／琉球朝日放送株式会社／（株）ラジオ沖縄／株式会社エフエム沖縄／（株）エフエム那覇  
協 力：株式会社沖縄ファミリーマート

#### 【展示内容】

本展示会では、玉那覇正吉（1918 年～1984 年）の作品を彫刻と絵画に分け 5 章で構成する。1 章は玉那覇の足跡と題して玉那覇の活動や資料をおして全貌を公開し、2 章は彫刻作品を公開する。3 章以降は制作年代別に具象の絵画表現から抽象表現への表現形態の変遷をたどり、玉那覇芸術を展望する。

##### (1) 各章の概要

###### ① 第 1 章 玉那覇正吉の足跡 –玉那覇像について–

一中を卒業後、上京し川端画学校で絵を勉強した後、東京美術学校彫刻科塑造部への入学を果たす。終戦後は帰沖し戦後沖縄美術を牽引する役割となる。沖縄美術の復興と中央展との繋がりの中で玉那覇が追いつけてきたものとは……。戦後復興期と玉那覇の状況。その後の展開や歴史を写真で紹介し、玉那覇の全貌を紹介。

###### ② 第 2 章 彫刻家としての玉那覇 –魂の彫刻–

東京美術学校彫刻科では石井鶴三に従事した。その影響で本格的な近代彫刻が本県で根付くこととなった。琉球大学へは教官として招聘され、学生の指導に当たり、彫刻分野の育成に大きな影響を与えた。沖展彫刻部門の創設に加え、グループ展、個展で作品を発表した。この章では玉那覇の彫刻作品を中心に展示。

###### ③ 第 3 章 初期の絵画 –初期の具象表現– ～1954 年

戦前の日本美術学校時代の様子や、玉那覇が辿った戦後美術の動向を紹介。ニシムイ時代の占領下における沖縄では、玉那覇から絵画の手ほどきをうけた軍医のスタンレー・スタインバーグとの交流あった。その様子や 50 年代初期の具象絵画を展示。

###### ④ 第 4 章 模索の時代 –抽象絵画への広がり– 1955 年～1969 年

1950 年代後半全国的な抽象絵画への流れから玉那覇の絵画の解体が始まる。写実的表現から抽象絵画への変容、絵画の模索の時代である。平面的な塗り重ねと重厚さで表現されたマチエルにより、ダイナミックな表現法を確立していく。モチーフが混在し多様なテーマでの表現活動を行う。玉那覇絵画の変容を展示。

###### ⑤ 第 5 章 表現の深化、–形象の追求– 1970 年～1984 年

1970 年代以降は、油彩からアクリル絵の具に替わり、とりわけ、厨子甕とランプがモチーフになった作品が数多くみられる。厨子甕とランプに込められた思いとは何だったのだろう。また、花の作品やヨーロッパの風景画（建築物）も手がけた。晩年の玉那覇絵画を展示する。

(2) 展示作品数

彫刻作品 (47 点) 絵画・デッサン作品 (85 点) 使用した道具類 (約 50 点)  
挿絵・切手・ドローイング・デザイン・ポスター等 (約 100 点)、計 (282 点)

【関連催事】※詳細は教育普及事業にて紹介

今回の企画展関連催事として以下の事業を行った。

○基調講演 「玉那覇正吉の造形論」

日 時：2012 年 2 月 12 日 (日) 14:00～15:00

会 場：沖縄県立博物館・美術館 講堂

講 師：西村貞雄

○シンポジウム 1 「玉那覇正吉の彫刻と沖縄の彫刻」

日 時：2012 年 2 月 12 日 (日) 15:00～17:00

会 場：沖縄県立博物館・美術館 講堂

パネリスト：西村貞雄 (琉球大学名誉教授)、富元明雄 (彫刻家)、小林純子 (沖縄県立芸術大学教授)  
砂川泰彦 (沖縄県立芸術大学准教授)

コーディネーター：仲里安広

○シンポジウム 2 「玉那覇正吉の芸術論」

日 時：2012 年 2 月 24 日 (金) 18:00～20:00

会 場：沖縄県立博物館・美術館 講堂

パネリスト：西村貞雄 (琉球大学名誉教授)、稲嶺成祚 (琉球大学名誉教授)、仲井間憲児 (名桜大学非常勤  
講師)、田村みどり (玉那覇正吉長女)

コーディネーター：翁長直樹 (美術評論家)

○アーティスト・ギャラリートーク

日 時：1 月 21 日 (土) 15:00～16:00 翁長直樹 (美術評論家)

日 時：3 月 3 日 (土) 15:00～16:00 西村貞雄 (琉球大学名誉教授)

日 時：3 月 10 日 (土) 15:00～16:00 星 雅彦 (詩人・美術評論家)

○キュレータートーク

日 時：1 月 14 日 (土) 15:00～16:00

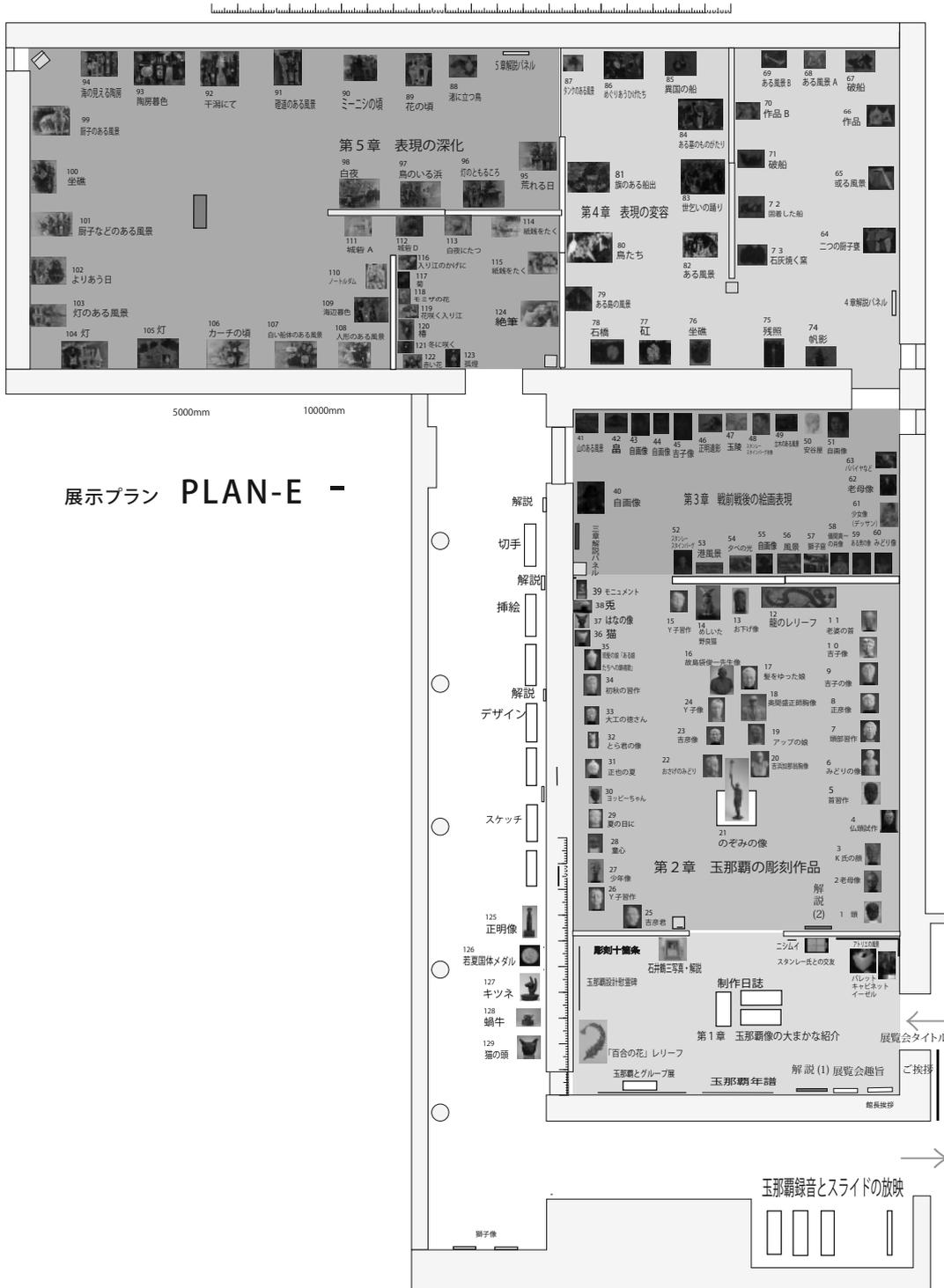
日 時：2 月 4 日 (土) 15:00～16:00

ト ーク：仲里安広





【展示平面図】



### Ⅲ. 教育普及活動

#### 1. 美術館教育普及活動の概要

美術館の教育普及活動は、「鑑賞活動の支援プログラム」「実技体験の支援プログラム」「発表活動の支援プログラム」という3つの柱に沿って展開している。

鑑賞活動のプログラムでは、展示解説ボランティアによる「対話式鑑賞法」の推進を図り、学校団体への見学対応にも対応した。また、作品理解をすすめるために、定期的に学芸員によるキュレーター・トーク、作品制作者やその関係者によるアーティスト・トークなどを展示室で実施するとともに、美術講座なども実施した。

教育普及活動は、館内だけのプログラムではなく、県立という施設に鑑み、アウトリーチ活動の充実を目指し、出張美術館や移動展（宮古島）も実施した。

#### 2. 鑑賞活動支援

開館記念展より継続で、作品の鑑賞をより深めるために各展示担当によるキュレーター・トークや、作品の制作を行った作家や関係者を招き、アーティスト・トーク、ギャラリー・トークを行った。また来館者に対して鑑賞ボランティアによる「鑑賞ツアー」を、展示室内で作品を観ながら行った。

##### 【キュレーター・トーク】

ボランティアの方々や一般の方に対し、各展示会担当学芸員がその展示作品や作家、また展示内容について解説を行うことで、展示に対し関心や理解を深めるために講義を行う。



キュレーター・トークの様子

回	月日	曜	展示会名	担当	参加者
1	4月13日	水	「メコン 4525km－管洋志写真展」	大城 仁美	4
2	5月28日	土	「東京美術学校で学んだ県人－平田善吉展」	瑞慶山 昇	12
3	6月15日	水	「サト・シイング 沖縄美術をめぐる旅～島嶼と異化」	豊見山 愛	5
4	7月20日	水	「ニシムイ以降の美術家たち」	仲里 安広	5
5	9月21日	水	「池袋モンパルナスの画家－佐田勝」	大城 直也	4
6	10月22日	土	「東松照明と沖縄 太陽へのラブレター」	新里 義和	16
7	11月 5日	土	「東松照明と沖縄 太陽へのラブレター」	新里 義和	45
8	12月21日	水	大和コレクションⅢ「日本の若手アーティスト展」	豊見山 愛	4
9	1月25日	水	「サト・シイング 沖縄美術をめぐる旅～島嶼と異化」	豊見山 愛	3
10	2月 4日	土	「沖縄近代彫刻の礎 玉那覇正吉－彫刻と絵画の軌跡」	仲里 安広	14
11	3月21日	水	「津野力男写真展」	大城 仁美	6

##### 【アーティスト（ギャラリー）・トーク】

ボランティアの方々及び一般の方に向け、常設展示室（コレクションギャラリー）や企画展示室の展示作家及び作品の理解を深めるための講座。展覧の展示作家やその関係者等を招き実施。



栗国久直氏のトーク風景

回	月日	曜	展示会名	講師	参加者
1	4月16日	土	コレクション展「緑の画家－安次嶺金正」	宮里 正子	18
2	5月21日	土	「東京美術学校で学んだ県人－平田善吉展」	稲嶺 成祚 島袋 文雄	34
3	6月18日	土	「サト・シーイング 沖縄美術をめぐる旅～島嶼と異化」	栗国 久直	34
4	7月16日	土	「ニシムイ以降の美術家たち」	翁長 直樹	7
5	9月24日	土	「東松照明と沖縄 太陽へのラブレター」	山田 實	69
6	10月1日	土	〃	宮良 信男	28
7	10月8日	土	〃	大城 弘明	20
8	10月15日	土	〃	翁長 直樹	19
9	10月29日	土	〃	石川 直樹	13
10	11月19日	土	〃	仲里 効	42
11	11月19日	土	「池袋モンパルナスの画家－佐田勝」	熊谷 榎	19
12	1月21日	土	「沖縄近代彫刻の礎 玉那覇正吉－彫刻と絵画の軌跡」	翁長 直樹	9
13	2月18日	土	「津野力男写真展」	前原 基男	17
14	3月3日	土	「沖縄近代彫刻の礎 玉那覇正吉－彫刻と絵画の軌跡」	西村 貞雄	15
15	3月10日	土	〃	星 雅彦	15

### 【鑑賞ツアー】

鑑賞ボランティアが来館者に対し行う展示作品の鑑賞活動。案内役を中心に「対話式鑑賞法」による鑑賞の形をとり、作品に対する思いや感想などを伝え合い、共感する中で作品の理解や関心を深めていた。



鑑賞ツアーの様子

回	月日	曜	展示会名	参加者
1	4月9日	土	「メコン 4525km－管洋志写真展」	5
2	5月28日	土	「東京美術学校で学んだ県人－平田善吉展」	10
3	6月25日	土	「サト・シーイング 沖縄美術をめぐる旅～島嶼と異化」	11
4	7月23日	土	「ニシムイ以降の美術家たち」	5
5	9月24日	土	「池袋モンパルナスの画家－佐田勝」	5
6	10月29日	土	「サト・シーイング 沖縄美術をめぐる旅～島嶼と異化」	4
7	11月12日	土	「東松照明と沖縄 太陽へのラブレター」	4
8	12月24日	土	大和コレクションⅢ「日本の若手アーティスト展」	4
9	1月28日	土	「サト・シーイング 沖縄美術をめぐる旅～島嶼と異化」	4
10	2月11日	土	「沖縄近代彫刻の礎 玉那覇正吉－彫刻と絵画の軌跡」	5
11	3月24日	土	「津野力男写真展」	4

### 【学校団体対応】

学校団体に対して展示作品の鑑賞を支援するプログラムを行った。鑑賞ボランティア員が案内役となり、コレクション展の中から3作品をグループ別に「対話式鑑賞法」による鑑賞法でお互いに共感し合いながら作品理解を深めていった。



学校団体鑑賞の様子

回	月日	曜	学校名・学年	参加者
1	6月21日	火	那覇市立若狭小学校 5年生	64
2	7月7日	木	糸満市立兼城中学校 1年生	84
3	7月15日	金	沖縄県立浦添工業高等学校 デザイン科 1年生	80
4	11月2日	水	南城市立船越小学校 4年生	51
5	2月7日	火	名護市立名護小学校 4年生	70
6	2月8日	水	名護市立名護小学校 4年生	70
7	2月17日	金	うるま市立高江洲小学校 4年生	79

### 3. バックヤード・ツアー

収蔵庫や修復室、工作室といった通常一般開放していない美術館のバックヤードを案内する事業。学芸員の仕事や美術作品に対する保存、展示についても学ぶ機会となっている。



バックヤード・ツアーの様子

回	月日	担当	参加者
1	4月 9日	瑞慶山 昇	2
2	5月 7日	大城 仁美	13
3	5月 21日	大城 直也	12
4	6月 4日	豊見山 愛	11
5	7月 9日	新里 義和	2
6	8月 6日	大城 直也	台風のため中止
7	9月 3日	仲里 安広	5

回	月日	担当	参加者
8	10月 1日	豊見山 愛	2
9	11月 5日	大城 直也	4
10	12月 3日	新里 義和	6
11	1月 7日	大城 仁美	9
12	2月 11日	仲里 安広	8
13	3月 11日	大城 直也	6

### 4. 美術講座

美術史を学ぶ機会として、世界・日本・沖縄の美術の流れに関する一般向けの講座を開設した。ボランティア対象の講座としても位置づけおり、美術史に関する基本的な内容の学ぶ機会となった。



美術講座の様子

回	月日	曜	名称	講師	参加者
1	4月 27日	水	世界の美術史①美術の始まり～ルネッサンスまで	翁長直樹	34
2	5月 11日	水	世界の美術史②印象派	浅野春男	24
3	5月 25日	水	世界の美術史③後期印象派	浅野春男	33
4	6月 7日	火	世界の美術史④20世紀美術（モダニズム）	翁長直樹	31
5	6月 21日	火	世界の美術史⑤20世紀美術（ポストモダニズム）	翁長直樹	27
6	7月 20日	水	日本の美術史①日本における西洋画の流れ	稲嶺成祚	32
7	8月 3日	水	日本の美術史②日本における彫刻	小林純子	28
8	8月 17日	水	沖縄の美術史①ニシムイの美術村	翁長直樹	30
9	8月 31日	水	沖縄の美術史②ニシムイ以降の流れ	翁長直樹	31
10	9月 14日	水	現代美術	土屋誠一	34

### 5. コレクション・企画展関連シンポジウム

(1) ライアン・ガンダー展関連シンポジウム「現代美術って何？」……………参加者：72人

- ① 日 時：平成23年4月8日 18:30～21:30
- ② 会 場：講堂
- ③ 1 部：レクチャー「未来か『今』－ライアン・ガンダーの多重世界」  
講 師：松井みどり（美術評論家）
- ④ 2 部：パネルディスカッション「ライアン・ガンダーって何者？」  
パネリスト：松井みどり（美術評論家）、井上間従文（琉球大学講師）、照屋勇賢（美術家）  
進 行：新里義和（当館学芸員）

(2) コレクションギャラリー3展示関連「上映会&トークショー」……………参加者：72人

- ① 日 時：平成23年6月17日 18:30～21:00
- ② 会 場：講堂

- ③ 1 部：高嶺剛監督作品「PUPPET SHAMAN STAR」上映会
- ④ 2 部：トークショー「高嶺 剛作品について」  
パネリスト：高嶺剛（映画監督）、新城郁夫（琉球大学教授）  
進 行：豊見山愛（当館学芸員）
- (3) コレクションギャラリー2 展示関連「金氏徹平トークショー」……………参加者：71 人
- ① 日 時：平成 23 年 9 月 9 日 18:30～
- ② 会 場：講堂
- ③ トークショー：「見たことがあるようで、何だかわからないもの」  
パネリスト：金氏徹平（美術家）、土屋誠一（県立芸大講師）  
進 行：豊見山愛（当館学芸員）
- (4) 東松照明展関連シンポジウム……………参加者：144 人
- ① 日 時：平成 23 年 10 月 2 日 14:00～18:00
- ② 会 場：講堂
- ③ 1 部：対談「太陽と鉛筆」と宮古大学  
講 師：東松照明（写真家）、下地恵子（元宮古大学メンバー）
- ④ 2 部：基調講演「インターフェースへー東松照明の作品世界」  
講 師：飯沢太郎（写真評論家）
- ⑤ 3 部：パネルディスカッション  
講 師：飯沢耕太郎（写真評論家）、大城弘明（写真家）、下地恵子（元宮古大学メンバー）、金平茂  
紀（TBS「報道特集」キャスター）  
コーディネーター：仲里効（映像批評家）
- (5) アジア女性美術展関連シンポジウム
- 「沖縄から女性美術を考える 2－なぜ女性たちは織に向かったのか」…参加者：78 人
- ① 日 時：平成 23 年 10 月 15 日 10:00～17:00
- ② 会 場：講堂
- ③ 1 部：基調講演「戦争・沖縄・女性－表現の位相」  
講 師：豊見山愛（当館学芸員）  
コメンテーター：喜納育江（琉球大学教授）、平良次子（南風原文化センター学芸員）
- ④ 2 部：講演「インドの染織と女性」  
講 師：金谷美和（京都大学研究員）  
講演「フィリピンの織物に見る文化の模様」  
講 師：ノーマ・レスピシオ（フィリピン大学教授）
- ⑤ 3 部：ビデオトーク「恩師・大城志津子を語る」  
出演者：上原美智子（染織家）、新垣幸子（染織家）
- (6) 東松照明展関連シンポジウム……………参加者：196 人
- ① 日 時：平成 23 年 10 月 30 日 14:00～18:00
- ② 会 場：講堂
- ③ 1 部：対談「さびしさを思想化せよ」  
講 師：東松照明（写真家）、吉増剛造（詩人）
- ④ 2 部：パネルディスカッション  
パネリスト：石川直樹（写真家）、宮良信男（写真家）、根間智子（美術家）、今郁義（北谷町生涯学  
習プラザ館長）、タイラジュン（写真雑誌 LP 編集者）  
コーディネーター：新里義和（当館学芸員）
- (7) 森山大道展関連トークショー「森山大道まなざしの本質に迫る」……………参加者：146 人
- ① 日 時：平成 24 年 1 月 27 日（金）18:30～20:00
- ② 会 場：講堂

- ③ 講師：森山大道（写真家）
- ④ コーディネーター：新里義和（当館学芸員）
- (8) 玉那覇正吉展関連シンポジウム「玉那覇彫刻と沖縄の彫刻」……………参加者：74人
  - ① 日 時：平成24年2月12日（日）14:00～17:00
  - ② 会 場：講堂
  - ③ 1 部：基調講演「玉那覇正吉の造形論」  
講 師：西村貞雄（琉球大学名誉教授）
  - ④ 2 部：パネルディスカッション「玉那覇彫刻と沖縄の彫刻」  
講 師：西村貞雄（琉球大学名誉教授）、富元明雄（彫刻家）、小林純子（県芸大教授）、砂川泰彦（県芸大准教授）  
コーディネーター：仲里安広（当館学芸員）
- (9) 玉那覇正吉展関連シンポジウム「玉那覇正吉の芸術論」……………参加者：40人
  - ① 日 時：平成24年2月24日（金）18:00～20:00
  - ② 会 場：講堂
  - ③ パネルディスカッション  
講 師：西村貞雄（琉球大学名誉教授）、仲井間憲児（名桜大学非常勤講師）、稲嶺成祚（琉球大学名誉教授）、田村みどり（玉那覇正吉長女）  
コーディネーター：翁長直樹（美術評論家）

## 6. ワークショップ

- (1) 美術館夏休み子供ワークショップ2011「おもろまちを描こう」……参加者：22人
  - ①日 時：平成23年8月20日(土) 9:30～13:30
  - ②内 容：夏休み子ども向けの写生会
  - ③講 師：「旺玄会」会員
  - ④対 象：小学生（小3以下は保護者同伴）
  - ⑤場 所：屋外（博物館・美術館近隣）
- (2) 美術館夏休み子供ワークショップ2011「切り取る大地」……………参加者：3人
  - ①日 時：平成23年8月20日(土) 16:00～18:30
  - ②内 容：夏休み生徒向け写生会
  - ③講 師：佐藤大地（画家）
  - ④対 象：中学生
  - ⑤場 所：屋外（博物館・美術館近隣）
- (3) 美術館夏休み子供ワークショップ2011「丸から生まれるかたち」…参加者：24人
  - ①日 時：平成23年8月21日（日）14:00～16:30
  - ②内 容：粘土で焼き物の風鈴をつくる
  - ③講 師：香月礼（陶芸家）
  - ④対 象：小学生（親子同伴）
  - ⑤会 場：博物館実習室
- (4) 「東松照明デジタルワークショップ卒業生による写真教室」……………参加者：11人
  - ①日 時：平成23年8月27日、9月3日、10日、17日、18日 13:30～15:00
  - ②内 容：写真の基礎技法について学ぶ
  - ③講 師：東松照明ワークショップ卒業生（6名）
  - ④対 象：県内15～25歳までの写真が好きな方ならどなたでも
  - ⑤会 場：県民ギャラリースタジオ
  - ⑥備 考：制作された写真作品を県民ギャラリーで展示（9月27日（火）～10月2日（日））

- (5) 大人の実技講座「紅型に学ぶ」……………参加者：11人  
 ①日 時：平成23年9月10日、24日、10月8日、22日（土）10:30～12:00  
 ②内 容：紅型の技法を学ぶ  
 ③講 師：賀川理英（紅型作家）  
 ④対 象：一般  
 ⑤会 場：県民アトリエ
- (6) 大人の実技講座「絵を描くこと」……………参加者：10人  
 ①日 時：平成23年10月7日、21日、11月11日、25日（土）10:30～12:00  
 ②内 容：絵画の技法を学ぶ  
 ③講 師：眞栄田文子（画家）  
 ④対 象：一般  
 ⑤会 場：県民アトリエ
- (7) 大人の実技講座「彫刻」……………参加者：12人  
 ①日 時：平成24年1月14日、21日、2月4日、18日（土）10:30～12:00  
 ②内 容：彫刻の技法を学ぶ  
 ③講 師：堀園実（彫刻家）  
 ④対 象：一般  
 ⑤会 場：県民アトリエ

## 7. 図工・美術担当教職員講座

- (1) 上映会&トークショー……………参加者：42人  
 ①日 時：平成23年10月1日（土）13:30～17:00  
 ②会 場：講堂  
 ③内 容：ティーチヤーズ・キッドの紹介  
 「トントングゴギコ図工の時間」の上映会  
 映画監督、指導教諭のトーク  
 ④講 師：野中真理子（映画監督）、内野務（品川区立第三日野小学校教諭）

## 8. アウトリーチ（移動美術館）

- (1) 移動美術館……………参加者：59人  
 ①日 時：平成23年9月10日（土） 8:00～11:20  
 ②会 場：沖縄県立開邦高等学校  
 ③内 容：講演「美術と私 ～作家活動を通して～」、作品講評会  
 ④講 師：与那覇大智（画家）  
 ⑤対 象：芸術科美術コース3学年

## 9. 移動展

「移動展 in 宮古島」……………入場者数：5,110人

- (1) 会 期：平成24年2月3日(金)～5日(日) 3日間  
 (2) 会 場：宮古島市（宮古島市中央公民館）  
 (3) 内 容：沖縄を代表する画家、名渡山愛順や大嶺政寛、安谷屋正義、大城皓也らの油彩画と、儀間比呂志の版画、宮古島出身の画家、下地明増、下地寛清の油彩画。また、宮古島を撮影した岡本太郎や東松照明作品等を展示した。

(4) 関連事項：会期中県立宮古高等学校の美術部員が監視ボランティアとして協力を行った。

## 10. 美術館監視ボランティア／鑑賞ボランティア対象事前展示説明会

コレクション展オープン前に、展示担当学芸員による展覧概要及び作家・作品の紹介を行う。

回	月日	曜	時間	内 容	担 当	参加者
1	5月21日	土	16:00	「東京美術学校で学んだ県人ー平田善吉展」	瑞慶山 昇	18
				「ニシムイ以降の美術家たち」	仲里 安広	18
				「サイト・シーイング 沖縄美術をめぐる旅～島嶼と異化」	豊見山 愛	18
2	9月8日	木	18:00	「池袋モンパルナスの画家ー佐田勝」	大城 直也	23
				大和コレクションⅢ「日本の若手アーティスト展」	豊見山 愛	23
				「サイト・シーイング 沖縄美術をめぐる旅～島嶼と異化」	豊見山 愛	23
3	9月21日	水	18:00	「東松照明と沖縄 太陽へのラブレター」	新里 義和	24
4	1月9日	月	18:00	「沖縄近代彫刻の礎 玉那覇正吉ー彫刻と絵画の軌跡」	仲里 安広	45
5	1月20日	金	18:00	「津野力男写真展」	大城 仁美	45
				大和コレクションⅣ「森山大道 何かへの旅」	新里 義和	45
				「サイト・シーイング 沖縄美術をめぐる旅～島嶼と異化」	豊見山 愛	45

## 11. 研修対応

### (1)学芸員実習

①期 間：平成23年8月15日（月）～8月26日（金）10日間（土、日を除く）

②参加者：7名（沖縄県立芸術大学、京都造形芸術大学、東京工芸大学、九州産業大学）

③内 容：保存保管環境、展示方法、絵画、彫刻、写真等作品の取り扱いに関する美術館学芸員業務全般

### (2)教職10年研修

①期 間：平成23年7月27日（水）～29日（金）3日間

②参加者：1名（県立中部商業高等学校 美術科教諭）

③内 容：鑑賞学習指導における美術館資料の活用等

## IV. 資料収集・保存管理

### 1. 収蔵作品現在高

2012年3月31日現在

分類	購入	寄贈	移管	寄託	総計
平面	663	6114	9	1030	7816
立体	25	85	0	14	124
映像	20	4	0	0	24
その他	14	6	0	63	83
総計	722	6209	9	1107	8047

### 2. 2011（平成23）年度 新収蔵作品高

2012年3月31日現在

分類	購入	寄贈	移管	寄託	総計
平面	9	4053	0	711	4773
立体	0	0	0	0	0
映像	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	11	11
総計	9	4053	0	722	4784

### 3. 2011（平成23）年度 新収蔵作品目録

【購入】

2011年4月1日～2012年3月31日

分類	作家名	作品名	制作年	素材・技法	数量
平面 絵画	藤田 嗣治	沖縄の墓 (英名: Okinawan Burial Caves)	1938年	キャンバス、油彩	1
	北川 民次	海洋丸ニテ	1938年	ボード(厚紙)、油彩	1
	安谷屋正義	自画像	1949年	キャンバス、油彩	1
	安谷屋正義	首里風景(Ⅰ)	1951年	ボード、油彩	1
	安谷屋正義	孤影	1958年	キャンバス、油彩	1
	安谷屋正義	街の灯	1961年	キャンバス、油彩	1
	安谷屋正義	鳥	1966年	キャンバス、油彩	1
	安谷屋正義	街(A)	1967年	キャンバス、油彩	1
	安次嶺金正	那覇の市場	1950年	油彩、キャンバス	1

【寄贈】

2011年4月1日～2012年3月31日

分類	作家名	作品名	制作年	素材・技法	数量	寄贈者
平面 版画	北川 民次	第二集 『牛』	1936年	木版画	1	中山 真一
	北川 民次	第二集 『家族』	1937年頃	木版画	1	中山 真一
	北川 民次	第三集 『メキシコの女』	1937年頃	セルロイド凸版	1	中山 真一
	北川 民次	第二集 『自画像』	1942年	木版画	1	中山 真一
	北川 民次	第二集 『EXLibris T.Kitagawa』	1942年頃	木版画	1	中山 真一

分類	作家名	作品名	制作年	素材・技法	数量	寄贈者		
平面	版画	北川 民次	第二集 『EXLibris サトウ』	1943年頃	木版画	1	中山 真一	
		北川 民次	第二集 『拳をあげる男』	1947年	木版画	1	中山 真一	
		北川 民次	第三集 『教育者』	1947年	木版画	1	中山 真一	
		北川 民次	第三集 『メキシコの男』	1948年	木版画	1	中山 真一	
		北川 民次	第二集 『蛇を握る女』	1951年	木版画	1	中山 真一	
		北川 民次	第三集 『犬』	1957年	木版画	1	中山 真一	
		棟方 志功	青天抄版画柵磯鷺の柵	1955年	紙、墨	1	古波蔵徳子	
	絵画	平面	和田 香苗	南洋風景 (仮称)	1935年	キャンバス、油彩	1	和田 鷹男
			和田 香苗	島民の娘 (ポナペ島)	1935年	キャンバス、油彩	1	和田 鷹男
			和田 香苗	ポナペの娘	1935年	キャンバス、油彩	1	和田 鷹男
			和田 香苗	パラオ・コロールにて (アバイ・集会所)	1935年	キャンバス、油彩	1	和田 鷹男
			和田 香苗	リイフ打つ波Ⅰ (テニアン)	1935年	キャンバス、油彩	1	和田 鷹男
			和田 香苗	リイフ打つ波Ⅱ (テニアン)	1935年	キャンバス、油彩	1	和田 鷹男
			和田 香苗	リイフ打つ波Ⅲ (テニアン) (仮称)	1935年	キャンバス、油彩	1	和田 鷹男
			和田 香苗	タガ族遺跡 (テニアン)	1935年	キャンバス、油彩	1	和田 鷹男
			和田 香苗	編物をする女性 (仮称)	1946年	キャンバス、油彩	1	和田 鷹男
			和田 香苗	ソファーにもたれる女性 (仮称)	1947年	キャンバス、油彩	1	和田 鷹男
			和田 香苗	沖縄風景Ⅰ (仮称)	1950-70年代	キャンバス、油彩	1	和田 鷹男
			和田 香苗	男性の横顔	1950-70年代	板 (杉)、油彩	1	和田 鷹男
			和田 香苗	ソファーに座る女性 (仮称)	1954年	キャンバス、油彩	1	和田 鷹男
			和田 香苗	横たわる裸婦 (仮称)	1956年	キャンバス、油彩	1	和田 鷹男
			和田 香苗	沖縄風景Ⅱ (仮称)	1967年	キャンバス、油彩	1	和田 鷹男
			和田 香苗	八重山宮良殿内	1967年	キャンバス、油彩	1	和田 鷹男
			和田 香苗	沖縄風景Ⅲ (仮称)	1967年か	キャンバス、油彩	1	和田 鷹男
			和田 香苗	沖縄風景Ⅳ (仮称)	1967年か	キャンバス、油彩	1	和田 鷹男
			和田 香苗	沖縄風景Ⅴ (仮称)	1967年か	キャンバス、油彩	1	和田 鷹男
			當原 昌松	上多賀風景 (伊豆)	1930年代	キャンバス、油彩	1	當原 博子
			當原 昌松	横須賀練兵場に見える風景	1930年代	キャンバス、油彩	1	當原 博子
			當原 昌松	建築資材置場	1930年代	キャンバス、油彩	1	當原 博子
			當原 昌松	横須賀上町風景	1930年代	キャンバス、油彩	1	當原 博子
			當原 昌松	青年A	1930年代	キャンバス、油彩	1	當原 博子
			読谷山朝典	牧場 (仮題)	不明	キャンバス、油彩	1	読谷山日出子
			読谷山朝典	竹富島	不明	キャンバス、油彩	1	読谷山日出子
読谷山朝典	古城の跡 (中城)	不明	キャンバス、油彩	1	読谷山日出子			
読谷山朝典	まぶにの海	不明	キャンバス、油彩	1	読谷山日出子			
玉那覇正吉	タンクのある風景	1969年	ボード、油彩	1	仲井間憲児			
安谷屋正義	父	1948年	キャンバス、油彩	1	安谷屋正浩			
安谷屋正義	首里城趾を望む (首里高校に見える風景)	1949年	ボード、油彩	1	安谷屋正浩			

分類	作家名	作品名	制作年	素材・技法	数量	寄贈者
平面 絵画	安谷屋正義	節子像 (I)	1949年	ボード、油彩	1	安谷屋正浩
	安谷屋正義	木のある風景	1950年	キャンバス、油彩	1	安谷屋正浩
	安谷屋正義	玉那覇正吉氏像	1950年	キャンバス、油彩	1	安谷屋正浩
	安谷屋正義	かんな	1951年	キャンバス、油彩	1	安谷屋正浩
	安谷屋正義	父の像	1951年	キャンバス、油彩	1	安谷屋正浩
	安谷屋正義	母の像	1951年	キャンバス、油彩	1	安谷屋正浩
	安谷屋正義	海 (日の出の海)	1954年	ボード、油彩	1	安谷屋正浩
	安谷屋正義	陶器之静物	1954年	キャンバス、油彩	1	安谷屋正浩
	安谷屋正義	厨子甕 (赤) (裏書:「厨子甕」「赤い厨子甕」)	1954年	キャンバス、油彩	1	安谷屋正浩
	安谷屋正義	コンポジション (習作2)	1956年	キャンバス、油彩	1	安谷屋正浩
	安谷屋正義	鉄骨 (B)	1956年	キャンバス、油彩	1	安谷屋正浩
	安谷屋正義	復興	1957年	キャンバス、油彩	1	安谷屋正浩
	安谷屋正義	建設	1957年	キャンバス、油彩	1	安谷屋正浩
	安谷屋正義	ある空間習作 (I)	1958年	キャンバス、油彩	1	安谷屋正浩
	安谷屋正義	珊瑚礁の海	1959年	キャンバス、油彩	1	安谷屋正浩
	安谷屋正義	水影	1959年	キャンバス、油彩	1	安谷屋正浩
	安谷屋正義	橋頭	1959年	キャンバス、油彩	1	安谷屋正浩
	安谷屋正義	暁	1960年	キャンバス、油彩	1	安谷屋正浩
	安谷屋正義	航跡	1960年	キャンバス、油彩	1	安谷屋正浩
	安谷屋正義	春の海	1963年	キャンバス、油彩	1	安谷屋正浩
	安谷屋正義	出航 (眠れる港)	1963年	キャンバス、油彩	1	安谷屋正浩
	安谷屋正義	野	1964年	キャンバス、油彩	1	安谷屋正浩
	安谷屋正義	基地 (裏書に「野の塔」)	1964年	キャンバス、油彩	1	安谷屋正浩
	安谷屋正義	誘導路	1964年	キャンバス、油彩	1	安谷屋正浩
	安谷屋正義	港 (習作IV)	1966年	キャンバス、油彩	1	安谷屋正浩
	安谷屋正義	港 (習作II)	1966年	キャンバス、油彩	1	安谷屋正浩
	安谷屋正義	まち習作B	1966年	キャンバス、油彩	1	安谷屋正浩
	安谷屋正義	港 (習作I)	1966年	キャンバス、油彩	1	安谷屋正浩
	安谷屋正義	道	1966年	キャンバス、油彩	1	安谷屋正浩
	安谷屋正義	古習	1966年	キャンバス、油彩	1	安谷屋正浩
	安谷屋正義	基地 (習作)	1966年	キャンバス、油彩	1	安谷屋正浩
	安谷屋正義	壁の詩 (C)	1966年	キャンバス、油彩	1	安谷屋正浩
	安谷屋正義	基地の周辺	1966年	キャンバス、油彩	1	安谷屋正浩
	安谷屋正義	柵	1966年	キャンバス、油彩	1	安谷屋正浩
	安谷屋正義	古城	1966年	キャンバス、油彩	1	安谷屋正浩
	安谷屋正義	壁の詩A	1966年	キャンバス、油彩	1	安谷屋正浩
	安谷屋正義	町角	1966年	キャンバス、油彩	1	安谷屋正浩
	安谷屋正義	花 (カーネーション)	1967年	キャンバス、油彩	1	安谷屋正浩
	安谷屋正義	無想	1967年	キャンバス、油彩	1	安谷屋正浩
	安谷屋正義	街 (C)	1967年	キャンバス、油彩	1	安谷屋正浩
安谷屋正義	街 (B)	1967年	キャンバス、油彩	1	安谷屋正浩	
安谷屋正義	タイトル不明	不明	キャンバス、油彩	1	安谷屋正浩	

分類	作家名	作品名	制作年	素材・技法	数量	寄贈者	
平面	絵画	安谷屋正義	タイトル不明	不明	キャンバス、油彩	1	安谷屋正浩
		安谷屋正義	タイトル不明	不明	キャンバス、油彩	1	安谷屋正浩
		安谷屋正義	ジングルベルの頃	不明	キャンバス、油彩、クレヨン	1	安谷屋正浩
		安谷屋正義	五月の町	不明	キャンバス、油彩	1	安谷屋正浩
		安谷屋正義	エスキース 3839点			3839	安谷屋正浩
		棟方 志功	清江妙浄之景図	不明	紙、墨、水彩	1	古波蔵徳子
	写真	石川 直樹	「ARCHIPERAGO」シリーズ 渡名喜_i 005 ほか 21点	2009年	Type-C プリント エディション1/12	22	石川 直樹
		東松 照明	那覇市 2009 ほか 101点	2011年	デジタル・プリント (カラー)	102	東松 照明

【寄託】

2011年4月1日～2012年3月31日

分類	作家名	作品名	制作年	素材・技法	数量	所有者	
平面	絵画	大嶺 政寛	やんばる船	1943年	油彩、メソナイト	1	佐藤 和夫
		森山 大道	にっぽん劇場 ほか 709点	1966年/ 不明	ゼラチン・シルバー プリント	710	佐藤 辰美
その他	インスタレーション	Ryan Gander	Gallery Cover	2001-2007年	要電源 ※100V 投光器 16台	1	佐藤 辰美
		Ryan Gander	Where nothing exists but immeasurable possibilities - The Blue Screen	2004年	要電源 ※250V	1	佐藤 辰美
		Ryan Gander	Associative Photographs - 7,8,11 and 12.	2004年	パネル 4点	1	佐藤 辰美
		Ryan Gander	Cork Association Photograph E and P	2006年	パネル 2点	1	佐藤 辰美
		Ryan Gander	Associative Corkboard E and P	2006年	パネル 2点	1	佐藤 辰美
		Ryan Gander	Rietveld Reconstruction - Grace	2007年	インスタレーション	1	佐藤 辰美
		Ryan Gander	Errata tossed back to the horizon	2008年	インスタレーション	1	佐藤 辰美
		Ryan Gander	Somebody's playing me 1998 - 2008	2008年	インスタレーション	1	佐藤 辰美
		Ryan Gander	To communicate with the audience - (Alchemy Box #4)	2008年	インスタレーション	1	佐藤 辰美
		Ryan Gander	A portrait of the artist conceiving this title	2010年	インスタレーション	1	佐藤 辰美
Ryan Gander	A portrait of Mr Sato attempting to differentiate between Santo and Aston in the darkness	2010年	インスタレーション	1	佐藤 辰美		

## 4. 作品収集事業

本美術館は、県民に多様な芸術鑑賞の機会や創造性を高める場を提供し、地域の芸術文化の拠点となると同時に、芸術文化活動を通じて、アジア地域や沖縄の発展に貢献する国際化の拠点となることを目的としている。収集事業は、本県独自で個性あるコレクションを形成するために不可欠な事業である。

平成 23 年度は 1 回の収集委員会を開催し、展示活動の充実を図るため、購入 12 点、寄贈 4,076 点、寄託 726 点の収集方法で美術作品等の収集を諮った。作品の収集にあたっては事前調査を基に、美術館学芸員会議で一次審査を行い、二次審査で熟考した後に県内外の有識者で構成された収集委員会で審議し、所定の手続きを経て収集した。主な購入作品には、戦前に沖縄を訪れた画家・藤田嗣治が 1938 年に那覇で描いた、「沖縄の墓 (英名 : Okinawan Burial Caves)」が挙げられる。既収集の「孫」(1938 年作) とあわせて、小品ではあるが目玉作品のひとつとなる。寄贈作品には、昨年度の企画展・安谷屋正義の貴重なエスキースが収集された。

(豊見山 愛)

## 5. 保存管理事業

### (1) 保存環境の整備

年に 2 回の全館燻蒸、部分燻蒸を行い、毎月保存環境調査 (IPM モニタリング) を実施し、また毎週一度、展示室内、収蔵庫内の温度湿度管理を行っている。

### (2) 作品の保存修復

#### A) 収蔵作品修復

修復処置者：中井久代 (絵画修復家)

処置期間：2011 年 8 月 12 日～12 月 6 日

#### a) 玉那覇正吉 「二つの厨子甕」 (1955 年/油彩、キャンバス/905×1165mm)

～作品の状態～

画面全体に埃、汚れの付着。裏面全体に絵具厚塗りによるキャンバスの変形。キャンバス裏側に冠水の滲み跡が見られることから、それが原因によるうろこ状の絵具層の浮き上がりが画面両端、上下辺に生じていた。地塗層、絵画層の固着状態が悪い。木枠は手製であり、全体的に歪みが生じ、作品サイズの横幅に違いがあった。側面のタックス (釘) に錆が見られる。裏面全体、木枠、キャンバスと木枠の隙間に埃、汚れが付着していた。

～修復処置概要～

- ① 第一次剥落止め
- ② 木枠の取り外し、裏面清掃・殺菌
- ③ 変形修正
- ④ 第二次剥落止め
- ⑤ 画面洗浄
- ⑥ ストリップ・ライニング
- ⑦ ルース・ライニング
- ⑧ 木枠張り込み
- ⑨ 第一次ワニス塗布
- ⑩ 剥落箇所の充填・整形
- ⑪ 補彩色
- ⑫ 第二次ワニス塗布
- ⑬ ラベルの裏打ち

#### b) 玉那覇正吉 「世乞いの踊り」 (1968 年/油彩、キャンバス/1300×1620mm)

～作品の状態～

画面全体に埃、汚れの付着。黒い絵具部分に白い斑点 (カビ?) が見られた。仮縁が直接絵画層に当たり、画面周囲に額擦れが生じていた。地塗り層と絵具層間の固着状態が悪く、地塗り層からの剥落、絵具の浮き上がりが著しい。画面全体に亀裂が生じており、そこから多くの絵具の浮き上がりが見られる。また画面全体にワニス塗布されており、所々に塗り斑がみられ、わずかに変色 (黄変) している。キャンバスは絵具の厚塗りによる変形。側面のタックス (釘) の錆の影響でタックス周辺のキャンバスの繊維が脆くなり穴が大きくなっている。裏面全体、木枠、キャンバスと木枠の隙間に埃、汚れが付着していた。

～修復処置概要～

- ① 裏面清掃
- ② 剥落止め
- ③ 画面洗浄
- ④ ワニスの除去
- ⑤ 錆びたタックス (釘) の取り換え
- ⑥ 剥落箇所の充填・整形
- ⑦ ワニス塗布
- ⑧ 補彩
- ⑨ 裏面保護：裏板の取付

c) 玉那覇正吉 「ある風景」 (1968年/油彩、キャンバス/805×1165mm)

～作品の状態～

画面全体に埃、汚れの付着。地塗り層と絵具層間の固着状態が悪く、地塗り層からの剥落、絵具の膨らみ（絵具層が地塗り層から浮き上がり、中が空洞になっている状態）が画面全体に目立つ。絵具の膨らんだ部分が割れ、剥落が生じている箇所もある。画面全体に亀裂が生じ、亀裂部分を接着剤で固定した跡が数カ所見られた。画面中央下辺の剥落箇所に剥落片を接着剤で留めた跡があり、一部接着剤が額縁時付着し、画面の縁と額が固着している。キャンバスは絵具の厚塗りによる変形。側面のタックス（釘）に錆が見られる。裏面全体、木枠、キャンバスと木枠の隙間に埃、汚れが付着していた。

～修復処置概要～

- ①剥落止め ②画面洗浄 ③裏面清掃 ④剥落箇所の充填・整形 ⑤第一次ワニスの塗布 ⑥補彩  
⑦ワニス塗布 ⑧裏面保護：裏板の取付

B) 簡易洗浄作業

収蔵作品の修復、並びに企画展「沖縄近代彫刻の礎 玉那覇正吉展—彫刻と絵画の軌跡—」（会期：平成 23 年 1 月 19 日～3 月 11 日）の展示作品、油彩画 45 点に応急的な洗浄作業を行った。

処置者：仲村美奈子、我喜屋詩乃、國吉泉、下地千紘

処置期間：2011 年 8 月～12 月

玉那覇正吉

	作品名	寸法（縦×横 mm）	素材・技法	制作年
1	茶晶のある風景	379×455	キャンバス、油彩	1942 年
2	吉子像	909×652	キャンバス、油彩	1947 年
3	或る風景	900×1159	キャンバス、油彩	1957 年
4	作 品	725×996	キャンバス、油彩	1957 年
5	ある風景 A	632×760	キャンバス、油彩	1958 年
6	ある風景 B	530×800	キャンバス、油彩	1958 年
7	作 品 B	637×897	キャンバス、油彩	1958 年
8	破 船	656×1010	キャンバス、油彩	1958 年
9	破 船	608×910	キャンバス、油彩	1960 年
10	石灰焼く窯	655×910	キャンバス、油彩	1960 年
11	帆 影	650×937	キャンバス、油彩	1961 年
12	残 照	904×600	キャンバス、油彩	1962 年
13	坐 礁	915×730	キャンバス、油彩	1962 年
14	缸	727×1000	キャンバス、油彩	1963 年
15	ある墓のものがたり	1310×1943	キャンバス、油彩	1969 年
16	磴道のある風景	1457×1120	キャンバス、アクリル	1972 年
17	干瀉にて	1114×1447	キャンバス、アクリル	1973 年
18	陶房黄昏	730×1000	キャンバス、アクリル	1973 年
19	片降る雨	1305×1620	キャンバス、アクリル	1974 年
20	片降る日	1307×1935	キャンバス、アクリル	1974 年
21	海の見える陶房	72.7×100.0	キャンバス、アクリル	1974 年
22	荒れる日	1296×1607	キャンバス、アクリル	1975 年
23	鳥のいる浜	1120×1619	キャンバス、アクリル	1976 年
24	厨子のある風景	957×1608	キャンバス、アクリル	1977 年

	作品名	寸法(縦×横 mm)	素材・技法	制作年
25	白 夜	790×1158	キャンバス、アクリル	1977 年
26	厨子のある風景	1310×1620	キャンバス、アクリル	1977 年
27	灯のある風景	1120×1615	キャンバス、アクリル	1978 年
28	坐 礁	1303×970	キャンバス、アクリル	1978 年
29	厨子などのある風景	967×1615	キャンバス、アクリル	1979 年
30	厨子のある風景	1115×1618	キャンバス、アクリル	1979 年
31	紙銭をたく	1105×1605	キャンバス、アクリル	1980 年
32	よりあう日	830×1160	キャンバス、アクリル	1980 年
33	黄昏の仮泊	795×1288	キャンバス、アクリル	1980 年
34	カーチの頃	1115×1618	キャンバス、アクリル	1981 年
35	城 砦 A	510×710	キャンバス、アクリル	1981 年
36	城 砦 D	533×730	キャンバス、アクリル	1981 年
37	城砦のある風景	950×1605	キャンバス、アクリル	1982 年
38	習 作	500×771	キャンバス、アクリル	1982 年
39	人形のある風景	894×1303	キャンバス、アクリル	1982 年
40	ノートルダム	707×587	キャンバス、アクリル	1983 年
41	ノートルダム 2	713×590	キャンバス、アクリル	1983 年
42	海辺暮色	1121×1455	キャンバス、アクリル	1983 年
43	白夜にたつ	600×720	キャンバス、アクリル	1983 年
44	紙銭をたく	970×1294	キャンバス、アクリル	1983 年
45	絶筆 (未完成)	1126×1623	キャンバス、アクリル	1983 年

(3) 作品の状態調査

絵画保存修復：中井久代

平成 24 年 2 月 20 日～3 月 2 日

大城皓也・・・絵画 26 点

	作品名	寸法(縦×横 mm)	素材・技法	制作年
1	風景	730×1169	キャンバス、油彩	1967 年
2	(不明)	604×500	キャンバス、油彩	1955 年
3	(不明)	913×610	キャンバス、油彩	1966 年
4	窓の外	652×530	キャンバス、油彩	1971 年
5	入場式	997×655	キャンバス、油彩	1964 年
6	老樹	808×1002	キャンバス、油彩	不明
7	榕樹	606×730	キャンバス、油彩	1968 年
8	(不明)	608×732	キャンバス、油彩	1960 年
9	がじゅまる	912×610	キャンバス、油彩	1960 年
10	月桃咲く頃	653×530	キャンバス、油彩	1971 年
11	(不明)	653×532	キャンバス、油彩	不明
12	追憶の村	730×610	キャンバス、油彩	1971 年
13	(不明)	640×402	キャンバス、油彩	不明
14	パインナップル畑	533×607	キャンバス、油彩	不明
15	戦場へゆく	972×1303	キャンバス、油彩	1968 年

	作品名	寸法(縦×横 mm)	素材・技法	制作年
16	白百合咲く頃	892×710	キャンバス、油彩	1971年
17	梯梧咲く	455×380	キャンバス、油彩	1971年
18	(不明)	379×465	キャンバス、油彩	不明
19	(不明)	602×1328	キャンバス、油彩	不明
20	沖繩の子供たち	908×730	キャンバス、油彩	1968年
21	琉球船舶旗	1000×803	キャンバス、油彩	1968年
22	聖火到着	805×1003	キャンバス、油彩	1964年
23	(不明)	910×731	キャンバス、油彩	1965年
24	久高島の祝女	281×222	キャンバス、油彩	1967年
25	読書と静物	617×448	キャンバス、油彩	1952年
26	(不明)	221×274	キャンバス、油彩	1977年

#### (4) 作品の額装

館内コレクションギャラリーでの展示ならびに企画展覧会出品作品のマウント作成、および額を新調した。

平田善吉・・・水彩画、デッサン 22点：マウント作成（クリーム、大衣サイズ 394×509mm）

	作品名	窓寸法(縦×横 mm)	紙寸法(縦×横)	素材・技法	制作年
1	佐敷村風景(1)	235×340	250×352	紙、ペン、クレヨン	1949年以降
2	佐敷村風景(2)	235×340	250×352	紙、ペン、クレヨン	1949年以降
3	佐敷村風景(3)	235×340	250×352	紙、ペン、クレヨン	1949年以降
4	船のある風景	235×340	250×352	紙、ペン、クレヨン	1949年以降
5	風景(1)	235×338	250×352	紙、ペン、クレヨン	1949年以降
6	風景(2)	232×340	250×352	紙、ペン、クレヨン	1949年以降
7	風景(3)	235×340	250×352	紙、ペン	1949年以降
8	大宜味村のモクマオウ林	230×338	250×352	紙、ペン	1949年以降
9	庭のパナナ	338×230	352×250	紙、ペン	1949年以降
10	石垣と根（下絵）	230×336	250×352	紙、ペン	1949年以降
11	相撲（クロッキー1）	234×302	250×352	紙、ペン	1949年以降
12	相撲（クロッキー2）	234×302	250×352	紙、ペン	1949年以降
13	相撲（クロッキー3）	235×302	250×352	紙、ペン	1949年以降
14	相撲（クロッキー4）	234×302	250×352	紙、ペン	1949年以降
15	相撲（クロッキー5）	234×302	250×352	紙、ペン	1949年以降
16	屋比久公民館前のデイゴ （下絵1）	230×336	250×352	紙、ペン	1949年以降
17	屋比久公民館前のデイゴ （下絵2）	230×336	250×352	紙、ペン	1949年以降
18	風景(4)	235×336	250×352	紙、ペン	1949年以降
19	芭蕉	300×230	352×250	紙、ペン	1949年以降
20	田芋	230×338	250×352	紙、ペン	1949年以降
21	相撲（クロッキー6）	232×302	250×352	紙、ペン	1949年以降
22	サンニンの花	336×230	352×250	紙、ペン	1949年以降

## 平田善吉・・・油彩画 11 点：額装（木製）

	作品名	額寸法 (縦×横×幅 mm)	キャンバス寸法 (縦×横)	素材・技法	制作年
1	相撲(1)	398×484×50	242×330	キャンバスボード、油彩	1949年以降
2	相撲(2)	398×484×50	242×330	キャンバスボード、油彩	1949年以降
3	花 (3)	484×398×50	330×242	キャンバスボード、油彩	1949年以降
4	花 (5)	500×580×40	378×455	キャンバスボード、油彩	1949年以降
5	花 (6)	500×580×40	378×455	キャンバスボード、油彩	1949年以降
6	石垣と根	500×580×40	378×455	キャンバスボード、油彩	1949年以降
7	屋比久公民館前のデイゴ(1)	500×580×40	378×455	キャンバスボード、油彩	1949年以降
8	花 (4)	530×440×40	408×315	キャンバスボード、油彩	1949年以降
9	佐敷村の展望	606×680×40	452×527	キャンバスボード、油彩	1949年以降
10	屋比久公民館前のデイゴ(2)	590×714×48	530×650	キャンバス、油彩	1949年以降

## 和田香苗・・・油彩画 6 点：額装（木製）

	作品名	額寸法 (縦×横×幅 mm)	キャンバス寸法 (縦×横)	素材・技法	制作年
1	リイフ波打つ波Ⅱ (テニアン)	288×338×48	225×275	キャンバス、油彩	1935年
2	沖縄風景Ⅲ	384×477×48	320×414	キャンバス、油彩	不明
3	八重山宮良殿内	442×514×48	380×450	キャンバス、油彩	不明
4	ソファーにもたれる女性	856×716×48	805×655	キャンバス、油彩	不明
5	編物をする女性	974×792×48	910×730	キャンバス、油彩	不明
6	ソファーに座る女性	912×900×50	1005×803	キャンバス、油彩	不明

## 玉那覇正吉・・・油彩画 11 点：額装（木製、10のみアルミ額）

	作品名	額寸法 (縦×横×幅 mm)	キャンバス寸法 (縦×横)	素材・技法	制作年
1	二つの厨子甕	980×1250×50	906×1170	キャンバス、油彩	1955年
2	或る風景	952×1210×50	910×1168	キャンバス、油彩	1957年
3	破船	650×952×50	610×912	キャンバス、油彩	1960年
4	石灰焼く窯	700×950×50	659×914	キャンバス、油彩	1960年
5	ある風景	880×1240×50	805×1165	キャンバス、油彩	1968年
6	世乞いの踊り	1380×1698×50	1620×1300	キャンバス、油彩	1968年

	作 品 名	額寸法 (縦×横×幅 mm)	キャンバス寸法 (縦×横)	素材・技法	制作年
7	ある墓のものがたり	1383×2008×50	1310×1943	キャンバス、油彩	1969年
8	磴道のある風景	1530×1196×50	1458×1122	キャンバス、油彩	1972年
9	坐 礁	1348×1017×50	1306×975	キャンバス、油彩	1978年
10	よりあう日	815×1180×50	808×1173	キャンバス、油彩	1980年
11	白夜にたつ	652×772×50	610×730	キャンバス、油彩	1983年

玉那覇正吉・・・2点：マウント作成（クリーム）

	作品名	額寸法 (縦×横 mm)	キャンバス寸法 (縦×横)	素材・技法	制作年
1	みどり之像	612×453	726×567	紙、木炭	1952年
2	椿	555×478	753×680	キャンバス、油彩	1962年

下地明増・・・油彩画1点：額装（木製）

	作品名	額寸法 (縦×横 mm)	キャンバス寸法 (縦×横)	素材・技法	制作年
1	さとうきび	1385×1705×50	1308×1624	キャンバス、油彩	不明

## 6. 作品貸出

展覧会名 宮良瑛子個展  
 会場 那覇市民ギャラリー  
 貸出期間 2011年4月11日～4月18日

作家名	作品名	素材・技法	寸法（縦×横 mm）	制作年
宮良瑛子	レクイエム沖縄	キャンバス、油彩	2273×1818	1955年
宮良瑛子	いのち	キャンバス、油彩	1167×909	1982年
宮良瑛子	女たち	キャンバス、油彩	1303×970	1975年
宮良瑛子	埋め立て	キャンバス、油彩	348×272	2005年
宮良瑛子	白 保	キャンバス、油彩	348×272	2005年

貸出先 (株)りゅうせき本社  
 貸出期間 2011年12月1日～2012年11月31日

作家名	作品名	素材・技法	寸法（縦×横 mm）	制作年
新垣正一	収 穫	キャンバス、油彩	1210×951	1992年

\* 寄託作品

# 文化の杜共同企業体 (指定管理者)

- I 文化の杜共同企業体概要
- II 運営方針
- III 組織
- IV 文化の杜共同企業体・美術館  
企画アドバイザー会議
- V 展示活動
- VI 教育・イベント活動
- VII 広報・交流事業
- VIII 調査・研究等の活動
- IX その他

## I. 文化の杜共同企業体概要

沖縄県立博物館・美術館の管理・運営には、開館した2007年(平成19年)11月1日から指定管理者の文化の杜共同企業体(代表・平良知二、通称「文化の杜」)があたっている。

文化の杜共同企業体は、(株)沖縄文化の杜(代表取締役社長・平良知二)、(株)沖縄タイムス社(代表取締役社長・豊平良孝)、(株)国際ビル産業(代表取締役社長・井上宏)の3社で構成。出資比率は代表者の(株)沖縄文化の杜が8割、(株)沖縄タイムス社と(株)国際ビル産業がそれぞれ1割となっている。(株)沖縄文化の杜は文化事業等を企画・展開し、シンクタンク的な役割も兼ねる会社として2007年1月に(株)沖縄タイムス社の100%出資で設立した。(株)沖縄タイムス社は新聞社として1948年7月の創立。常に県民の立場に立って沖縄の言論界をリードしつつ、戦後沖縄の文化振興の一翼を担ってきた。(株)国際ビル産業は1966年に設立され、県内の文化施設やホテル、病院等の管理を行い、衛生・設備管理や警備などで実績がある。

この3社が連携して立ち上げた文化の杜共同企業体は、それぞれの得意分野を生かし、沖縄県立博物館・美術館の管理・運営にあたっている。指定管理の期間は、第一期が2007年11月1日から2011年3月31日までの3年5か月。第二期が2011年4月1日から2016年3月31日までの5年間。

## II. 運営方針

館の管理・運営にあたっては沖縄県立博物館・美術館の設置目的及び基本方針、管理規則等に基づき、博物館・美術館という複合施設としての利点を生かし、県民はもとより国内外からの来館者に満足していただくよう、公正・公平で開かれた館運営に努めている。

日本博物館協会は21世紀にふさわしい博物館の新しい理念として「対話と連携」を提唱し、これを管理・運営の中心に据えることが博物館の機能を向上させ、生涯学習時代の要請に応じていく道であるとしている。文化の杜においてもこのような精神に基づき、「県民主体」をモットーに、いつでも、誰でも気軽に利用できる施設を目指している。さらに県民が愛着の持てる、県民による県民のための博物館・美術館を目指している。

具体的には①沖縄の文化振興の拠点とする②創造力あふれる次世代人材育成の場とする③アジアとの交流・連携、国際交流の拠点とする④「沖縄ワールド」を世界に広げる場とする⑤県民ぐるみの取り組み推進—の管理運営方針を掲げてきた(下記参照)。

2011年度は沖縄県立博物館・美術館の第二期目の指定管理者として新たなスタートの年だった。過去の実績と蓄積したノウハウを存分に発揮し、県の博物館班や美術館班と緊密に連携し、文化の杜共同企業体が美術館企画ギャラリーで主催する年3つの企画展と、博物館班や美術館班が主催する企画展や特別展、沖縄県主催の沖縄県芸術文化祭等をスムーズに展開・運営する方針で臨み、成功を収めた。

### 沖縄の文化振興の拠点施設とする

沖縄県の芸術文化に関する最先端の情報が集積する場であり、その機能を最大限に生かして県内外に発信するとともに、県民が自らの歴史・文化に自信と誇りを持ち、学べる文化振興の拠点とする。

### 創造力あふれる次世代人材育成の場とする

新しい時代に向けた芸術・文化を担う人材育成に努める。IT関連によるCGデザインや音楽、建築、アーバンデザイン等の空間芸術も含め、全国的、世界的にも注目されるアーティストなどを輩出する場とする。

### アジアとの交流・連携、国際交流の拠点とする

沖縄は歴史的・文化的にアジア諸国との接点が多く、観光振興の面からもその利点を生かした交流・連携が求められる。各地で「世界のウチナーンチュ」が活躍している。2011年10月の「世界ウチナーンチュ大会」では、博物館・美術館も展示会、常設展の無料観覧などで交流の一翼を担った。こうしたウチナーンチュとのネットワークもさらに広げる。

### 「沖縄ワールド」を世界に広げる場とする

沖縄の独自性、固有性を大事にしなが、同時に世界の歴史・文化に高い関心を寄せる県民と歩調を合わせ、その期待に応えられる企画やイベントを展開する。「特異性から普遍性へ」「地域性から世界性へ」と昇華していく目と技を磨く場とする。

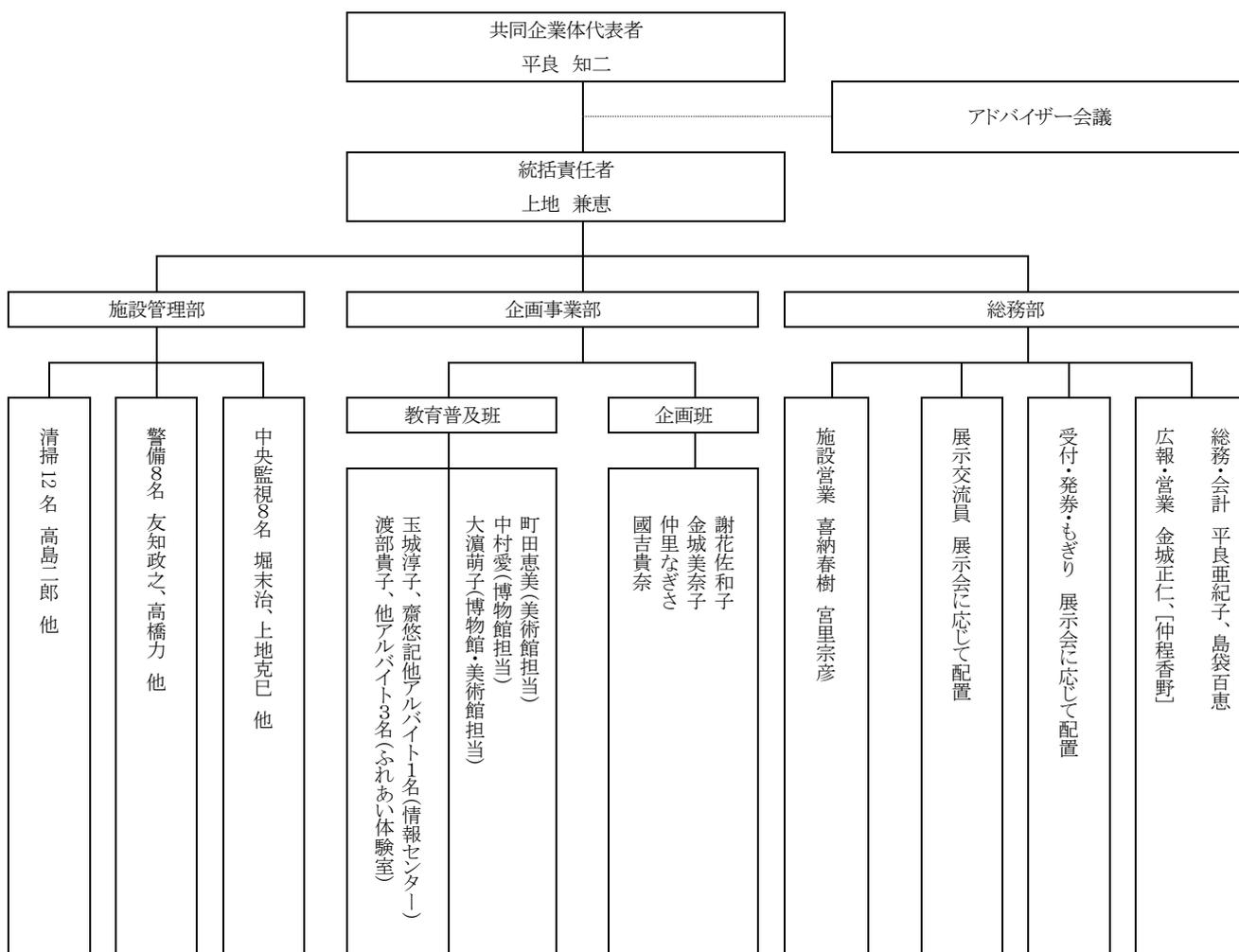
## 県民ぐるみの取り組み推進

博物館・美術館の「教育普及事業」などを通して、県の学芸員とも協力して各種の講座、講演会、ワークショップなどを数多く開催し、県民のための博物館・美術館とする。また、展示会や出前講座などで積極的に館外にも飛出し、野外学習、フィールドワークなどを通して県民と館との結びつきを強め、次代を担う人材育成にも貢献する。

## III. 組織

文化の杜共同企業体は、代表を平良知二、現場責任者を上地兼恵とし、総務部、企画事業部（企画班、教育普及班で構成）、施設管理部（設備班、警備班、美装班で構成）で構成された体制のもと、当館を管理・運営している。

2007年の開館当初より、外部有識者による助言・意見交換の場としてアドバイザー会議を設置し、主に当企業体による美術企画展などの助言を受ける機会を月1回程度開催している。



※ミュージアムショップ「ゆいむい」(沖縄文化の杜運営:池宮城啓子、玉城照美、アルバイト5人)

※ミュージアムカフェ「茶花」(カフェワゴンオアエイトへ業務委託)

## 【職員構成】

2011年4月1日現在

班	氏名	担当業務
代表	平良 知二	共同企業体の統括に関する事
統括	上地 兼恵	指定管理業務の統括、総務全般、県や博物館・美術館との現場調整に関する事
総務班	平良 亜紀子	共同企業体予算管理、人事管理(発券、総合案内、展示交流員等)に関する事
	仲程 香野	総務全般、企画受注事業等担当に関する事
	島袋 百恵	総務補助、クーポン券やその他総務全般に関する事
	金城 正仁	営業、広報に関する事
	喜納 春樹	企画、施設貸出に関する事
	宮里 宗彦	施設管理、県民ギャラリーに関する事
教育普及班	中村 愛	教育普及(博物館業務)に関する事、展示交流員等のアルバイトスタッフの研修、勤務管理に関する事
	町田 恵美	教育普及(美術館業務)に関する事
	大瀧 萌子	教育普及業務の補助
	玉城 淳子	情報センターの管理・運営に関する事
	齋 悠記	情報センター業務
	渡部 貴子	ふれあい体験室、教育普及に関する事
企画事業班	謝花 佐和子	企画展、受託業務、自主事業に関する事
	金城 美奈子	企画展、受託業務、自主事業に関する事
	仲里 なぎさ	企画展、受託業務、自主事業に関する事
	國吉 貴奈	企画展、受託業務、自主事業に関する事
施設管理班	堀 末治	施設管理全般の統括に関する事
	友知 政行	警備の統括に関する事
	上地 克己	設備の統括に関する事
	高島 二郎	清掃の統括に関する事
総合案内・発券・もぎり		来館者に対する諸対応、発券業務、観覧券のもぎりに関する事
展示交流員		展示室における監視業務、誘導、解説等に関する事
ふれあい体験室		ふれあい体験室での来館者諸対応に関する事

## 【人事異動】

2012年3月31日現在

部署	氏名	適用
転入 なし 転出 施設管理 退職 教育普及	宮里 正人 齋 悠記	国際ビル産業(2012年3月31日) 2012年3月31日付

## IV. 文化の杜共同企業体・美術館企画アドバイザー会議

指定管理者による3つの美術館企画展とその関連事業などについての助言や意見交換の場として、外部有識者による会議を月1回開催した。昨年度からのアドバイザーに今年度も引き続き就任を依頼、またオブザーバーとして、美術館副館長にも出席を依頼した。文化の杜共同企業体からは、代表、統括、企画班員が出席した。2011年度のアドバイザー及び開催状況は、次の通りである。

文化の杜共同企業体 美術館企画アドバイザー名簿 (2011年4月1日～2012年3月31日)

	氏名	所属	職名
学識経験者	安里 進	沖縄県立芸術大学	教授
美術館運営者	大田 和人	キャンプタルガニー	主宰

美術館学芸員	岡本 亜紀	浦添市美術館	学芸員
学識経験者	田中 睦治	沖縄県立芸術大学	教授
学識経験者	西村 貞雄	琉球大学	名誉教授
オブザーバー	瑞慶山 昇	沖縄県立博物館・美術館	副館長兼班長

#### 開催状況

回	日時	場所	出席者
44	4月20日(水) 18:00～19:45	特別会議室	安里進、大田和人、岡本亜紀、田中睦治、西村貞雄
45	5月18日(水) 18:00～19:30	特別会議室	安里進、大田和人、岡本亜紀、田中睦治、西村貞雄、白保台一(館長挨拶)、瑞慶山昇
46	6月23日(木) 18:00～19:40	特別会議室	安里進、大田和人、岡本亜紀、田中睦治、西村貞雄
47	7月20日(水) 18:00～20:00	特別会議室	大田和人、岡本亜紀、田中睦治、西村貞雄
48	8月24日(水) 18:00～20:00	特別会議室	安里進、大田和人、岡本亜紀、田中睦治、西村貞雄
49	9月29日(木) 18:00～20:00	特別会議室	大田和人、岡本亜紀、田中睦治、西村貞雄
50	10月19日(水) 18:00～20:00	特別会議室	安里進、大田和人、岡本亜紀、田中睦治、西村貞雄
51	11月16日(水) 18:00～20:00	特別会議室	安里進、大田和人、岡本亜紀、田中睦治、西村貞雄
52	12月14日(水) 18:00～20:00	特別会議室	安里進、大田和人、岡本亜紀、田中睦治、西村貞雄
53	1月19日(木) 18:00～20:00	特別会議室	安里進、大田和人、岡本亜紀、西村貞雄
54	2月16日(木) 18:00～19:30	特別会議室	安里進、大田和人、岡本亜紀、田中睦治、西村貞雄
55	3月15日(木) 18:00～20:00	特別会議室	大田和人、岡本亜紀、田中睦治、西村貞雄

## V. 展示活動

### 1. 展示活動概要 (美術館企画展)

文化の杜共同企業体の指定管理者 2 期目は、年間 3 本の美術館企画展を実施した。今期は、開館当初より要望が多く期待されていた「西洋美術」や、沖縄の物故作家、さらに縁のある作家など、美術愛好家に加え、美術館への関心を高めるよう多様な趣向を反映した展覧会を開催することができた。

4 月から 5 月までは、県外での評価の高い陶芸家國吉清尚回顧展、5 月から 6 月は、生誕 100 年記念展として岡本太郎を取り上げ、また 7 月から 9 月は県外美術館との連携による巡回展として「印象派の誕生」、各展覧会を開催した。

3 展覧会の観覧者数は 62,928 人で、展覧会予算は 45,055,015 円となった。

#### (1) 「國吉清尚—土と炎に生きた魂の軌跡」

会 期：2011 年 4 月 19 日 (火) ～5 月 22 日 (日) (開催日数 30 日)

場 所：美術館企画ギャラリー 1・2

観 覧 料：一般 800 円 高校生・大学生 500 円 小学生・中学生 300 円

観覧者数：5,244 人 (1 日平均 174.8 人)

予 算 額：7,170,501 円

担当学芸員：謝花佐和子、仲里なぎさ

### 【開催趣旨】

時代や系譜を超越し、独自の作風を確立した陶芸家 國吉清尚（1943～1999）。没後 12 年を迎える 2011 年、國吉と親交のあった県内関係者等の協力による大規模回顧展を開催する。

高校時代に空手や古陶蒐集を始め、1963 年頃から壺屋で修業、1966 年に大学進学する一方、益子での約 2 年間の修業後に帰沖し、読谷で作陶を続けた。國吉清尚の作品は、沖縄の陶芸が「民芸」の視点で語られる一方で、それらを超越し独自の世界を創り出した。沖縄の伝統的な工芸を基本とし、その心を大切にしながら、人に向き合い、人を引き付けた、國吉清尚の生きざまを昇華した作品—酒器、器、華器、オブジェから、國吉が表現してきた世界を概観する展覧会を開催する。

### 【開催形式】

- 主 催：文化の杜共同企業体／沖縄県立博物館・美術館  
協 力：佐喜眞美術館、那覇市立壺屋焼物博物館、読谷村立美術館  
特別協力：國吉清尚展実行委員会  
後 援：沖縄タイムス社／琉球放送(株)／琉球朝日放送(株)／  
沖縄テレビ放送(株)／NHK 沖縄放送局／沖縄ケーブルネットワーク(株)／(株)ラジオ沖縄／(株)エフエム沖縄



展示会場

### 【展示内容】

陶磁器作品 264 点、椅子、茶杓のほか、関係資料を展示した。また、展示デザインは國吉の生前に親交があった彫刻家の能勢孝二郎氏と能勢裕子氏によるもので、これまでにない空間構成、展示方法となった。展示室内には作品キャプションを配さず、観覧者には展示作品情報を表記した会場見取り図を配布した。

### 【関連催事】

#### 1) ギャラリートーク

- 日 時：4 月 19 日（火）10：30～11：00  
場 所：企画ギャラリー内  
講 師：能勢孝二郎（本展展示デザイン、彫刻家）  
参 加 者：約 100 人



ギャラリートーク

#### 2) ギャラリートーク

- 日 時：4 月 29 日（金・祝日）14：00～15：00  
場 所：企画ギャラリー内  
講 師：大見謝恒慈路（作家関係者）、比嘉正詔（実行委員会、作家関係者）  
参 加 者：65 人

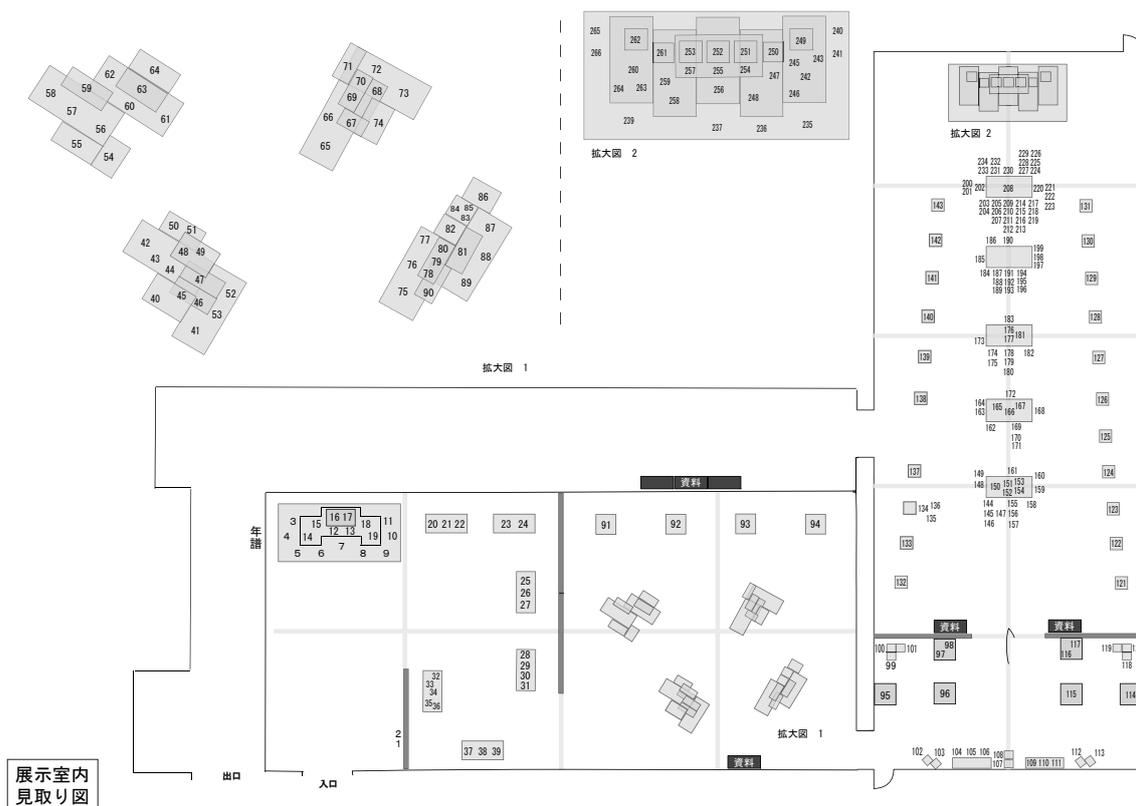
#### 3) シンポジウム

- 日 時：5 月 7 日（土）14：00～16：00  
場 所：講堂、博物館講座室（第 2 会場、会場中継）  
参 加 者：約 250 人  
内 容：第一部 基調講演「國吉清尚に会うというコト」  
講 師：丹尾安典（早稲田大学文化構想学部 教授）  
第二部 クロストーク「表現者としての國吉清尚と私」  
出 演：能勢裕子（彫刻家）、真喜志好一（建築家）、仲松昌次（映像ディレクター）、  
クレイトン・雨宮（陶芸家）、翁長直樹（美術批評家）

第一部では、2006 年に初めて國吉の回顧展を企画した早稲田大学の丹尾安典教授が、國吉の作品との出会いから展覧会開催にいたるまでの経緯とエピソードを話した。

第二部では、「表現者としての國吉清尚と私」をテーマに、國吉と関わりのあった彫刻家、建築家、映像ディレクター、陶芸家がエピソードを交え、國吉から影響を受けたこと、影響を受けなかったことを、それぞれの立場で話した。

【展示平面図】



(謝花 佐和子、仲里 なぎさ)

(2) 生誕 100 年記念展「岡本太郎と沖縄—ここが世界の中心だ」

会 期：2011 年 5 月 31 日 (火) ～6 月 26 日 (日) (開催日数 24 日)

場 所：美術館企画ギャラリー1・2

観 覧 料：一般 1,000 円、高校・大学生 700 円、小・中学生 400 円

観覧者数：14,817 人(1 日平均 617 人)

予 算 額：13,986,973 円

担当学芸員：金城美奈子

【開催形式】

主 催：文化の杜共同企業体／沖縄県立博物館・美術館

共 催：沖縄タイムス社

協 賛：大同火災海上保険株式会社／沖縄食糧株式会社／沖縄三和シャッター株式会社／沖縄高速印刷株式会社／株式会社国建／株式会社エアー沖縄／琉球ガラス村グループ

企画協力：川崎市岡本太郎美術館

特別協力：岡本太郎記念館

【開催趣旨】

当展覧会は、岡本太郎の生誕 100 年を記念して企画した。岡本太郎が初めて沖縄を訪れた 1959 年前後の芸術活動に焦点をあて、沖縄と関連づけた展示を行った。日本を代表する芸術家・岡本太郎がとらえた沖縄の姿や、沖縄に向けて発せられたメッセージを、今日に生きる私たちが改めて向き合う機会とした。

## 【展示内容】

岡本太郎撮影による沖縄の写真、「芸術風土記」の写真、60年代の油彩、ドローイング、版画、立体、陶器オブジェ、沖縄取材ノートなど約180点を展示。二科会を通じて親交のあった沖縄の画家・大城皓也の油彩画や1966年の久高島・イザイホー取材に同行した写真家・山田実氏の証言映像など、沖縄の関係者から浮かび上がる太郎像も紹介した。また会場出口には、展覧会の感想や岡本太郎へのメッセージを張り付けることができるメッセージボード「TAROの樹」を設置した。

## 【関連催事】

### 1) ギャラリートーク

日 時：5月31日（火）10：30～11：10

場 所：企画ギャラリー内

講 師：村田慶之輔氏（川崎市岡本太郎美術館館長）

参加者：50人

内 容：川崎市岡本太郎美術館館長・村田慶之輔氏によるギャラリートーク。岡本太郎の人柄や生き様、その芸術について作品を見ながら解説を行った。

### 2) シンポジウム「いま問う！岡本太郎と沖縄」

日 時：6月2日（木）18：00～21：00

場 所：講堂

内 容：第一部 基調講演「岡本太郎と沖縄」

講 師：赤坂憲雄氏（学習院大学教授）

第二部 パネルディスカッション

コーディネーター：崎山律子氏（フリージャーナリスト）

パネリスト：赤坂憲雄氏（学習院大学教授）、

仲里効氏（映像批評家）、本浜秀彦氏（沖縄キリスト教学院大学准教授）



シンポジウム

第一部の基調講演では、岡本太郎に関する著書もある赤坂憲雄氏が、民俗学者の視点で独自に沖縄と岡本太郎との関わりについて紹介した。第二部では、フリージャーナリストの崎山律子氏をコーディネーターに、沖縄側のパネリストを交え、岡本太郎と沖縄の関係について議論した。

参加者：206人

### 3) ワークショップ「太陽をつくろう」

日 時：6月5日（日）

場 所：県民子供アトリエ

講 師：宜保朝子氏（画家）

材 料 費：500円

内 容：岡本太郎の代表作「太陽の塔」を、空きビンや紙粘土を使いオリジナルの「太陽の塔」を造形するワークショップ。

参加組数：11組（小学校低学年以下の親子）

### 4) 講演会「Be TARO～岡本太郎という生き方～」

日 時：6月11日（土）14：00～15：30

場 所：講堂

講 師：平野暁臣氏（岡本太郎記念館館長）

内 容：岡本太郎記念美術館館長・平野暁臣氏が、没後も様々に絶大なインパクトを与え続ける岡本太郎の魅力について講演した。

参加者：184人



TARO ナイト！

5) TARO ナイト！～音楽とコンテンポラリーダンスの共演

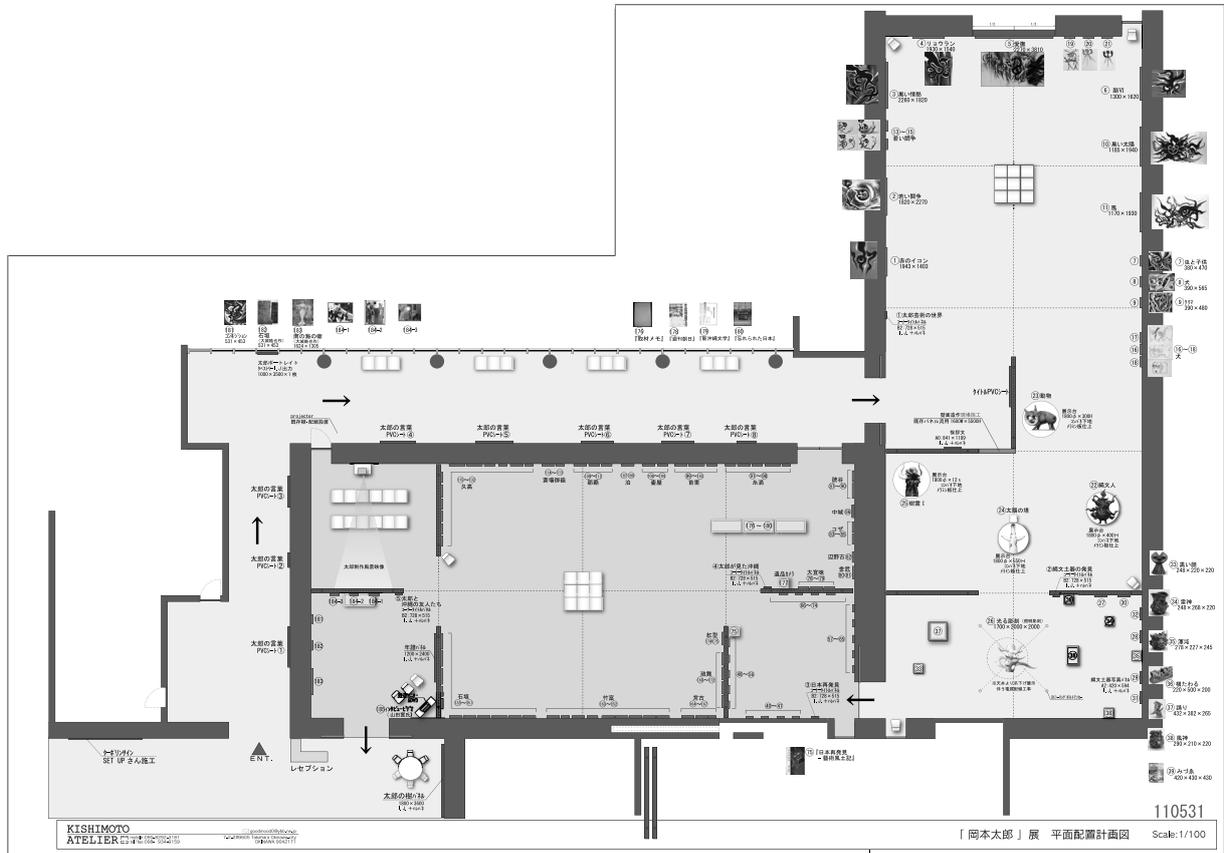
日 時：6月25日(土) 18:30～19:10

場 所：企画ギャラリー内(屋外展示場側通路)

出 演：little chops サックスこはもと正、ベース高尾英樹、YUKIMI バレエ・コンテンポラ・スクエア  
知花幸美、いと、ちなつ

参加者：178人

【展示平面図】



(金城 美奈子)

(3) 「印象派の誕生—フランス 19 世紀絵画の流れ」

会 期：2011年7月28日(木)～9月11日(日)(開催日数42日)

※8月4日、5日は台風のため臨時休館。8月22日、9月5日が特別開館

場 所：沖縄県立博物館・美術館企画ギャラリー1・2

観 覧 料：一般1,200円、高校生・大学生800円、小学生・中学生600円

観覧者数：42,867人(一日平均約1,021人)

予 算 額：23,897,541円

【開催趣旨】

輝く色彩によって田園風景や都市の生活を描き、高い人気を誇る印象派。その印象派はどのように生まれたのだろうか。本展では「印象派の誕生」に焦点をあて、歴史性や物語性を重んじたサロン絵画から、農民の姿や風景を主題としたバルビゾン派を経て、光あふれる情景を描くにいたった印象派までの流れを見る展覧会とした。またナビ派やフォーヴィスムなど印象派以降にあらわれた絵画も紹介し、来場者には現代美術へとつながる道すじを感じてもらうことを目的とした。ドラクロワ、コロー、ミレー、クールベ、モネ、ルノワール、ゴッホ、ローランサンなど46作家、78点の作品で構成した。

【開催形式】

主 催：文化の杜共同企業体／沖縄県立博物館・美術館

特別協力：沖縄テレビ放送

企 画：ホワイトインターナショナル  
 協 賛：ファミリーマート／エールクリエイト株式会社／沖縄ゼネラル／オリオンビール  
 小口協賛：福山商事(株)／ザ・テラスホテルズ(株)／(株)旭堂／(株)イズム／(有)ハイウェイ沖縄／(株)普久原楽器／  
 (株)スカイ企画／(株)東洋設備／沖縄ビル・メンテナンス(株)／國和第一ハイヤー(株)／特別養護老人ホ  
 ーム大名／(株)琉球総合保険サポート／(株)クリード沖縄／富士ツーリスト／(株)国建／街クリーン(株)  
 ／(株)琉球リース／(株)エスエルアイ／(有)池宮商事／沖縄ワシントンホテル／(有)プロサウンドスタッ  
 ク／(有)新舞台／(有)沖縄ピーアール商会  
 後 援：フランス大使館／沖縄県／那覇市／那覇市教育委員会／沖縄観光コンベンションビューロー／  
 沖縄タイムス社／琉球新報社／NHK 沖縄放送局／エフエム沖縄／ラジオ沖縄／週刊レキオ／タイ  
 ムス住宅新聞社／沖縄フランス協会

## 【展示内容】

近代化が進む 19 世紀フランスで印象派はどのように誕生し、どのようにモダンアートへ展開していったかをフランス、アメリカ、そして国内から借用した 78 点の作品で説明する展示とした。こうした主旨のもと、作品は時系列で展示された。

序章では 19 世紀に認められていたアカデミー絵画、1 章ではそうした因習的な絵画に反旗を翻したバルビゾン派の絵画、第 3 章ではそれを受けてより革新的な表現を試みた印象派の絵画、そして第 4 章では印象派の成果をもとにモダンアートへと発展した絵画を紹介した。国内外の印象派の秀作が展覧できたことはもちろん、国内ではめったに見ることのできないアカデミー絵画の数々を展示できたことは、来場者により機会を提供できた。

## 【関連催事】

- 1) 講演会「印象派の誕生—変容する〈自然〉」  
 日 時：8 月 7 日（日）14:00～15:30  
 場 所：講堂  
 講 師：浅野春男（沖縄県立芸術大学）  
 内 容：沖縄県立芸術大学教授浅野春男氏が、印象派の自然観について講演した。  
 参 加 者：93 人（当日先着、定員 200 人）



講演会

- 2) 第 1 回ギャラリートーク  
 日 時：8 月 12 日（金）18:30～19:30  
 （※ 8 月 5 日から変更）  
 場 所：企画ギャラリー内  
 講 師：國吉貴奈（担当学芸員）  
 内 容：担当学芸員による展示解説会。  
 参 加 者：約 10 人（当日先着、定員なし）



エントランスコンサート

- 3) 第 2 回ギャラリートーク  
 日 時：8 月 19 日（金）18:30～19:30  
 場 所：企画ギャラリー内  
 講 師：浅野春男（沖縄県立芸術大学）  
 内 容：沖縄県立芸術大学教授浅野春男氏による展示解説会。  
 参 加 者：約 30 人（当日先着、定員なし）

- 4) 第 1 回エントランスコンサート  
 日 時：8 月 20 日（土）15:00～15:30  
 場 所：エントランス  
 内 容：宇佐美俊剛准教授ほか県立芸術大学有志のみなさんによるトロンボーンの五重奏。  
 参 加 者：約 60 人（当日先着、定員なし）

5) 第2回エントランスコンサート

日時：9月3日(土) 13:30~14:00

場所：エントランス

内容：キーボードとクラリネットによるクラシックおよびポピュラー音楽の演奏。

参加者：約50人(当日先着、定員なし)

6) 第3回エントランスコンサート

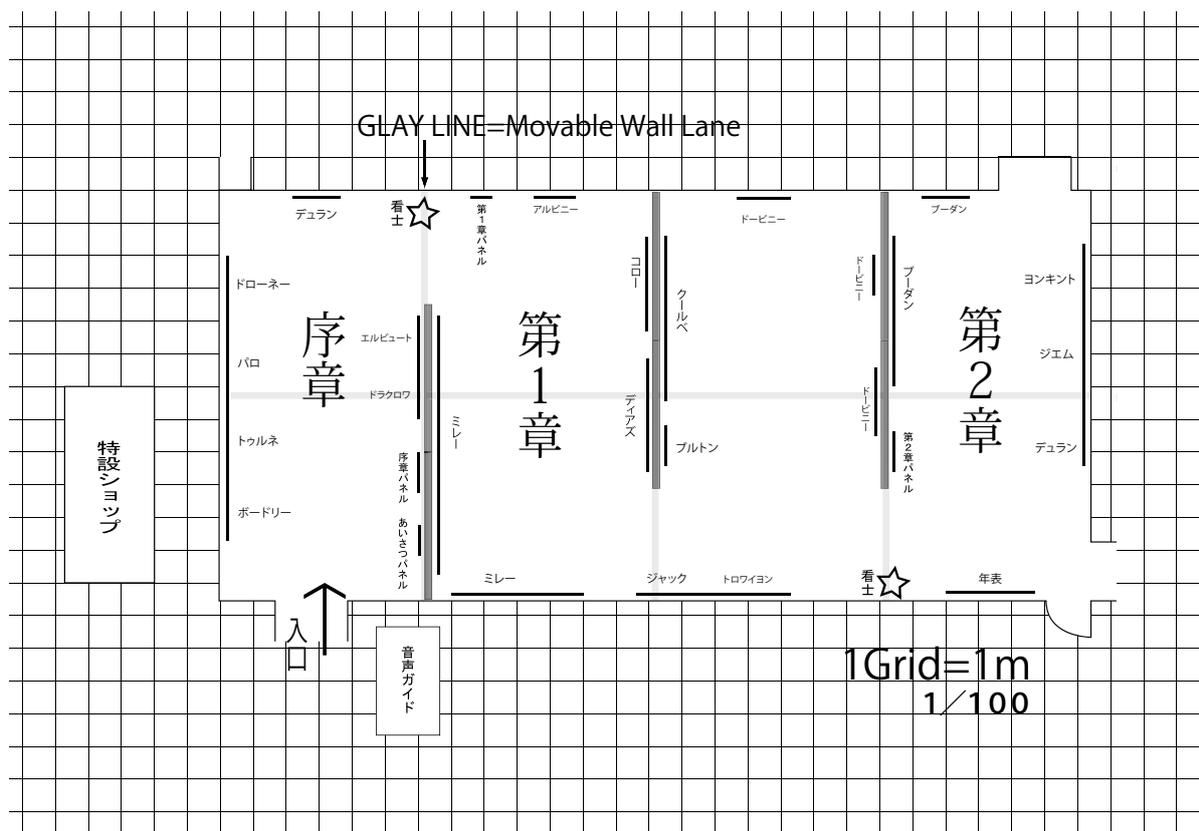
日時：9月7日(水) 14:30~15:00

場所：エントランス

内容：弦楽四重奏によるクラシック演奏。

参加者：約100人(当日先着、定員なし)

【展示平面図】



(國吉 貴奈)

## VI. 教育・イベント活動

### 1. ワークショップ・観察会等

文化の杜共同企業体の教育普及担当の企画立案により、博物館、美術館各班企画の教育普及事業を踏まえ、来館者の多様なニーズを勘案し、多彩な催事を実施した。

#### 1) ふれあい体験室ワークショップ「ぼく、わたしのてづくりおもちゃ」

アダン葉細工を3ヶ月毎に種類を変え、カラフルな画用紙で制作した。参加者は、年間を通し全4種のワークショップに出席し、参加の証明であるシールを集めることができたなら「てづくりおもちゃの達人」に認定される。達人には、認定証と、作り方が集録された「達人ブック」が贈られた。

- 4・5・6月 「金魚と風車」(開催日数13日/参加者数138人)  
 7・8・9月 「カエル」(開催日数11日/参加者数190人)  
 10・11・12月 「ほしっころ」(開催日数13日/参加者数148人)  
 1・2・3月 「はぶぐわー」(開催日数13日/参加者数196人)  
 ※「てづくりおもちゃの達人」認定者は30人

実施日：毎週土曜日 1日4回実施 10:00、10:30、11:00、11:30  
 場所：ふれあい体験室前エントランスホール  
 参加者：672人(開催日数50日、各日先着40人)  
 講師：渡部貴子・ふれあい体験室スタッフ(屋良、新川、安慶名、平良)  
 参加費：100円

■出張開催ふれあい体験室ワークショップ「ぼく、わたしのでづくりおもちゃ」

毎週土曜日に定期開催しているふれあい体験室ワークショップ。浦添市子育て支援拠点事業「つどいのひろば」(ルーブル保育園内)へ出張開催し、0~4才の親子を対象に「風車、金魚、ほしっころ」をカラフルな色画用紙で作成した。当館へ訪れたことのない親子にも広く普及を図り、ふれあい体験室の活動をPRした。

実施日：10月28日(金) 10:30~11:30  
 場所：ルーブル保育園(浦添市港川2-21-1)  
 講師：渡部貴子(文化の杜共同企業体)  
 対象：浦添市子育て支援拠点事業「つどいのひろば」に参加する0~4才児親子(計11組)  
 参加費：1組につき100円



2) 身体表現ワークショップ

パフォーマンスグループ「ダムタイプ」に参加し、ダンサー・パフォーマーとして活躍する川口隆夫さんを迎え「カラダとカラダのコンタクト」と題したワークショップを開催。人との距離感について、身体と心のバランスについて考えながら、カラダを解放し相手を受け止めるという体験を通じ、参加者同士が打ち解けていく様子がみえた。

実施日：4月15日(金) 18:30~21:00  
 場所：県民子供アトリエ  
 講師：川口隆夫(ダンサー・パフォーマー)  
 参加者：16人(事前申込、定員14人)

3) 東日本大震災のための義援金募金箱設置(平成23年度から本年度にまたがる活動)

3月11日に発生した東日本大震災による被災地支援のため、チャリティーワークショップの開催および募金箱の設置を行った。多くの来館者や館内スタッフの協力を得て、集まった義援金は日本赤十字社へ寄付した(「日本赤十字社東北関東大震災義援金」へ2011年5月6日付郵便局那覇新都心店に振り込んだ)。

・チャリティーワークショップ

期間：2011年3月19日(土)~3月21日(月) 場所：1F エントランスホール  
 内容：「かんたんレプリカ作り」、「chiri(チリ)でちぎり絵」

- ・募金箱設置(期間：2011年3月16日(水)~4月30日(土)) 場所：1F 発券窓口
- ・募金集計：78,313円(チャリティーワークショップ3日間52,078円、募金箱26,235円)

4) 草のこと教室

ゴールデンウィーク企画として、館周辺に咲くふだんは通り過ぎてしまうような草花(雑草)について散策しながら名前の由来など説明し、実際に草花を摘み花瓶ではない身近なモノに飾るワークショップを行った。草花に対する知識だけでなく、雑草や廃材を使用することでモノの見方が変わるきっかけとした。

実施日：5月1日(水) 10:00~12:30



場 所：館周辺屋外  
講 師：かわしまよう子（花作家）  
参 加 者：16人（事前申込、定員15人）

5) ワークショップ「もうすぐユッカヌヒー！豊永さんの琉球張子に絵付けしよう」

ゴールデンウィークの催事として、旧暦5月4日のユッカヌヒーに因み、こどもの健やかな成長と立身出世を願って、琉球張子制作について講話後、絵付け前の鯉乗り童子（小）に絵付けをした。博物館常設展示室に展示中の張子をご覧いただけるよう、参加特典として2割引チケットを販売した。

実 施 日：5月3日（火祝） 14：00～16：00  
場 所：屋外展示場民家  
講 師：豊永盛人（琉球張子作家）  
参 加 者：35人（先着35人）  
参 加 費：1,000円

6) 馬ぐわーをつくる！

ゴールデンウィークを利用し、ふれあい体験室のワークショップで好評を得た「馬ぐわー作り」を開催した。今回は、白色画用紙を用いて、完成後に色鉛筆で自由に色塗りをし、オリジナルの馬ぐわーに仕上げた。県内外の子ども達・保護者に郷土玩具の普及と、ふれあい体験室のワークショップ「ぼく、わたしのおもちゃ」の周知をはかることができた。

実 施 日：5月5日（木）  
場 所：エントランスホール  
講 師：大濱萌子、町田恵美（文化の杜共同企業体）  
参 加 者：10人（先着50人）  
参 加 費：100円

7) エントランスコンサート

県内出身で現在東京を拠点に活動中のフルート奏者の西仲美咲氏が阿嘉島の子どもたちとつくった曲「aka is.funky」を披露した。入場無料で共有エリアのエントランスで開催したこともあり、子供から年配の方まで幅広い層に楽しんでもらえた。当日は沖縄タイムスの取材を受けた。

実 施 日：7月31日（日）11：30～12：10  
場 所：エントランスコンサート  
出 演：西仲美咲（フルート）、知念嘉哉（ギター）、  
ジェフ蔵方（ベース）、和丸（カホーン）  
参 加 者：49人（定員なし）



8) 夏休み企画「博物館を調査せよ」

昨年度に引き続き実施した夏休み企画。対象とした小学生だけでなく、大人のグループが取り組む姿が見られた上、展示交流員からも「お客様の見学の手引きになる」と好評だったため、今年度も実施した。夏休みの宿題を目当てに来館する親子連れをターゲットに、博物館学習ノート「うちなー探検」を活用し、博物館常設展の更なる理解を深めることを目的とする。博物館常設展入口にコーナーを設置。参加を促すパネルと調査する際の注意事項もあわせて掲示した。問題内容については、博物館の長所である「資料」を観察してもらうことをねらいとした。

実 施 日：8月1日（日）～9月11日（日）  
※開館時間内いつでも  
企画・作成：中村愛（文化の杜共同企業体）  
対 象：どなたでも  
配布枚数：5,500枚（全7種）



9) チュンジー教室

沖縄の伝統将棋である「チュンジー」を普及することを目的に開催。チュンジーに親しんでいた祖父母の世代

と子どもとの交流の場になることも期待し、チュンジー普及会と実施した。文化の杜は、事前広報、写真記録等を担った。

実施日：11月19日（土） ①14:00～15:30 ②15:30～17:00

場所：エントランスホール

講師：仲村 颯（沖縄県立芸術大学附属研究所研究員、チュンジー普及会代表）

参加者：①12人（内小学生5人）②5人（内小学生3人）

参加費：無料

#### 10) お正月工作教室「トコとこ歩く辰のおもちゃづくり」

辰の干支をモチーフに、電気やバネを使わず、仕掛けでトコとこ坂道を歩く木製のおもちゃづくり。参加者は10個の木製パーツをボンドとやすりを用いて組み立てていき、絵付けをする。

実施日：1月3日（火） 1日4回実施 10:00、11:00、14:00、15:00

場所：正面玄関前

企画者：渡部貴子（文化の杜共同企業体）

講師：上運天研成（おもちゃの会ピノキオ会長）、おもちゃの会ピノキオのみなさん

参加者：121人（定員120人）

参加費：300円

#### 11) お正月工作教室「はつゆめ凧をつくろう」

八重山地方に伝わる「木の葉凧」をポリエチレンで作成。その後、各々の「初夢」を描き、オリジナル凧に仕上げた。

実施日：1月2日（月） 1日3回実施 11:00、13:30、14:15

場所：エントランス

講師：大瀨萌子（文化の杜共同企業体）

参加者：31人（定員45人）

#### 12) 龍展

8人の博物館学芸員が、博物館常設展示室内において、新年の干支にちなみ「龍」に関する資料を紹介。解説文（400～600文字程度）を展示した。新年の干支である「龍」を取り上げることにより、違った視点で展示を楽しんでもらうことを目的とした。案内マップを片手に、いつもはあまり注目されない展示をじっくり観察する来館者の姿を見ることができた。

開催期間：1月1日（日）～29日（日）

場所：博物館常設展示室

企画者：中村愛（文化の杜共同企業体）

協力者：博物館班学芸員

配布マップ：1,000枚

解説内容：

- ・竜佩形装飾／片桐 千亜紀
- ・聞得大君御殿雲龍黄金簪／早瀬 千明
- ・首里城正殿の龍柱／岸本 弘人
- ・ヤンバルクイナ・シロハラクイナの骨格標本の「竜骨突起」／田中 聡
- ・恐竜／仲里 健
- ・「龍と招福」展／園原 謙
- ・金茶地龍瑞雲模様繡珍衣裳／與那嶺 一子
- ・ティンゲー（天蓋てんがい）／岸本 敬

#### 13) 「新春の舞」

昨年に続き、沖縄県立芸術大学芸能専攻学生有志の皆さんによる新春の舞を下記の日程で開催した。若い学生の皆さんの演舞に会場からも多くの歓声があり、年々来場者も増えている。観覧無料。

実施日：1月1日（土）14：00～14：40  
場 所：エントランス  
出 演：沖縄県立芸術大学芸術専攻学生有志の皆さん  
参加者：102人

（中村 愛、町田 恵美、渡部 貴子、大濱 萌子）

## 2. 展示会

博物・美術関係者さらに一般県民などに当館への関心を高め、誘客促進を図るため、展示事業を自主的に実施した。「国際博物館の日」に連動した「展覧会図録展」、「慰霊の日」に企画している写真展「定点慰霊の日」の実施など今年度も継続して取り組んだ。また今年度から「展覧会のできるまで・・・」と題し、展覧会準備に取り組む作業風景などを画像展示し、なかなか見ることのできない学芸業務について情報発信を行った。

### 1) 展覧会図録展

会 期：5月10日（火）～5月29日（日）  
場 所：情報センター内  
観 覧 料：無料

【開催形式】 主催：文化の杜共同企業体

【開催趣旨】

国際博物館の日に関連し、情報センターにて過去の展覧会図録コーナーを設置した。

琉球政府立博物館、沖縄県立博物館、現在の沖縄県立博物館・美術館の展示会図録、約130冊を年代順に並べ、過去の資料を閲覧できるようにした。

【展示内容】 資料数：約130冊



（玉城 淳子）

### 2) 写真展「定点慰霊の日」

会 期：6月17日（金）～6月26日（日）  
場 所：情報センター内  
観 覧 料：無料

【開催形式】

主 催：文化の杜共同企業体

写真協力：沖縄タイムス社

【開催趣旨】

「慰霊の日」は、1961年に琉球立法院により制定され、1972年の施政権返還後の沖縄県になってから、県条例により1974年10月に制定されました。今年で制定50年を迎える。

「慰霊の日」は、この土地で何代も生活してきた者にとって、家族から、そして学校などで語り伝えられた「人々の記憶」、「土地の歴史」そして「平和とは何か」について考える定点を示す。「慰霊の日」に記録された写真から、今日のこの日の記憶を未来へ伝える契機とする。

【展示内容】

沖縄タイムス所蔵写真49点（各年の「慰霊の日」の様子が撮影された写真）



観覧後、保育園の先生が園児たちに読み聞かせをしている様子

（謝花 佐和子）

### 3) 「展覧会のできるまで・・・」

会 期：1月11日（水）～3月11日（日）  
場 所：情報センター内  
観 覧 料：無料

【開催形式】 主催：文化の杜共同企業体

【開催趣旨】

玉那覇正吉展の展覧会が出来上がるまでの様子を、デジタルフォトフレームで放映し、普段見ることのできない、展覧会の裏側を関連図書と



一緒に設置した。

【展示内容】

デジタルフォトフレームと展覧会関連書籍などを設置した。

(玉城 淳子)

### 3. しまくとぅばプロジェクト

しまくとぅばの価値や重要性を認識し、活性化と可能性を広げる目的で開館年の 2007 年に発足した「しまくとぅばプロジェクト」。2011 年度は、沖縄県の文化芸術振興・産業創出支援事業の助成を受け、シンポジウムをはじめ、連続講座、上映会、ライブと多彩な企画を実施した。遠方からの講師も招き、これまで以上に充実した内容でしまくとぅばに関する催事を行った。

#### 1) 連続講座「しまくとぅばを知る」第 1 回～12 回

日 時：2011 年 4 月 12 日 (日)、5 月 14 日 (土)、6 月 17 日 (日)、7 月 17 日 (日)、8 月 20 日 (土)、9 月 3 日 (土)、10 月 9 日 (日)、11 月 20 日 (日)、12 月 11 日 (日)、2012 年 1 月 15 日 (日)、2 月 12 日 (日)、3 月 11 日 (日)

時 間：14:00～15:50

場 所：博物館講座室、美術館講座室、博物館実習室

講 師：狩俣 繁久 (琉球大学) [1、4、7、10 回担当]  
仲原 穰 (大学非常勤講師) [2、5、9、11 回担当]  
西岡 敏 (沖縄国際大学) [3、6、8、12 回担当]

参加費：300 円

総参加者：236 人 (事前申込制、定員なし)

内 容：月に 1 回の連続講座。3 人の専門家がローテーションを組んで、しまくとぅばの入門講座を行った。



講座「しまくとぅばを知る」  
の講義の様子

#### 2) 座談会・上映会「しまくとぅばで語る 6.23」

日 時：6 月 23 日 14:30～17:30

場 所：博物館講座室

資料代：500 円

参加者：109 人 (当時先着、定員なし)

出演者：比嘉豊光 (写真家)、新垣安雄 (美術家)、高良勉 (詩人)、知念ウシ (むぬかちゃー)

内 容：慰霊の日にあわせ、しまくとぅばで沖縄戦を語るの意味について映像上映と座談会で考えた。

#### 3) シンポジウム「しまくとぅばで歌うこと、伝えること」

日 時：9 月 18 日 13:00～17:00

場 所：講堂

助 成：文化芸術振興・産業創出支援事業

参加費：300 円 (第 1 部のみ)

参加者：86 人 (当日先着、定員 200 人)

出演者：「第 1 部」仲原穰 (大学非常勤講師)、西岡敏 (沖縄国際大学)、大城貴幸 (島うた奏者)、  
かりまたしげひさ (琉球大学)

「第 2 部」宮里朝光、国吉朝政、楚南光子 (沖縄語普及協議会)

内 容：「しまくとぅばの日」に合わせ沖縄語普及協議会と共同でシンポジウムを開催した。しまくとぅばプロジェクトが担当した第 1 部では「しまくとぅばで歌うこと」をテーマに討論した。第 2 部は普及協議会が担当し、学校での沖縄語の普及活動について報告があった。

プログラム：第 1 部シンポジウム「しまくとぅばを歌う」

報告発表・シンポジウム

かりまたしげひさ「JPOPをウチナーグチで—替え歌・翻訳から作詞・創作へ」  
西岡敏『しまうた』のしまくとぅばの表現」  
大城貴幸「新しい『しまうた』を求めて」  
コーディネーター：仲原穰  
第2部「しまくとぅばを教える」（主催：沖縄語普及協議会）  
講 演：宮里朝光  
対 談：国吉朝政、楚南光子

4) シンポジウム「世界に広がる琉球芸能文化」

日 時：10月18日 18:00～21:00

場 所：講堂

助 成：文化芸術振興・産業創出支援事業

参加費：500円

参加者：43人（当日先着、定員200人）

パネリスト：かりまたしげひさ（琉球大学）、村田グラント定彌“サンダー”（安富祖流絃聲会師範）、  
大城學（琉球大学）、石原昌英（琉球大学）、金城宏之（琉球大学）

内 容：10月に開催された世界のウチナーンチュ大会に合わせ、海外で継承されるしまくとぅば、および  
琉球芸能文化について考えるシンポジウムを開催した。琉球大学の研究者の調査報告のほか、ハ  
ワイの県系2世をゲストに迎え、琉球文化、しまくとぅばの普及について意見交換した。

プログラム：報告発表・シンポジウム

村田グラント定彌“サンダー”「ハワイにおける琉球芸能文化情報」

大城學「沖縄から発信する琉球芸能文化情報」

石原昌英「ハワイ・アメリカにおけるウチナーグチの継承」

金城宏幸「ウチナーグチの継承を考える：海外のいくつかの事例から」

コーディネーター：かりまたしげひさ

5) 「とぅばら一ま夜会」

日 時：11月12日 19:00～21:00

場 所：美術館屋外展示場

助 成：文化芸術振興・産業創出支援事業

料 金：一般1,000円、高校生・大学生500円、中学生以下無料

観 覧 者：219人（当日先着、定員なし）

出 演 者：嘉手刈希生、伊藤幸太、豊平美奈子、内間悦子、前栗蔵秀夫、前花啓允、比屋根孝子、宮良康生  
司 会：花城智子（FMいしがきサンサンラジオ）

内 容：過去のとぅばら一ま大会で優勝または準優勝したアマチュア6人に加え、プロの歌手2人を招  
き、八重山民謡・とぅばら一まを謡ってもらった。

出店業者：みどりのそば

6) シンポジウム・上映会「大神島から見る小さなシマの文化とことば」

日 時：12月10日 14:00～17:00

場 所：講堂

参加費：500円

参加者：139人（当日先着、定員200人）

助 成：文化芸術振興・産業創出支援事業

出 演 者：比嘉豊光（写真家）、狩俣繁久（琉球大学）、  
大城肇（琉球大学）、赤嶺政信（琉球大学）、  
下地恵子（「の一がらやー」メンバー）

内 容：大神島を中心に据え、小さな共同体の文化とことば  
の保存と継承の問題を考えた。前半で上映し、後半  
で5人のパネリストによる意見交換を行った。



シンポ・上映会「大神島から見る小さなシマの文化とことば」の会場

7) 「八・八・八・六に思いをのせよう—琉歌をつくろう」

日 時：1月21日、2月18日 14:00～16:00 場所：博物館実習室  
講 師：名嘉真恵美子（沖縄タイムス短歌時評担当、沖縄文学賞審査員、識名園歌会学生の部選者）  
受 講 料：300円

総参加者：34人

助 成：文化芸術振興・産業創出支援事業

内 容：琉歌初心者のために、1月、2月連続で講座を開講した。琉歌の基本的なことを学ぶ講義のあと、実際に創作を行った。

8) 「宮里先生にならうウチナーグチ講座」

日 時：3月4日 14:00～16:00  
場 所：屋外展示場民家  
講 師：宮里朝光（沖縄語普及協議会）

テキスト代：100円

参加者：50人（当日先着、定員なし）

助 成：文化芸術振興・産業創出支援事業

内 容：家に関するウチナーグチについて、宮里朝光氏が約1時間半にわたって講じた。博物館屋外に展示されている民家を教材とした。



「宮里先生にならうウチナーグチ講座」の様子

9) 2011年度しまくとぅばプロジェクト活動報告および琉歌教室作品展示

日 時：3月22日～4月3日（月曜休館）  
9:00～18:00（金・土は20:00まで）

場 所：情報センター

内 容：2011年度に行われたしまくとぅばプロジェクトの企画について、A4サイズのパネル12枚にまとめ展示した。また、1月と2月に行われた琉歌教室で創作された受講生の琉歌30点も同時に展示した。



「池間・宮古方言教室」の様子

10) しまくとぅば連続講座「池間・宮古方言教室」

しまくとぅばプロジェクトの一講座が独立し、連続講座となった方言教室。池間島および宮古島の古謡を日本、琉球の古文書から読みとき、方言の言葉の由来について、ひいては池間・宮古の伝統文化について考えている。夏期、秋期、冬期と年に3期開講し、それぞれ6講座ずつ実施した。

① 「池間・宮古方言教室 夏期」

日 時：5月8日、5月22日、6月12日、6月26日、  
7月10日、7月24日（いずれも日曜日）14:00～16:00

場 所：博物館講座室、美術館講座室

講 師：仲間博之

（加計学園参与沖縄支局長・元宮古高校校長）

受 講 料：1,000円

参加者総数：110人（事前申込制、定員なし）



② 「池間・宮古方言教室 秋期」

日 時：9月11日、9月25日、10月9日、10月23日、11月13日、11月27日  
（いずれも日曜日）14:00～16:00

場 所：博物館講座室

講 師：仲間博之（加計学園参与沖縄支局長・元宮古高校校長）

受 講 料：1,000円

参加者総数：45人（事前申込制、定員なし）

③「池間・宮古方言教室 冬期」

日 時：1月15日、1月29日、2月12日、2月26日、3月11日、3月25日  
（いずれも日曜日）14:00～16:00

場 所：美術館講座室

講 師：仲間博之（加計学園参与沖縄支局長・元宮古高校校長）

受 講 料：1,000円

参加者総数：60人（事前申込制、定員なし）

（國吉 貴奈）

## 4. その他

### 1) 玉城流いずみ会 琉球芸能公演「尚寧王と袋中上人再見」

目 的：博物館企画展の多様な観覧者層への誘客を促進するため、展覧会と連動した催事を実施することによりマスコミへの露出を促すことを目的とする。

日 時：2012年1月29日（日） 15:00～17:00

場 所：講堂

入 場 料：2,500円 ※博物館企画展「琉球と袋中上人展」（会期1月25日～2月19日）観覧券付

主 催：玉城流いずみ会 共催：文化の杜共同企業体

内 容：琉球国王尚寧と袋中上人の縁を題材とした新作組踊の上演

- ・琉球舞踊「若衆入子躍」「しよんだう」
- ・講話「尚寧王と袋中上人について」（上里隆史氏）
- ・新作組踊「修羅の縁 - 尚寧王と袋中上人再見 - 」

参 加 者：200人

（謝花 佐和子）

## VII. 広報・交流事業活動

### 1. 広報事業

広報に関する業務として、当館の展覧会や事業・活動を県民や観光客に広くアピールしながら、博物館・美術館活動への理解を深めてもらうとともに一層の集客を図った。

当館で開催される展示会と関連イベント、教育普及事業、講演会、県民ギャラリー等の催しについては前年度同様、「県立博物館・美術館 週間展示会・イベント情報」を作成し、県内の主な新聞社（沖縄タイムス社、琉球新報社）やテレビ局（NHK沖縄放送局、琉球放送、琉球朝日放送、沖縄テレビ、沖縄ケーブルネットワーク）、ラジオ局（琉球放送RBCiラジオ、NHK沖縄放送局、ラジオ沖縄、FM沖縄、FMレキオ、タイフーンfm）にFAXやメールでデータを送信し、県民への情報の告知や取材をお願いした。

さらに、当館主催の講座や講演会、展覧会に連動するシンポジウムやアーティストトーク、催しの告知・募集についても、募集期間前あるいは開催前にその都度、新聞社、テレビ局、ラジオ局、雑誌社、イベント情報誌等に原稿や資料を送信し、掲載や取材・報道を要請した。県民ギャラリーの利用者や当館で展示会を予定している関係者には、県内マスコミを訪問して展示会をアピールするようアドバイスした。

沖縄タイムス紙面には朝刊情報面に「県立博物館・美術館催し」のコーナーを設けて、当日の情報を発信している（休館日を除く）。また、文化面、社会面等に、随時展覧会や講演会、県民ギャラリーの催事情報を掲載。琉球新報も情報面や文化面、社会面で展覧会や催事情報を載せてもらった。沖縄タイムスの副読誌「週刊ほーむぶらざ」や琉球新報の副読誌「週刊レキオ」、そのほか県内外で発行される観光・ガイド・情報関連誌も幅広く活用し、館情報の発信に努めた。

○年間行事案内・・・年度初めに展覧会の会期や内容、講座や解説会の日時など、年間の行事案内を掲載した「平成23年度 沖縄県立博物館・美術館 行事案内」（リーフレット、5万部）を作成し、県内外の文化・観光施設、ホテル、レンタカー会社、那覇空港案内所、旅行会社等へ配布、設置のお願いをして、年間の行事案内に努めた。さらに沖縄県教職員互助会・退職互助部に依頼し会員個人々人に行き渡るようにした。

○チラシ、ポスター・・・県内の小・中・高校、図書館、文化施設、教育機関には展覧会ごとにチラシ、ポスタ

- 一を配布し、展覧会の告知を行った。また、県内のコンビニ、文化・観光施設、レンタカー会社、那覇市内外の主要ホテル、県内書店、観光案内所、モノレール駅、那覇空港などにもチラシやポスターの設置協力を求めた。さらに、個人に行き渡るように新聞、コープ配達会員、桜坂会員の会報誌の折込を活用し、誘客に努めた。
- 公共掲示板・・・那覇・浦添・西原・南部地区の公共掲示板約150ヶ所に、展覧会の度にポスターを張り出して展覧会の告知を行った。
  - モノレール車両内広告・・・県民の足・沖縄都市モノレール(ゆいレール)の各車両の乗降口上のポスター(縦約26センチ×横約130センチ)で年間を通して、展覧会ごとに告知内容を張り替えて県民、観光客へ展覧会や館をアピールした。
  - 懸垂幕・・・館壁正面入り口側に2メートル×6メートルの大型懸垂幕を設置し、展覧会の告知を行った。主に博物館特別展や大型企画展、美術館企画展の際に実施。
  - 新聞紙面での記事や連載・・・取材や寄稿掲載の協力を積極的にお願いし、年間を通じて多数の記事で館情報を県民に広く伝えることができた。主な特集記事や連載に、4月～5月:「國吉清尚展」の作品紹介を6回連載、寄稿上・下2回掲載、5月～6月:「岡本太郎と沖縄」作品紹介5回、寄稿5回、7～9月:「印象派の誕生」作品紹介を5回連載、9月～10月:「東松照明展」文化面記事を4回掲載(以上、沖縄タイムス)。
  - 新聞広告(有料)・・・沖縄タイムス、琉球新報の紙面に有料広告を掲載した。主な方法としては、全5段もしくは半5段サイズのカラー広告掲載や、テレビ面突出・番組下や社会面の四コマ漫画下などの小さなスペースだが目立つ枠への掲載など目的・予算に応じて利用した。GWなどのイベント時には全館のイベント告知なども有料で実施した。さらに「岡本太郎と沖縄」では沖縄タイムス社共催に依頼し全面特集記事(5段は協賛広告)を掲載した。
  - テレビ(無料:ニュース、特集番組など)・・・積極的に取材依頼を行い、イベントや展覧会の開幕の様子などもニュースとして報道してもらえるように努めた。今年度の実績では、NHK「新日曜美術館 アートシーン」、RBC「ザ・ニュース」、QAB「ステーションQ」、OTV「お昼のニュース」、「FNNOTVスーパーニュース」など。また、パブリシティでの無料告知枠を積極的に活用。NHK「りっかりっか沖縄」、RBC「ママドルの情報ポケット」、OTV「ひーぶー☆ホップ」など。番組での告知としては、「印象派の誕生」はOTVとの共催ということもあり「FNNOTVスーパーニュース」での絵画特集やキャスターデスク上の告知板の設置によるPR、「ひーぶー☆ホップ」内での紹介等数多くOTVの自社媒体での広報ができた。
  - ラジオ(無料:ニュース、特集番組など)・・・積極的に取材依頼を行い、イベントや展覧会の開幕の様子などもニュースとして報道してもらえるように努めた。今年度の実績では、NHK ラジオ第一「お天気とイベント情報」など。また、パブリシティでの無料告知枠を積極的に活用。RBC ラジオ「団塊花盛り!」に担当学芸員がゲスト出演し「岡本太郎と沖縄」を告知、タイフーン fm「ヒトワク」では展覧会ごとに担当学芸員が出演してPRした。その他コミュニティ FM も積極的に活用し展覧会関係者が出演するなどの取り組みも実施した。
  - テレビ・ラジオ広告(有料)・・・テレビ・ラジオといったマスメディアでのCM展開については、制作費・放映料共に経費がかかるが、効果も大きいので広告出稿を行った。4月～5月:「國吉清尚展」、5月～6月:「岡本太郎と沖縄」、7月～9月:「印象派の誕生」、11月～12月:「宇宙」、1月～3月「玉那覇正吉展」。その他、RBC、OTV、QABのお正月年賀スポット(1月1日～1月5日)で、年始の営業日開館時間の案内の告知を行った。文化の杜共同企業体主催の展覧会告知の際には、沖縄タイムス社が琉球放送(RBC)や琉球朝日放送(QAB)のテレビ、RBC iラジオ、FM沖縄に持っているCM放送枠を活用し、「國吉清尚展」、「岡本太郎と沖縄」のCMをテレビとラジオで放送し展覧会をPRした。沖縄タイムス社およびテレビ局へ協力依頼を行い、テレビやラジオでの広告放映については多額の経費が必要だが、この放送枠の活用により、テレビやラジオで広報を展開しながら集客対策費の県企画展への集中活用が可能になっている。
  - 雑誌、機関紙・・・雑誌社や出版社の取材には積極的に応じ、様々な媒体への露出を高めるよう努力した。県民へのPRを目的として県内イベント情報誌「おきなわ倶楽部」、「yukurupon」、「be-o」、「Chura+ (ちゅらプラス)」で展覧会や催事を告知。県内の医療機関や病院に配布する沖縄県社会保険診療報酬支払基金の月刊誌「基金沖縄支部だより」には平成23年度も一年を通して毎月開催中の展覧会を表紙で紹介してもらった。観光客向けには、「レンタカードライブマップ」でレンタカーを利用する人への告知、フリーペーパー「沖縄タウンガイドYASA!」などでも年間を通じて無料で展覧会告知を掲載。また、県外からの観光客などをターゲットにした全国版観光雑誌「沖縄の歩き方」、「沖縄レク情報」、「ユースるるぶ沖縄」、「ちゅらなび」等では主に博物館常設展や館の施設紹介をした。個別の展覧会の告知について今年度は、「新美術新聞」、「美術手帖」、「芸術新潮」などを活用し、その他、JAL旅鶴プランと連動する会員季刊誌「旅鶴倶楽部」や、海外向けのPRとして、那覇空港に館のパンフレット英語版、中国語版、韓国語版、スペイン語版の設置また、沖縄観光webサイト「おきなわ物語英語版」、英語版ガイドブック年間誌「Okinawa Island Guide2011-2012」などへ館の紹介を掲載した。
  - 地域誌・・・那覇新都心通り会が発行する「新都心かわら板」に様々な展覧会や催しを告知。
  - インターネット・・・無料で全国的に広く展覧会の告知を行えるイベント情報サイトを活用し、様々なサイトで告知活動を展開した。今年度の実績では、館全体のPRを目的としてYAHOO!JAPAN「地域情報」、「じゃらんnet」観光ガイド、JTBるるぶインターネットサイト、「自治体観光ガイド」など。個別の展覧会の告知を目的として「art scape」「アートフラッシュニュース」「ミュージアムカフェ」など。有料では「國吉清尚展」、「岡本太郎と沖縄」で、「ていーだブログ」、「那覇経済新聞」内にバナー広告を掲載し県内のブロガー、ブログ

- 閲覧者に向けて紹介した。
- 携帯専用サイト改善、スマートフォン専用サイトの開設・・・館の情報がどこでも確認できるように携帯サイトの改善、スマートフォン専用サイトを開設した。携帯専用サイトは通信料を安くするためできるだけ容量を減らしながらも見やすくするようにし、スマートフォン専用サイトはアイコンを大きくし、各企画展が目に入るようにした。
  - 特設コーナー・・・今年度も館外での展覧会 PR 活動として、書店等の協力を得て、展覧会関連書籍の販売と併せて書店店頭で展覧会特設コーナーを設置してもらった。あわせて展覧会図録の販売や前売券の販売なども行った。実施した展覧会は「岡本太郎と沖縄」、「印象派の誕生」。協力書店はジュンク堂書店那覇店、宮脇書店全店（「岡本太郎と沖縄」のみ）、沖縄教販 5 店舗。館外での誘客活動を通して新しい客層の獲得につなげることを目的とした。
  - 沖展・・・毎年 3 万人を超える来場者を数える県内最大規模の総合美術展である沖展（主催：沖縄タイムス社）会場で、開催者の協力を得て、当館の行事案内および「田中一村展」、「紅型展」のチラシ配布をした。また即売会場では当館で開催した過去の展覧会図録の委託販売なども行い、美術ファン層に向けて館外での PR 活動を行った。
  - プレイガイドの拡大・・・前売り券の販売およびチラシ・ポスターの設置場所としてプレイガイドの拡大・拡充を図った。ミュージアムショップゆいむい、リウボウサービスカウンター、コープあふれ、ファミリーマート各店、ローソン各店、ジュンク堂書店那覇店、ブックスきょうはん美浜店・一日橋店・とよみ店、安謝店、宮脇書店全店（「岡本太郎と沖縄」のみ）、TSUTAYA 那覇新都心店・首里店、球陽堂書房那覇メインプレイス店・西原シティ店、田園書房宜野湾店（3 月 31 日閉店）。さらに、コープあふれ発行の「Aple」に前売り券販売をしている企画展の情報を無料で掲載し、前売り券の販売促進を行った。

（金城 正仁）

## 2. 地域イベントへの参加

那覇新都心通り会へ積極的に参加し、月に 1 回発行される「新都心かわら版」で展示会を PR した。またおもしろまちと博物館・美術館をつなげるイベントとして 10 月 15 日（土）、16 日（日）に「2011 年アート de 博・美まつり」（主催：2011 年アート de 博・美まつり実行委員会、共催：文化の杜共同企業体）を開催。東日本大震災支援キャンドルアートづくりや近隣幼稚園、小中学校の舞台発表、通り会の飲食店による屋台出店などもあり、地域ぐるみでまつりを盛り上げた。

（上地 兼恵）

## VIII. 調査・研究等の活動

### 1. 調査・研究等

謝花佐和子

○調査・視察

- ・國吉清尚作品調査（宜野湾市、2011 年 4 月 16 日、2012 年 3 月 7 日）

金城美奈子

○調査・視察

- ・田中一村調査（田中一村記念美術館／鹿児島県奄美市、2011 年 8 月 31 日～9 月 1 日、12 月 14 日～16 日）

○著作論文

- ・「田中一村考―「琉球弧」で開花した日本画―」『沖縄キリスト教学院大学論集』第 8 号 2011 年 12 月 2 日

仲里なぎさ

○調査・視察

- ・次年度企画展「仮面展（仮称）」のための調査（国立民族学博物館／大阪府）（2011 年 10 月 6 日～7 日）
- ・自主事業「琉球芸能公演 尚寧王と袋中上人再見」開催のための視察（京都府民ホールアルティ／京都府）（2011 年 10 月 8 日）
- ・國吉清尚作品調査（宜野湾市、2012 年 3 月 7 日）

國吉貴奈

○調査・視察

- ・「土門拳の昭和と沖縄」展調査①（土門拳記念館／山形県酒田市、2011年10月31日～11月1日）
- ・「土門拳の昭和と沖縄」展調査②（奥田元宋・小由女美術館／広島県三次市、2012年2月27日～2月28日）

中村 愛

○調査・視察

- ・日本博物館協会の主催による定期研修会への参加（日本科学未来館／東京都、2012年2月2日～3日）

大濱 萌子

○調査・視察

- ・博物館学連携ワークショップ研修（宮崎県総合博物館／宮崎県、2012年2月11日）

## IX. その他

### 1. 職員研修

①日 時：2011年11月17日（木）18：30～20：00

場 所：美術館講座室

講 師：遠藤水城（インディペンデントキュレーター）

内 容：スタッフの知識向上を目的とし事務所スタッフ向けの研修として、フリーキュレーターとして国内外で活躍する遠藤水城氏を講師に迎え、自身が手掛けた展覧会を中心に幾つか事例を紹介する講座を実施した。

参加者：14人

②日 時：2012年1月7日（土）18：30～20：00

場 所：博物館講座室

講 師：齋正弘（宮城県美術館教育普及部 部長）

内 容：スタッフの知識向上を目的とし事務所スタッフ向けの研修として宮城県美術館教育普及担当学芸員の齋正弘氏を講師に自身のこれまでの活動を踏まえた美術館と学校との美術教育の違いなどお話しいただいた。

参加者：14人

（町田 恵美、齊 悠記）

### 2. スタッフ研修

①全体研修

日 時：4月11日（月）14：00～18：00、4月24日（日）14：00～18：00 ※同じ内容で2回実施

場 所：博物館講座室

講 師：

千木良芳範（副館長）「博物館・美術館建設の経緯について」

豊見山愛（美術館班）「展示ができあがるまでのプロセスについて」

仲里健、田中聡（博物館班）「IPMの取り組みについて」

中村愛（文化の杜共同企業体）「マニュアル研修」とグループディスカッション

内 容：来館者へのサービスの向上を目指し、昨年度に引き続きアルバイトスタッフの全体研修を実施

参加者：139人（総合案内、もぎり、展示交流員：企画展・特別展＝

文化の杜、博物館常設展示室＝博物館友の会、美術館コレクションギャラリー＝happ、ふれあい体験室スタッフ、情報センタースタッフ）



②「沖縄歴史検定」の実施

日 時：11月27日（日）16:15～20:00

場 所：博物館講座室

内 容：展示交流員（所属：文化の杜／博物館友の会／美術館 happ）の希望者に対し、琉球・沖縄の歴史と文化に興味・関心をもつことによる来館者サービスの向上を目指し「沖縄歴史検定」を実施  
実 施 者：仲村 頤（沖縄県立芸術大学付属研究所研究員）、中村 愛（文化の杜共同企業体）  
参 加 者：5 人

③展示交流員新人研修

日 時：12 月 21 日（水）18:00～20:00  
場 所：博物館講座室  
講 師：中村 愛（文化の杜共同企業体）  
内 容：1 月に新しく採用される展示交流員に対する新人研修。マニュアルを元に、博物館・美術館の使命や、働く心得などを研修した。  
参 加 者：3 人

（中村 愛）

### 3. 企画展・特別展研修

①美術館企画展「國吉清尚」

日 時：4 月 17 日（木）18:15～19:30  
場 所：博物館講座室・各展示室  
講 師：謝花佐和子、中村 愛（文化の杜共同企業体）、仲里 健（國吉清尚展実行委員会）  
参 加 者：45 人

②美術館企画展「岡本太郎と沖縄」、博物館企画展「新収蔵品展」

日 時：5 月 29 日（日）18:15～19:45  
場 所：博物館講座室、企画ギャラリー  
講 師：金城美奈子、中村 愛（文化の杜共同企業体）  
参 加 者：57 人

③「夢ロボット博」

日 時：7 月 13 日（水）10:00～11:30  
場 所：企画展・特別展示室  
講 師：西山禎泰（愛知工業大学）、中村 愛（文化の杜共同企業体）  
参 加 者：12 人

④美術館企画展「印象派の誕生」

日 時：7 月 27 日（水）10:00～11:30  
場 所：企画ギャラリー、博物館講座室  
講 師：國吉貴奈、中村 愛（文化の杜共同企業体）  
参 加 者：46 人

⑤美術館企画展「太陽へのラブレター 東松照明と沖縄」

日 時：9 月 21 日（水）18:15～19:30  
場 所：企画ギャラリー・特別展示室  
講 師：新里義和（当館学芸員）、中村 愛（文化の杜共同企業体）  
参 加 者：49 人

⑥博物館企画展「工芸王国—受けつがれる琉球のわざと美」「日本の伝統美と技の世界」

日 時：10 月 5 日（水）18:15～19:30  
場 所：企画ギャラリー・特別展示室  
講 師：與那嶺一子、早瀬千明（当館学芸員）、中村 愛（文化の杜共同企業体）  
参 加 者：30 人

⑦博物館特別展「宇宙～遙かなるロマンを求めて～」

日 時：11月4日（水）18:15～19:30  
場 所：博物館講座室・特別展示室  
講 師：仲里健（当館学芸員）、中村愛（文化の杜共同企業体）  
参 加 者：49人

⑧美術館企画展「玉那覇正吉—彫刻と絵画の軌跡」

日 時：1月9日（月祝） 18:15～19:30  
場 所：博物館講座室、展示会場  
講 師：仲里安広（美術館班）、中村愛（文化の杜共同企業体）  
参 加 者：50人

⑨博物館企画展「京都・檀王法林寺開創 400 年記念 琉球と袋中上人展—エイサーの起源をたどる—」

日 時：1月25日（水）18:15～19:30  
場 所：美術館講座室、展示会場  
講 師：園原謙（博物館班）、中村愛（文化の杜共同企業体）  
参 加 者：27人

⑩本土復帰 40 周年記念「田中一村展～琉球弧で開花した美の世界～」

日 時：3月28日（水）18:15～20:15  
場 所：博物館講座室・特別展示室  
講 師：金城美奈子、中村愛（文化の杜共同企業体）  
参 加 者：48人

（中村 愛）

## 4. 消防訓練等

①消防（総合）訓練

日 時：10月3日（月）9：30～11：30  
場 所：館内 実習準備室（夜間）・ふれあい体験室  
内 容：消化訓練、通報訓練、避難誘導、救護 消火器の操作要領習得（実火使用）  
参 加 者：館勤務者 ※今回は夜間訓練と昼間訓練を実施（消防設備点検業者の支援を受ける）

②普通救命講習

日 時：6月6日（月）14：00～17：00  
場 所：博物館講座室  
内 容：那覇市消防本部（救急救命士及び消防士4人）の指導を受けて、心肺蘇生法、AEDの使用法、異物除去法を学び普通救命講習終了証（3年間有効）を取得した。  
参 加 者：15人（県職員、文化の杜スタッフ、展示交流員）

## 5. 職場体験の受け入れ

①山口県立宇部商業高等学校

日 時：6月22日（木）  
人 数：計3人  
業務内容：展示交流員

②浦添工業高等学校（5人）、浦添市立仲西中学校（5人）

日 時：7月7日（木）～8日（金） ※2校同時  
人 数：計10人

業務内容：ふれあい体験室、もぎり、ショップ、美装、総合案内等

③専修学校インターナショナルデザインアカデミー高等課程

日 時：7月26日(火)～28日(木)

人 数：3人

業務内容：ふれあい体験室、もぎり、ショップ、展示交流員、総合案内等

④那覇市立鏡原中学校2年生

日 時：9月6日(火)～8日(木)

人 数：5人

業務内容：展示交流員、もぎり、ふれあい体験室、ショップ等

⑤名護市立大宮中学校2年生

日 時：10月26日(水)～28日(金)

人 数：1人

業務内容：展示交流員、もぎり、ふれあい体験室、ショップ等

⑥浦添市立神森小学校6年生

日 時：11月15日(火) 9:00～12:00

人 数：1人

業務内容：博物館もぎり業務

⑦那覇市立若狭小学校(主催：なはグッジョブ連携協議会)

日 時：12月6日(火) 10:00～12:00

人 数：6人

業務内容：キャリア教育の一環として、ジョブシャドウイングを受け入れた。児童生徒が働く大人の取り組む姿勢を観察する。博物館班学芸員(2人)、美術館班学芸員(2人)、文化の杜職員(2人)の合計6人で対応した。

(島袋 百恵)

## 6. 視察等(設備)の受け入れ

①和ハウス

日 時：5月28日(金)

人 数：7人

内 容：今後の多目的(多機能・多用途)建築物の設計に活かせる様に主に地下設備を視察

②本設計

日 時：2月3日(金)

人 数：25人

内 容：自分たちの設計したものを運用確認、設計の参考のために主に地下設備を視察

(堀 未治)



# 全館共同事業

- I. 博物館・美術館実習
- II. 国際博物館の日
- III. 移動展
- IV. 燻蒸・消毒処理
- V. 刊行物
- VI. 展示会一覧

# I. 学芸員実習

## 1. 博物館実習

当館では、昭和44年に最初の実習生を受け入れてから、平成18、19年度の新館準備のための休止年度を除き毎年学芸員実習を実施してきた。平成12年度までは、実習生の在籍する大学毎に個別に実習期間を設置して対応してきたが、平成13年度以降は年2回に集約して実施している。

平成23年度の学芸員実習は前期（6月13日～24日）、後期（8月15日～26日）とも内容は下記のとおりである。

### 1. 実習内容と指導職員

講義・実習	指導者
博物館施設・事業概要	濱口
美術館施設・事業概要	瑞慶山
IPMへの取り組み	田中
博物館展示の実際	與那嶺
課題研究 実習生は「自然史」、「美工・歴史」、「民俗・考古」の3班に分かれ、ロビーの一角でミニ企画展を実施した。その過程には以下の作業が含まれる。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; margin: 10px 0;">             展示企画立案              資料調査・選定・借受交渉              展示環境調査（美工・歴史班）              パネル・キャプション作成              資料移動・開梱・梱包、開梱・梱包に伴う検品              資料配置・撤収              展示解説、観覧者調査、総括発表           </div>	「自然史班」 田中、仲里、藤田、山崎 「美工・歴史班」 與那嶺、園原岸本弘、早瀬 「民俗・考古班」 岸本敬、片桐宮平真
教育普及実習	池原、當眞

### 2. 実習生

前期			後期		
1	久場 郁歩	琉球大学	1	佐藤 あさひ	琉球大学
2	小堀 翔		2	城間 梓沙	
3	喜久里 沙織		3	澤田 安里	
4	山城 悠貴		4	嘉数 卓也	
5	濱田 遊学		5	渡邊 美日奈	沖縄国際大学
6	上原 広思	6	安里 成哉		
7	新垣 有一郎	7	入池原 正宗		
8	山城 勝	8	村山 由紀		
9	喜屋武 太一	9	比嘉 大樹		
10	具志堅 凌	沖縄国際大学	10	宮内 紀子	関西学院大学
			11	外間 太一郎	
			12	田中 沙緒莉	神奈川大学
			13	早田 萌	桜美林大学

(濱口 寿夫)

## 2. 美術館実習

美術館では、県内大学や、県外大学で学芸員資格取得を目指す県出身者を主に受け入れて学芸員実習を実施している。2011年度は8月15日（月）～8月26日（金）の10日間、下記の内容で実施した。

## 1. 実習内容と指導職員

講義・実習	指導者	講義・実習	指導者
博物館活動概要及び施設・設備（共通）	濱口	常設展示の実際Ⅰ	瑞慶山
美術館活動概要及び施設・設備	大城(仁)	常設展示の実際Ⅱ	仲里
美術館業務の考え方と実際Ⅰ	瑞慶山	常設展示の実際Ⅲ	豊見山
美術館業務の考え方と実際Ⅱ	大城(仁)	企画展の実際Ⅰ	新里
IPMについて(共通)	田中	企画展の実際Ⅱ	仲里
調査研究概要	大城(仁)	展示企画Ⅰ・Ⅱ	豊見山
作品調査の方法	吉田	教育普及事業Ⅰ・Ⅱ	大城(直) 大城(仁)
収集事業概要	豊見山	平面資料の取扱い(油彩画)	豊見山
資料に関する情報処理	吉田	平面資料の取扱い(水彩画・版画)	大城(仁)
資料の保存・修復の実際	仲村	平面資料の取扱い(写真)	新里
資料の修復実習Ⅰ・Ⅱ	〃	立体資料の取扱い(彫刻)	仲里

## 2. 実習生

1	東山盛 夏樹	九州産業大学
2	稲嶺 友美	沖縄県立芸術大学
3	金城 知美	
4	當銘 弓佳	
5	宮城 冴生	
6	島 野乃子	京都造形芸術大学
7	花城 侑宣	東京工芸大学

## II. 国際博物館の日

名 称：5月18日「国際博物館の日」  
 会 期：2011年5月10日（火）～5月29日（日）（18日間）  
 内 容：パネル展、ワークショップ  
 会 場：エントランスホール、ふれあい体験室前

### 【開催趣旨】

毎年5月18日は、全世界で博物館活動の普及と向上を目的に、国際博物館会議（通称ICOM：イコム）によって「国際博物館の日」と定められている。日本博物館協会の会員である当博物館・美術館もこれに伴い、より多くの人々に博物館活動を広く報せ、博物館・美術館に対してより興味・関心、親近感を抱かせるとともに、博物館・美術館や社会教育の意義をさらに普及・啓発するために行う。

### 【実施内容】

博物館・美術館の活動を広く一般県民に伝えるためにエントランスホールにてパネル展示を実施した。無料入館日の設定や、バックヤードツアー、ワークショップ等を実施した。

#### ○パネル展 5月10日（火）～5月29日（日）

パネル展の目的、ICOM・「国際博物館の日」の説明、今年度の行事や講座などの紹介、沖博協加盟館の紹介、「沖縄の博物館ガイド」の紹介、展示会の様子、学芸員の仕事、ボランティア・友の会・happ等の活動の様子、指定管理者の仕事、過去に実施した展覧会のチラシ展示

○無料入館日 5月21日(土)のみ(國吉清尚展はのぞく)

○バックヤード・ツアー 5月21日(土)のみ

時 間：(午前)第1回 美術館 11:00～12:00

(午後)第2回 博物館 14:00～15:00

受 付：9:00～ 総合案内にて

定 員：当日先着24名(各回とも12名まで)

参加料：無料

○ワークショップ ぼく、わたしのてづくりおもちゃ「金魚と風車をつくる！」 5月21日(土)のみ

時 間：1回目10:00 2回目10:30 3回目11:00 4回目11:30

受 付：9:00～ ふれあい体験室にて

定 員：当日先着40名(各回とも10名まで)

参加料：100円

○キュレータートーク 5月21日(土)のみ

コレクションギャラリー2 13:20～14:00

コレクションギャラリー3 14:10～14:50

○ギャラリートーク 5月21日(土)のみ

時 間：15:00～16:00

場 所：コレクションギャラリー1

○体験学習教室 5月21日(土)のみ

時 間：9:45～13:00

申し込：4月23日～5月7日(電話 or 窓口にて)

定 員：小学生以上の親子(1組2名)15組(多数の場合は抽選)

参加料：300円

(岸本 弘人)

### Ⅲ. 移動展

名 称：第4回 沖縄県立博物館・美術館移動展 in 宮古

会 期：2012年2月3日(金)～5日(日) 9:00～17:00(3日は10:00～)

開 催 地：宮古島市中央公民館、宮古島市総合博物館

観 覧 料：無料

予算執行額：6,103,573円

入 場 者 数：6,231名

#### 【開催趣旨】

ふだん沖縄県立博物館・美術館に足を運ぶことが出来ない離島や遠隔地の方々に移動展として、当館の収蔵資料を見てもらうことによって、沖縄県の自然・歴史・文化の広域普及を図り、あわせて美術品を鑑賞する機会を提供する。

#### 【開催形式】

主催：沖縄県立博物館・美術館、石垣市、石垣市教育委員会、文化の杜共同企業体

協賛：琉球海運株式会社

協力：宮古新報／宮古毎日新聞／宮古テレビ

**【展示内容】**

博物館資料：「世界の化石と輝く石」・・・恐竜の骨格標本、岩石、鉱物  
 「沖縄の自然、歴史、文化」・・・沖縄の自然、歴史、文化に関する総合展示  
 美術館資料：「沖縄の美術」

**【関連催事】**

- ① 名 称：「骨スーツで遊ぼう」  
 会 場：宮古島市中央公民館  
 会 期：2012年2月3日（金）～5日（日） 9:00～17:00（3日は10:00～）  
 対 象：一般  
 参加料：無料  
 定 員：なし
- ② 名 称：「天球儀による星空観測」  
 会 場：宮古島市中央公民館  
 会 期：2012年2月3日（金）～5日（日） 9:00～17:00（3日は10:00～）  
 対 象：一般  
 参加料：無料  
 定 員：なし
- ③ 名 称：「ちむドンドン（紙芝居と琉球楽器）体験」  
 会 場：宮古島市中央公民館  
 会 期：2012年2月3日（金）～5日（日） 1日4回（11:00, 11:30, 14:00, 14:30）  
 対 象：一般  
 参加料：無料  
 定 員：なし
- ④ 名 称：高校生ボランティア活用  
 会 期：2012年2月3日（金）～5日（日）  
 会 場：宮古島市中央公民館  
 対 象：宮古高校美術クラブ
- ⑤ 名 称：博物館学芸員講演会  
 会 場：宮古島市総合博物館

講演名	講 師	日 時	
「三線とはなにか？」	園原 謙（美術工芸）	3日（金）	15:00～16:30
「宮古の自然は、沖縄の宝です！」	田中 聡（生物）	4日（土）	15:00～16:30
「沖縄の玉製品調査の概要報告」	早瀬 千明（歴史）	5日（日）	15:00～16:30

対 象：一般  
 参加料：無料  
 定 員：50名

**【宮古島市中央公民館 来館状況】**

**一般入場者**

	70歳以上	一般	高大	小中	未就学児	合計
2月3日（金）	0	198	0	21	30	249
2月4日（土）	24	755	28	430	337	1,574
2月5日（日）	83	1,141	30	648	431	2,333
一般合計	107	2,094	58	1,099	798	4,156

団体入場者

団体名		70歳以上	一般	高大	小中	未就学児	合計	備考
花園幼稚園			3			42	45	2月3日
実業高校	食品科(1~3年)		6	73			79	2月3日
	海洋科学科(1~3年)		8	100			108	2月3日
	生物生産科(1~3年)		5	74			79	2月3日
	生活福祉科(1~3年)		5	115			120	2月3日
砂川小学校	6年		1		21		22	2月3日
狩俣小学校	4・5年		1		11		12	2月3日
たけのこ保育園			4			22	26	2月3日
西辺中学校			3			13	16	2月3日
実業高校	環境工芸科(1~3年)		3	66			69	2月3日
	商業科(1~3年)		4	120			124	2月3日
久松中学校	1・2年生		5		80		85	2月3日
来間小学校	1~6年		3		8		11	2月3日
平良第1小学校			30		100		130	2月4日
ちびっコランド (学童)			3		25		28	2月4日
団体合計		0	84	548	245	77	954	

中央公民館 総入館者数	107	2178	606	1344	875	5110
宮古島総合博物館						1121
合計						6231

## IV. 燻蒸・消毒処理

2011年度は、2007年度から実施している総合的防害虫管理（IPM）の運用を継続して行い、活動として、年2回の全館を休館しての燻蒸・消毒処理、簡易燻蒸・消毒処理、IPM モニタリング等を行い、毎月1回のIPM 全体会議にて連絡・報告などを行っている。その目的は、収蔵資料の保存管理のため、定期的な消毒作業を行い、保存環境の適正化に努めている。

### 1) 2011年度 全館燻蒸・消毒処理

#### 第1回 全館燻蒸・消毒

期 間：2011年6月27日（月）～7月5日（火） 14日間

消毒箇所：全館

使用薬剤：シフェノトリン（商品名：ミラクンGX）

投 薬 量：0.7～7g/m以下

処理方法：シフェノトリンを気化し、害虫に呼吸毒として作用させ殺虫

#### 第2回 燻蒸・消毒

期 間：2012年1月22日（日）（閉館後）～1月24日（火） 3日間

消毒箇所：収蔵庫・バックヤード（美）・実習準備室

使用薬剤：シフェノトリン（商品名：ミラクンGX）

投 薬 量：0.7～7g/m以下

処理方法：シフェノトリンを気化し、害虫に呼吸毒として作用させ殺虫

### 2) 簡易燻蒸・消毒処理

各トラックヤードに自動噴霧装置設置（博物館3ヶ所、美術館2ヶ所、県民ギャラリー1ヶ所）を設置、毎日深夜に散布（スミスリン乳剤）開閉する場所の害虫駆除に実施している。

又、必要に応じて作品等の燻蒸・消毒を「ふくろう君」（二酸化炭素）を実施している。

（宮里 宗彦）

## VI. 刊行物

(全体)

	刊行物名	種類	部数	規格(頁)	内 容
1	沖縄県立博物館・美術館 年報4号	定期	1,500	A4(119)	前年度の博物館・美術館活動報告
2	沖縄県立博物館・美術館 行事案内-平成23年度-	〃	50,000	A3(四折)	博物館・美術館行事案内
3	第4回移動展 パンフレット	〃	1,000	A4(11)	移動展 パンフレット
4	〃 ポスター	〃	200	A2	〃 告知ポスター
5	〃 チラシ	〃	5,000	A4	〃 告知チラシ

(博物館班)

	刊行物名	種類	部数	規格(頁)	内 容
1	沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要 第5号	定期	1,000	A4(178)	博物館学芸員の調査研究報告書
2	平成23年度博物館教育普及活動	〃	1,000	A4(141)	博物館教育普及活動報告
3	新収蔵品展-平成22年度収蔵資料-	〃	1,000	A4(12)	博物館企画展 図録
4	宇宙へ遙かなるロマンを求めて	不定期	1,000	A5(59)	博物館特別展 図録
5	〃 ポスター	〃	1,000	B2	〃 告知ポスター
6	〃 チラシ	〃	30,000	A4	〃 告知チラシ
7	工芸王国-受けつがれる琉球のわざと美 ポスター	〃	1,000	B2	博物館企画展 告知ポスター
8	〃 チラシ	〃	1,000	A4	〃 告知チラシ
9	日本の伝統美と技の世界 ポスター	〃	1,000	B2	〃 告知ポスター
10	〃 チラシ	〃	30,000	A4	〃 告知チラシ
11	琉球と袋中上人-エイサーの起源をたどる- ポスター	〃	1,000	B2	〃 告知ポスター
12	〃 チラシ	〃	30,000	A4	〃 告知チラシ

(美術館班)

	刊行物名	種類	部数	規格(頁)	内 容
1	美術館教育普及報告書 平成23年度	定期	1,000	B5(32)	美術館教育普及活動報告
2	東松照明展<太陽へのラブレター>	不定期	800	B4(216)	美術館企画展 図録
3	〃 ポスター	〃	1,500	B2	〃 告知ポスター
4	〃 チラシ	〃	70000	A4	〃 告知チラシ
5	沖縄近代彫刻の礎 玉那覇正吉-彫刻と絵画の軌跡	〃	800	A4(200)	美術館企画展 図録
6	〃 ポスター	〃	1,500	B2	〃 告知ポスター
7	〃 チラシ	〃	80000	A4	〃 告知チラシ

(指定管理者)

	刊行物名	種類	部数	規格(頁)	内 容
1	國吉清尚-土と炎に生きた魂の軌跡-	不定期	500		企画展 図録
2	〃 ポスター	〃	1,500	B2	〃 告知ポスター
3	〃 チラシ	〃	60,000	A4	〃 告知チラシ
4	〃 作品配置図	〃	5,000	A3	〃 作品情報案内
5	岡本太郎と沖縄-ここが世界の中心だ-	〃	500	A4(80)	企画展 図録
6	〃 ポスター	〃	1,500	B2	〃 告知ポスター
7	〃 チラシ	〃	80,000	A4	〃 告知チラシ
8	印象派の誕生-フランス19世紀絵画の流れ	〃	823	四六判 (160)	企画展 図録
9	〃 ポスター	〃	2,000	B2	〃 告知ポスター
10	〃 チラシ	〃	150,000	A4	〃 告知チラシ
11	〃 作品リスト	〃	10,000	A4	〃 作品リスト

## VI. 展覧会一覧(2011 年度)

	展示会名	場所	主催	期間
1	大嶺コレクション展	博物館特別展示室2	沖縄県立博物館・美術館	4/19～6/12
2	國吉清尚展－土と炎に生きた魂の軌跡－	美術館企画ギャラリー1・2	文化の杜共同企業体	4/19～5/22
3	新収蔵品展－平成 22 年度収蔵資料－	博物館企画展示室	沖縄県立博物館・美術館	5/27～6/19
4	生誕 100 年記念展 岡本太郎と沖縄－ここが世界の中心だ－	美術館企画ギャラリー1・2	文化の杜共同企業体	5/31～6/26
5	－見る・学ぶ・体感する－ロボットランド 2011	博物館特別展示室1・2、企画展示室	沖縄タイムス社	7/14～8/28
6	印象派の誕生 フランス 19 世紀・絵画の流れ	美術館企画ギャラリー1・2	文化の杜共同企業体	7/28～9/11
7	東松照明展<太陽へのラブレター>	美術館企画ギャラリー1・2	沖縄県立博物館・美術館	9/23～11/20
8	沖縄県無形文化財工芸技術保持団体協議会 設立10周年記念「工芸王国－受けつがれる琉球のわざと美－	博物館特別展示室1	沖縄県立博物館・美術館	10/6～10/23
9	第 19 回全国重要無形文化財保持団体秀作展「日本の伝統美と技の世界」	博物館特別展示室 2・企画展示室	沖縄県立博物館・美術館	10/6～10/23
10	宇宙～遙かなるロマンを求めて～	博物館特別展示室1・2、企画展示室	沖縄県立博物館・美術館	11/3～12/28
11	沖縄県芸術文化祭	美術館企画ギャラリー1・2	沖縄県文化振興会	11/26～12/4
12	沖縄近代彫刻の礎 玉那覇正吉 彫刻と絵画の軌跡	美術館企画ギャラリー1・2	沖縄県立博物館・美術館	1/11～3/11
13	京都壇王法林寺－開設 400 年記念－「琉球と袋中上人展－エイサーの起源をたどる－」	博物館特別展示室1・2、企画展示室	沖縄県立博物館・美術館	1/25～2/19



# その他の活動

- I. 沖縄県博物館協会
- II. 全国組織との関わり
- III. 沖縄県博物館友の会
- IV. h a p p (美術館支援会)

## I. 沖縄県博物館協会

当館からの参加者については「博物館 I. 調査研究等の活動 7. 職員研修」の項を参照のこと。

### 【総会・春の研修会】

- 期 日：2011年5月20日（金）、21日（土）  
場 所：壺屋町民会館  
総 会：議案第1号 2010年度事業報告  
議案第2号 2010年度決算報告 会計監査結果報告  
議案第3号 2011年度事業計画案  
議案第4号 2011年度予算案  
議案第5号 役員改選について  
研 修：テーマ「博物館と自然災害」  
講演：「沖縄にも地震は起こる」 加藤祐三（琉球大学名誉教授）  
事例発表1：「博物館と保険」 鈴木友之助（三井住友海上沖縄第二支社長）  
現地研修：壺屋焼物博物館の免震装置と壺屋地域の文化財

### 【秋の研修会】

- 期 日：2011年9月15日（木）、16日（金）  
場 所：ひめゆり平和祈念資料館  
研 修：テーマ「戦争の記憶・遺跡とその保存」  
講演：「元ひめゆり学徒の戦争体験」 島袋淑子（ひめゆり平和祈念資料館館長）  
事例発表1：「ひめゆり関連戦跡壕の調査・保存・活用事業」  
普天間朝佳（ひめゆり平和祈念資料館）  
事例発表2：「沖縄陸軍病院南風原壕群20号の整備と公開」  
上地克哉（南風原文化センター）  
事例発表3：「沖縄県内における戦争遺跡の実態」 山本正昭（沖縄県立埋蔵文化財センター）  
現地研修：「ひめゆりの塔」その周辺、伊原第一外科壕、荒崎海岸一帯など「ひめゆり学徒関連戦跡巡り

(濱口 寿夫)

## II. 全国組織との関わり

### 1. 日本博物館協会

#### (1)評議会

- 期 日：2011年6月14日（火）  
場 所：商工会館（東京）  
参加者：千木良 芳範

#### (2)全国博物館館長会議

- 期 日：2011年6月15日（水）  
場 所：文部科学省講堂  
参加者：千木良 芳範

### 2. 全国科学博物館協議会

#### (1)第1回総会

- 期 日：2011年6月16日（木）  
場 所：国立科学博物館  
参加者：千木良 芳範

### 3. 九州博物館協議会

#### (1)総会

- 期 日：2011年5月26日（木）

場 所：長崎県立長崎歴史博物館

参加者：白保 台一

(2)研修会

期 日：2011年11月10日（木）～11日（金）

場 所：鹿児島県歴史資料センター黎明館

参加者：千木良 芳範、瑞慶覧 勝利、濱口 寿夫、幸地 なつみ

(瑞慶覧 勝利)

#### 4. 美術館連絡協議会

(1)総会

期 日：2011年10月27日(木)～28日(金)

場 所：リーガロイヤルホテル東京(東京都新宿区戸塚町)

参加者：瑞慶山 昇

(瑞慶山 昇)

### Ⅲ. 沖縄博物館友の会

沖縄博物館友の会は、「博物館の事業に積極的に参加、協力し、さらに会員相互の教養を高め、親睦をはかる」ことを目的として1980年（昭和55年）に発足した。本年度の会員の内訳は、普通会员223名、賛助会員4社、家族会員20家族（43名）となっております。

今年も博物館・美術館の諸事業に積極的に参加し、博物館ボランティア活動への支援、広く県民を対象とした文化講演会や会員を対象とした研修会の実施、博物館常設展示室への展示交流員配置事業を実施しております。友の会の更なる活発化をめざし会員への情報提供を進めています。

2011年度（平成23年度）の活動内容と事業内容は次のとおりです。

#### 【講演会】

##### ○沖縄博物館友の会 文化講演会

『謎からせまる おもろさうし』

日 時：2012年3月16日（金）

内 容：古代沖縄の歌謡集『おもろさうし』を、ユーモアを交えて分りやすく、沖縄芸術大学教授の波照間永吉先生の講話を実施した。

参加者：200名余

##### ○沖縄博物館友の会 文化講演会

『よみがえる 琉球芸能 江戸上り』

日 時：2012年2月17日（金）

内 容：160年前の時を越えスクリーンに蘇った沖縄の伝統芸能のルーツを目の当たりにし、さらに上里隆史先生の歴史講話を実施し、江戸時代の沖縄を学んだ。

参加者：250名余

##### ○沖縄博物館友の会 文化講座

『港川人を訪ねて！ 発掘遺跡に行こう』

日 時：2011年11月19日（土）

内 容：港川人が発見された八重瀬町の発掘現場を沖縄県立博物館・美術館の藤田祐樹学芸員（発掘隊員）を講師に沖縄から人類の歴史を学ぶ1日コースの見学会を実施した。

参加者：45名

#### 【民俗探訪】

##### ○『塩屋湾のウンガミ（海神祭）』見学会

日 時：2011年8月24日（水）

内 容：国の重要無形民俗文化財「塩屋湾のウンガミ」を見学。併せて塩屋湾周辺の地域の人々が祭りにもどのように関わり、500年の伝統を守ってきたかを学んだ。

参加者：45名

##### ○『屋部の八月踊り』見学会

日 時：2011年9月7日（水）

内 容：沖縄県指定無形民俗文化財の「屋部の八月踊り」を見学し、併せて屋部集落の史跡を巡り集落の歴史を垣間見、北部の歴史と文化を学んだ。

参加者：25名

#### 【県内研修】 グスクサークルとの共催

##### ○『グスク巡り』

日 時：2011年4月30日（土）

内 容：知念グスクと知名グスクを与儀達憲氏の解説で実施した。

### 【県外研修】

#### ○『九州の歴史を学ぶ旅』

日 時：2011年12月8日（木）～12月10日（土）

内 容：考古学に魅了・・・ロマンあふれる九州

元冠防塁、福岡市立埋蔵文化センター、九州国立博物館、吉野ヶ里遺跡、有田の街、鷹島埋蔵文化財センター・鷹島歴史民俗資料館、名護屋城博物館、唐津城等を考古担当の片桐千亜紀学芸員の解説で実施した。

参加者：17名

### 【国外研修】

#### ○『遊牧民の生活体験研修旅行』

日 時：2011年7月6日（水）～7月13日（水）

内 容：モンゴル博物館、恐竜博物館、恐竜化石遺跡、旅順博物館等を見学、中国・内モンゴル自治区における遊牧民の生活体験研修を王志英先生の案内で実施した。

参加者：17名

### 【交流員研修】

#### ○休館日を利用したの展示交流員館外研修

日 時：2011年6月13日（月）

内 容：1部 館内研修 『美しい姿勢で展示室でござよう』

“身体に効く♡・心に効く♪ 正しい（自分らしい）姿勢レッスン”を川本泰子先生の指導で実施した。

2部 館外研修 『史跡めぐり』

斎場御嶽・受水走水・ヤハラヅカサ・浜川御嶽等を会員の謝花良掌氏の解説で実施した。

参加者：33名

#### ○休館日を利用したの展示交流員研修

日 時：2011年12月26日（月）

内 容：1部 中央監視室のご協力を得て、展示室での防災非難誘導を学びました。

2部 「交流員のあり方について」のお互いの意見交換会をしました。

参加者：50名

### 【会員への情報提供】

#### ○博物館事業及び催し物の案内状発送

#### ○友の会事業の講演会・研修旅行・印刷物の案内及び文書発送

### 【サークル活動】

#### ○家譜サークル（毎月2回勉強会実施）

#### ○グスクサークル

#### ○辺境サークル

### 【博物館サポート】

#### ○博物館特別展・企画展のポスター・図録等の発送作業

#### ○博物館ボランティア活動の支援

#### ○博物館・美術館移動展へ参加

#### ○「ボランティア通信」の印刷・発送業務

#### ○博物館常設展示室展示交流員の配置業務

（友の会事務局）

#### IV. happ (特定非営利活動法人 沖縄県立美術館支援会 happ)

happ とは 2005 年(平成 17 年)に沖縄県立美術館の活躍をサポートする組織として誕生した。その年の 9 月には、特定非営利法人としての認証を受けている。Happ と、happy や happen の起源となるスカンジナビア語の「happ(幸福)」からきている。h=happiness(しあわせ)・happening(できごと)、a=art(アート)、p=people(人々)、p=place(場所)の意味を込めている。アートを身近に感じ、アートを創造するような活動を通して、それぞれの「happ=しあわせ」を見つけられる場所を作っていきたいと考え、主に美術館の教育普及活動をサポートしていく。

##### (1) 2012 年度 happ 主催事業

	事業名	事業内容	日時	開催場所	参加人数
1	展示交流員研修会	監視ボランティアの研修会	2011 年 8 月 29 日	ホテルロイヤルオリオン	28 名
2	ワーク・ショップ	キッズカメラマン体験教室	2011 年 10 月 15 日 12/3,12/4 (全 3 回)	エントランスホール 特設会場	160 名
3	ワーク・ショップ	似顔絵ワーク・ショップ	2011 年 10 月 15 日 10/16 (全 2 回)	エントランスホール	約 702 名
4	芸術文化発信事業	沖縄のアート情報 HP の運営	一年を通じて	Web にて	
5	美術講座	美術館とサポーター みんなで考える支援のかたち	2011 年 11 月 13 日 11/27,12/26,1/24,2/24 (全 5 回)	県民アトリエ、南風原町立南風原文化センター、那覇市立壺屋焼物博物館、浦添市美術館	62 名
6	ワーク・ショップ	粘土アニメワークショップ	2011 年 12 月 27 日	県民アトリエ	8 名
7	物品販売	ミュージアムショップ委託	2011.4~2012.3	ミュージアムショップ	
8	委託事業	展示交流員、展示監視業務	2011.4~2012.3	コレクションギャラリー	約 40 名
9	物品販売	2012 チャリティーアート in ゆいむい	2012 年 2 月 28 日~ 3 月 11 日	ミュージアムショップ	12 名 (作家)
10	委託事業	美術館催事チラシ制作	2011 年 6 月~2012 年 3 月	Happ 事務局にて	

##### (2) 共催事業

1	地域連携部会事業	HAKUBI 真夏の夜の夢 コンサート開催	2011 年 8 月 6 日	講堂	約 100 名
2	地域連携部会事業	アート de 博美まつり開催	2011 年 10 月 15 日 ~16 日	野外展示場・新都心 講演	約 2,000 名
3	地域連携部会事業	地域文化連続講座	①2011 年 5 月 14 日 ②7 月 2 日③7 月 30 日 ④8 月 24 日 ⑤2012 年 1 月 21 日 (全 5 回)	講堂	①約 50 名 ②約 25 名 ③約 40 名 ④約 40 名 ⑤約 30 名

# 関係法規抄録

- 博物館法
- 博物館法施行規則
- 沖縄県立教育機関組織規則（抄）
- 沖縄県立博物館・美術館の設置及び管理に関する条例
- 沖縄県立博物館・美術館管理規則
- 博物館・美術館学芸業務嘱託員設置規程
- 美術品調査嘱託員設置規程
- 沖縄県立博物館保管資料の利用に関する取扱要領
- 博物館法施行令
- 博物館の登録に関する規則
- 沖縄県立博物館・美術館館長職務規程
- 博物館・美術館教育普及業務嘱託員設置規程
- 美術品保存修復嘱託員設置規程

# 関係法規抄録

## ○博物館法

昭和 26 年 12 月 1 日 法律第 285 号  
〔最終改正〕平成 19 年 6 月 27 日 法律第 96 号

### 第 1 章 総 則

#### (この法律の目的)

第 1 条 この法律は、社会教育法（昭和 24 年法律第 207 号）の精神に基き、博物館の設置及び運営に関して必要な事項を定め、その健全な発達を図り、もつて国民の教育、学術及び文化の発展に寄与することを目的とする。

#### (定 義)

第 2 条 この法律において「博物館」とは、歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管（育成を含む。以下同じ。）し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせてこれらの資料に関する調査研究をすることを目的とする機関（社会教育法による公民館及び図書館法（昭和 25 年法律第 118 号）による図書館を除く。）のうち、地方公共団体、民法（明治 29 年法律第 89 号）第 34 条の法人、宗教法人又は政令で定めるその他の法人（独立行政法人通則法（平成 11 年法律第 103 号）第 2 条第 1 項に規定する独立行政法人をいう。第 29 条において同じ。）を除く。）が設置するもので第 2 章の規定による登録を受けたものをいう。

2 この法律において、「公立博物館」とは、地方公共団体の設置する博物館をいい、「私立博物館」とは、民法第 34 条の法人、宗教法人又は前項の政令で定める法人の設置する博物館をいう。

3 この法律において「博物館資料」とは、博物館が収集し、保管し、又は展示する資料をいう。

#### (博物館の事業)

第 3 条 博物館は、前条第 1 項に規定する目的を達成するため、おおむね左に掲げる事業を行う。

- (1) 実物、標本、模写、模型、文献、図表、写真、フィルム、レコード等の博物館資料を豊富に収集し、保管し、及び展示すること。
  - (2) 分館を設置し、又は博物館資料を当該博物館外で展示すること。
  - (3) 一般公衆に対して、博物館資料の利用に関し必要な説明、助言、指導等を行い、又は研究室、実験室、工作室、図書室等を設置してこれを利用させること。
  - (4) 博物館資料に関する専門的、技術的調査研究を行うこと。
  - (5) 博物館資料の保管及び展示等に関する技術的研究を行うこと。
  - (6) 博物館資料に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等を作成し、及び頒布すること。
  - (7) 博物館資料に関する講演会、講習会、映写会、研究会等を主催し、及びその開催を援助すること。
  - (8) 当該博物館の所在地又はその周辺にある文化財保護法（昭和 25 年法律第 214 号）の適用を受ける文化財について、解説書又は目録を作成する等一般公衆の当該文化財の利用の便を図ること。
  - (9) 他の博物館、博物館と同一の目的を有する国の施設等と緊密に連絡し、協力し、刊行物及び情報の交換、博物館資料の相互貸借等を行うこと。
  - (10) 学校、図書館、研究所、公民館等の教育、学術又は文化に関する諸施設と協力し、その活動を援助すること。
- 2 博物館は、その事業を行うに当たっては、土地の事情を考慮し、国民の実生活の向上に資し、更に学校教育を援助し得るようにも留意しなければならない。

#### (館長、学芸員その他の職員)

第 4 条 博物館に、館長を置く。

- 2 館長は、館務を掌理し、所属職員を監督して、博物館の任務の達成に努める。
- 3 博物館に、専門的職員として学芸員を置く。
- 4 学芸員は、博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項をつかさどる。
- 5 博物館に、館長及び学芸員のほか、学芸員補その他の職員を置くことができる。
- 6 学芸員補は、学芸員の職務を助ける。

#### (学芸員の資格)

第 5 条 次の各号の一に該当する者は、学芸員となる資格を有する。

- (1) 学士の学位を有する者で、大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位を修得したものの。
  - (2) 大学に 2 年以上在学し、前号の博物館に関する科目の単位を含めて 62 単位以上を修得した者で、3 年以上学芸員補の職にあつたものの。
  - (3) 文部科学省大臣が、文部科学省令で定めるところにより、前各号に掲げる者と同等以上の学力及び経験を有する者と認めた者。
- 2 前項第 2 号の学芸員補の職には、博物館の事業に類する事業を行う施設における職で、学芸員補の職に相当する職又はこれと同等以上の職として文部科学省大臣が指定するものを含むものとする。

#### (学芸員補の資格)

第 6 条 学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）第 90 条第 1 項の規定により大学に入学することのできる者は、学芸員補となる資格を有する。

第 7 条 削 除

#### (設置及び運営上望ましい基準)

第 8 条 文部科学大臣は、博物館の健全な発達を図るために、博物館の設置及び運営上望ましい基準を定め、これを教育委員会に提示するとともに一般公衆に対して示すものとする。

第 9 条 削 除

### 第 2 章 登 録

#### (登 録)

第 10 条 博物館を設置しようとする者は、当該博物館について、当該博物館の所在する都道府県の教育委員会に備える博物館登録原簿に登録を受けるものとする。

#### (登録の申請)

第11条 前条の規定による登録を受けようとする者は、設置しようとする博物館について、左に掲げる事項を記載した登録申請書を都道府県の教育委員会に提出しなければならない。

- (1) 設置者の名称及び私立博物館にあつては設置者の住所。
- (2) 名称。
- (3) 所在地。

2 前項の登録申請書には、左に掲げる書類を添付しなければならない。

- (1) 公立博物館にあつては、設置条例の写、館則の写、直接博物館の用に供する建物及び土地の面積を記載した書面及びその図面、当該年度における事業計画書及び予算の歳出の見積に関する書類、博物館資料の目録並びに館長及び学芸員の氏名を記載した書面。
- (2) 私立博物館にあつては、当該法人の定款若しくは寄附行為の写又は当該宗教法人の規則の写、館則の写、直接博物館の用に供する建物及び土地の面積を記載した書面及びその図面、当該年度における事業計画書及び収支の見積に関する書類、博物館資料の目録並びに館長及び学芸員の氏名を記載した書面。

#### (登録要件の審査)

第12条 都道府県の教育委員会は、前条の規定による登録の申請があつた場合においては、当該申請に係る博物館が左に掲げる要件を備えているかどうかを審査し、備えていると認めるときは、同条第1項各号に掲げる事項及び登録の年月日を博物館登録原簿に登録するとともに登録した旨を当該登録申請者に通知し、備えていないと認めるときは、登録しない旨をその理由を附記した書面で当該登録申請者に通知しなければならない。

- (1) 第2条第1項に規定する目的を達成するために必要な博物館資料があること。
- (2) 第2条第1項に規定する目的を達成するために必要な学芸員その他の職員を有すること。
- (3) 第2条第1項に規定する目的を達成するために必要な建物及び土地があること。
- (4) 1年を通じて150日以上開館すること。

#### (登録事項等の変更)

第13条 博物館の設置者は、第11条第1項各号に掲げる事項について変更があつたとき、又は同条第2項に規定する添付書類の記載事項について重要な変更があつたときは、その旨を都道府県の教育委員会に届け出なければならない。

2 都道府県の教育委員会は、第11条第1項各号に掲げる事項に変更があつたことを知つたときは、当該博物館に係る登録事項の変更登録をしなければならない。

#### (登録の取消)

第14条 都道府県の教育委員会は、博物館が第12条各号に掲げる要件を欠くに至つたものと認めるとき、又は虚偽の申請に基いて登録した事実を発見したときは、当該博物館に係る登録を取り消さなければならない。但し、博物館が天災その他やむを得ない事由により要件を欠くに至つた場合においては、その要件を欠くに至つた日から2年間はこの限りでない。

2 都道府県の教育委員会は、前項の規定により登録の取消をしたときは、当該博物館の設置者に対し、速やかにその旨を通知しなければならない。

#### (博物館の廃止)

第15条 博物館の設置者は、博物館を廃止したときは、すみやかにその旨を都道府県の教育委員会に届け出なければならない。

2 都道府県の教育委員会は、博物館の設置者が当該博物館を廃止したときは、当該博物館に係る登録をまつ消さなければならない。

#### (規則への委任)

第16条 この章に定めるものを除くほか、博物館の登録に関し必要な事項は、都道府県の教育委員会の規則で定める。

第17条 削除

### 第3章 公立博物館

#### (設置)

第18条 公立博物館の設置に関する事項は、当該博物館を設置する地方公共団体の条例で定めなければならない。

#### (所管)

第19条 公立博物館は、当該博物館を設置する地方公共団体の教育委員会の所管に属する。

#### (博物館協議会)

第20条 公立博物館に、博物館協議会を置くことができる。

2 博物館協議会は、博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関とする。

第21条 博物館協議会の委員は、学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者の中から、当該博物館を設置する地方公共団体の教育委員会が任命する。

第22条 博物館協議会の設置、その委員の定数及び任期その他博物館協議会に関し必要な事項は、当該博物館を設置する地方公共団体の条例で定めなければならない。

#### (入館料等)

第23条 公立博物館は、入館料その他博物館資料の利用に対する対価を徴収してはならない。但し、博物館の維持運営のためにやむを得ない事情のある場合は、必要な対価を徴収することができる。

#### (博物館の補助)

第24条 国は、博物館を設置する地方公共団体に対し、予算の範囲内において、博物館の施設、設備に要する経費その他必要な経費の一部を補助することができる。

2 前項の補助金の交付に関し必要な事項は、政令で定める。

第25条 削除

#### (補助金の交付中止及び補助金の返還)

第26条 国は、博物館を設置する地方公共団体に対し第24条の規定による補助金の交付をした場合において、左の各号の一に該当するときは、当該年度におけるその後の補助金の交付をやめるとともに、第1号の場合の取消が虚偽の申請に基いて登録した事実の発見に因るものである場合には、既に交付した補助金を、第3号及び第4号に該当する場合には、既に交付した当該年度の補助金を返還させなければならない。

- (1) 当該博物館について、第14条の規定による登録の取消があつたとき。
- (2) 地方公共団体が当該博物館を廃止したとき。

- (3) 地方公共団体が補助金の交付の条件に違反したとき。
- (4) 地方公共団体が虚偽の方法で補助金の交付を受けたとき。

## 第4章 私立博物館

### (都道府県の教育委員会との関係)

第27条 都道府県の教育委員会は、博物館に関する指導資料の作成及び調査研究のために、私立博物館に対し必要な報告を求めることができる。

- 2 都道府県の教育委員会は、私立博物館に対し、その求めに応じて、私立博物館の設置及び運営に関して、専門的、技術的の指導又は助言を与えることができる。

### (国及び地方公共団体との関係)

第28条 国及び地方公共団体は、私立博物館に対し、その求めに応じて、必要な物資の確保につき援助を与えることができる。

## 第5章 雑則

### (博物館に相当する施設)

第29条 博物館の事業に類する事業を行う施設で、国又は独立行政法人が設置する施設にあつては文部科学大臣が、その他の施設にあつては当該施設の所在する都道府県の教育委員会が、文部科学省令で定めるところにより、博物館に相当する施設として指定したものについては、第27条第2項の規定を準用する。

### 附則 (平成19年6月27日法律第96号) 抄

#### (施行期日)

第1条 この法律は、公布の日から起算して6月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

## ○博物館法施行令

昭和27年3月20日 政令第47号

[最近改正] 昭和34年4月30日政令第157号

### (政令で定める法人)

第1条 博物館法（以下「法」という。）第2条第1項の政令で定める法人は、次に掲げるものとする。

- 1 日本赤十字社。
- 2 日本放送協会。

### (施設、設備に要する経費の範囲)

第2条 法第24条第1項に規定する博物館の施設、設備に要する経費の範囲は、次に掲げるものとする。

- 1 施設費 施設の建築に要する本工事費、附帯工事費及び事務費。
- 2 設備費 博物館に備えつける博物館資料及びその利用のための器材器具の購入に要する経費。

### 附則

この政令は、公布の日から施行する。

## ○博物館法施行規則

昭和30年10月4日 文部省令第24号

[最終改正] 平成24年6月29日 文部科学省令第24号

## 第1章 博物館に関する科目の単位

### (博物館に関する科目の単位)

第1条 博物館法（昭和26年法律第285号。以下「法」という。）第5条第1項第1号に規定する博物館に関する科目の単位は、次の表に掲げるものとする。

科目	単位数
生涯学習概論	2
博物館概論	2
博物館経営論	2
博物館資料論	2
博物館資料保存論	2
博物館展示論	2
博物館教育論	2
博物館情報・メディア論	2
博物館実習	3

- 2 博物館に関する科目の単位のうち、すでに大学において修得した科目の単位又は第6条第3項に規定する試験科目について合格点を得ている科目は、これをもって、前項の規定により修得すべき科目の単位に替えることができる。

### (博物館実習)

第2条 前条に掲げる博物館実習は、博物館（法第2条第1項に規定する博物館をいう。以下同じ。）又は法第29条の規定に基づき文部科学大臣若しくは都道府県の教育委員会の指定した博物館に相当する施設（大学においてこれに準ずると認められた施設を含む。）における実習により修得するものとする。

- 2 博物館実習には、大学における博物館実習に係る事前及び事後の指導を含むものとする。

## 第2章 学芸員の資格認定

### (資格認定)

第3条 法第5条第1項第3号の規定により学芸員となる資格を有する者と同等以上の学力及び経験を有する者と認められる者は、この章に定める試験認定又は審査認定（以下「資格認定」という。）の合格者とする。

### (資格認定の施行期日等)

第4条 資格認定は、毎年少なくとも各1回、文部科学大臣が行う。

2 資格認定の施行期日、場所及び出願の期限等は、あらかじめ、官報で公告する。ただし、特別の事情がある場合には、適宜な方法によって公示するものとする。

**(試験認定の受験資格)**

第5条 次の各号のいずれかに該当する者は、試験認定を受けることができる。

- (1) 学士の学位を有する者
- (2) 大学に2年以上在学して62単位以上を修得した者で2年以上学芸員補の職(法第5条第2項に規定する職を含む。以下同じ。)にあつた者
- (3) 教育職員免許法(昭和24年法律第147号)第2条第1項に規定する教育職員の普通免許状を有し、2年以上教育職員の職にあつた者
- (4) 4年以上学芸員補の職にあつた者
- (5) その他文部科学大臣が前各号に掲げる者と同等以上の資格を有すると認めた者

**(試験認定の方法及び試験科目)**

第6条 試験認定は、大学卒業の程度において、筆記の方法により行う。

2 試験認定は、2回以上にわたり、それぞれ1以上の試験科目について受けることができる。

3 試験科目は、次表に定めるとおりとする。

試験科目	試験認定の必要科目	
必須科目	生涯学習概論	上記科目の全科目
	博物館概論	
	博物館経営論	
	博物館資料論	
	博物館資料保存論	
	博物館展示論	
	博物館教育論	
	博物館情報・メディア論	
選択科目	文化史	上記科目のうちから受験者の選択する2科目
	美術史	
	考古学	
	民俗学	
	自然科学史	
	物理	
	化学	
	生物学	
	地学	

**(試験科目の免除)**

第7条 大学において前条に規定する試験科目に相当する科目の単位を修得した者又は文部科学大臣が別に定めるところにより前条に規定する試験科目に相当する学修を修了した者に対しては、その願い出により、当該科目についての試験を免除する。

第8条 削除

**(審査認定の受験資格)**

第9条 次の各号のいずれかに該当する者は、審査認定を受けることができる。

- (1) 学位規則(昭和28年文部省令第9号)による修士若しくは博士の学位又は専門職学位を有する者であつて、2年以上学芸員補の職にあつた者
- (2) 大学において博物館に関する科目(生涯学習概論を除く。)に関し2年以上教授、准教授、助教又は講師の職にあつた者であつて、2年以上学芸員補の職にあつた者
- (3) 次のいずれかに該当する者であつて、都道府県の教育委員会の推薦する者
  - イ 学士の学位を有する者であつて、4年以上学芸員補の職にあつた者
  - ロ 大学に2年以上在学し、62単位以上を修得した者であつて、6年以上学芸員補の職にあつた者
  - ハ 学校教育法(昭和22年法律第26号)第90条第1項の規定により大学に入学することのできる者であつて、8年以上学芸員補の職にあつた者
  - ニ その他11年以上学芸員補の職にあつた者
- (4) その他文部科学大臣が前各号に掲げる者と同等以上の資格を有すると認めた者

**(審査認定の方法)**

第10条 審査認定は、次条の規定により願い出た者について、博物館に関する学識及び業績を審査して行うものとする。

**(受験の手続)**

第11条 資格認定を受けようとする者は、受験願書(別記第1号様式により作成したもの)に次に掲げる書類等を添えて、文部科学大臣に願い出なければならない。この場合において、住民基本台帳法(昭和42年法律第81号)第30条の7第3項の規定により同法第30条の5第1項に規定する本人確認情報の提供を受けて文部科学大臣が資格認定を受けようとする者の氏名、生年月日及び住所を確認することができるときは、第3号に掲げる住民票の写しを添付することを要しない。

- (1) 受験資格を証明する書類
  - (2) 履歴書(別記第2号様式により作成したもの)
  - (3) 戸籍抄本又は住民票の写し(いずれも出願前6月以内に交付を受けたもの)
  - (4) 写真(出願前6月以内に撮影した無帽かつ正面上半身のもの)
- 2 前項に掲げる書類は、やむを得ない事由があると文部科学大臣が特に認めた場合においては、他の証明書をもつて代えることができる。
- 3 第7条の規定に基づき試験認定の試験科目の免除を願い出る者については、その免除を受ける資格を証明する書類を提出しな

ればならない。

- 4 審査認定を願ひ出る者については、第1項各号に掲げるもののほか、次に掲げる資料又は書類を提出しなければならない。
  - (1) 第9条第1号又は同条第2号により出願する者にあつては、博物館に関する著書、論文、報告等
  - (2) 第9条第3号により出願する者にあつては、博物館に関する著書、論文、報告等又は博物館に関する顕著な実績を証明する書類
  - (3) 第9条第4号により出願する者にあつては、前2号に準ずる資料又は書類

**(試験認定合格者)**

第12条 試験科目（試験科目の免除を受けた者については、その免除を受けた科目を除く。）の全部について合格点を得た者（試験科目の全部について試験の免除を受けた者を含む。以下「筆記試験合格者」という。）であつて、1年間学芸員補の職にあつた後に文部科学大臣が認定した者を試験認定合格者とする。

- 2 筆記試験合格者が試験認定合格者になるためには、試験認定合格申請書（別記第3号様式によるもの）を文部科学大臣に提出しなければならない。

**(審査認定合格者)**

第13条 第10条の規定による審査に合格した者を審査認定合格者とする。

**(合格証書の授与等)**

第14条 試験認定合格者及び審査認定合格者に対しては、合格証書（別記第4号様式によるもの）を授与する。

- 2 筆記試験合格者に対しては、筆記試験合格証書（別記第5号様式によるもの）を授与する。
- 3 合格証書を有する者が、その氏名を変更し、又は合格証書を破損し、若しくは紛失した場合において、その事由をしるして願ひ出たときは、合格証書を書き換え又は再交付する。

**(合格証明書の交付等)**

第15条 試験認定合格者又は審査認定合格者が、その合格の証明を願ひ出たときは、合格証明書（別記第6号様式によるもの）を交付する。

- 2 筆記試験合格者が、その合格の証明を申請したときは、筆記試験合格証明書（別記第7号様式によるもの）を交付する。
- 3 1以上の試験科目について合格点を得た者（筆記試験合格者を除く。次条及び第17条において「筆記試験科目合格者」という。）がその科目合格の証明を願ひ出たときは、筆記試験科目合格証明書（別記第8号様式によるもの）を交付する。。

**(手数料)**

第16条 次表の上欄に掲げる者は、それぞれその下欄に掲げる額の手数料を納付しなければならない。

上欄	下欄
1 試験認定を願ひ出る者	一科目につき 1,300円
2 審査認定を願ひ出る者	3,800円
3 試験認定の試験科目の全部について免除を願ひ出る者	800円
4 合格証書の書換え又は再交付を願ひ出る者	700円
5 合格証明書の交付を願ひ出る者	700円
6 筆記試験合格証明書の交付を願ひ出る者	700円
7 筆記試験科目合格証明書の交付を願ひ出る者	700円

- 2 前項の規定によつて納付すべき手数料は、収入印紙を用い、収入印紙は、各願書にはるものとする。ただし、行政手続等における情報通信の技術の利用に関する法律（平成14年法律第151号）第3条第1項の規定により申請等を行った場合は、当該申請等により得られた納付情報により手数料を納付しなければならない。
- 3 納付した手数料は、これを返還しない。

**(不正の行為を行った者等に対する処分)**

第17条 虚偽若しくは不正の方法により資格認定を受け、又は資格認定を受けるにあたり不正の行為を行った者に対しては、受験を停止し、既に受けた資格認定の成績を無効にするとともに、期間を定めてその後の資格認定を受けさせないことができる。

- 2 試験認定合格者、審査認定合格者、筆記試験合格者又は筆記試験科目合格者について前項の事実があつたことが明らかになつたときは、その合格を無効にするとともに、既に授与し、又は交付した合格証書その他当該合格を証明する書類を取り上げ、かつ、期間を定めてその後の資格認定を受けさせないことができる。
- 3 前2項の処分をしたときは、処分を受けた者の氏名及び住所を官報に公告する。

### 第3章 博物館協議会の委員の任命の基準を条例で定めるに当たつて参酌すべき基準

第18条 法第22条の文部科学省令で定める基準は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から任命することとする。

### 第4章 博物館に相当する施設の指定

**(申請の手続)**

第19条 法第29条の規定により博物館に相当する施設として文部科学大臣又は都道府県の教育委員会の指定を受けようとする場合は、博物館相当施設指定申請書（別記第9号様式により作成したもの）に次に掲げる書類等を添えて、国立の施設にあつては当該施設の長が、独立行政法人（独立行政法人通則法（平成11年法律第103号）第2条第1項に規定する独立行政法人をいう。第21条において同じ。）が設置する施設にあつては当該独立行政法人の長が文部科学大臣に、都道府県立の施設にあつては当該施設の長（大学に附属する施設にあつては当該大学の長）が、その他の施設にあつては当該施設を設置する者（大学に附属する施設にあつては当該大学の長）が当該施設の所在する都道府県の教育委員会に、それぞれ提出しなければならない。

- (1) 当該施設の有する資料の目録
- (2) 直接当該施設の用に供する建物及び土地の面積を記載した書面及び図面
- (3) 当該年度における事業計画書及び予算の収支の見積に関する書類
- (4) 当該施設の長及び学芸員に相当する職員の氏名を記載した書類。

**(指定要件の審査)**

第20条 文部科学大臣又は都道府県の教育委員会は、博物館に相当する施設として指定しようとするときは、申請に係る施設が、次の各号に掲げる要件を備えているかどうかを審査するものとする。

- (1) 博物館の事業に類する事業を達成するために必要な資料を整備していること。
- (2) 博物館の事業に類する事業を達成するために必要な専用の施設及び設備を有すること。
- (3) 学芸員に相当する職員がいること。
- (4) 一般公衆の利用のために当該施設及び設備を公開すること。
- (5) 1年を通じて100日以上開館すること。

2 前項に規定する指定の審査に当たっては、必要に応じて当該施設の実地について審査するものとする。

第21条 文部科学大臣又は都道府県の教育委員会の指定する博物館に相当する施設（以下「博物館相当施設」という。）が第20条第1項に規定する要件を欠くに至ったときは、直ちにその旨を、国立の施設にあつては当該施設の長が、独立行政法人が設置する施設にあつては当該独立行政法人の長が文部科学大臣に、都道府県立の施設にあつては当該施設の長（大学に附属する施設にあつては当該大学の長）が、その他の施設にあつては当該施設を設置する者（大学に附属する施設にあつては当該大学の長）が当該施設の所在する都道府県の教育委員会に、それぞれ報告しなければならない。

第22条 削除

第23条 文部科学大臣又は都道府県の教育委員会は、その指定した博物館相当施設に対し、第20条第1項に規定する要件に関し、必要な報告を求めることができる。

**（指定の取消）**

第24条 文部科学大臣又は都道府県の教育委員会は、その指定した博物館相当施設が第20条第1項に規定する要件を欠くに至つたものと認めたとき、又は虚偽の申請に基いて指定した事実を発見したときは、当該指定を取り消すものとする。

## 第5章 雑則

**（学士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められる者）**

第25条 第5条第1号及び第9条第3号イに規定する学士の学位を有する者には、次に掲げる者を含むものとする。

- (1) 旧大学令（大正7年勅令第388号）による学士の称号を有する者
- (2) 学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第155条第1項第2号から第8号までのいずれかに該当する者

**（短期大学士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められる者）**

第26条 第5条第2号及び第9条第3号ロに規定する大学に2年以上在学し、62単位以上を修得した者には、次に掲げる者を含むものとする。

- (1) 旧大学令、旧高等学校令（大正7年勅令第389号）、旧専門学校令（明治36年勅令第61号）又は旧教員養成諸学校官制（昭和21年勅令第208号）の規定による大学予科、高等学校高等科、専門学校又は教員養成諸学校を修了し、又は卒業した者
- (2) 学校教育法施行規則第155条第2項各号のいずれかに該当する者

**（修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められる者）**

第27条 第9条第1号に規定する修士の学位を有する者には、学校教育法施行規則第156条各号のいずれかに該当する者を含むものとする。

**（博士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められる者）**

第28条 第9条第1号に規定する博士の学位を有する者には、次に掲げる者を含むものとする。

- (1) 旧学位令（大正9年勅令第200号）による博士の称号を有する者
- (2) 外国において博士の学位に相当する学位を授与された者

**（専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められる者）**

第29条 第9条第1号に規定する専門職学位を有する者には、外国において専門職学位に相当する学位を授与された者を含むものとする。

**附 則（平成24年6月29日文科科学省令第24号）**

**（施行期日）**

1 この省令は、住民基本台帳法の一部を改正する法律（平成21年法律第77号）の一部及び出入国管理及び難民認定法及び日本国との平和条約に基づき日本の国籍を離脱した者等の出入国管理に関する特例法の一部を改正する等の法律（平成21年法律第79号）の施行の日（平成24年7月9日）から施行する。

**（経過措置）**

2 この省令の施行の日から起算して6月を経過する日までの間における改正後の博物館法施行規則第11条第1項第3号の規定の適用については、同号中「住民票の写し」とあるのは、「住民票の写し（日本の国籍を有しない者にあつては、住民票の写し又は出入国管理及び難民認定法及び日本国との平和条約に基づき日本の国籍を離脱した者等の出入国管理に関する特例法の一部を改正する等の法律第4条の規定による廃止前の外国人登録法（昭和27年法律第125号）に規定する登録原票の写し若しくは登録原票記載事項証明書）」とする。

## ○博物館の登録に関する規則

昭和50年5月8日 教育委員会規則第5号  
〔最終改正〕平成6年3月31日 教育委員会規則第2号

**（趣旨）**

第1条 この規則は、博物館法（昭和26年法律第285号。以下「法」という。）第16条の規定に基づき博物館の登録に関し、必要な事項を定めるものとする。

**（登録原簿等の様式）**

第2条 法第10条、第11条第1項及び第11条第2項に規定する登録原簿等の名称及び様式は、次の表に掲げるとおりとする。

根拠条項	名称	様式
法第10条	博物館登録原簿	第1号様式
法第11条第1項	博物館登録申請書	第2号様式
法第11条第2項	博物館資料目録	第3号様式

**（博物館登録申請書の添付書類）**

第3条 博物館登録申請書には、法第11条第2項に規定する書類のほか、職員名簿（第4号様式）を添付するものとする。

**(登録要件の審査)**

第4条 法第12条の規定による登録要件の審査及び法第14条第1項の規定による登録の取消しを県教育委員会が行う場合は、当該博物館に対し、必要な資料を求め実地調査及び学識経験者の意見を聴くことができる。

**(登録事項等の変更)**

第5条 法第13条第1項の規定による変更の届出は、そのつど博物館登録事項等変更届出書（第5号様式）によつて行うものとする。ただし、博物館資料目録の軽微な変更については、毎年3月末日に届け出るものとする。

**(博物館の廃止)**

第6条 法第15条の規定による博物館の廃止の届出は、博物館廃止届（第6号様式）により行うものとする。

**(公示)**

第7条 県教育委員会は、博物館の登録若しくは登録事項等の変更があつたとき、又は登録の取消し若しくはまつ消を行つたときは、その旨を沖縄県公報により公示するものとする。

**附 則**

**(平成6年3月31日教育委員会規則第2号)**

この規則は、平成6年4月1日から施行する。

第1号様式  
(第2条関係)

第2号様式  
(第2条関係)

博物館登録申請書

No. \_\_\_\_\_

博物館登録原簿

備考	所在地	名称	※の設置者 の名称及 住所	事項	
				登録 年月日	登録 年月日
				登録 年月日	登録 年月日
				登録 年月日	登録 年月日
				登録 年月日	登録 年月日

(※公立の場合は設置者の名称のみ記入)

文書番号  
年月日

沖縄県教育委員会 殿

申請者 氏名 印

博物館法第11条第1項の規定により、下記施設を博物館として登録されるよう別添関係書類等を添えて申請します。

記

設置者の名称

私立博物館設置者の住所

名称

所在地

備考 この申請書には、次の書類を添付すること。

- (1) 公立博物館にあつては設置条例の写し、私立博物館にあつては、法人の定款若しくは寄附行為の写し又は宗教法人の規則の写し
- (2) 館則の写し
- (3) 直接博物館の用に供する建物及び面積を記載した書面並びにその図面
- (4) 当該年度における事業計画書及び公立博物館にあつては予算の歳出の見積もり、私立博物館にあつては収支の見積もりに関する書類
- (5) 博物館資料の目録並びに館長の氏名及び学芸員の種類ごとの氏名を記載した書面
- (6) 学芸員は、その資格を有することを証するにたる書類



第5号様式  
(第5条関係)

博物館登録事項変更届出書

文 書 番 号  
年 月 日

沖縄県教育委員会 殿

施 設 名  
届出者氏名

印

博物館法第13条第1項の規定により、下記のとおり変更届を提出します。

記

変 更 年 月 日	年 月 日
変 更 の 理 由	
変 更 事 項 の 種 類	
変更事項の内容	旧
	新

第6号様式  
(第6条関係)

博物館廃止届

文 書 番 号  
年 月 日

沖縄県教育委員会 殿

施 設 名  
届出者氏名

印

博物館法第15条第1項の規定により、下記のとおり届けます。

記

廃 止 年 月 日	年 月 日
廃 止 し た 理 由	
廃 止 後 の 財 産 処 分	
その他参考となるべき事項	

**（趣 旨）**

第 1 条 この規則は、沖縄県立教育機関設置条例（昭和 47 年沖縄県条例第 24 号）及び沖縄県立博物館・美術館の設置及び管理に関する条例（平成 18 年沖縄県条例第 72 号）に規定する教育機関の組織及び分掌事務その他必要な事項を定めるものとする。

**（博物館・美術館）**

第 4 条 沖縄県立博物館・美術館（以下「博物館・美術館」という。）に、次の班を置く。

博物館班

美術館班

2 博物館・美術館の所掌事務は、次のとおりとする。

博物館班

- (1) 博物館・美術館の博物館施設に係る資料（以下「博物館資料」という。）の収集、保管及び展示に関すること。
- (2) 博物館資料の利用に関すること。
- (3) 博物館施設及びその他施設の利用に関すること。
- (4) 博物館資料の調査研究に関すること。
- (5) 博物館資料の目録、図録、案内書、解説書、調査研究報告書等の作成及び頒布に関すること。
- (6) 博物館資料についての講演会、講習会、映写会、研究会等の開催に関すること。
- (7) 他の博物館等との相互協力に関すること（美術館班が分掌して処理することが適当であると認められるものを除く。）。
- (8) 教育、学術又は文化に関する施設への協力及びその活動の支援に関すること（美術館班が分掌して処理することが適当であると認められるものを除く。）。
- (9) 予算、決算その他会計事務に関すること。
- (10) 公印の管守に関すること。
- (11) 職員の服務及び福利厚生に関すること。
- (12) 博物館・美術館協議会に関すること。
- (13) 指定管理者との連絡調整に関すること。
- (14) 他班の所掌に属さない事務に関すること。

美術館班

- (1) 博物館・美術館の美術館施設に係る資料（以下「美術館資料」という。）の収集、保管及び展示に関すること。
- (2) 美術館資料の利用に関すること。
- (3) 美術館施設の利用に関すること。
- (4) 美術館資料の調査研究に関すること。
- (5) 美術館資料の目録、図録、案内書、解説書、調査研究報告書等の作成及び頒布に関すること。
- (6) 美術館資料についての講演会、講習会、映写会、研究会等の開催に関すること。
- (7) 他の博物館等との相互協力に関すること（美術館班が分掌して処理することが適当であると認められるものに限る。）。
- (8) 教育、学術又は文化に関する施設への協力及びその活動の支援に関すること（美術館班が分掌して処理することが適当であると認められるものに限る。）。

**（職制等）**

第 7 条 総合教育センター、図書館、博物館・美術館、埋蔵文化財センター、青年の家及び少年自然の家（以下「教育機関」という。）に、所長又は館長（以下「所長等」という。）を置く。

2 所長等は、上司の命を受け、当該教育機関が所掌する事務を掌理する。

第 9 条 総合教育センター、図書館、博物館・美術館及び埋蔵文化財センターに、副所長又は副館長（以下「副所長等」という。）を置く。

2 副所長等は、上司の命を受け、所長等を補佐し、当該教育機関の事務を整理する。

第 9 条の 2 博物館・美術館の班に、班長を置く。

2 班長は、上司の命を受け、班の分掌事務を処理する。

第 12 条 図書館及び博物館・美術館に、特に必要があるときは、副参事を置くことができる。

2 副参事は、上司の命を受け、特定重要事項を処理する。

第 12 条の 3 図書館、博物館・美術館及び埋蔵文化財センターに、特に必要があるときは、主任専門員を置くことができる。

2 主任専門員は、上司の命を受け、専門的事務を処理する。

第 13 条 博物館・美術館に、特に必要のあるときは、主任学芸員を置くことができる。

2 主任学芸員は、上司の命を受け、博物館・美術館の専門的事務を処理する。

○沖縄県立博物館・美術館の設置及び管理に関する条例

平成 18 年 12 月 27 日 条例第 72 号

**（設 置）**

第 1 条 歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料（以下「博物館・美術館資料」という。）を収集し、保管し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせて博物館・美術館資料に関する調査研究を行うため、博物館法（昭和 26 年法律第 285 号）第 2 条第 1 項に規定する博物館として沖縄県立博物館・美術館（以下「博物館・美術館」という。）を設置する。

**（位置及び施設）**

第 2 条 博物館・美術館の位置は、那覇市おもろまち 3 丁目 1 番 1 号とする。

2 博物館・美術館は、次に掲げる施設をもって構成する。

- (1) 博物館施設
- (2) 美術館施設
- (3) その他施設

## (事業)

第3条 博物館・美術館は、次に掲げる事業を行う。

- (1) 博物館・美術館資料の収集、保管及び展示に関すること。
- (2) 博物館・美術館資料の利用に関すること。
- (3) 博物館・美術館の施設の利用に関すること。
- (4) 博物館・美術館資料の調査研究に関すること。
- (5) 博物館・美術館資料の目録、図録、案内書、解説書、調査研究報告書等の作成及び頒布に関すること。
- (6) 博物館・美術館資料についての講演会、講習会、映写会、研究会等の開催に関すること。
- (7) 他の博物館等との相互協力に関すること。
- (8) 教育、学術又は文化に関する施設への協力及びその活動の支援に関すること。
- (9) 前各号に掲げるもののほか、博物館・美術館の設置の目的を達成するために必要な事業に関すること。

## (博物館・美術館の管理)

第4条 博物館・美術館の管理は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第244条の2第3項の規定により、法人その他の団体であつて教育委員会が指定するもの（以下「指定管理者」という。）に行わせるものとする。

## (指定管理者の業務)

第5条 指定管理者は、次に掲げる業務を行うものとする。

- (1) 博物館・美術館の設置の目的を達成するために教育委員会が必要と認める事業の実施に関する業務
- (2) 第11条の規定による観覧料の収受に関する業務、第12条の規定による観覧料の減免に関する業務、第13条ただし書の規定による観覧料の返還に関する業務その他の観覧料の収受に関する業務
- (3) 第14条の規定による利用の許可に関する業務、第17条の規定による利用の許可の取消し等に関する業務、第18条第2項の規定による原状回復命令に関する業務その他の利用の許可に関する業務
- (4) 第19条及び同条第3項において準用する第11条第5項から第7項までの規定による利用料金の収受に関する業務、第19条第3項において準用する第12条の規定による利用料金の減免に関する業務、第19条第3項において準用する第13条ただし書の規定による利用料金の返還に関する業務その他の利用料金の収受に関する業務
- (5) 博物館・美術館の施設及び附属設備の維持及び修繕に関する業務
- (6) 前各号に掲げるもののほか、博物館・美術館の管理運営に関して、教育委員会が必要と認める業務

## (指定管理者の指定の申請)

第6条 第4条の規定による指定を受けようとするものは、教育委員会規則で定める申請書に事業計画書その他教育委員会規則で定める書類（以下「事業計画書等」という。）を添えて、教育委員会に提出しなければならない。

## (指定管理者の指定)

第7条 教育委員会は、前条の規定による申請があつたときは、次に掲げる基準により審査し、最も適切に博物館・美術館の管理を行うことができると認めるものを候補者として選定し、議会の議決を経て指定管理者を指定するものとする。

- (1) 事業計画書等の内容が、県民の公平な利用を確保できるものであること。
- (2) 事業計画書等の内容が、博物館・美術館の効用を最大限に発揮させるものであるとともに、効率的な管理がなされるものであること。
- (3) 事業計画書に沿った管理を安定して行う物的及び人的能力を有するものであること。
- (4) 前3号に掲げるもののほか、博物館・美術館の設置の目的を達成するために十分な能力を有するものであること。

## (指定管理者の指定等の告示)

第8条 教育委員会は、前条の規定により、指定管理者を指定したときは、その旨を告示しなければならない。

2 前項の規定は、地方自治法第244条の2第11項の規定により、指定管理者の指定を取り消し、又は期間を定めて管理の業務の全部若しくは一部の停止を命じた場合に準用する。

## (休館日)

第9条 博物館・美術館の休館日は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 月曜日
- (2) 12月29日から翌年の1月3日までの日
- 2 前項第1号に規定する休館日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日又は沖縄県慰霊の日を定める条例（昭和49年沖縄県条例第42号）第2条に規定する慰霊の日に当たるときは、その日の後日において最も近い休館日でない日をもって、これに替えるものとする。
- 3 前2項の規定にかかわらず、指定管理者は、必要があると認めるときは、教育委員会の承認を得て、臨時に休館日に開館し、又は休館日以外の日に休館することができる。

## (開館時間)

第10条 博物館・美術館の開館時間は、午前9時から午後6時（金曜日及び土曜日にあつては、午後8時）までとする。

2 前項の規定にかかわらず、指定管理者は、必要があると認めるときは、教育委員会の承認を得て、開館時間を臨時に変更することができる。

## (観覧料)

第11条 常設展、企画展又は特別展を観覧しようとする者は、観覧料を指定管理者に納めなければならない。

2 常設展を観覧しようとする場合の観覧料は、別表第1に定める基準額に100分の70を乗じて得た額から当該基準額に100分の130を乗じて得た額までの範囲内で、指定管理者が定めるものとする。

3 企画展又は特別展を観覧しようとする場合の観覧料は、3,000円を超えない範囲内で、その都度指定管理者が定めるものとする。

4 前2項の規定にかかわらず、1年間を通して常設展、企画展又は特別展を観覧しようとする場合の観覧料は、別表第2に定める基準額に100分の70を乗じて得た額から当該基準額に100分の130を乗じて得た額までの範囲内で、指定管理者が定めるものとする。

5 指定管理者は、第2項から前項までの規定により、観覧料を定めようとするときは、あらかじめ教育委員会の承認を受けなければならない。観覧料を変更しようとするときも、同様とする。

6 教育委員会は、前項の承認をしたときは、これを告示するものとする。

7 観覧料は、指定管理者の収入とする。

## (観覧料の減免)

第12条 指定管理者は、公益上その他特別の理由があると認めるときは、観覧料を減額し、又は免除することができる。

2 前項の規定にかかわらず、指定管理者は、教育委員会規則で定める場合は、教育委員会規則で定めるところにより、観覧料を減額し、又は免除するものとする。

#### (観覧料の返還)

第13条 既に納付した観覧料は、返還しない。ただし、必要があると認められる場合は、指定管理者は、その全部又は一部を返還することができる。

#### (利用の許可)

第14条 別表第3に掲げる博物館・美術館の施設又は附属設備（以下「施設等」という。）を利用しようとする者は、あらかじめ指定管理者の許可を受けなければならない。許可を受けた者（以下「利用者」という。）が許可を受けた事項を変更しようとするときも、同様とする。

2 指定管理者は、博物館・美術館の管理上必要があると認めるときは、前項の許可をするに当たり、条件を付することができる。

3 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当するときは、第1項の許可をしないことができる。

- (1) 公の秩序を乱し、又は善良な風俗を害するおそれがあると認められるとき。
- (2) 公益を害するおそれがあると認められるとき。
- (3) 施設等を汚損し、損傷し、又は滅失するおそれがあると認められるとき。
- (4) 前3号に掲げるもののほか、施設等の管理上支障があると認められるとき。

#### (利用期間)

第15条 施設等を引き続いて利用することができる期間は、教育委員会規則で施設等ごとに定める日数以内とする。ただし、指定管理者が特別の理由があると認めるときは、教育委員会規則で定めるところにより、当該期間を変更することができる。

#### (権利の譲渡等の禁止)

第16条 利用者は、施設等を利用する権利を譲渡し、又は転貸してはならない。

#### (許可の取消し等)

第17条 指定管理者は、利用者が次の各号のいずれかに該当するときは、第14条第1項の許可を取り消し、又は施設等の利用を制限し、若しくはその停止を命ずることができる。

- (1) この条例若しくはこの条例に基づく規則又はこれらに基づく指示に違反したとき。
- (2) 偽りその他不正な手段により許可を受けたとき。
- (3) 許可に付した条件に違反したとき。
- (4) 第14条第3項各号のいずれかに該当するに至ったとき。

#### (原状回復の義務)

第18条 利用者は、施設等の利用を終えたとき、又は前条各号のいずれかの規定に該当することにより利用の許可を取り消されたときは、速やかに施設等を原状に回復しなければならない。

2 指定管理者は、利用者が前項の義務を履行しないときは、その原状回復に必要な措置をとるべきことを命ずることができる。

#### (利用料金)

第19条 利用者は、施設等の利用に係る料金（以下「利用料金」という。）を指定管理者に納めなければならない。

2 利用料金は、別表第3に定める基準額に100分の70を乗じて得た額から当該基準額に100分の130を乗じて得た額までの範囲内で、指定管理者が定めるものとする。

3 第11条第5項から第7項まで、第12条及び第13条の規定は、利用料金について準用する。

#### (事業報告書の提出)

第20条 指定管理者は、毎年度終了後30日以内に、教育委員会規則で定めるところにより、事業報告書を作成し、教育委員会に提出しなければならない。

#### (博物館・美術館協議会)

第21条 博物館・美術館に、博物館・美術館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

2 協議会の委員（以下「委員」という。）の定数は、15人以内とする。

3 委員の任期は、2年とする。ただし、欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 前2項に定めるもののほか、協議会の組織及び運営に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

#### (教育委員会規則への委任)

第22条 この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

### 附 則

#### (施行期日)

1 この条例は、公布の日から起算して1年を超えない範囲内において教育委員会規則で定める日から施行する。ただし、次項の規定は、公布の日から施行する。（平成19年6月教育委員会規則第11号で、同19年11月1日から施行）

#### (準備行為)

2 第7条の規定による指定管理者の指定、第11条第5項の規定による観覧料の承認及び第19条第3項において準用する第11条第5項の規定による利用料金の承認並びにこれらに関し必要な手続その他の行為は、この条例の施行前においても、第6条から第8条まで、第11条第2項から第6項まで並びに第19条第2項並びに同条第3項において準用する第11条第5項及び第6項の規定の例により行うことができる。

#### (沖縄県立教育機関設置条例の一部改正)

3 沖縄県立教育機関設置条例（昭和47年沖縄県条例第24号）の一部を次のように改正する。

第1条中「、図書館法」を「及び図書館法」に改め、「及び博物館法（昭和26年法律第285号）第18条」を削り、「必要な事項」を「、必要な事項」に改める。

第5条及び第6条を削り、第6条の2を第5条とし、第7条を第6条とし、第7条の2を第7条とする。

第8条中「、第5条及び第6条の2」を「及び第5条」に改める。

#### (沖縄県立教育機関使用料徴収条例の一部改正)

4 沖縄県立教育機関使用料徴収条例（昭和47年沖縄県条例第37号）の一部を次のように改正する。

第2条第1項中「別表第1又は別表第2」を「別表」に改め、同条第2項を削る。

別表第1を削り、別表第2を別表とする。

別表第1（第11条関係）

区分		基準額（1人につき）	
		個人の場合	団体の場合
博物館施設	一般	400円	320円
	大学生及び高校生	250円	200円
	中学生及び小学生	150円（県外の中学生及び小学生に限る）	120円（県外の中学生及び小学生に限る）
美術館施設	一般	300円	240円
	大学生及び高校生	200円	160円
	中学生及び小学生	100円（県外の中学生及び小学生に限る）	80円（県外の中学生及び小学生に限る）

## 備考

- 「一般」とは、「大学生及び高校生」及び「中学生及び小学生」のいずれにも該当しない者（小学校就学の始期に達するまでの者を除く。）をいう。
- 「大学生及び高校生」とは、大学の学生及び高等学校の生徒その他これらに準ずる者をいう。
- 「中学生及び小学生」とは、中学校の生徒及び小学校の児童その他これらに準ずる者をいう。
- 「団体の場合」とは、20人以上の団体の観覧する場合及び教育委員会規則で定める場合をいう。

別表第2（第11条関係）

区分		基準額（1人につき）		
		一般	大学生及び高校生	中学生及び小学生
博物館施設	常設展	1,200円	750円	450円（県外の中学生及び小学生に限る）
	常設展、企画展及び特別展	4,200円	2,600円	1,600円（県内の中学生及び小学生にあっては、1,150円）
美術館施設	常設展	900円	600円	300円（県外の中学生及び小学生に限る）
	常設展及び企画展	3,900円	2,600円	1,300円（県内の中学生及び小学生にあっては、1,000円）

## 備考

- 「一般」とは、「大学生及び高校生」及び「中学生及び小学生」のいずれにも該当しない者（小学校就学の始期に達するまでの者を除く。）をいう。
- 「大学生及び高校生」とは、大学の学生及び高等学校の生徒その他これらに準ずる者をいう。
- 「中学生及び小学生」とは、中学校の生徒及び小学校の児童その他これらに準ずる者をいう。

別表第3（第14条、第19条関係）

## 1 施設利用料金

## (1) 博物館施設利用料金

区分		基準額（1日につき）
企画展示室	入場料を徴収しない場合	29,100円
	入場料を徴収する場合	87,300円
特別展示室	入場料を徴収しない場合	38,100円
	入場料を徴収する場合	114,300円
実習室	入場料を徴収しない場合	9,000円
	入場料を徴収する場合	27,000円
講座室	入場料を徴収しない場合	15,900円
	入場料を徴収する場合	47,700円

## (2) 美術館施設利用料金

区分		基準額（1日につき）
県民ギャラリー1		8,100円
県民ギャラリー2		7,500円
県民ギャラリー3		7,500円
県民ギャラリースタジオ		8,200円
県民アトリエ	入場料を徴収しない場合	7,000円
	入場料を徴収する場合	21,000円
子供アトリエ	入場料を徴収しない場合	7,500円
	入場料を徴収する場合	22,500円
企画展示室1	入場料を徴収しない場合	32,800円
	入場料を徴収する場合	98,400円
企画展示室2	入場料を徴収しない場合	40,700円
	入場料を徴収する場合	122,100円
講座室	入場料を徴収しない場合	9,100円
	入場料を徴収する場合	27,300円

(3) その他施設利用料金

講 堂	区分	基準額 (1時間につき)
		入場料を徴収しない場合
	入場料を徴収する場合	10,200円

2 附属設備利用料金

種別	単位	基準額
舞台器具	1回1点または一式につき	10,000円以内で教育委員会規則で定める額
音響器具	1回1点または一式につき	10,000円以内で教育委員会規則で定める額
照明器具	1回1点または一式につき	10,000円以内で教育委員会規則で定める額
冷房器具	1時間につき	3,000円以内で教育委員会規則で定める額
その他教育委員会規則で定める附属設備	1回1点または一式につき	10,000円以内で教育委員会規則で定める額

備考

- 「入場料」とは、入場料、会費、会場整理費その他名称のいかんを問わず、入場の対価として徴収するものをいう。
- 利用料金の基準額が1時間を単位として定められている施設等の利用者が許可された利用時間を超過して当該施設等を利用する場合における利用料金の基準額は、この表の区分に従い、次のとおりとする。
  - 午前9時から午後6時(金曜日及び土曜日にあつては、午後8時)までの間は、超過時間30分間(30分間に満たない端数は、これを30分間とする。)につき、当該区分に定める基準額の2分の1の額に100分の120を乗じて得た額
  - 午後6時(金曜日及び土曜日にあつては、午後8時)後は、超過時間30分間(30分間に満たない端数は、これを30分間とする。)につき、当該区分に定める基準額の2分の1の額に100分の150を乗じて得た額

○沖縄県立博物館・美術館管理規則

平成19年3月16日 教育委員会規則第1号

(趣旨)

第1条 この規則は、沖縄県立博物館・美術館の設置及び管理に関する条例(平成18年沖縄県条例第72号。以下「条例」という。)の規定並びに地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第23条第1号及び博物館法(昭和26年法律第285号)第19条の規定に基づき、沖縄県立博物館・美術館(以下「博物館・美術館」という。)の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(寄贈及び寄託)

第2条 博物館・美術館に資料を寄贈又は寄託しようとする者は、博物館・美術館資料寄贈申込書(第1号様式)又は博物館・美術館資料寄託申請書(第2号様式)を提出しなければならない。

- 受贈又は受託を決定したものについては、博物館・美術館資料受贈受諾書(第3号様式)又は博物館・美術館資料受託承認書(第4号様式)を交付するものとする。
- 寄贈又は寄託に要する経費は、寄贈者又は寄託者の負担とする。ただし、博物館・美術館の館長(以下「館長」という。)が必要と認めた場合はこの限りでない。
- 第2項の規定により寄贈を受けた資料は、理由のいかんにかかわらず返却しない。
- 第2項の規定により寄託を受けた資料は、寄託者の請求又は博物館・美術館の都合により返付する。

(寄贈資料及び寄託資料の管理等)

第3条 寄託された資料の管理は、博物館・美術館所蔵の資料の管理に準ずるものとする。

- 寄託資料が火災その他の不可抗力により、滅失し、汚損し、又は損傷したときは、県及び館長並びに指定管理者は、損害賠償の責任を負わないものとする。

(指定管理者の指定の申請)

第4条 条例第6条の規則で定める申請書は、指定管理者指定申請書(第5号様式)によるものとする。

- 条例第6条の規則で定める書類は、次に掲げる書類とする。
  - 法人である団体にあつては、定款又は寄附行為及び登記事項証明書
  - 法人でない団体にあつては、定款又は寄附行為に相当する書類及び代表者の身分証明書(市区町村長が発行するものに限る。)
  - 申請に係る業務の実施の方法を記載した書類
  - 最近の事業年度における事業報告書、貸借対照表、収支決算書、財産目録その他の経理的基礎を有することを明らかにする書類(申請の日の属する事業年度に設立された法人にあつては、その設立時における財産目録)
  - 役員の氏名、住所及び履歴を記載した書類
  - 前各号に掲げるもののほか、教育委員会が必要と認める書類

(観覧券の交付)

第5条 指定管理者は、博物館・美術館の展示品を観覧しようとする者が所定の観覧料を納付した場合又は指定管理者により後納が認められた場合は、観覧券を交付するものとする。

(観覧料の免除)

第6条 条例第12条第1項の規定により観覧料の免除を受けようとする者は、あらかじめ観覧料免除申請書(第6号様式)を指定管理者に提出し、その承認を受けなければならない。

- 条例第12条第2項の規定により観覧料を免除することができる場合は、次のとおりとする。
  - 県内の中学校の生徒及び小学校の児童並びにその他これらに準ずる者の引率者が教育課程に基づく教育活動として博物館・美術館の常設展を観覧する場合
  - 県内の高等学校の生徒、その他これらに準ずる者及びその引率者が教育課程に基づく教育活動として博物館・美術館の常設展を観覧する場合
  - 70歳以上の者が常設展を観覧する場合

- (4) 身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条第4項の規定により身体障害者手帳の交付を受けている者及びその介助員が常設展を観覧する場合

**(入館の禁止等)**

第7条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する者に対して入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。

- (1) 館内の秩序を乱すおそれがあると認められる者  
(2) その他指定管理者が適当でないと認める者

**(施設利用の許可等)**

第8条 条例別表第3に掲げる博物館・美術館の施設又は附属設備を利用しようとする者は、あらかじめ博物館・美術館施設利用許可申請書（第7号様式）を提出しなければならない。

**(利用期間)**

第9条 条例第15条本文に規定する教育委員会規則で施設等ごとに定める日数は、次の各号に掲げる施設等の区分に応じ当該各号に定める日数とする。

- (1) 博物館施設の企画展示室及び特別展示室並びに美術館施設の企画展示室1及び企画展示室2並びにこれらの施設の冷房設備 6月  
(2) 前号に掲げる施設等以外の施設 7日

2 条例第15条ただし書の規定により利用期間を変更しようとする者は、沖縄県立博物館・美術館利用期間変更願（第8号様式）を指定管理者に提出しなければならない。

**(利用料金の免除)**

第10条 条例第19条第3項において準用する第12条第2項の規定により利用料金を免除することができる場合は、沖縄県が条例第3条各号に掲げる事業を行うために利用する場合とする。

2 条例第19条第3項において準用する第12条第2項の規定により利用料金の免除を受けようとする者は、博物館・美術館施設利用許可申請書を提出する際に、併せて沖縄県立博物館・美術館利用料金免除申請書（第9号様式）を指定管理者に提出しなければならない。

3 指定管理者は、利用料金の免除を承認したときは、沖縄県立博物館・美術館利用料金免除承認書（第10号様式）を利用者に交付するものとする。

**(事業報告書の内容等)**

第11条 条例第20条の事業報告書は、次に掲げる事項を記載して提出するものとする。

- (1) 博物館・美術館の管理運営に関する業務（以下「業務」という。）の実施状況  
(2) 業務に係る収支状況  
(3) 博物館・美術館の利用状況  
(4) 前3号に掲げるもののほか、教育委員会が必要と認める事項

**(博物館・美術館協議会の組織等)**

第12条 博物館・美術館協議会（以下「協議会」という。）の委員は、沖縄県教育委員会が任命する。

- 2 協議会に会長及び副会長を置き、委員のうちから互選する。  
3 会長は協議会を代表し、会務を総理する。  
4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。  
5 協議会の会議は、会長が招集し、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。  
6 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。  
7 協議会は協議のため必要があると認める場合は、調査を行い、又は専門家その他の関係者の出席を求め、意見若しくは説明を聴くことができる。  
8 協議会の委員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も、同様とする。  
9 協議会の庶務は、博物館・美術館において処理する。  
10 その他協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

**(観覧料の割引)**

第13条 条例別表第1備考4に規定する教育委員会規則で定める場合は、博物館施設又は美術館施設の常設展を観覧しようとする日と同じ日に博物館・美術館が行う他の展示と併せて観覧する場合とする。ただし、併せて観覧する他の展示の観覧料が無料の場合は、この限りでない。

**(附属設備の利用料金の基準額)**

第14条 条例別表第3第2項の表の教育委員会で定める額は、別表に掲げるとおりとする。

**(補 則)**

第15条 この規則に定めるもののほか、博物館・美術館の管理に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

**附 則**

**(施行期日)**

1 この規則は、条例の施行の日〔平成19年11月1日〕から施行する。ただし、次項の規定は、公布の日から施行する。

**(準備行為として行う申請に必要な申請書等)**

2 条例附則第2項の規定により準備行為として行う指定管理者の指定の申請に必要な申請書及び書類については、第4条の規定の例による。

**(沖縄県立博物館の管理に関する規則等の廃止)**

3 次に掲げる規則は、廃止する。

- (1) 沖縄県立博物館の管理に関する規則（昭和47年沖縄県教育委員会規則第13号）  
(2) 沖縄県立博物館協議会規則（昭和47年沖縄県教育委員会規則第29号）

**(沖縄県教育庁組織規則の一部改正)**

4 沖縄県教育庁組織規則（昭和47年沖縄県教育委員会規則第1号）の一部を次のように改正する。

- 第31条第3号中「沖縄県立博物館」を「沖縄県立博物館・美術館」に改める。  
第33条第4号中「沖縄県立博物館協議会」を「博物館・美術館協議会」に改める。

別表（第14条関係）

1 附属設備（冷房設備を除く。）の利用料金

種別	品名	単位	基準額
舞台器具	演台	1台	300円
	花台	1台	100円
	司会台	1台	150円
音響器具	メインスピーカー	1式	1,000円
	コンデンサーマイク	1本	300円
	ワイヤレスマイク	1本	600円
	ダイナミックマイク	1本	200円
	ビデオテープレコーダー	1台	700円
	DVDプレーヤー	1台	1,250円
	CD・MDプレーヤー	1台	400円
	HD/DVDレコーダー	1台	1,250円
照明器具	ボーダーライト	1列	300円
	サスペンションライト	1列	500円
	アッパーホリゾンライト	1列	700円
	シーリングライト	1列	600円
	センターピンスポットライト	1台	400円
その他	書画カメラ	1台	800円
	ビデオプロジェクター	1台	1,400円
	電動スクリーン	1式	1,100円
	35ミリフィルム映写機	1式	5,000円

備考 附属設備利用料金の基準額は、1ステージごとの額とする。ただし、長時間連続して利用する場合は、4時間ごとに1ステージとみなす。

2 冷房設備の利用料金

	区分	単位	基準額
博物館施設	企画展示室	1時間までごとに	630円
	特別展示室	1時間までごとに	830円
	実習室	1時間までごとに	190円
	講座室	1時間までごとに	340円
美術館施設	県民ギャラリー1	1時間までごとに	170円
	県民ギャラリー2	1時間までごとに	160円
	県民ギャラリー3	1時間までごとに	160円
	県民ギャラリースタジオ	1時間までごとに	180円
	県民アトリエ	1時間までごとに	150円
	子供アトリエ	1時間までごとに	160円
	企画展示室	1時間までごとに	710円
	企画展示室2	1時間までごとに	880円
	講座室	1時間までごとに	200円
その他施設	講堂	1時間までごとに	590円

第1号様式  
(第2条関係)

博物館・美術館資料寄贈申込書		年 月 日
沖縄県立博物館・美術館長 殿		
申込者 住 所 氏 名		印
<p>私所有の下記の資料を沖縄県立博物館・美術館へ寄贈したいので、受領されるよう申込みます。</p>		
記		
1 種 別		
2 作 者 名		
3 作 品 名		
4 製作年月日		
5 附 属 品		
6 資料所在地		
7 時価見積額		
8 寄贈の理由		

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A列4判とする。

第2号様式  
(第2条関係)

博物館・美術館資料寄託申請書		年 月 日
沖縄県立博物館・美術館長 殿		
申請者 住 所 氏 名		印
<p>私所有の下記の資料を沖縄県立博物館・美術館へ寄託したいので、受託されるよう申請します。</p>		
記		
1 種 別		
2 作 者 名		
3 作 品 名		
4 製作年月日		
5 附 属 品		
6 資料所在地		
7 寄託期間	年 月 日 から 年 月 日まで	

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A列4判とする。

第3号様式  
(第2条関係)

博物館・美術館資料受贈受諾書		年 月 日
殿		
沖縄県立博物館・美術館長 印		
<p>年 月 日 付け申込のあった博物館・美術館資料の寄贈については下記により受諾します。ただし、寄贈を受けた資料については、沖縄県立博物館・美術館管理規則第2条第4項の規定により返却されません。</p>		
記		
1 種 別		
2 作 者 名		
3 作 品 名		
4 製作年月日		
5 附 属 品		
6 資料所在地		
7 時価見積額		
8 寄贈の理由		

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A列4判とする。

第4号様式  
(第2条関係)

博物館・美術館資料受託承認書		年 月 日
殿		
沖縄県立博物館・美術館長 印		
<p>年 月 日 付け申請のあった博物館・美術館資料の寄託については下記により受託します。</p>		
記		
1 種 別		
2 作 者 名		
3 作 品 名		
4 製作年月日		
5 附 属 品		
6 受託期間	年 月 日 から	年 月 日まで
7 備 考		

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A列4判とする。

第5号様式  
(第4条関係)

<p>沖縄県教育委員会 殿</p> <p>申請者 所在地 団体の名称 代表者の氏名</p> <p style="text-align: right;">印</p>	<p>年 月 日</p>
<p>指定管理者指定申請書</p>	
<p>沖縄県立博物館・美術館の管理に係る指定管理者の指定を受けたいので、沖縄県立博物館・美術館の設置及び管理に関する条例第6条の規定により申請します。</p>	
<p>添付書類</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 事業計画書</li> <li>2 法人である団体にあつては、定款又は寄附行為及び登記事項証明書</li> <li>3 法人でない団体にあつては、定款又は寄附行為に相当する書類及び代表者の身分証明書(市区町村長が発行するものに限る)</li> <li>4 申請に係る業務の実施の方法を記載した書類</li> <li>5 最近の事業年度における事業報告書、貸借対照表、収支決算書、財産目録その他経理的基礎を有することを明らかにする書類(申請の日に属する事業年度に設立された法人にあつては、その設立時における財産目録)</li> <li>6 役員の氏名、住所及び履歴を記載した書類</li> <li>7 前各号に掲げるもののほか、教育委員会が必要と認める書類</li> </ol>	

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A列4判とする。

第6号様式  
(第6条関係)

<p>沖縄県立博物館・美術館 指定管理者 殿</p> <p>申請者 住所 氏名 電話</p> <p style="text-align: right;">印</p>	<p>年 月 日</p>
<p>観覧料免除申請書</p>	
<p>下記の理由により博物館・美術館観覧料の免除を受けたいので、沖縄県立博物館・美術館管理規則第6条第1項の規定に基づき申請します。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 観覧者 団体名 引率者名</li> <li>2 観覧者数 人</li> <li>3 観覧日時 年 月 日 ( 曜日) 時～ 時</li> <li>4 申請理由</li> </ol> <p>.....</p> <p style="text-align: center;">承 認 証</p> <p style="text-align: center;">殿</p> <p style="text-align: center;">年 月 日 付け申請の博物館・美術館の観覧料免除の件、申請どおり承認します。</p> <p style="text-align: center;">年 月 日</p> <p style="text-align: right;">沖縄県立博物館・美術館 指定管理者</p> <p style="text-align: right;">印</p>	

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A列4判とする。

第7号様式  
(第8条関係)

博物館・美術館施設利用許可申請書

沖縄県立博物館・美術館  
指定管理者 殿

年 月 日 印

申請者 氏 名 電 話

下記により貴館施設を利用したいので、申請します。

記

1 利用者 団体名 印 職業 ( ) 電話  
代表者名 住所

2 利用目的

3 利用する施設

4 利用する日時及び期間  
自： 年 月 日 時 分 } ( ) 日間  
至： 年 月 日 時 分 }

5 予定参加人数 人  
.....許可証

年 月 日付け申請の ( ) 使用の件、申請どおり許可します。

年 月 日

沖縄県立博物館・美術館  
指定管理者 印

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A列4判とする。

第8号様式  
(第9条関係)

沖縄県立博物館・美術館利用期間変更願

沖縄県立博物館・美術館  
指定管理者 殿

年 月 日

申請者 住 所  
団 体 名  
代 表 者 氏 名  
電 話 番 号

印

沖縄県立博物館・美術館管理規則第9条第2項の規定により次のとおり利用期間の変更を願います。

記

1 催物の名称

2 利用する日時及び期間  
自： 年 月 日 時 分 } ( ) 日間  
至： 年 月 日 時 分 }

3 利用期間の変更を願う理由

4 備考

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A列4判とする。

9号様式  
第10条関係

沖縄県立博物館・美術館利用料金免除申請書		年 月 日
沖縄県立博物館・美術館 指定管理者 殿	申請者 住 所 団 体 名 代表者氏名 電 話 番 号	印
次のとおり利用料金の免除を申請します。		
記		
1 催物の名称		
2 利用目的		
3 催物の内容		
4 利用する日時及び期間	自： 年 月 日 時 分	} ( ) 日間 至： 年 月 日 時 分
5 減額・免除を申請する理由		
6 備考		

考 用紙の大きさは、日本工業規格A列4判とする。

第10号様式  
第10条関係

沖縄県立博物館・美術館利用料金免除承認書		年 月 日
沖縄県立博物館・美術館 指定管理者 殿	沖縄県立博物館・美術館 指定管理者 印	
次のとおり利用料金の免除を承認します。		
記		
1 催物の名称		
2 利用目的		
3 催物の内容		
4 利用する日時及び期間	自： 年 月 日 時 分	} ( ) 日間 至： 年 月 日 時 分
5 利用料金免除額		
6 備考		

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A列4判とする。

**(趣旨)**

第 1 条 沖縄県立博物館・美術館（以下「博物館・美術館」という。）の館長（以下「館長」という。）を地方公務員法（昭和 25 年法律第 261 号）第 3 条第 3 項第 3 号に規定する非常勤の特別職とした場合における館長の執務等に関しては、別に定めるもののほか、この訓令によるものとする。

**(任命及び任期)**

第 2 条 館長は、博物館・美術館の管理運営に関し識見及び能力を有する者のうちから、教育委員会が任命する。

2 館長の任期は、1 年以内とし、2 回に限り更新することができる。

3 前項の規定にかかわらず、2 回を超えて更新する必要がある場合には、教育庁文化課長は、教育庁総務課長と協議するものとする。

**(報酬等)**

第 3 条 館長の報酬及び費用弁償の額は、沖縄県特別職に属する非常勤職員の報酬及び費用弁償に関する規則（昭和 47 年沖縄県規則第 111 号）に定めるところによる。

**(勤務条件)**

第 4 条 館長の勤務場所は、博物館・美術館とする。

2 館長の 1 月の勤務日数は 16 日以内とし、勤務する日は教育長が別に定める。

3 館長の勤務時間は、沖縄県職員の勤務時間、休日及び休暇等に関する条例（昭和 47 年沖縄県条例第 43 号）の適用を受ける職員の勤務時間に準ずるものとする。

**(服務)**

第 5 条 館長は、その職務の遂行に当たって、法令、条例、規則等に従い、かつ、上司の職務上の命令に従わなければならない。

2 館長は、その職務の信用を傷つけ、又は職員全体の不名誉となるような行為をしてはならない。

3 館長は、職務上知り得た秘密を他に漏らしてはならない。その職を退いた後も、また、同様とする。

4 館長は、勤務時間中は職務に専念しなければならない。

**(解任)**

第 6 条 教育委員会は、館長が次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、任期内でも解任することができる。

(1) 館長の職務を怠ったとき。

(2) 前条の規定に違反したとき。

(3) 館長として不適当と認められる行為をしたとき。

(4) 心身の故障その他の理由により職務を行うに適しなくなったとき。

(5) 任命の必要がなくなったとき。

**(補則)**

第 7 条 この訓令に定めるもののほか、館長を非常勤の特別職とした場合における館長の執務等に関し必要な事項は、教育長が別に定める。

**附 則**

この訓令は、平成 19 年 11 月 1 日から施行する。

## ○博物館・美術館学芸業務嘱託員設置規程

平成 19 年 10 月 30 日 教育委員会教育長訓令第 26 号

**(設置)**

第 1 条 沖縄県立博物館・美術館（以下「博物館・美術館」という。）の学芸業務を円滑に行うため、博物館・美術館学芸業務嘱託員（以下「嘱託員」という。）を設置する。

**(身分)**

第 2 条 嘱託員は、地方公務員法（昭和 25 年法律第 261 号）第 3 条第 3 項第 3 号に規定する非常勤の嘱託員とする。

**(職務等)**

第 3 条 嘱託員は、博物館・美術館の館長（以下「館長」という。）の指揮監督を受けて、次に掲げる業務を行う。

(1) 資料の調査、収集及び整理に関すること。

(2) 資料の保存、修復等に関すること。

(3) 展示に関すること。

(4) その他博物館・美術館の事業に関すること。

**(委嘱及び委嘱期間)**

第 4 条 嘱託員は、次に掲げる者のうちから教育長が委嘱する。

(1) 博物館法（昭和 26 年法律第 285 号）第 5 条に規定する学芸員資格を有する者

(2) 前号に規定する学芸員資格を有する者と同等以上の能力を有すると認められる者

2 嘱託員の委嘱期間は、1 年以内とし、2 回に限り更新することができる。

3 前項の規定にかかわらず、2 回を超えて更新する必要がある場合には、文化課長は、総務課長と協議するものとする。

**(報酬等)**

第 5 条 嘱託員の報酬及び費用弁償の額は、沖縄県特別職に属する非常勤職員の報酬及び費用弁償に関する規則（昭和 47 年沖縄県規則第 111 号）に定めるところによる。

**(勤務条件)**

第 6 条 嘱託員の勤務場所は、博物館・美術館とする。

2 嘱託員の 1 月の勤務日数は、16 日以内とし、勤務する日は、館長が別に定める。

3 嘱託員の勤務時間は、沖縄県職員の勤務時間、休日及び休暇等に関する条例（昭和 47 年沖縄県条例第 43 号）の規定の適用を受ける職員の勤務時間に準ずるものとする。

**(服務)**

第7条 嘱託員は、その職務の遂行に当たって、法令、条例、規則等に従い、かつ、上司の職務上の命令に従わなければならない。

2 嘱託員は、その職務の信用を傷つけ、又は職員全体の不名誉となるような行為をしてはならない。

3 嘱託員は、職務上知り得た秘密を他に漏らしてはならない。その職務を退いた後も、また、同様とする。

4 嘱託員は、勤務時間中は職務に専念しなければならない。

**(解嘱)**

第8条 教育長は、嘱託員が次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、委嘱期間内でも解嘱することができる。

(1) 第3条に規定する職務を怠ったとき。

(2) 前条の規定に違反したとき。

(3) 嘱託員として不適当と認められる行為をしたとき。

(4) 心身の故障その他の理由により職務を行うに適しなくなったとき。

(5) 委嘱の必要がなくなったとき。

**(補則)**

第9条 この訓令に定めるもののほか、必要な事項は、教育長が別に定める。

**附 則**

この訓令は、平成19年11月1日から施行する。

**○博物館・美術館教育普及業務嘱託員設置規程**

平成19年10月30日 教育委員会教育長訓令第27号

**(設置)**

第1条 沖縄県立博物館・美術館（以下「博物館・美術館」という。）の教育普及業務を円滑に行うため、博物館・美術館教育普及業務嘱託員（以下「嘱託員」という。）を設置する。

**(身分)**

第2条 嘱託員は、地方公務員法（昭和25年法律第261号）第3条第3項第3号に規定する非常勤の嘱託員とする。

**(職務等)**

第3条 嘱託員は、博物館・美術館の館長（以下「館長」という。）の指揮監督を受けて、次に掲げる業務を行う。

(1) 教育普及プログラムの調査及び策定に関すること。

(2) 教育関係機関への学習支援に関すること。

(3) ボランティア活動に関すること。

(4) その他博物館・美術館の事業に関すること。

**(委嘱及び委嘱期間)**

第4条 嘱託員は、次に掲げる者のうちから教育長が委嘱する。

(1) 博物館法（昭和26年法律第285号）第5条に規定する学芸員資格を有する者

(2) 前号に規定する学芸員資格を有する者と同等以上の能力を有すると認められる者

2 嘱託員の委嘱期間は、1年以内とし、2回に限り更新することができる。

3 前項の規定にかかわらず、2回を超えて更新する必要がある場合には、文化課長は、総務課長と協議するものとする。

**(報酬等)**

第5条 嘱託員の報酬及び費用弁償の額は、沖縄県特別職に属する非常勤職員の報酬及び費用弁償に関する規則（昭和47年沖縄県規則第111号）に定めるところによる。

**(勤務条件)**

第6条 嘱託員の勤務場所は、博物館・美術館とする。

2 嘱託員の1月の勤務日数は、16日以内とし、勤務する日は、館長が別に定める。

3 嘱託員の勤務時間は、沖縄県職員の勤務時間、休日及び休暇等に関する条例（昭和47年沖縄県条例第43号）の規定の適用を受ける職員の勤務時間に準ずるものとする。

**(服務)**

第7条 嘱託員は、その職務の遂行に当たって、法令、条例、規則等に従い、かつ、上司の職務上の命令に従わなければならない。

2 嘱託員は、その職務の信用を傷つけ、又は職員全体の不名誉となるような行為をしてはならない。

3 嘱託員は、職務上知り得た秘密を他に漏らしてはならない。その職務を退いた後も、また、同様とする。

4 嘱託員は、勤務時間中は職務に専念しなければならない。

**(解嘱)**

第8条 教育長は、嘱託員が次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、委嘱期間内でも解嘱することができる。

(1) 第3条に規定する職務を怠ったとき。

(2) 前条の規定に違反したとき。

(3) 嘱託員として不適当と認められる行為をしたとき。

(4) 心身の故障その他の理由により職務を行うに適しなくなったとき。

(5) 委嘱の必要がなくなったとき。

**(補則)**

第9条 この訓令に定めるもののほか、必要な事項は、教育長が別に定める。

**附 則**

この訓令は、平成19年11月1日から施行する。

## ○美術品調査嘱託員設置規程

平成 18 年 3 月 10 日 教育委員会教育長訓令第 1 号

改正 平成 19 年 10 月 30 日 教育委員会教育長訓令第 22 号

### (趣旨)

第 1 条 この訓令は、県が収蔵する美術品等の調査業務を円滑に推進するため、美術品調査嘱託員（以下「嘱託員」という。）を設置し、あわせて、勤務条件その他身分の取扱いに関し必要な事項を定めるものとする。

### (身分)

第 2 条 嘱託員は、地方公務員法（昭和 25 年法律第 261 号）第 3 条第 3 項第 3 号に規定する非常勤の嘱託員とする。

### (職務)

第 3 条 嘱託員は、沖縄県立博物館・美術館（以下「博物館・美術館」という。）の館長（以下「館長」という。）の指揮監督を受けて、次に掲げる業務を行う。

- (1) 県が収蔵する美術品の調査に関すること。
- (2) 県が収蔵を予定している美術品の調査に関すること。
- (3) その他美術品の調査に関すること。

### (委嘱等)

第 4 条 嘱託員は、沖縄県教育委員会教育長（以下「教育長」という。）が委嘱する。

- 2 嘱託員の委嘱期間は、1 年以内とし、2 回に限り更新することができる。
- 3 前項の規定にかかわらず、2 回を超えて更新する必要がある場合には、文化課長は、総務課長と協議するものとする。

### (報酬等)

第 5 条 嘱託員の報酬及び費用弁償の額は、沖縄県特別職に属する非常勤職員の報酬及び費用弁償に関する規則（昭和 47 年沖縄県規則第 111 号）に定めるところによる。

### (勤務条件等)

第 6 条 嘱託員の勤務場所は、博物館・美術館とする。

- 2 嘱託員の 1 月の勤務日数は 16 日以内とし、勤務する日は館長が定める。
- 3 嘱託員の勤務時間は、沖縄県職員の勤務時間、休日及び休暇等に関する条例（昭和 47 年沖縄県条例第 43 号）の規定の適用を受ける職員の勤務時間に準ずるものとする。

### (服務)

第 7 条 嘱託員は、その職務の遂行に当たって、法令、条例、規則等に従い、かつ、上司の職務上の命令に従わなければならない。

- 2 嘱託員は、その職務の信用を傷つけ、又は職員全体の不名誉となるような行為をしてはならない。
- 3 嘱託員は、職務上知り得た秘密を他に漏らしてはならない。その職務を退いた後も、また、同様とする。
- 4 嘱託員は、勤務時間中は職務に専念しなければならない。

### (解嘱)

第 8 条 教育長は、嘱託員が次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、委嘱期間内でも解嘱することができる。

- (1) 第 3 条に規定する職務を怠ったとき。
- (2) 前条の規定に違反したとき。
- (3) 嘱託員として不適当と認められる行為をしたとき。
- (4) 心身の故障その他の理由により職務を行うに適しなくなったとき。

### (補則)

第 9 条 この訓令の施行に関し必要な事項は、教育長が別に定める。

### 附 則

この訓令は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 19 年 10 月 30 日教育委員会教育長訓令第 22 号）

この訓令は、平成 19 年 11 月 1 日から施行する。

## ○美術品保存修復嘱託員設置規程

平成 18 年 3 月 10 日 教育委員会教育長訓令第 2 号

改正 平成 19 年 10 月 30 日教育委員会教育長訓令第 23 号

### (趣旨)

第 1 条 この訓令は、県が収蔵する美術品の保存修復業務を円滑に推進するため、美術品保存修復嘱託員（以下「嘱託員」という。）を設置し、あわせて、勤務条件その他身分の取扱いに関し必要な事項を定めるものとする。

### (身分)

第 2 条 嘱託員は、地方公務員法（昭和 25 年法律第 261 号）第 3 条第 3 項第 3 号に規定する非常勤の嘱託員とする。

### (職務)

第 3 条 嘱託員は、沖縄県立博物館・美術館（以下「博物館・美術館」という。）の館長（以下「館長」という。）の指揮監督を受けて、次に掲げる業務を行う。

- (1) 県が収蔵する美術品の保存及び修復に関すること。
- (2) 県が収蔵する美術品の保存状態の調査及び管理に関すること。

### (委嘱等)

第 4 条 嘱託員は、沖縄県教育委員会教育長（以下「教育長」という。）が委嘱する。

- 2 嘱託員の委嘱期間は、1 年以内とし、2 回に限り更新することができる。
- 3 前項の規定にかかわらず、2 回を超えて更新する必要がある場合には、文化課長は、総務課長と協議するものとする。

### (報酬等)

第 5 条 嘱託員の報酬及び費用弁償の額は、沖縄県特別職に属する非常勤職員の報酬及び費用弁償に関する規則（昭和 47 年沖縄県規則第 111 号）に定めるところによる。

### (勤務条件等)

第6条 嘱託員の勤務場所は、博物館・美術館とする。

2 嘱託員の1月の勤務日数は16日以内とし、勤務する日は館長が定める。

3 嘱託員の勤務時間は、沖縄県職員の勤務時間、休日及び休暇等に関する条例（昭和47年沖縄県条例第43号）の規定の適用を受ける職員の勤務時間に準ずるものとする。

**（服務）**

第7条 嘱託員は、その職務の遂行に当たって、法令、条例、規則等に従い、かつ、上司の職務上の命令に従わなければならない。

2 嘱託員は、その職務の信用を傷つけ、又は職員全体の不名誉となるような行為をしてはならない。

3 嘱託員は、職務上知り得た秘密を他に漏らしてはならない。その職務を退いた後も、また、同様とする。

4 嘱託員は、勤務時間中は職務に専念しなければならない。

**（解嘱）**

第8条 教育長は、嘱託員が次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、委嘱期間内でも解嘱することができる。

（1）第3条に規定する職務を怠ったとき。

（2）前条の規定に違反したとき。

（3）嘱託員として不適当と認められる行為をしたとき。

（4）心身の故障その他の理由により職務を行うに適しなくなったとき。

**（補則）**

第9条 この訓令の施行に関し必要な事項は、教育長が別に定める。

**附 則**

この訓令は、平成18年4月1日から施行する。

**附 則**（平成19年10月30日教育委員会教育長訓令第23号）

この訓令は、平成19年11月1日から施行する。

**○沖縄県立博物館保管資料の利用に関する取扱要領**

平成14年3月14日 教育長決裁

**（目的）**

第1条 この要領は、沖縄県立博物館が保管する資料（以下「資料」という。）の利用について必要な事項を定めるものとする。

**（定義）**

第2条 この要領において利用とは、次の各号に掲げることをいう。

（1）展示会等における原資料等の借用。

（2）同資料の撮影。

（3）原資料等を被写体として製作された写真原板や印画などの借用。

（4）撮影等による複製品の製作。

（5）原資料等の閲覧。

（6）教育普及資料の借用。

**（許可の基準）**

第3条 博物館長（以下「館長」という。）は、教育・学術・文化等に係わる事業、学術研究の推進並びに文化の向上に資する事業、又は館長が特に必要と認めた場合において資料の利用を許可することができる。ただし、次の各号の一に掲げる事項はこの限りでない。

（1）資料の保存に悪影響が生じると認められる場合。

（2）好ましくない用途に供されると認められる場合。

（3）館の事務処理に支障が生じると認められる場合。

（4）資料のうち、ほかに権利を有する者があるものについて、事前に書面による同意を得ていない場合。

（5）過去に目的外使用の事実又は許可条件に違反する事実があると認められる場合。

（6）その他、許可することが適当でないとして認められる場合。

**（許可申請の手続き）**

第4条 資料の利用を希望する者は、以下の各号に応じ、資料利用申請書（以下「申請書」という。）に事業の趣旨や主体者、事業計画等を記載した企画書等を添えて館長に利用開始14日前までに、申請しなければならない。

（1）原資料等の借用（第1号様式）

（2）写真撮影、原板・印画の借用（第2号様式）

（3）複製品の製作（第3号様式）

（4）原資料等の閲覧（第4号様式）

（5）教育普及資料の借用（第5号様式）

**（審査及び決定）**

第5条 前条の規定による申請があった場合、館長は次の各号に掲げる事項について、審査し、許可するかどうかを決定しなければならない。

（1）事業の趣旨及び内容。

（2）事業の主体者。

（3）事業計画。

（4）その他必要な事項。

**（許可書の交付）**

第6条 資料利用を許可する決定を行ったときは、次の各号により当該申請者に対し別表のとおり条件を付した資料利用許可書（以下「許可書」という。）を交付するものとする。ただし、館長が特に必要と認めた軽微なものについては、その限りでない。

（1）原資料等の借用（第1-1号様式）

（2）写真撮影、原板・印画の借用（第2-1号様式）

（3）複製品の製作（第3-1号様式）

(4) 原資料等の閲覧(第4-1号様式)

(5) 教育普及資料の借用(第5-1号様式)

2 館長は前項のほか、必要と認められる場合は、別に条件を付することができる。

**附 則**

この要領は、平成14年4月1日から実施する。

別表（第6条関係）各申請の資料利用の許可条件

資料利用の許可条件		個別条件	
利用申請の内容 (各申請様式)	共通条件		
原資料等の借用 (第1号様式)	<p>①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。</p> <p>②資料の利用に当たっては、必要に応じて「神奈川県立博物館所蔵」と明記すること。</p> <p>③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。</p> <p>④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。</p> <p>⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。</p>	<p>①資料の梱包または輸送、借用期間の保存管理については申請者が一切の責任を負うこと。</p> <p>②資料の運搬その他費用を要する場合は、申請者が負担すること。</p> <p>③貸与期間は原則として2ヶ月以内とする。</p> <p>④借用によって生じた成果品を当館に1部（1点）を納付すること。</p>	
写真撮影、原板 ・印画の借用 (第2号様式)		<p>①撮影は原則として休館日の午後に行うこと。</p> <p>②製作された写真デュープやビデオ、CD等を当館に無償で1部（1点）納付すること。納付された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。</p> <p>③写真原板の貸与期間は3週間以内とする。</p> <p>④郵送費は申請者が負担すること。</p> <p>⑤資料利用によって製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。</p>	
複製品の製作 (第3号様式)		<p>①撮影は原則として休館日の午後に行うこと。</p> <p>②撮影等製作過程における事故等によって与えた損傷は、申請者が一切の責任を負うこと。</p> <p>③製作工程表、製作記録など当館の指示するものを提出すること。</p> <p>④製作された写真デュープやビデオ、CD等を当館に無償で1部（1点）納付すること。納付された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。</p> <p>⑤写真原板の貸与期間は3週間以内とする。</p> <p>⑥資料利用によって製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。</p>	
原資料等の閲覧 (第4号様式)		<p>①展示資料の閲覧は休館日の午後に行うこと。</p> <p>②閲覧する資料は、原則として1日5点以内とする。</p> <p>③閲覧によって得られた成果（論文や著作等）は、当館に1部（1点）納付すること。</p>	
教育普及資料 の借用 (第5号様式)		<p>①与期間は1週間以内とする。</p> <p>②資料の運搬その他費用を要する場合は、申請者が負担すること。</p> <p>③資料の利用にあたっては、事故が生じないよう取り扱いに十分留意すること。</p> <p>④万一の事故等については、申請者が一切の責任を負うこと。</p>	

第1号様式 (第4条関係)

資料利用申請書  
(原資料等の借用)

平成 年 月 日

沖縄県立博物館・美術館長殿

申請者 (担当者氏名)

代表者名：印

団体名：)

住所：〒

TEL：

FAX：

下記により原資料等の館外利用を許可くださるようお願いいたします。

記

事業名	年月日～月日	員数	備考
借用希望期間	年月日～月日		
目的			
展示等場所			
資料名		員数	備考
1.			
2.			
3.			
4.			

※留意事項

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際には、返信用封筒(切手貼付)を添えること。
- ⑥資料の梱包または輸送、借用期間の保存管理については申請者が一切の責任を負うこと。
- ⑦資料の運搬その他費用を要する場合は、申請者が負担すること。
- ⑧貸与期間は原則として2ヶ月以内とする。
- ⑨借用によって生じた成果品を当館に1部(1点)を納付すること。

前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

第1-1号様式 (第6条関係)

資料利用許可書  
(原資料等の借用)

平成 年 月 日

博美第 号

平成 年 月 日

殿

沖縄県立博物館・美術館長

平成 年 月 日付で申請のあった資料の館外利用については、下記により許可します。

記

事業名	年月日～月日	員数	備考
借用期間	年月日～月日		
目的			
展示等場所			
資料名		員数	備考
1.			
2.			
3.			
4.			

※許可条件

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際には、返信用封筒(切手貼付)を添えること。
- ⑥資料の梱包または輸送、借用期間の保存管理については申請者が一切の責任を負うこと。
- ⑦資料の運搬その他費用を要する場合は、申請者が負担すること。
- ⑧貸与期間は原則として2ヶ月以内とする。
- ⑨借用によって生じた成果品を当館に1部(1点)を納付すること。

前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

第2号様式 (第4条関係)

資料利用申請書  
(写真撮影、原板・印画の借用)

平成 年 月 日

沖縄県立博物館・美術館長殿

代表者名：印

申請者 団体名：

(担当者氏名)

住所：〒

TEL：

FAX：

下記により資料の写真撮影、原板・印画の利用を許可くださるようお願いいたします。

記

利用区分	1 写真原板使用	2 撮影	3 掲載	※○で囲む	
希望日時・期間	年 月 日 ~ 月 日	日 時 ~ 時	部 数	制作予定日	備考
目的	出版物 映画 テレビ DVD CD その他	名称			
資料名			数量	仕様	備考
1.					
2.					
3.					

※留意事項

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じて「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際には、返信用封筒(切手貼付)を添えること。
- ⑥撮影は原則として休館日の午後に行うこと。
- ⑦製作された写真デュープやビデオ、CD等を当館に無償で1部(1点)納付すること。納付された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。
- ⑧写真原板の貸与期間は3週間以内とする。
- ⑨郵送費は申請者が負担すること。
- ⑩資料利用によって製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。

前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

第2-1号様式 (第6条関係)

資料利用許可書  
(写真撮影、原板・印画の借用)

博 美 第 号  
平 成 年 月 日

殿

沖縄県立博物館・美術館長

平成 年 月 日付で申請のあった資料の利用については、下記により許可します。

記

利用区分	1 写真原板使用	2 撮影	3 掲載	※○で囲む	
日時・期間	年 月 日 ~ 月 日	日 時 ~ 時	部 数	制作予定日	備考
目的	出版物 映画 テレビ DVD CD その他	名称			
資料名			数量	仕様	備考
1.					
2.					
3.					

※許可条件

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じて「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際には、返信用封筒(切手貼付)を添えること。
- ⑥撮影は原則として休館日の午後に行うこと。
- ⑦製作された写真デュープやビデオ、CD等を当館に無償で1部(1点)納付すること。納付された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。
- ⑧写真原板の貸与期間は3週間以内とする。
- ⑨郵送費は申請者が負担すること。
- ⑩資料利用によって製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。

前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

第3号様式(第4条関係)

資料利用申請書  
(複製品の製作)

平成 年 月 日  
 沖縄県立博物館・美術館長殿  
 申請者 (担当者氏名)  
 代表者名:印  
 団体名:  
 住所:〒  
 TEL:  
 FAX:

下記により複製品製作のため資料の利用を許可くださるようお願いいたします。

記

利用区分	1 写真原板使用	2 撮影	3 掲載	※○で囲む
希望日時・期間	年 月 日 ~ 月 日 時 ~ 時			
目的				
製作仕様				
製作予定日	平成 年 月 日	製作点数	数量	点 販売価格 備考
資料名				
1.				
2.				
3.				

※留意事項

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際には、返信用封筒(切手貼付)を添えること。
- ⑥撮影は原則として休館日の午後に行うこと。
- ⑦撮影等製作過程における事故等によって与えた損傷は、申請者が一切の責任を負うこと。
- ⑧製作工程表、製作記録など当館の指示するものを提出すること。
- ⑨製作された写真・ビデオ、CD等を当館に無償で1部(1点)納付すること。納付された作品は当館が展示等で自由に使うことができる。
- ⑩写真原板の貸与期間は3週間以内とする。
- ⑪資料利用によって製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。

前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

第3-1号様式(第6条関係)

資料利用許可書  
(複製品の製作)

平成 年 月 日  
 博 美 第 号  
 殿  
 沖縄県立博物館・美術館長

平成 年 月 日付で申請のあった特別利用については、下記により許可します。

記

利用区分	1 写真原板使用	2 撮影	3 掲載	※○で囲む
日時・期間	年 月 日 ~ 月 日 時 ~ 時			
目的				
製作仕様				
製作予定日	平成 年 月 日	製作点数	数量	点 販売価格 備考
資料名				
1.				
2.				
3.				

※許可条件

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際には、返信用封筒(切手貼付)を添えること。
- ⑥撮影は原則として休館日の午後に行うこと。
- ⑦撮影等製作過程における事故等によって与えた損傷は、申請者が一切の責任を負うこと。
- ⑧製作工程表、製作記録など当館の指示するものを提出すること。
- ⑨製作された写真・ビデオ、CD等を当館に無償で1部(1点)納付すること。納付された作品は当館が展示等で自由に使うことができる。
- ⑩写真原板の貸与期間は3週間以内とする。
- ⑪資料利用によって製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。

前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

第4号様式 (第4条関係)

資料利用申請書  
(原資料等の閲覧)

平成 年 月 日

沖縄県立博物館・美術館長殿

代表者名：印  
 申請者 団体名：  
 )  
 住 所：〒  
 TEL：  
 FAX：

下記により原資料等の閲覧を許可くださるようお願いいたします。

目的	閲覧希望日時	平成 年 月 日 時～ 時	閲覧人員	備考
	資料名	員数		
1.				
2.				
3.				
4.				
5.				

※留意事項

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること
- ⑥展示資料の閲覧は休館日の午後に行うこと。
- ⑦閲覧する資料は、原則として1日5点以内とする。
- ⑧閲覧によって得られた成果（論文や著作等）は、当館に1部（1点）納付すること。

前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

第4-1号様式 (第6条関係)

資料利用許可書  
(原資料等の閲覧)

平成 年 月 日

博 美 第 号  
 平 成 年 月 日

殿

沖縄県立博物館・美術館長

平成 年 月 日付で申請のあった資料の閲覧については、下記により許可します。

記

目的	閲覧日時	平成 年 月 日 時～ 時	閲覧人員	備考
	担当学芸員	資料名	員数	
1.				
2.				
3.				
4.				
5.				

※許可条件

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること
- ⑥展示資料の閲覧は休館日の午後に行うこと。
- ⑦閲覧する資料は、原則として1日5点以内とする。
- ⑧閲覧によって得られた成果（論文や著作等）は、当館に1部（1点）納付すること。

前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

第5号様式 (第4条関係)

資料利用申請書  
(教育普及資料の借用)

平成 年 月 日

沖繩県立博物館・美術館長殿

代表者名：印  
申請者 団体の名： )  
(担当者氏名) 住所：〒 TEL： FAX：

下記により教育普及資料の利用を許可くださるようお願いいたします。

利用区分	1 学校 (学年・学級) 行事	2 地域・団体行事	3 その他
希望日時・期間	年 月 日 ( 時 ) ~ 年 月 日 ( 時 )		
行 事 名			参加人員
目 的			
	資料名	数量	備考
1.			
2.			
3.			
4.			

※留意事項

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖繩県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際には、返信用封筒 (切手貼付) を添えること。
- ⑥貸与期間は1週間以内とする。
- ⑦資料の運搬その他費用を要する場合は、申請者が負担すること。
- ⑧資料の利用にあたっては、事故が生じないよう取り扱いに十分留意すること。
- ⑨万一の事故等については、申請者が一切の責任を負うこと。

前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

第5-1号様式 (第6条関係)

資料利用許可書  
(教育普及資料の借用)

博 美 第 号  
平成 年 月 日

殿

沖繩県立博物館・美術館長

平成 年 月 日付けで申請のあった資料利用については、下記により許可します。

記

利用区分	1 学校 (学年・学級) 行事	2 地域・団体行事	3 その他
日時・期間	年 月 日 ( 時 ) ~ 年 月 日 ( 時 )		
行 事 名			参加人員
目 的			
	資料名	数量	備考
1.			
2.			
3.			
4.			

※許可条件

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖繩県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際には、返信用封筒 (切手貼付) を添えること。
- ⑥貸与期間は1週間以内とする。
- ⑦資料の運搬その他費用を要する場合は、申請者が負担すること。
- ⑧資料の利用にあたっては、事故が生じないよう取り扱いに十分留意すること。
- ⑨万一の事故等については、申請者が一切の責任を負うこと。

前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。